

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-117315
(P2024-117315A)

(43)公開日 令和6年8月29日(2024.8.29)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01)	A 6 3 F 7/02 3 2 0	2 C 0 8 8
	A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z	2 C 3 3 3
	A 6 3 F 7/02 3 3 3 A	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全198頁)

(21)出願番号 (22)出願日	特願2023-23349(P2023-23349) 令和5年2月17日(2023.2.17)	(71)出願人 000132747 株式会社ソフィア 群馬県桐生市境野町7丁目201番地 (72)発明者 田中 雅也 群馬県太田市吉沢町990番地 株式会 社ソフィア内 Fターム (参考) 2C088 BA15 BA43 CA15 2C333 AA11 CA05 CA08 CA72 CA79 DA04
---------------------	---	---

(54)【発明の名称】 遊技機

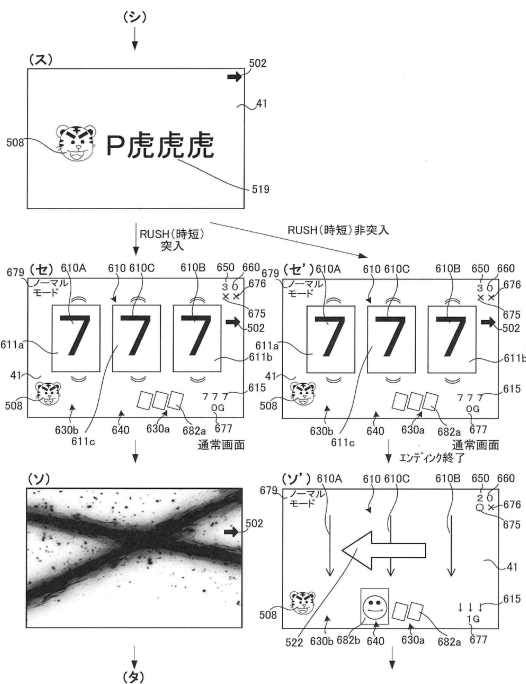
(57)【要約】

【課題】遊技の興趣を向上させる。

【解決手段】

ゲームに関連する演出を表示手段において実行可能な演出制御手段を備え、ゲームの結果に応じて遊技者に有利な特別遊技状態を発生可能な遊技機において、所定条件の成立によって、遊技を実行できない遊技停止状態を発生可能な遊技停止手段を備え、前記特別遊技状態と異なる特定遊技状態を発生可能であり、前記演出制御手段は、少なくとも一部の画像を表示した後に前記特定遊技状態が発生することを報知する所定報知演出を実行可能である。

【選択図】図81C



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゲームに関連する演出を表示手段において実行可能な演出制御手段を備え、ゲームの結果に応じて遊技者に有利な特別遊技状態を発生可能な遊技機において、
所定条件の成立によって、遊技を実行できない遊技停止状態を発生可能な遊技停止手段を備え、

前記特別遊技状態と異なる特定遊技状態を発生可能であり、

前記演出制御手段は、

少なくとも一部の画像を表示した後に前記特定遊技状態が発生することを報知する所定報知演出を実行可能であることを特徴とする遊技機。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、所定の遊技状態（時短状態や大当たり状態等）を発生可能な遊技機が存在している（例えば、特許文献1）。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0003】

【特許文献1】特開2015-221239号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来の遊技機において、遊技の興趣を向上させる余地があった。

【0005】

そこで、本発明は、遊技の興趣を向上させることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

30

本発明の代表的な一形態では、ゲームに関連する演出を表示手段において実行可能な演出制御手段を備え、ゲームの結果に応じて遊技者に有利な特別遊技状態を発生可能な遊技機において、所定条件の成立によって、遊技を実行できない遊技停止状態を発生可能な遊技停止手段を備え、前記特別遊技状態と異なる特定遊技状態を発生可能であり、前記演出制御手段は、少なくとも一部の画像を表示した後に前記特定遊技状態が発生することを報知する所定報知演出を実行可能である。

【発明の効果】

【0007】

本発明の一形態によれば、遊技の興趣を向上できる。

【図面の簡単な説明】

40

【0008】

【図1】遊技機を前面側から見た斜視図である。

【図2】遊技盤の正面図である。

【図3】遊技機の遊技制御系の構成例を示すブロック図である。

【図4】遊技機の演出制御系の構成例を示すブロック図である。

【図5A】メイン処理の手順を示すフローチャート（その1）である。

【図5B】メイン処理の手順を示すフローチャート（その2）である。

【図5C】メイン処理の手順を示すフローチャート（その3）である。

【図6】遊技用マイコンのRAMの構成を示す図である。

【図7】安全装置情報初期化処理の手順を示すフローチャートである。

50

- 【図 8】性能表示編集処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 9】タイマ割込み処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 10】出力処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 11】入賞口スイッチ／状態監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 12】不正 & 入賞監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 13】入賞数カウンタ更新処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 14】確率設定変更／確認処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 15】特図ゲーム処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 16】始動口スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 17】ハード乱数取得処理の手順を示すフローチャートである。 10
- 【図 18】特図始動口スイッチ共通処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 19】特図保留情報判定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 20】大入賞口スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 21】特定領域スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 22】特図普段処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 23】特図 1 変動開始処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 24】特図 2 変動開始処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 25】大当りフラグ 1 設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 26】大当りフラグ 2 設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 27】特図 1 停止図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。 20
- 【図 28】特図 2 停止図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 29】変動開始情報設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 30】特図変動中処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 31】時短終了判定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 32】時短終了設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 33】演出モード情報チェック処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 34 A】特図表示中処理の前半部分の手順を示すフローチャートである。
- 【図 34 B】特図表示中処理の後半部分の手順を示すフローチャートである。
- 【図 35】ファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理 1 の手順を示すフローチャートである。 30
- 【図 36】小当りファンファーレ中処理移行設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 37】サポ作動設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 38】特図普段処理移行設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 39】小当りファンファーレ中処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 40】小当り開放中処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 41】小当り動作移行設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 42】小当り残存球処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 43】小当り終了処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 44】ファンファーレ／インターバル中処理の手順を示すフローチャートである。 40
- 【図 45】大入賞口開放中処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 46】大入賞口残存球処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 47】大当り終了処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 48】大当り終了設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 49 A】小当り（+V 入賞大当り）の場合に時短の有無（即ち普電サポートの有無）の変化の様子を示すタイムチャートである。
- 【図 49 B】直撃大当り（小当りを經由しない大当り）の場合に時短の有無（即ち普電サポートの有無）の変化の様子を示すタイムチャートである。
- 【図 50】普図ゲーム処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 51 A】外部情報編集処理の前半部分の手順を示すフローチャートである。 50

- 【図 5 1 B】外部情報編集処理の後半部分の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 2】安全装置関連処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 3】領域外統合処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 4】試験信号出力処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 5】性能表示装置制御処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 6】差玉確認処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 7】安全装置作動監視処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 5 8】演出制御装置のメイン処理を示すフローチャートである。
- 【図 5 9】受信コマンドチェック処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 0】受信コマンド解析処理を示すフローチャートである。 10
- 【図 6 1】単発系コマンド処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 2】先読み図柄系コマンド処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 3】先読み変動系コマンド処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 4】図柄系コマンド処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 5】変動系コマンド処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 6】変動演出設定処理を示すフローチャートである。
- 【図 6 7】当り系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 6 8】安全装置の状態に応じた演出系の装置の態様などを示すテーブルである。
- 【図 6 9】遊技機 10 のスペック例 1, 2 を示す図である。
- 【図 7 0】特図変動表示ゲームの停止図柄（停止結果）としての大当り図柄と小当り図柄 20
の振り分けを示す図である。
- 【図 7 1】特図 1 変動表示ゲーム又は特図 2 変動表示ゲームが当たった時の遊技状態ごとに、各図柄に対して、大当り終了後の時短回数と合計時短回数や当りに対応して実行される各種ボーナス演出を示す図である。
- 【図 7 2】遊技状態の遷移を示す遊技状態遷移図（ゲームフロー）の一例である。
- 【図 7 3】典型的な遊技の流れを抜き出して示した図であり、時短回数（サポモード A, B）の遷移を示す。
- 【図 7 4 A】表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 1）。
- 【図 7 4 B】表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 2）。
- 【図 7 4 C】表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 3）。 30
- 【図 7 5】第 2 実施形態に係る遊技機のスペック例 1, 2 を示す図である。
- 【図 7 6】第 2 実施形態について、特図変動表示ゲームの停止図柄としての小当り図柄の振り分け（小当り内訳、割合）を示す図である。
- 【図 7 7】第 2 実施形態について、特図 1 変動表示ゲーム又は特図 2 変動表示ゲームが当たった時の遊技状態ごとに、各小当り図柄に対して大当り終了後の時短回数（サポ回数）を示すテーブルである。
- 【図 7 8】第 2 実施形態における遊技状態の遷移を例示する遊技状態遷移図（ゲームフロー）である。
- 【図 7 9】第 2 実施形態に係る大当り終了設定処理の手順を示すフローチャートである。
- 【図 8 0】第 2 実施形態において時短の有無（即ち普電サポートの有無）の変化の様子を示すタイムチャートである。 40
- 【図 8 1 A】第 3 実施形態について、表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 1）。
- 【図 8 1 B】第 3 実施形態について、表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 2）。
- 【図 8 1 C】第 3 実施形態について、表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 3）。
- 【図 8 1 D】第 3 実施形態について、表示装置の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である（その 4）。
- 【図 8 2】第 3 実施形態に係る復活演出の初期段階に表示されるフェイク画面を例示する 50

図である。

【図 8 3】第 3 実施形態の変形例を示す画面遷移図である。

【図 8 4】第 4 実施形態の遊技機の正面図である。

【図 8 5】第 4 実施形態の遊技機の側面図である。

【図 8 6】カメラの軸部材を展開させたときの第 4 実施形態の遊技機の側面図である。

【図 8 7】オンライン遊技が行われているときの遊技機を説明する図である。

【図 8 8】遊技に必要な情報を遊技機に送信するための遠隔操作画面の拡大図である。

【図 8 9】遊技機がオンライン遊技状態に移行する際のデータ処理の流れを説明するシーケンス図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

〔第 1 実施形態〕

以下、本発明の好適な実施の形態を図面に基づいて説明する。なお、遊技機の説明における前後左右とは、遊技中の遊技者から見た方向を指すものとする。

【0010】

〔遊技機全体図〕

図 1 は、遊技機を説明する図である。

【0011】

遊技機 10 は島設備に固定される枠 11 に、ヒンジ 16 を介して開閉回動自在に取り付けられる開閉枠を備える。開閉枠は、前面枠 12（本体枠）及びガラス枠 15（前枠ユニット）によって構成されている。また、開閉枠は、その左端側がヒンジに取り付けられる軸着端側になっており、その右端側が回動によって開放される開放端側になっている。なお、枠 11 と前面枠 12 は、外枠ユニット 17 を構成する。

【0012】

前面枠 12 には、遊技盤 30（図 2 参照）が配設されるとともに、遊技盤 30 の前面を覆うカバーガラス 14 を有するガラス枠 15 が取り付けられる。カバーガラス 14 は、遊技盤 30 に形成される遊技領域 32（図 2 参照）を視認可能とする遊技視認領域として機能する。なお、カバーガラス 14 は、透明部材の一例として示すものであり、カバーガラス 14 の代わりにプラスチック製のカバーを使用してよい。ガラス枠 15 は、透明部材を保持する透明部材保持枠として機能する。

【0013】

前面枠 12 及びガラス枠 15 は、それぞれ個別に開放することが可能となっている。例えば、ガラス枠 15 のみを開放することで、遊技盤 30 の遊技領域 32 にアクセスすることができる。また、前面枠 12 をガラス枠 15 が開放されていない状態で開放することで、遊技盤 30 の裏面側に配設された遊技制御装置（主基板）100（図 3 参照）等にアクセスすることができる。

【0014】

ガラス枠 15 のカバーガラス 14 周囲の縁部分には、種々の枠構成部材が配設されている。

【0015】

ガラス枠 15 の上部中央及び右側部と左側部には、遊技状態に応じて発光演出可能な装飾装置 18a, 18b, 18c が配設されている。装飾装置 18a, 18b, 18c は、内部に LED 等の照明部材を収容しており、遊技状態に応じた発光演出を行う演出装置である。これら装飾装置 18a, 18b, 18c の内部に配設される照明部材は、枠装飾装置 18（図 4 参照）の一部を構成している。

【0016】

装飾装置 18a は、ガラス枠 15（或いは開閉枠）の上部で、遊技機 10 の左右方向に延設されるとともに、斜め上の前方に向かって突出するトップユニットである。装飾装置 18a は、機種名などの種々の表示を有する略平坦な前面部 456 を有する。装飾装置 18a は、本実施形態では固定され動作しないが、遊技者への圧迫感を低減するように、引

10

20

30

40

50

っ込んだ初期位置（通常位置）から必要な場合のみ前方や上方や斜めの動作位置へ突出動作したり、前後方向や上下方向に移動動作してもよい。なお、装飾装置 18 a（ここではトップユニット）が動作（移動）する場合に、初期位置から動作位置へ動作可能な枠演出装置（可動役物）となる。

【0017】

装飾装置 18 b は、ガラス枠 15 の右側で上下方向に延設されるとともに、前方に向かって突出する突出演出ユニット（前枠発光ユニット）である。装飾装置 18 c は、ガラス枠 15 の左側で、上下方向に延設されるとともに、前方に向かって突出する突出演出ユニット（前枠発光ユニット）である。装飾装置 18 b, 18 c は、遊技機 10 の中央側（内側）へ遊技者に向けて光を照射するとともに、複数の開口から遊技機 10 の外側に光が漏れる。

10

【0018】

ガラス枠 15 の右上角部分及び左上角部分には、上スピーカ 19 a がそれぞれ配設される。これら上スピーカ 19 a とは別に遊技機 10 の下部には、2 つの下スピーカ 19 b が設けられている。下スピーカ 19 b は、ガラス枠 15 の左下角部分及び前面枠 12 の右下角部分に配設されている。これら上スピーカ 19 a 及び下スピーカ 19 b は、効果音や警報音、報知音等を発するものである。なお、左右の上スピーカ 19 a は、各々、右側と左側のスピーカ飾り部材 470 で覆われている。

【0019】

ガラス枠 15 の下部には、遊技球（遊技媒体）を貯留可能な上皿 21 を有する上皿ユニット 20 が取り付けられている。上皿 21 は、上部で開口した箱状に形成されている。上皿 21 に貯留されている遊技球は、一球ずつ球発射装置に供給される。

20

【0020】

上皿ユニット 20 は、遊技者からの入力操作を受け付ける演出操作装置と、遊技者からの入力操作を受け付ける球貸操作装置と、遊技状態に応じて発光演出等を行う装飾装置 22 と、をさらに備える。

【0021】

演出操作装置は、演出ボタン 25、十字キースイッチ 450、及び、音量調整用ボタンスイッチ 451 a, 451 b を含む操作装置であり、遊技者が操作しやすいように上皿ユニット 20 の上部中央とその左側に設けられている。演出ボタン 25 は、操作パネル 490 に包囲されるように、操作パネル 490 の開口内に配置される。操作パネル 490 は、表面への金属メッキや全体を金属製にすることなどによって光を反射可能であり、例えばシルバー（銀色）の金属光沢を有する。演出ボタン 25 が発光すると、周囲の操作パネル 490 で演出ボタン 25 からの光が反射され、演出ボタン 25 の発光演出が効果的になる。

30

【0022】

演出ボタン 25 は、内蔵されている演出ボタンスイッチ 25 a と、表面に設けられているタッチパネル 25 b を含んでよい。

【0023】

音量調整用ボタンスイッチ 451 a, 451 b は、上皿ユニット 20 の操作パネル 490 の上部左側に設けられ、スピーカ 19（上スピーカ 19 a や下スピーカ 19 b）の音量を増減（＋）して調整する。十字キースイッチ 450（十字キー SW）は、上皿ユニット 20 の操作パネル 490 の上部左側で音量調整用ボタンスイッチ 451 a, 451 b に隣接して設けられ、例えば、演出用 LED の輝度を調整する。十字キースイッチ 450 は、方向キースイッチとも呼ばれてよく、前後左右などに配置された複数（例えば 4 つ）のスイッチからなる一般的なものでよい。例えば、客待ち中及び／又は遊技中（ゲーム中）などの所定の状態で、音量調整用ボタンスイッチ 451 a, 451 b が押下げ操作されてスピーカ 19 の音量が調整可能であってよく、十字キースイッチ 450 の前又は後のスイッチが押下げ操作されて演出用 LED 等の光量（明るさ、輝度）が調整可能であってよい。なお、音量調整用ボタンスイッチ 451 a, 451 b を設けずに、十字キースイッチ 4

40

50

50の左又は右のスイッチが押下げ操作されてスピーカ19の音量が調整可能であってよい。

【0024】

遊技者が演出操作装置（特に演出ボタン25）を操作することによって、表示装置41（図2参照）に表示される特図変動表示ゲーム等において遊技者の操作を介入させた演出を行うことができる。例えば、演出パターン（演出態様）を選択したり、始動記憶に対応する変動表示ゲームの結果を事前に予告する予告演出を実行したりすることができる。なお、変動表示ゲームには特図変動表示ゲームが含まれ、単に変動表示ゲームとした場合には、本明細書では特図変動表示ゲームを指すものとする。

【0025】

また、変動表示ゲームの実行中だけでなく、非実行中に遊技者が演出操作装置を操作することによっても演出パターンを変更するようにしてもよい。

【0026】

なお、変動表示ゲームが実行される際の遊技状態は、複数の遊技状態からなる。通常遊技状態（通常状態）とは、特別な遊技状態が発生していない遊技状態である。また、特別な遊技状態とは、例えば、特定遊技状態としての時短状態や変動表示ゲームにおいて特別結果（例えば大当り）の発生確率が高い状態（確変状態、確率変動状態）、大当り状態（特別遊技状態）、小当り遊技状態（小当り状態）である。このように遊技機10は、特別結果の発生確率が異なる遊技状態を複数備え、遊技制御装置100（遊技状態選択手段、設定手段）は、当該複数の遊技状態の中から一の遊技状態を選択（設定）して現在の遊技状態とすることができる。

【0027】

ここで、確変状態（特定遊技状態）は、次の大当りが発生するまで継続するもの（ループタイプ）、所定回数の変動表示ゲームが実行されるまで継続するもの（回数切りタイプ、ST）、及び所定の確率転落抽選に当選するまで継続するもの（転落抽選タイプ）等がある。

【0028】

さらに、確変状態が発生させるか否かを大当り図柄乱数によって決定せずに、大当りが発生した場合に必ず確変状態が発生させるようにしてもよい。

【0029】

球貸操作装置は、遊技者が遊技球を借りる場合に操作する操作装置であって、上皿ユニット20の操作パネル490の上部右側に設けられている。球貸操作装置は、残高表示部490aと、球貸ボタン27と、返却ボタン28と、を備えている。残高表示部490aは、プリペイドカード等の残高が表示される表示領域である。球貸ボタン27は遊技球を借りる場合に遊技者が操作するボタンであり、返却ボタン28は遊技機10に隣接するように配置されるカードユニット（図示省略）からプリペイドカード等を排出させる場合に遊技者が操作するボタンである。

【0030】

装飾装置22は、内部にLED等の照明部材を収容しており、遊技状態に応じて発光演出等を行う装置であって、上皿ユニット20に設けられている。装飾装置22の内部に配設される照明部材は、枠装飾装置18（図4参照）の一部を構成している。

【0031】

上記した上皿ユニット20等を備えるガラス枠15の下方であって、前面枠12の下部には、球発射装置（図示省略）の動作を制御するための操作ハンドル24と、遊技球を貯留可能な下皿23等を備える下皿ユニット29とが設けられている。下皿ユニット29と上皿ユニット20は、形状的に適合しており上下方向に重ねて並べて配置される。上皿ユニット20の上皿操作部435を操作することによって、上皿21の遊技球は下皿23へと流下させることができる。

【0032】

操作ハンドル24は、前面枠12の右下部であって、右側の下スピーカ19bの下方に

10

20

30

40

50

配置されている。遊技者が操作ハンドル 2 4 を回動操作することによって、球発射装置は上皿 2 1 から供給された遊技球を遊技盤 3 0 の遊技領域 3 2 に発射する。球発射装置から発射される遊技球の発射速度は、操作ハンドル 2 4 の回動操作量が大きくなるほど速くなるように設定されている。即ち、球発射装置は、遊技領域 3 2 に遊技球を発射する勢（速度）である発射勢を、遊技者による操作ハンドル 2 4 の操作に対応して変更でき、発射勢の異なる種々の発射態様で遊技球を発射できる。発射態様には、遊技領域 3 2 の左側において遊技球を流下させる左打ち（通常打ち）と、遊技領域 3 2 の右側において遊技球を流下させる右打ちが含まれる。

【0033】

下皿ユニット 2 9 の下皿 2 3 は、上皿ユニット 2 0 に対して所定の間隔をあけて、上皿ユニットの下方に配置されている。下皿 2 3 は、当該下皿 2 3 の底面を上下方向に貫通する球抜き穴 2 3 a と、球抜き穴 2 3 a を開閉するための開閉操作部 2 3 b と、を有している。遊技者が開閉操作部 2 3 b を操作して、球抜き穴 2 3 a を開くことによって、下皿 2 3 に貯留されていた遊技球を球抜き穴 2 3 a を通じて外部に排出することができる。

10

【0034】

また、前面枠 1 2 の裏側には、各種装置に電力を供給する電源装置 4 0 0、島設備に設置された補給装置（図示省略）から補給される遊技球を貯留する上部タンク 4 4 8、上部タンク 4 4 8 から流下してきた遊技球を上皿 2 1 に払い出す払出装（払出ユニット）などが配置される。

【0035】

20

〔遊技盤〕

続いて、図 2 を参照して、遊技機 1 0 の遊技盤 3 0 について説明する。図 2 は、遊技機 1 0 に備えられる遊技盤 3 0 の正面図である。

【0036】

図 2 に示すように、遊技盤 3 0 は、各種部材の取付ベースとなる平板状の遊技盤本体 3 0 a を備える。遊技盤本体 3 0 a は木製又は合成樹脂製であって、当該遊技盤本体 3 0 a の前面にはガイドレール 3 1 で囲まれた遊技領域 3 2 が設けられている。遊技機 1 0 は、ガイドレール 3 1 で囲まれた遊技領域 3 2 内に球発射装置から遊技球を発射して遊技を行うように構成されている。遊技領域 3 2 には遊技球の流下方向を変換する部材として風車や障害釘等が配設されており、発射された遊技球はこれら部材により転動方向を変えながら遊技領域 3 2 を流下する。

30

【0037】

遊技領域 3 2 の略中央には、変動表示ゲームの表示領域となる窓部を形成するセンターケース（前面構成体）4 0 が取り付けられている。センターケース 4 0 に形成された窓部の後方には、複数の識別情報を変動表示（可変表示）する演出表示装置（変動表示装置）としての表示装置 4 1 が配置されている。表示装置 4 1 は、例えば、液晶ディスプレイを備え、センターケース 4 0 の窓部を介して遊技盤 3 0 の前面側から表示内容が視認可能となるように配置される。なお、表示装置 4 1 は、液晶ディスプレイを備えるものに限らず、EL や CRT 等のディスプレイを備えるものであってもよい。

【0038】

40

表示装置 4 1 の表示画面（表示部）には、複数の変動表示領域が設けられており、各変動表示領域に識別情報（特別図柄）や変動表示ゲームを演出するキャラクタが表示される。その他、表示画面には遊技の進行に基づく画像（大当たり表示やファンファーレ表示、エンディング表示等）が表示される。

【0039】

また、センターケース 4 0 には、遊技領域 3 2 を流下する遊技球をセンターケース 4 0 の内側に導くためのワープ通路 4 0 e への流入口 4 0 a と、ワープ通路 4 0 e を通過した遊技球が転動可能なステージ部 4 0 b とが設けられている。センターケース 4 0 のステージ部 4 0 b は、始動入賞口 3 6 の上方に配置されているため、ステージ部 4 0 b 上で転動した遊技球は始動入賞口 3 6 に入賞しやすくなっている。

50

【0040】

センターケース40の上部及び右側部には、それぞれ上部演出ユニット40c及び側部演出ユニット40dが設けられる。上部演出ユニット40c及び側部演出ユニット40dは、盤装飾装置46（図4参照）及び盤演出装置44（図4参照）の一部を構成している。

【0041】

センターケース40の右側方の遊技領域32には、普通図柄始動ゲート（普図始動ゲート）34が設けられている。普図始動ゲート34の内部には、当該普図始動ゲート34を通過した遊技球を検出するためのゲートスイッチ（SW）34a（図3参照）が設けられている。遊技領域32内に打ち込まれた遊技球が普図始動ゲート34を通過すると、普図変動表示ゲームが実行される。

10

【0042】

センターケース40の左下方の遊技領域32には一般入賞口35（一般入賞領域）が配置されており、センターケース40の右下方の遊技領域32にも一般入賞口35が配置されている。これら一般入賞口35への遊技球の入賞は、一般入賞口35に備えられた入賞口スイッチ（SW）35a～35n（図3参照）によって検出される。

【0043】

センターケース40の下方の遊技領域32には、特図変動表示ゲームの開始条件を付与する始動入賞口（始動口1、第1始動入賞領域）36が設けられる。センターケース40の右側の遊技領域32において、普図始動ゲート34の下方には第2始動入賞口（始動口2、第2始動入賞領域）を備えた普通変動入賞装置37（普通電動役物、普電）が設けられる。普通変動入賞装置37は、前方へ回動することで、遊技球が流入し易い状態に変換する可動部材（可動片）37bを備える。可動部材37bが閉状態である場合には遊技球が普通変動入賞装置37に入賞できないようになっている。遊技球が始動入賞口36又は普通変動入賞装置37に入賞した場合には、補助遊技として特図変動表示ゲームが実行される。なお、始動入賞口36には、左打ち時に遊技球が入賞し易くなり、普通変動入賞装置37には、右打ち時に遊技球が入賞し易くなる。

20

【0044】

可動部材37bは、いわゆるベロ型の普通電動役物であり、普図変動表示ゲームの結果が所定の停止表示態様となった場合に、普電ソレノイド37c（図3参照）を介して動作して開いて、遊技球が普通変動入賞装置37に流入しやすい開状態（遊技者にとって有利な入賞容易状態）に変化する。可動部材37bは、開状態（入賞容易状態）でなければ、遊技球が普通変動入賞装置37に流入し難い閉状態（入賞非容易状態、入賞困難状態）となる。なお、本実施形態において、始動入賞口36は、普通変動入賞装置37と異なり、可動部材（開閉部材）を有さず、常時、開放状態（開状態）であるが、可動部材（開閉部材）を有する構成も可能である。

30

【0045】

なお、可動部材37bは、後述する遊技制御装置100によって制御される。遊技制御装置100は、普図変動表示ゲームの変動時間を短縮したり普図変動表示ゲームの当り確率を通常よりも高確率としたりすることで入賞容易状態の発生頻度を高めたり、特別な遊技を行わない通常遊技状態で発生する入賞容易状態よりも入賞容易状態の発生時間を長くしたりすることで、前述の特定遊技状態として時短状態（普電サポート状態）を発生させる。なお、確変状態（潜伏確変状態を除く）においても、重複して時短状態（普電サポート状態）が発生する。

40

【0046】

始動入賞口36の右方の遊技領域32には、下大入賞口ソレノイド38b（図3参照）によって前方から奥側に引っ込むことで下大入賞口（下大入賞領域）を開放する開閉扉38cを有する第1特別変動入賞装置38（特別電動役物）が設けられている。第1特別変動入賞装置38は、特図変動表示ゲームの結果によって大入賞口を閉じた状態（遊技者にとって不利な閉塞状態）から開放状態（遊技者にとって有利な遊技状態）に変換し、下大

50

入賞口内への遊技球の流入を容易にさせることで、遊技者に所定の遊技価値（例えば、賞球や大当り終了後の時短回数／確変回数）を付与するようになっている。なお、下大入賞口内には、当該大入賞口に入った遊技球を検出する検出手段として下大入賞口スイッチ 38a（カウントスイッチ）が配設されている。なお、第 1 特別変動入賞装置 38 には、右打ち時に遊技球が入賞し易くなる。

【0047】

普通変動入賞装置 37 の下方の遊技領域 32 には、上大入賞口ソレノイド 39b（図 3 参照）によって上端側が右側に倒れる方向に回転することで上大入賞口（上大入賞領域）を開放する開閉扉 39c を有する第 2 特別変動入賞装置 39 が設けられている。第 2 特別変動入賞装置 39 は、特図変動表示ゲームの結果によって大入賞口を閉じた状態（遊技者にとって不利な閉塞状態）から開放状態（遊技者にとって有利な特別遊技状態）に変換し、大入賞口内への遊技球の流入を容易にさせることで、遊技者に所定の遊技価値（例えば、賞球や大当り終了後の時短回数／確変回数）を付与するようになっている。なお、大入賞口内には、当該大入賞口に入った遊技球を検出する検出手段として上大入賞口スイッチ 39a（カウントスイッチ）（図 3 参照）が配設されている。なお、第 2 特別変動入賞装置 39 には、右打ち時に遊技球が入賞し易くなる。また、下大入賞口スイッチ 38a と上大入賞口スイッチ 39a を総称して、大入賞口スイッチ 43 と呼ぶ。

【0048】

第 2 特別変動入賞装置 39 の内部には、特定領域 86（いわゆる V 入賞口）が設けられている。小当りによって開閉扉 39c が開放された後に特定領域 86（V 入賞口、V 入賞領域）に遊技球が入球した場合に大当りが確定する。特定領域 86 は、小当り中にのみ、長時間開放されるなどして遊技球が容易に通過できるようにしてよい。なお、遊技制御装置 100 は、特定領域 86 への遊技球の通過（V 入賞）をセンサ（後述の特定領域スイッチ 72）等を介して検知でき、V 入賞を検知すると小当り終了後に大当り状態（V 入賞大当り状態）に移行することを確定するとともに、後述の演出制御装置 300 に V 入賞があったことを示す情報（特定領域通過コマンド等）を送信する。そして、演出制御装置 300 は、V 入賞を表示装置 41 などにおいて報知できる。

【0049】

即ち、本実施形態では、遊技機 10 は、いわゆる 1 種 2 種混合機（1 + 2 種機）である。本実施形態では、小当りで第 2 特別変動入賞装置 39 が開放されることによって、第 2 特別変動入賞装置 39 内の特定領域 86（V 入賞口）に遊技球が V 入賞して、大当りが発生する。

【0050】

一般入賞口 35、始動入賞口 36、普通変動入賞装置 37、及び特別変動入賞装置 38、39 の大入賞口に遊技球が入賞すると、払出制御装置 200（図 3 参照）は、入賞した入賞口の種類に応じた数の賞球を払出装置から上皿 21 に排出する。また、下方の遊技領域 32 には、入賞口等に入賞しなかった遊技球を回収するアウト口 30b が設けられている。また、一般入賞口 35、始動入賞口 36、普通変動入賞装置 37、及び特別変動入賞装置 38、39 やその近傍には、遊技球が入賞した場合などに発光可能な LED（後述の盤装飾装置 46 の一部）が配設されている。

【0051】

また、遊技領域 32 の外側であって遊技盤本体 30a の右下角部には、特図変動表示ゲーム（特図 1 変動表示ゲーム、特図 2 変動表示ゲーム）及び普図変動表示ゲームを実行する一括表示装置 50 が設けられている。一括表示装置 50 は、LED ランプ（発光部、発光部材）から構成されて現在の遊技状態等の情報を表示する表示部 51 ~ 60 を備える。

【0052】

一括表示装置 50 は、7 セグメント型の表示器（LED ランプ）等で構成された変動表示ゲーム用の第 1 特図変動表示部 51（特図 1 表示器、ランプ D1）及び第 2 特図変動表示部 52（特図 2 表示器、ランプ D2）と、普図変動表示ゲーム用の変動表示部 53（普図表示器、ランプ D8、D10、D18）と、各変動表示ゲームの始動（保留）記憶数報

10

20

30

40

50

知用の記憶表示部（特図 1 保留表示器 5 4、特図 2 保留表示器 5 5、普図保留表示器 5 6）と、を有している。特図 1 保留表示器 5 4 はランプ D 1 1、D 1 2 により構成される。特図 2 保留表示器 5 5 は、ランプ D 1 3、D 1 4 により構成される。普図保留表示器 5 6 は、ランプ D 1 5、D 1 6 により構成される。

【0053】

また、一括表示装置 5 0 には、右打ち時（右打ちすべき時）又は左打ち時（通常打ち時）であることを報知する第 1 遊技状態表示部 5 7（第 1 遊技状態表示器、ランプ D 7）、時短状態が発生すると点灯して時短状態発生を報知する第 2 遊技状態表示部 5 8（第 2 遊技状態表示器、ランプ D 1 7）、遊技機 1 0 の電源投入時に大当りの確率状態が高確率状態となっていることを表示する第 3 遊技状態表示部 5 9（第 3 遊技状態表示器、確率状態表示部、ランプ D 9）、大当たり時のラウンド数（特別変動入賞装置 3 8、3 9 の開閉回数、ラウンド数上限値）を表示するラウンド表示部 6 0（ランプ D 3 - D 6）が設けられている。

10

【0054】

特図 1 表示器 5 1 と特図 2 表示器 5 2 において、変動表示ゲームは、識別情報（例えば、中央のセグメント）の点灯消灯（点滅）を繰り返す変動表示によって実行される。なお、特図 1 表示器 5 1、特図 2 表示器 5 2 は、このようなセグメント型の表示部に限らず、複数の LED の集合体により構成されていてもよいし、変動表示を実行する場合に、表示器として設けられるすべての LED により全点灯全消灯（全 LED の同時点滅）や、循環点灯（何れか 1 の LED から所定時間毎に所定の順序で点灯し、消灯する）、または複数の LED のうちの所定数の LED による点灯消灯（点滅）や循環点灯によって行ってもよい。普図表示器 5 3 においても、変動表示ゲームは、ランプ D 1 0、D 1 8 の点灯消灯を繰り返す変動表示（点滅）によって実行される。また、普図表示器 5 3 も特図 1 表示器 5 1、特図 2 表示器 5 2 と同様に適宜構成することが可能である。

20

【0055】

ランプ表示装置 8 0 は、図柄（後述の第四特別図柄、第 4 図柄）として点灯表示と消灯表示を繰り返す変動表示（点滅）を実行するランプ表示部 1、2（LED）と、各特図変動表示ゲームの始動（保留）記憶数報知用のランプ表示部 3 - 6（LED）を有する。なお、ランプ表示装置 8 0 は、演出制御装置 3 0 0（後述）で制御される。

【0056】

ランプ表示部 1、2 は、変動表示として所定の点滅周期（例えば 200 msec（ミリ秒））で点滅する。即ち、ランプ表示部 1、2 の消灯と点灯の切り替えは、点滅周期の 2 分の 1（例えば、100 msec）の期間で行われる。一括表示装置 5 0 の特図 1 表示器 5 1、特図 2 表示器 5 2、普図表示器 5 3 における変動表示の変動時間が遊技制御装置 1 0 0 で計測されるのに対して、ランプ表示装置 8 0 のランプ表示部 1、2 の変動時間は演出制御装置 3 0 0（後述）で計測される。

30

【0057】

ランプ表示部 3、4（特図 1 保留 LED 1、特図 1 保留 LED 2）は、消灯状態、点灯状態、点滅状態の組合せによって、特図 1 保留数（第 1 始動記憶数）を表示する。同様に、ランプ表示部 5、6（特図 2 保留 LED 1、特図 2 保留 LED 2）は、消灯状態、点灯状態、点滅状態の組合せによって、特図 2 保留数（第 2 始動記憶数）を表示する。ランプ表示部 3 - 6 は、大当たり発生により保留数の表示を終了するが、大当たり状態中以外の場合（表示装置 4 1 で後述のリーチが発生している場合も含む）では、保留数の表示を行う。

40

【0058】

次に、遊技機 1 0 における遊技の流れ、普図変動表示ゲーム及び特図変動表示ゲームの詳細について説明する。

【0059】

遊技機 1 0 では、図示しない球発射装置から遊技領域 3 2 に向けて遊技球が打ち出されることによって遊技が行われる。打ち出された遊技球は、遊技領域 3 2 内の各所に配置された障害釘や風車等によって転動方向を変えながら遊技領域 3 2 を流下し、普図始動ゲー

50

ト 3 4、一般入賞口 3 5、始動入賞口 3 6、普通変動入賞装置 3 7、又は特別変動入賞装置 3 8、3 9 に入賞又は入球するか、遊技領域 3 2 の最下部に設けられたアウト口 3 0 b へ流入し、遊技領域 3 2 から排出される。そして、一般入賞口 3 5、始動入賞口 3 6、普通変動入賞装置 3 7、又は特別変動入賞装置 3 8、3 9 に遊技球が入賞すると、入賞した入賞口の種類に応じた数の賞球が払出装置を介して上皿 2 1 に排出される。

【0060】

普図始動ゲート 3 4 には、当該普図始動ゲート 3 4 を通過した遊技球を検出するゲートスイッチ 3 4 a (図 3 参照) が設けられている。遊技球が普図始動ゲート 3 4 を通過すると、ゲートスイッチ 3 4 a によって検出され、このときに抽出された当り判定用乱数値の判定結果に基づき普図変動表示ゲームが実行される。

10

【0061】

普図変動表示ゲームを開始できない状態、例えば、既に普図変動表示ゲームが行われており当該普図変動表示ゲームが終了していない場合や、普図変動表示ゲームの結果が当りとなって普通変動入賞装置 3 7 が開放状態に変換されている場合に、遊技球が普図始動ゲート 3 4 を通過すると、普図始動記憶数 (普図保留数) が上限数未満ならば当該記憶数が加算 (+1) される。

【0062】

普図始動記憶 (普図保留) には普図変動表示ゲームの当りはずれを決定するための当り判定用乱数値が記憶されており、この当り判定用乱数値が判定値と一致した場合に、当該普図変動表示ゲームが当りとなって特定の結果態様 (特定結果) が導出される。

20

【0063】

普図変動表示ゲームは、一括表示装置 5 0 に設けられた普図表示器 5 3 で実行されるようになっている。普図表示器 5 3 は、普通識別情報 (普図) として点灯状態の場合に当りを示し、消灯状態の場合にはずれを示す LED から構成され、この LED を点滅表示することで普通識別情報の変動表示を行い、所定の変動表示時間の経過後、LED を点灯又は消灯することで結果を表示するようになっている。

【0064】

普図始動ゲート 3 4 通過時に抽出された普図乱数値が当り値である場合には、普図表示器 5 3 に表示される普通図柄 (普図) が当り状態で停止し、当り状態となる。このとき、普電ソレノイド 3 7 c (図 3 参照) が駆動されることにより、可動部材 3 7 b が所定の時間 (例えば 3 秒間 × 2 回) だけ開状態に変換され、普通変動入賞装置 3 7 への遊技球の入賞が許容される。

30

【0065】

遊技球の始動入賞口 3 6 への入賞及び普通変動入賞装置 3 7 への入賞は、始動口 1 スイッチ 3 6 a (図 3 参照) 及び始動口 2 スイッチ 3 7 a (図 3 参照) によって検出される。始動入賞口 3 6 に入賞した遊技球は特図 1 変動表示ゲームの始動入賞球として検出され、所定の上限数を限度に記憶されるとともに、普通変動入賞装置 3 7 に入賞した遊技球は特図 2 変動表示ゲームの始動入賞球として検出され、所定の上限数を限度に記憶される。

【0066】

特図変動表示ゲームの始動入賞球の検出時には、大当り乱数値や大当り図柄乱数値、各変動パターン乱数値等が抽出される。これら乱数値は、遊技制御装置 1 0 0 の特図保留記憶領域 (RAM の一部) に特図始動入賞記憶として各々所定回数分 (例えば最大で 8 回分) を限度に記憶される。特図始動入賞記憶の記憶数は、一括表示装置 5 0 の始動入賞数報知用の特図 1 保留表示器 5 4 や特図 2 保留表示器 5 5 に表示されるとともに、表示装置 4 1 の表示画面にも表示される。

40

【0067】

遊技制御装置 1 0 0 は、始動入賞口 3 6 への入賞若しくは第 1 始動記憶 (特図 1 始動記憶、特図 1 保留) に基づいて、特図 1 表示器 5 1 で特図 1 変動表示ゲームを実行する。また、遊技制御装置 1 0 0 は、普通変動入賞装置 3 7 への入賞若しくは第 2 始動記憶 (特図 2 始動記憶、特図 2 保留) に基づいて、特図 2 表示器 5 2 で特図 2 変動表示ゲームを実行

50

する。

【0068】

特図1変動表示ゲーム（第1特図変動表示ゲーム）及び特図2変動表示ゲーム（第2特図変動表示ゲーム）は、特図1表示器51及び特図2表示器52において識別情報（特別図柄、特図）を変動表示した後に所定の結果態様を停止表示することで行われる。

【0069】

また、表示装置41では、各特図変動表示ゲームに対応して複数種類の識別情報（例えば、数字、記号、キャラクタ図柄など）を変動表示させる飾り特図変動表示ゲームが実行される。

【0070】

表示装置41における飾り特図変動表示ゲームは、前述した数字等で構成される飾り特別図柄（識別情報、飾り特図）が左（第一特別図柄）、右（第二特別図柄）、中（第三特別図柄）の順に変動表示（スクロール表示）を開始して、所定時間後に変動している図柄を順次停止させて、特図変動表示ゲームの結果を表示することで行われる。また、表示装置41では、興趣向上のためにキャラクタの出現等の多様な演出表示が行われる。さらに、飾り特図変動表示ゲームでは、他の飾り特別図柄（識別情報）として、ランプ表示装置80のランプ表示部1, 2において、点灯表示と消灯表示の繰り返し（点滅）によって第四特別図柄（第4図柄）が変動する。ランプ表示部1, 2の変動表示は、開始から所定時間後に、いずれの場合は「消灯」、大当たりもしくは小当たりの場合は「点灯」で停止する。

【0071】

始動入賞口36又は普通変動入賞装置37への遊技球の入賞が所定のタイミングでなされた場合（入賞検出時の大当たり乱数値が大当たり値である場合）には、特図変動表示ゲームの結果として表示図柄により特定の結果態様（特別結果態様）が導出され、大当たり状態（特別遊技状態）となる。これに対応して、表示装置41の表示態様は特別結果態様（例えば「7, 7, 7」等の数字が揃った状態）となる。

【0072】

このとき、特別変動入賞装置38、39は、大入賞口ソレノイド（38b、39b）（図3参照）への通電によって、大入賞口が所定の時間（例えば30秒）だけ閉状態から開状態に変換される。すなわち、特別変動入賞装置38、39に備えられた大入賞口が所定の時間又は所定数の遊技球が入賞するまで大きく開き、この間遊技者は多くの遊技球を獲得することができるという特典が付与される。

【0073】

第1始動入賞口36又は普通変動入賞装置37への遊技球の入賞が所定のタイミングでなされた場合（入賞検出時の大当たり乱数値が小当たり値である場合）には、特図変動表示ゲームの結果として表示図柄により特定結果態様（小当たり結果態様）が導出され、小当たり状態となる。これに対応して、表示装置41の表示態様は小当たり結果態様となる。なお、本実施形態では、小当たりの判定にも大当たり乱数値が使用されるが、小当たり値（小当たり判定値）は、大当たり値（大当たり判定値）と異なる。

【0074】

このとき、特別変動入賞装置38、39は、大入賞口ソレノイド38b、39b（図3参照）への通電によって、大入賞口が所定の短時間だけ閉状態から開状態に変換される。なお、大入賞口の全開放時間は、小当たり状態（小当たり遊技状態）の方が大当たり状態（特別遊技状態）よりも短いため、小当たり状態では大当たり状態よりも遊技者が獲得可能な遊技価値（獲得球数）が少ない。なお、小当たり状態と大当たり状態では両方とも大入賞口が開放状態となるが、大当たり状態を第1特別遊技状態と呼び、小当たり状態を第2特別遊技状態と呼んでもよい。なお、簡単のため、本実施形態では、小当たり状態で特別変動入賞装置39（上大入賞口）のみが開状態に変換され、大当たり状態（小当たり中のV入賞による大当たり状態も含む）で特別変動入賞装置38（下大入賞口）のみが開状態に変換される構成を説明する。

【0075】

ここで、大当りと小当りとの違いについて説明する。

【0076】

大当りとは条件装置の作動を伴う特別結果であり、小当りとは条件装置の作動を伴わない特定結果である。条件装置とは、特図変動表示ゲームで大当りが発生（大当り図柄の停止表示）した場合に作動するもので、条件装置が作動するとは、例えば大当り状態が発生して特別電動役物としての特別変動入賞装置38、39を連続して作動させるための特定のフラグがセットされることを意味する。また、条件装置が作動するとは、特定領域86への遊技球の通過（V入賞）があったことを意味してもよい。条件装置が作動しないとは、例えば単に小当り抽選に当選した場合のように上述の特定のフラグがセットされないことを意味する。ただし、本実施形態で後述するように、小当り状態中にV入賞があった場合には条件装置が作動することになる。なお、「条件装置」は、上記のようなソフトウェア的にオンオフされるフラグのようなソフトウェア手段であっても良いし、電氣的にオンオフされるスイッチのようなハードウェア手段であっても良い。また、「条件装置」は、その作動が電動役物の連続作動に必要な条件とされる装置として、パチンコ遊技機分野においては一般的に使用されている用語であり、本明細書においても同様の意味を有する用語として使用している。

10

【0077】

具体的には、大当りの場合は、大当りフラグが設定されることにより特別変動入賞装置が開放されるのに対して、小当りの場合は、小当りフラグが設定されることにより特別変動入賞装置が開放される。

20

【0078】

なお、特図1表示器51及び特図2表示器52は、別々の表示器として構成してもよいし同一の表示器として構成してもよいが、各特図変動表示ゲームが同時に実行されないように設定される。なお、特図2変動表示ゲームは、特図1変動表示ゲームよりも優先して実行されるようになっており、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームの始動記憶があり、特図変動表示ゲームの実行が可能な状態になった場合は特図2変動表示ゲームが実行される（特図2保留優先消化、特図2優先変動）。なお、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームは、入賞（即ち始動記憶）の発生した順に実行されてもよく（入賞順消化）、特図1変動表示ゲーム及び／又は特図2変動表示ゲームの始動記憶が生じて特図変動表示ゲームの実行が可能な状態になった場合は、最も古くに発生した始動記憶に基づく変動表示ゲームが実行されてもよい。

30

【0079】

表示装置41における飾り特図変動表示ゲームについては、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームとを別々の表示装置や別々の表示領域で実行するようにしてもよいし、同一の表示装置や表示領域で実行するようにしてもよい。この場合、特図1変動表示ゲーム及び特図2変動表示ゲームに対応する飾り特図変動表示ゲームが同時に実行されないようにしてよい。

【0080】

なお、以下の説明において、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームを区別しない場合は、単に特図変動表示ゲームと称する。

40

【0081】

また、特に限定されるわけではないが、上記始動入賞口36内の始動口1スイッチ36a、普通変動入賞装置37内の始動口2スイッチ37a、ゲートスイッチ34a、入賞口スイッチ35a、カウントスイッチ（38a、39a）には、磁気検出用のコイルを備え該コイルに金属が近接すると磁界が変化する現象を利用して遊技球を検出する非接触型の磁気近接センサ（以下、近接スイッチと称する）が使用されている。また、遊技機10のガラス枠15等に設けられたガラス枠開放検出スイッチ63や前面枠（遊技枠）12等に設けられた前面枠開放検出スイッチ64（本体枠開放検出スイッチ）には、機械的な接点を有するマイクロスイッチを用いることができる。

【0082】

50

〔遊技制御装置〕

図 3 は、遊技機 10 の遊技制御系のブロック図である。遊技機 10 は遊技制御装置 100（主基板）を備え、遊技制御装置 100 は、遊技を統括的に制御する主制御装置（主基板）であって、遊技用マイクロコンピュータ（以下、遊技用マイコンと称する）111 を有する CPU 部 110 と、入力ポートを有する入力部 120 と、出力ポートやドライバなどを有する出力部 130、CPU 部 110 と入力部 120 と出力部 130 との間を接続するデータバス 140 などからなる。

【0083】

CPU 部 110 は、アミューズメントチップ（IC）と呼ばれる遊技用マイコン（CPU）111 と、水晶振動子のような発振子を備え、CPU の動作クロックやタイマ割込み、乱数生成回路の基準となるクロックを生成する発振回路（水晶発振器）113 などを有する。遊技制御装置 100 及び該遊技制御装置 100 によって駆動されるソレノイドやモータなどの電子部品には、電源装置 400 で生成された DC 32V、DC 12V、DC 5V など所定のレベルの直流電圧が供給されて動作可能にされる。

【0084】

電源装置 400 は、24V の交流電源から DC 32V の直流電圧を生成する ACDC コンバータや DC 32V の電圧から DC 12V、DC 5V などのより低いレベルの直流電圧を生成する DC-DC コンバータなどを有する通常電源部 410 と、遊技用マイコン 111 の内部の RAM に対して停電時に電源電圧を供給するバックアップ電源部 420 と、停電監視回路を有し、遊技制御装置 100 に停電の発生、回復を知らせる停電監視信号やリセット信号などの制御信号を生成して出力する制御信号生成部 430 などを備える。

【0085】

本実施形態では、電源装置 400 は、遊技制御装置 100 と別個に構成されているが、バックアップ電源部 420 及び制御信号生成部 430 は、別個の基板上あるいは遊技制御装置 100 と一体、すなわち、主基板上に設けるように構成してもよい。遊技盤 30 及び遊技制御装置 100 は機種変更の際に交換の対象となるので、実施例のように、電源装置 400 若しくは主基板とは別の基板上にバックアップ電源部 420 及び制御信号生成部 430 を設けることにより、交換の対象から外しコストダウンを図ることができる。

【0086】

バックアップ電源部 420 は、電解コンデンサのような大容量のコンデンサ 1 つで構成することができる。バックアップ電源は、遊技制御装置 100 の遊技用マイコン 111（特に内蔵 RAM）に供給され、停電中あるいは電源遮断後も RAM に記憶されたデータが保持されるようになっている。制御信号生成部 430 は、例えば通常電源部 410 で生成された 32V の電圧を監視してそれが例えば 17V 以下に下がると停電発生を検出して停電監視信号を変化させるとともに、所定時間後にリセット信号を出力する。また、電源投入時や停電回復時にもその時点から所定時間経過後にリセット信号を出力する。

【0087】

また、遊技制御装置 100 には RAM 初期化スイッチ 112 が設けられている。RAM 初期化スイッチ 112 が押下げられてオン操作されると初期化スイッチ信号が生成され、これに基づき遊技用マイコン 111 内の RAM 111c 及び払出制御装置 200 内の RAM に記憶されている情報を強制的に初期化する処理が行われる。特に限定されるわけではないが初期化スイッチ信号は電源投入時に読み込まれ、停電監視信号は遊技用マイコン 111 が実行するメインプログラムのメインループの中で繰り返し読み込まれる。リセット信号は強制割込み信号の一種であり、制御システム全体をリセットさせる。

【0088】

また、遊技制御装置 100（主基板）は、設定キースイッチ 93 を備える。設定キースイッチ 93 は、操作者の回転操作等によってオンすることによって遊技条件（遊技）に関する設定に応じた確率設定値（設定値）を変更可能な状態にする。なお、RAM 初期化スイッチ 112 は、操作者の操作に応じて確率設定値を変更可能な設定値変更スイッチとしても使用可能である。本実施形態では、確率設定値は、大当たり確率や小当たり確率などの当

10

20

30

40

50

選確率を設定するための設定値であるが、確率以外の他の遊技条件（演出など）も確率設定値に応じて変更可能である。例えば、確率設定値が大きいほど、当選確率を大きくしてよい。設定キースイッチ 93 と RAM 初期化スイッチ 112 は、遊技条件に関する設定（確率設定値）を変更可能な設定変更手段（設定変更装置 42、設定手段）を構成する。なお、RAM 初期化スイッチ 112 ではなく、他のスイッチが、設定値変更スイッチを兼用してもよいし、専用に独自の設定値変更スイッチを設けてもよい。

【0089】

設定キースイッチ 93 と RAM 初期化スイッチ 112 は、遊技機 10 内部の遊技制御装置 100 上に設けられることによって、前面枠 12（本体枠）が開放されなければ操作できない位置（アクセスできない位置）に配置される。即ち、一般の遊技者は、設定キースイッチ 93 と RAM 初期化スイッチ 112 にアクセスして操作することができない。

10

【0090】

後述するように、遊技機 10 の電源投入（停電復旧、復電）の際に、遊技機 10 は、設定キースイッチ 93 と RAM 初期化スイッチ 112 のオン／オフ状態に応じて、確率設定値を変更可能（設定可能）な設定可変状態（設定変更状態、設定可能状態、設定変更モード）、確率設定値を確認可能な設定確認状態（設定確認モード）などの各種状態に、移行することができる。

【0091】

本実施形態において、確率設定値は、例えば 6 段階で規定され、確率設定値 1（設定 1）、確率設定値 2（設定 2）、確率設定値 3（設定 3）、確率設定値 4（設定 4）、確率設定値 5（設定 5）、確率設定値 6（設定 6）がある。一般的に、設定 1 が遊技者に最も不利な設定であり、設定 6 が遊技者に最も有利な設定である。設定 1，2 が低設定であり、設定 3，4 が中間の設定（中間設定）であり、設定 5，6 が高設定である。

20

【0092】

確率設定変更処理では、操作者によって RAM 初期化スイッチ 112 が押下操作される度に、作業用設定値領域の作業用設定値（設定）が、設定値 0（設定 1、確率設定値 1）→設定値 1（設定 2、確率設定値 2）→設定値 2（設定 3、確率設定値 3）→設定値 3（設定 4、確率設定値 4）→設定値 4（設定 5、確率設定値 5）→設定値 5（設定 6、確率設定値 6）→設定値 0（設定 1）→設定値 1（設定 2）→・・・のように変更される。このように、RAM 初期化スイッチ 112 は、設定値変更スイッチとしても機能する。なお、説明の都合上、設定変更状態（設定変更モード）中に、作業用設定値 0～5 をそれぞれ確率設定値 1～6 に対応して設けるが、作業用設定値と確率設定値は同じ数値範囲（即ち 0～5 又は 1～6）に揃えて同じものとして取り扱ってもよい（作業用設定値と確率設定値を同じ数値にする）。

30

【0093】

なお、RAM 初期化スイッチ 112（設定値変更スイッチ）の操作ではなく、設定キースイッチ 93 を所定の位置に回転操作して確率設定値を変更する構成としてもよい。また、確率設定値は 6 段階に限られない。そして、選択されている 0～5 の作業用設定値に対応する表示用確率設定値が、例えば 4 桁の 7 セグメント型（ドット Dp を含めると 8 セグメント型）の表示器である性能表示装置 152 等に表示される。また、遊技機の前面（例えば一括表示装置 50）に、表示用確率設定値など設定値に関する情報（例えば確率設定値 1～6 を読み取れる表示）を表示してもよい。また、遊技機の前面（例えば一括表示装置 50）に、設定可変状態中や設定確認状態中だけでなく、遊技制御実行中（後述のゲーム処理の実行中）にも、表示用確率設定値など設定値に関する情報を表示してもよい。

40

【0094】

遊技用マイコン 111 は、CPU（中央処理ユニット：マイクロプロセッサ）111a、読み出し専用の ROM（リードオンリメモリ）111b 及び随時読み出し書込み可能な RAM（ランダムアクセスメモリ）111c を備える。

【0095】

ROM 111b は、遊技制御のための不変の情報（プログラム、固定データ、各種乱数

50

の判定値等)を不揮発的に記憶する。RAM 111cは、遊技制御時にCPU 111aの作業領域や各種信号や乱数値の記憶領域として利用されるもので、遊技に関する情報(遊技情報)が記憶され、停電が発生しても記憶された情報の記憶保持が可能な保持記憶手段となる。ROM 111b又はRAM 111cとして、EEPROMのような電氣的に書換え可能な不揮発性メモリを用いてもよい。

【0096】

また、ROM 111bは、例えば、特図変動表示ゲームの実行時間、演出内容、リーチ状態の発生の有無などを規定する変動パターン(変動態様)を決定するための変動パターンテーブルを記憶している。変動パターンテーブルとは、始動記憶として記憶されている変動パターン乱数1~3をCPU 111aが参照して変動パターンを決定するためのテーブルである。また、変動パターンテーブルには、結果がはずれとなる場合に選択されるはずれ変動パターンテーブル、結果が大当たりとなる場合に選択される大当たり変動パターンテーブル等が含まれる。さらに、これらのパターンテーブルには、リーチ状態となった後の変動パターンである後半変動パターンを決定するためのテーブル(後半変動グループテーブルや後半変動パターン選択テーブル等)、リーチ状態となる前の変動パターンである前半変動パターンを決定するためのテーブル(前半変動グループテーブルや前半変動パターン選択テーブル等)が含まれている。

【0097】

ここでリーチ(リーチ状態)とは、表示状態が変化可能な表示装置を有し、該表示装置が時期を異ならせて複数の表示結果を導出表示し、該複数の表示結果が予め定められた特別結果態様となった場合に、遊技状態が遊技者にとって有利な遊技状態(特別遊技状態)となる遊技機10において、複数の表示結果の一部がまだ導出表示されていない段階で、既に導出表示されている表示結果が特別結果態様となる条件を満たしている表示状態をいう。また、別の表現をすれば、リーチ状態とは、表示装置の変動表示制御が進行して表示結果が導出表示される前段階にまで達した時点でも、特別結果態様となる表示条件からはずれていない表示態様をいう。そして、例えば、特別結果態様が揃った状態を維持しながら複数の変動表示領域による変動表示を行う状態(いわゆる全回転リーチ)もリーチ状態に含まれる。また、リーチ状態とは、表示装置の表示制御が進行して表示結果が導出表示される前段階にまで達した時点での表示状態であって、表示結果が導出表示される以前に決定されている複数の変動表示領域の表示結果の少なくとも一部が特別結果態様となる条件を満たしている場合の表示状態をいう。

【0098】

よって、例えば、特図変動表示ゲームに対応して表示装置に表示される飾り特図変動表示ゲームが、表示装置における左、中、右の変動表示領域の各々で所定時間複数の識別情報を変動表示した後、左、右、中の順で変動表示を停止して結果態様を表示するものである場合、左、右の変動表示領域で、特別結果態様となる条件を満たした状態(例えば、同一の識別情報)で変動表示が停止した状態がリーチ状態となる。他に、すべての変動表示領域の変動表示を一旦停止した時点で、左、中、右のうちいずれか二つの変動表示領域で特別結果態様となる条件を満たした状態(例えば、同一の識別情報となった状態、ただし特別結果態様は除く)をリーチ状態とし、リーチ状態から残りの一つの変動表示領域を変動表示するようにしてもよい。

【0099】

そして、リーチ状態には複数のリーチ演出が含まれ、特別結果態様(大当たり態様)が導出される可能性が異なる(期待度が異なる)リーチ演出の系統(種類)として、ノーマルリーチ(Nリーチ)、スペシャル1リーチ(SP1リーチ)、スペシャル2リーチ(SP2リーチ)、スペシャル3リーチ(SP3リーチ)、プレミアリーチが設定されている。なお、大当たりの期待度(期待値)は、リーチなし<ノーマルリーチ<スペシャル1リーチ<スペシャル2リーチ<スペシャル3リーチ<プレミアリーチの順に高くなるようになっている。また、リーチ状態は、少なくとも特図変動表示ゲームで特別結果態様が導出される場合(大当たりとなる場合)における変動表示態様に含まれるようになっている。すなわ

ち、特図変動表示ゲームで特別結果態様が導出されないと判定する場合（はずれとなる場合）における変動表示態様に含まれることもある。よって、リーチ状態が発生した状態は、リーチ状態が発生しない場合と比較して大当たりとなる可能性の高い状態である。

【0100】

なお、演出（予告）の期待度は、その演出が選択された場合に大当たりになる確率を示唆し、大当たりであるときのその演出の選択率及び大当たりでないとき（はずれのとき）のその演出の選択率などに基づいて算出することができる。

【0101】

CPU111aは、ROM111b内の遊技制御用プログラムを実行して、払出制御装置200や演出制御装置300に対する制御信号（コマンド）を生成したりソレノイドや表示装置の駆動信号を生成して出力して遊技機10全体の制御を行う。また、図示しないが、遊技用マイコン111は、特図変動表示ゲームの大当たりを判定するための大当たり乱数や、大当たり図柄（大当たりの停止図柄）、小当たり図柄（小当たりの停止図柄）、時短図柄（サポ当たり図柄、サポ当たりの停止図柄）を決定するための特図図柄乱数、特図変動表示ゲームでの変動パターン（各種リーチやリーチなしの変動表示における変動表示ゲームの実行時間等を含む）を決定するための変動パターン乱数等を生成するための乱数生成回路と、発振回路113からの発振信号（原クロック信号）に基づいてCPU111aに対する所定周期（例えば、4ms（ミリ秒））のタイマ割込み信号や乱数生成回路の更新タイミングを与えるクロックを生成するクロックジェネレータを備えている。

【0102】

また、CPU111aは、特図変動表示ゲームに関する処理において、ROM111bに記憶されている複数の変動パターンテーブルの中から、いずれかの変動パターンテーブルを取得する。具体的には、CPU111aは、特図変動表示ゲームの遊技結果（大当たりあるいははずれ）や、現在の遊技状態としての特図変動表示ゲームの確率状態（通常確率状態あるいは高確率状態）、始動記憶数などに基づいて、複数の変動パターンテーブルの中から、いずれかの変動パターンテーブルを選択して取得する。ここで、CPU111aは、特図変動表示ゲームを実行する場合に、ROM111bに記憶された複数の変動パターンテーブルのうち、いずれかの変動パターンテーブルを取得する変動振り分け情報取得手段をなす。

【0103】

払出制御装置200は、CPU、ROM、RAM、入カインタフェース、出力インタフェース等を備え、遊技制御装置100からの賞球払出し指令（コマンドやデータ）に従って、払出ユニットの払出モータ91を駆動させ、賞球を払い出させるための制御を行う。また、払出制御装置200は、カードユニット600からの貸球要求信号に基づいて払出ユニットの払出モータ91を駆動させ、貸球を払い出させるための制御を行う。

【0104】

遊技用マイコン111の入力部120には、遊技機に対する電波の発射を検出する電波センサ62（盤電波センサ）、普図始動ゲート34のゲートスイッチ34a、第1始動入賞口36内の始動口1スイッチ36a、第2始動入賞口37（普通変動入賞装置）内の始動口2スイッチ37a、一般入賞口35の入賞口スイッチ35a、特別変動入賞装置38、39の大入賞口スイッチ43（下大入賞口スイッチ38a、上大入賞口スイッチ39a）に接続され、これらのスイッチから供給されるハイレベルが11Vでロウレベルが7Vのような負論理の信号が入力され、0V－5Vの正論理の信号に変換するインタフェースチップ（近接I/F）121が設けられている。

【0105】

さらに、インタフェースチップ（近接I/F）121は、特定領域スイッチ72、残存球排出口スイッチ73、アウト球検出スイッチ74に接続される。特定領域スイッチ72は、特定領域86（V入賞口）への遊技球の通過（V入賞）を検出する。残存球排出口スイッチ73は、特別変動入賞装置38、39からの遊技球を排出する残存球排出口を通過した遊技球を検出する。アウト球検出スイッチ74は、遊技領域に発射されて遊技を終え

10

20

30

40

50

た全ての遊技球（即ち、入賞口又はアウト口 30b を通過した全ての遊技球）を検出する。

【0106】

近接 I / F 121 の出力は、第 2 入力ポート 123、第 3 入力ポート 124、又は、第 4 入力ポート 126 に供給されデータバス 140 を介して遊技用マイコン 111 に読み込まれる。なお、近接 I / F 121 の出力のうち、ゲートスイッチ 34a、始動口 1 スイッチ 36a、始動口 2 スイッチ 37a、入賞口スイッチ 35a、大入賞口スイッチ 43 の検出信号は第 3 入力ポート 124 に入力される。

【0107】

また、近接 I / F 121 の出力のうち、電波センサ 62 の検出信号及びセンサやスイッチの異常を検出した際に出力される異常検知信号は第 2 入力ポート 123 に入力される。

【0108】

また、近接 I / F 121 の出力のうち、特定領域スイッチ 72、残存球排出口スイッチ 73、又は、アウト球検出スイッチ 74 の検出信号は第 4 入力ポート 126 に入力される。

【0109】

また、第 2 入力ポート 123 には、遊技機 10 の前面枠 12 等に設けられた不正検出用の磁気センサスイッチ 61 の検出信号、遊技機 10 のガラス枠 15 等に設けられたガラス枠開放検出スイッチ 63、前面枠 12（本体枠）等に設けられた前面枠開放検出スイッチ 64（本体枠開放検出スイッチ）からの信号、遊技機 10 の振動を検出する振動センサ 65 からの信号が入力される。

【0110】

また、第 2 入力ポート 123 は、設定キースイッチ 93 からの設定キースイッチ信号を取り込んでデータバス 140 を介して遊技用マイコン 111 に供給する。

【0111】

また、近接 I / F 121 の出力のうち、第 3 入力ポート 124 への出力は、遊技制御装置 100 から中継基板 70 を介して図示しない試射試験装置へも供給されるようになっている。さらに、近接 I / F 121 の出力のうち始動口 1 スイッチ 36a と始動口 2 スイッチ 37a の検出信号は、第 3 入力ポート 124 の他、遊技用マイコン 111 に入力されるように構成されている。

【0112】

前述のように近接 I / F 121 は、信号のレベル変換機能を有する。このようなレベル変換機能を可能にするため、近接 I / F 121 には、電源装置 400 から通常の IC の動作に必要な例えば 5V のような電圧の他に、12V の電圧が供給されるようになっている。

【0113】

第 3 入力ポート 124 が保持しているデータは、遊技用マイコン 111 が第 3 入力ポート 124 に割り当てられているアドレスをデコードすることによってイネーブル信号 CE2 をアサート（有効レベルに変化）することによって、読み出すことができる。第 2 入力ポート 123、第 4 入力ポート 126 や後述の第 1 入力ポート 122 も同様である。

【0114】

また、入力部 120 には、払出制御装置 200 から出力される枠電波不正信号、払出ビジー信号、払出異常を示すステータス信号、払出前の遊技球の不足を示すシュート球切れスイッチ信号、オーバーフローを示すオーバーフロースイッチ信号、操作ハンドル 24 に設けられたタッチスイッチの入力に基づくタッチスイッチ信号、RAM 初期化スイッチ 112 からの信号を取り込んでデータバス 140 を介して遊技用マイコン 111 に供給する第 1 入力ポート 122 が設けられている。オーバーフロースイッチ信号は、下皿 23 に遊技球が所定量以上貯留されていること（満杯になったこと）を検出したときに出力される信号である。枠電波不正信号は前面枠 12（本体枠）に設けられた枠電波センサが電波を検出することに基づき出力される信号であり、払出ビジー信号は払出制御装置 200 がコ

10

20

30

40

50

マンドを受付可能な状態か否かを示す信号である。

【0115】

また、入力部120には、電源装置400からの停電監視信号やリセット信号などの信号を遊技用マイコン111等に入力するためのシュミットバッファ125が設けられており、シュミットバッファ125はこれらの入力信号からノイズを除去する機能を有する。電源装置400からの停電監視信号は、一旦第1入力ポート122に入力され、データバス140を介して遊技用マイコン111に取り込まれる。つまり、前述の各種スイッチからの信号と同等の信号として扱われる。遊技用マイコン111に設けられている外部からの信号を受ける端子の数には制約があるためである。

【0116】

一方、シュミットバッファ125によりノイズ除去されたリセット信号RSTは、遊技用マイコン111に設けられているリセット端子に直接入力されるとともに、出力部130の各ポートに供給される。また、リセット信号RSTは出力部130を介さずに直接中継基板70に出力することで、試射試験装置に出力するために中継基板70のポート（図示省略）に保持される試射試験信号をオフするように構成されている。

【0117】

また、リセット信号RSTを中継基板70を介して試射試験装置に出力可能に構成するようにしてもよい。なお、リセット信号RSTは入力部120の各ポート122, 123, 124には供給されない。リセット信号RSTが入る直前に遊技用マイコン111によって出力部130の各ポートに設定されたデータはシステムの誤動作を防止するためリセットする必要があるが、リセット信号RSTが入る直前に入力部120の各ポートから遊技用マイコン111が読み込んだデータは、遊技用マイコン111のリセットによって廃棄されるためである。

【0118】

出力部130には、遊技用マイコン111から演出制御装置300への通信経路及び遊技用マイコン111から払出制御装置200への通信経路に配されるシュミットバッファ132が設けられている。遊技制御装置100から演出制御装置300及び払出制御装置200へは、シリアル通信でデータが送信される。なお、演出制御装置300の側から遊技制御装置100へ信号を入力できないようにした片方向通信とされている。

【0119】

さらに、出力部130には、データバス140に接続され図示しない認定機関の試射試験装置へ変動表示ゲームの特図図柄情報を知らせるデータや大当りの確率状態を示す信号などを中継基板70を介して出力するバッファ133が実装可能に構成されている。バッファ133は遊技店に設置される実機（量産販売品）としてのパチンコ遊技機の遊技制御装置（主基板）には実装されない部品である。なお、前記近接I/F121から出力される始動口スイッチなど加工の必要のないスイッチの検出信号は、バッファ133を通さずに中継基板70を介して試射試験装置に供給される。

【0120】

一方、磁気センサスイッチ61や電波センサ62のようにそのままでは試射試験装置に供給できない検出信号は、一旦遊技用マイコン111に取り込まれて他の信号若しくは情報に加工されて、例えば遊技機が遊技制御できない状態であることを示すエラー信号としてデータバス140からバッファ133、中継基板70を介して試射試験装置に供給される。

【0121】

なお、中継基板70には、バッファ133から出力された信号を取り込んで試射試験装置に供給するポートや、バッファを介さないスイッチの検出信号の信号線の中継して伝達するコネクタなどが設けられている。中継基板70上のポートには、遊技用マイコン111から出力されるチップイネーブル信号CEも供給され、該信号CEにより選択制御されたポートの信号が試射試験装置に供給されるようになっている。

【0122】

10

20

30

40

50

また、出力部 130 には、データバス 140 に接続され普通変動入賞装置 37 を開放させるソレノイド（普電ソレノイド）37c、第 1 特別変動入賞装置 38 を開放させる下大入賞口ソレノイド 38b（大入賞口ソレノイド 1）、第 2 特別変動入賞装置 39 を開放させる上大入賞口ソレノイド 39b（大入賞口ソレノイド 2）、レバーを動作させ特定領域 86 を開放させるレバーソレノイド 86b の開閉データを出力するための第 2 出力ポート 134 が設けられている。

【0123】

また、出力部 130 には、一括表示装置 50 に表示する内容に応じて LED のアノード端子が接続されているセグメント線のオン／オフデータを出力するための第 3 出力ポート 135、一括表示装置 50 の LED のカソード端子が接続されているデジット線のオン／オフデータを出力するための第 4 出力ポート 136 が設けられている。

10

【0124】

また、出力部 130 には、性能表示装置 152 に表示する内容に応じて LED のアノード端子が接続されているセグメント線のオン／オフデータを出力するための第 6 出力ポート 141、性能表示装置 152 の LED のカソード端子が接続されているデジット線のオン／オフデータを出力するための第 7 出力ポート 142 が設けられている。

【0125】

また、出力部 130 には、大当り情報など遊技機 10 に関する情報を外部情報端子 71 に出力するための第 5 出力ポート 137 が設けられている。外部情報端子 71 にはフォトリレーが備えられ、例えば遊技店に設置された外部装置（情報収集端末や遊技場内部管理装置（ホールコンピュータ）など）に接続可能であり、遊技機 10 に関する情報を外部装置に供給することができるようになっている。また、第 5 出力ポート 137 からはシュミットバッファ 132 を介して払出制御装置 200 に発射許可信号も出力される。

20

【0126】

さらに、出力部 130 には、第 2 出力ポート 134 から出力される普電ソレノイド 37c や大入賞口ソレノイド 38b、39b などの開閉データ信号を受けてソレノイド駆動信号を生成し出力する第 1 ドライバ（駆動回路）138a、第 3 出力ポート 135 から出力される一括表示装置 50 の電流供給側のセグメント線のオン／オフ駆動信号を出力する第 2 ドライバ 138b、第 4 出力ポート 136 から出力される一括表示装置 50 の電流引き込み側のデジット線のオン／オフ駆動信号を出力する第 3 ドライバ 138c、第 5 出力ポート 137 から管理装置等の外部装置に供給する外部情報信号を外部情報端子 71 に出力する第 4 ドライバ 138d が設けられている。

30

【0127】

さらに、出力部 130 には、第 6 出力ポート 141 から出力される性能表示装置 152 の電流供給側のセグメント線のオン／オフ駆動信号を出力する性能表示用セグメントドライバ 150a、第 7 出力ポート 142 から出力される性能表示装置 152 の電流引き込み側のデジット線のオン／オフ駆動信号を出力する性能表示用デジットドライバ 150b が設けられている。

【0128】

第 1 ドライバ 138a には、32V で動作するソレノイドを駆動できるようにするため、電源電圧として DC 32V が電源装置 400 から供給される。また、一括表示装置 50 のセグメント線を駆動する第 2 ドライバ 138b には、DC 12V が供給される。デジット線を駆動する第 3 ドライバ 138c は、表示データに応じたデジット線を電流で引き抜くためのものであるため、電源電圧は 12V 又は 5V のいずれであってもよい。

40

【0129】

12V を出力する第 2 ドライバ 138b によりセグメント線を介して LED のアノード端子に電流を流し込み、接地電位を出力する第 3 ドライバ 138c によりカソード端子よりデジット線を介して電流を引き抜くことで、一括表示装置 50 においてダイナミック駆動方式で順次選択された LED に電源電圧が流れて点灯される。12V を出力する性能表示用セグメントドライバ 150a によりセグメント線を介して LED のアノード端子に電

50

流を流し込み、接地電位を出力する性能表示用デジットドライバ150bによりカソード端子よりデジット線を介して電流を引き抜くことで、性能表示装置152においてダイナミック駆動方式で順次選択されたLEDに電源電圧が流れて点灯される。外部情報信号を外部情報端子71に出力する第4ドライバ138dは、外部情報信号に12Vのレベルを与えるため、DC12Vが供給される。なお、バッファ133や第2出力ポート134、第1ドライバ138a等は、遊技制御装置100の出力部130、すなわち、主基板ではなく、中継基板70側に設けるようにしてもよい。

【0130】

さらに、出力部130には、外部の検査装置500へ各遊技機の識別コードやプログラムなどの情報を送信するためのフォトカプラ139が設けられている。フォトカプラ139は、遊技用マイコン111が検査装置500との間でシリアル通信によってデータの送受信を行えるように双方通信可能に構成されている。なお、かかるデータの送受信は、通常の汎用マイクロプロセッサと同様に遊技用マイコン111が有するシリアル通信端子を利用して行われるため、入力ポート122、123、124のようなポートは設けられていない。

10

【0131】

本実施形態では、性能表示装置152は、複数(4つ)の7セグメント型(ドットDpを含めると8セグメント型)の表示器(LEDランプ)からなり、性能表示用ドライバ150a、150bはLEDドライバであるが、これに限られるものではない。

【0132】

性能表示装置152は、遊技制御装置100(主基板)上に設けられるものであるが、他の場所に設けられてもよい。例えば、性能表示装置152は、表示用確率設定値や役物比率や出玉率や排出球数を表示可能である。

20

【0133】

ここで、排出球数は、遊技領域32から排出された遊技球の数(アウト球数とも呼ぶ)であり、入賞口を通過した遊技球の数(入賞数)とアウト口30bを通過した遊技球の数との合計である。排出球数は、アウト球検出スイッチ74の信号などをカウント(計数)することにより取得できる。本実施形態では、入賞口には、一般入賞口35、始動入賞口36(第1始動入賞口、始動口1)、普通変動入賞装置37(第2始動入賞口、始動口2)、及び、特別変動入賞装置38、39(大入賞口)が含まれる。

30

【0134】

出玉率は、排出球数(或は遊技領域32に導入された発射球数)に対する賞球数の合計の比率(割合)であり、 $(\text{獲得球数} \div \text{排出球数}) \times 100 (\%)$ で計算される。即ち、出玉率は、排出球数100個当りの獲得球数(賞球数の合計)となる。

【0135】

例えば、役物比率は、所定期間(例えば、遊技機10の電源投入から現在まで)に入賞口に入賞したことで得られた全賞球数(賞球の合計数)のうち、大当たり状態中に大入賞口に入賞したことで得られた賞球数(役物別獲得球数)の割合(%) (=いわゆる連続役物比率)である。なお、役物比率は、全賞球数のうち、大入賞口に入賞したことで得られた賞球数(大当たり状態中と小当たり状態中)の割合(=大入賞口比率)でもよいし、或は、大入賞口及び普通変動入賞装置37(第2始動入賞口)に入賞したことで得られた賞球数の割合(=一般的に使用されるいわゆる役物比率(全役物比率))でもよい。

40

【0136】

さらに、遊技制御装置100は、安全装置の機能も有する。安全装置とは、セーフ球数と排出球数に基づく作動条件(所定条件)の成立によって、遊技として特図変動表示ゲーム、普図変動表示ゲーム、及び、ラウンド遊技(大当たり中や小当たり中での遊技)等が実行できない遊技停止状態(遊技不可状態、遊技禁止状態)を発生可能な遊技停止手段(打ち止め手段)である。遊技停止状態では、新たな特図変動表示ゲームと新たな普図変動表示ゲームは開始できない。安全装置によって、不正によってセーフ球数が異常に多いなどの場合に適切に不正対策をすることができ、また、遊技者の遊技に対するのめり込みも抑制

50

できる可能性がある。のめり込みが抑制されると遊技者は安心して遊技ができる。

【0137】

本実施形態において、安全装置は、遊技制御装置100でソフトウェア（プログラム）によって実現される機能であり、コンプリート機能（又はエンディング機能、打ち止め機能）とも呼ばれる。もちろん、安全装置は、電気回路や回路基板などのハードウェアとして設けられてもよい。

【0138】

また、本実施形態において、安全装置の作動条件は、（１）セーフ球数と排出球数との差を示す差玉数が差玉基準値（所定値）に達しており、且つ、（２）大当たり中でも小当たり中でもないことである。差玉数は、セーフ球数から排出球数を減算したものである（差玉数＝セーフ球数－排出球数）。このように、安全装置の作動条件は、２段階の条件（１）（２）からなる。なお、条件（１）に関する差玉数は、本実施形態で主に記載するように、簡単には、電源投入時をゼロとして電源投入時から現在までのセーフ球数と排出球数との差でよい。しかし、条件（１）に関する差玉数は、差玉数の最低値の時点から現在までの所定期間における差玉数、即ち、最低値を基準とした差玉数（最低値から増加した差玉数の増加幅）でよく、１日の営業における差玉数の最大増加幅（いわゆるMY）に対応するものでよい。また、作動条件は他のものでもよく、例えば、条件（１）は、セーフ球数が所定値に達することとする構成も可能である。また、条件（２）は、特別変動入賞装置が作動していないこと、或いは、大入賞口が開放状態でないこととする構成も可能である。

10

20

【0139】

本実施形態において、セーフ球数は、所定期間（例えば電源投入から現在までの期間）に払い出されることが決定された賞球の合計数（獲得球数、出玉）である。賞球（遊技球）の払い出しのエラーがあると、払い出されることが決定された賞球の合計数は、払出装置を介して上皿21に実際に払い出された賞球の合計数に等しくならないが、実際に払い出された賞球の合計数を検出スイッチ等で計測してセーフ球数としてもよい。また、排出球数（アウト球数）は、所定期間において遊技領域32から排出された遊技球の数で、アウト球検出スイッチ74からの信号をカウントして計数可能である。

【0140】

なお、排出球数の代わりに遊技領域32に発射され導入された発射球の数である発射球数を用いてもよく、差玉数は、セーフ球数－発射球数としてよい。遊技球の発射球数と排出球数を総称して使用数と呼んでよい（差玉数＝セーフ球数－使用数）。発射球数からは、球発射装置で発射されたが遊技領域32に届かなかったファール球は除かれ、差玉数は球発射装置で遊技球が１個発射されると－１減算され、ファール球が１個生じると＋１加算されることになる。発射球数を計数するための検出スイッチ（検出センサ）を、遊技領域32への遊技球の入口、即ち、遊技盤30における発射された遊技球の案内通路の上端近傍に設けてもよい。

30

【0141】

〔演出制御装置〕

次に、図4を用いて、演出制御装置300（サブ基板）の構成について説明する。図4は、遊技機10の演出制御系のブロック図である。

40

【0142】

演出制御装置300は、遊技用マイコン111と同様にアミューズメントチップ（IC）からなる主制御用マイコン（CPU）311と、主制御用マイコン311からのコマンドやデータに従って表示装置41への映像表示のための画像処理を行うグラフィックプロセッサとしてのVDP（Video Display Processor）312と、各種のメロディや効果音などをスピーカ19から再生させるため音の出力を制御する音源LSI314を備えている。

【0143】

50

主制御用マイコン 3 1 1 には、CPU が実行するプログラムや各種データを格納した P R O M (プログラムブルリードオンリメモリ) からなるプログラム R O M 3 2 1、作業領域を提供する R A M 3 2 2、停電時に電力が供給されなくとも記憶内容を保持可能な F e R A M 3 2 3、現在の日時 (年月日や曜日、時刻など) を示す情報を生成する計時手段をなす R T C (リアルタイムクロック) 3 3 8 が接続されている。なお、主制御用マイコン 3 1 1 の内部にも作業領域を提供する R A M が設けられている。

【 0 1 4 4 】

また、主制御用マイコン 3 1 1 には W D T (ウォッチドッグ・タイマ) 回路 3 2 4 が接続されている。主制御用マイコン 3 1 1 は、遊技用マイコン 1 1 1 からのコマンドを解析し、表示内容を決定して V D P 3 1 2 に出力映像の内容を指示したり、音源 L S I 3 1 4 への再生音の指示、装飾ランプの点灯、モータやソレノイドの駆動制御、演出時間の管理などの処理を実行する。

10

【 0 1 4 5 】

V D P 3 1 2 には、作業領域を提供する R A M 3 1 2 a や、画像を拡大、縮小処理するためのスケーラ 3 1 2 b が設けられている。また、V D P 3 1 2 にはキャラクタ画像や映像データが記憶された画像 R O M 3 2 5 や、画像 R O M 3 2 5 から読み出されたキャラクタなどの画像データを展開したり加工したりするのに使用される超高速な V R A M (ビデオ R A M) 3 2 6 が接続されている。

【 0 1 4 6 】

特に限定されるわけではないが、主制御用マイコン 3 1 1 と V D P 3 1 2 との間は、パラレル方式でデータの送受信が行われるように構成されている。パラレル方式でデータを送受信することで、シリアルの場合よりも短時間にコマンドやデータを送信することができる。

20

【 0 1 4 7 】

V D P 3 1 2 から主制御用マイコン 3 1 1 へは、表示装置 4 1 の映像とガラス枠 1 5 や遊技盤 3 0 に設けられている装飾ランプの点灯を同期させるための垂直同期信号 V S Y N C、データの送信タイミングを与える同期信号 S T S が入力される。なお、V D P 3 1 2 から主制御用マイコン 3 1 1 へは、V R A M への描画の終了等処理状況を知らせるため割込み信号 I N T 0 ~ n 及び主制御用マイコン 3 1 1 からのコマンドやデータの受信待ちの状態にあることを知らせるためのウェイト信号 W A I T などを入力される。

30

【 0 1 4 8 】

演出制御装置 3 0 0 には、L V D S (小振幅信号伝送) 方式で表示装置 4 1 に送信する映像信号を生成する信号変換回路 3 1 3 が設けられている。V D P 3 1 2 から信号変換回路 3 1 3 へは、映像データ、水平同期信号 H S Y N C 及び垂直同期信号 V S Y N C が入力されるようになっており、V D P 3 1 2 で生成された映像は、信号変換回路 3 1 3 を介して表示装置 4 1 に表示される。

【 0 1 4 9 】

音源 L S I 3 1 4 には音声データが記憶された音声 R O M 3 2 7 が接続されている。主制御用マイコン 3 1 1 と音源 L S I 3 1 4 は、アドレス / データバス 3 4 0 を介して接続されている。また、音源 L S I 3 1 4 から主制御用マイコン 3 1 1 へは割込み信号 I N T が入力されるようになっている。演出制御装置に 3 0 0 には、ガラス枠 1 5 に設けられた上スピーカ 1 9 a 及び前面枠 1 2 に設けられた下スピーカ 1 9 b を駆動するオーディオパワーアンプなどからなるアンプ回路 3 3 7 が設けられており、音源 L S I 3 1 4 で生成された音声はアンプ回路 3 3 7 を介して上スピーカ 1 9 a 及び下スピーカ 1 9 b から出力される。

40

【 0 1 5 0 】

また、演出制御装置 3 0 0 には、遊技制御装置 1 0 0 から送信されるコマンドを受信するインタフェースチップ (コマンド I / F) 3 3 1 が設けられている。コマンド I / F 3 3 1 を介して、遊技制御装置 1 0 0 から演出制御装置 3 0 0 に送信された飾り特図保留数コマンド、飾り特図コマンド、変動コマンド、停止情報コマンド等を、演出制御指令信号

50

(演出コマンド)として受信する。遊技制御装置100の遊技用マイコン111はDC5Vで動作し、演出制御装置300の主制御用マイコン311はDC3.3Vで動作するため、コマンドI/F331には信号のレベル変換の機能が設けられている。

【0151】

また、演出制御装置300には、遊技盤30(センターケース40を含む)に設けられているLED(発光ダイオード)を有する盤装飾装置46を駆動制御する盤装飾LED制御回路332、ガラス枠15に設けられているLED(発光ダイオード)を有する枠装飾装置(例えば枠装飾装置18等)を駆動制御する枠装飾LED制御回路333、遊技盤30(センターケース40を含む)に設けられている盤演出装置44(例えば表示装置41における演出表示と協働して演出効果を高める可動役物等)を駆動制御する盤演出可動体制御回路334が設けられている。なお、盤装飾装置46には、前述のランプ表示装置80が含まれてよい。

10

【0152】

ランプやモータ及びソレノイドなどを駆動制御するこれらの制御回路332~334は、アドレス/データバス340を介して主制御用マイコン311と接続されている。なお、ガラス枠15に設けられているモータ等(トップユニットを動かすモータ等)の枠演出装置(例えばトップユニット)を駆動制御する枠演出可動体制御回路を備えていてもよい。

【0153】

さらに、演出制御装置300には、ガラス枠15に設けられた演出ボタン25に内蔵されている演出ボタンスイッチ25a、演出ボタン25の表面に設けられているタッチパネル25b、十字キースイッチ450、音量調整用ボタンスイッチ451a、451b、盤演出装置44内のモータの初期位置等を検出する演出役物スイッチ47(演出モータスイッチ)のオン/オフ状態を検出して主制御用マイコン311に検出信号を入力する機能を有し、演出制御装置300に設けられた音量調節スイッチ335の状態を検出して主制御用マイコン311に検出信号を入力するスイッチ入力回路336が設けられている。

20

【0154】

電源装置400の通常電源部410は、前述のような構成を有する演出制御装置300やそれによって制御される電子部品に対して所望のレベルの直流電圧を供給するため、モータやソレノイドを駆動するためのDC32V、液晶パネルからなる表示装置41、モータやLEDを駆動するためのDC12V、コマンドI/F331の電源電圧となるDC5Vの他に、モータやLED、スピーカを駆動するためのDC15Vの電圧を生成するように構成されている。

30

【0155】

さらに、主制御用マイコン311として、3.3Vあるいは1.2Vのような低電圧で動作するLSIを使用する場合には、DC5Vに基づいてDC3.3VやDC1.2Vを生成するためのDC-DCコンバータが演出制御装置300に設けられる。なお、DC-DCコンバータは通常電源部410に設けるようにしてもよい。

【0156】

電源装置400の制御信号生成部430により生成されたリセット信号は、主制御用マイコン311に供給され、当該デバイスをリセット状態にする。また、主制御用マイコン311から出力される形で、VDP312(VDPRESET信号)、音源LSI314、スピーカを駆動するアンプ回路337(SNDRESET信号)、ランプやモータなどを駆動制御する制御回路332~334(IORESET信号)に供給され、これらをリセット状態にする。また、演出制御装置300には遊技機10の各所を冷却する冷却FAN45が接続され、演出制御装置300の電源が投入された状態では冷却FAN45が駆動するようにされている。

40

【0157】

次に、これらの制御回路において行われる遊技制御について説明する。遊技制御装置100の遊技用マイコン111のCPU111aは、普図始動ゲート34に備えられたゲー

50

トスイッチ 3 4 a からの遊技球の検出信号の入力に基づき、普図の当り判定用乱数値を抽出して ROM 1 1 1 b に記憶されている判定値と比較し、普図変動表示ゲームの当り外れを判定する。

【0158】

そして、普図表示器 5 3 に、識別図柄を所定時間変動表示した後、停止表示する普図変動表示ゲームを表示する。普図変動表示ゲームの結果が当りの場合は、普図表示器 5 3 に特別の結果態様を表示するとともに、普電ソレノイド 3 7 c を動作させ、普通変動入賞装置 3 7 の可動部材 3 7 b を所定時間（例えば、3 秒間×2 回）前述のように開放する制御を行う。すなわち、遊技制御装置 1 0 0 が、変換部材（可動部材 3 7 b）の変換制御を行う変換制御実行手段をなす。なお、普図変動表示ゲームの結果がはずれの場合は、普図表示器 5 3 にはずれの結果態様を表示する制御を行う。

10

【0159】

また、始動入賞口 3 6 に備えられた始動口 1 スwitch 3 6 a からの遊技球の検出信号の入力に基づき始動入賞（始動記憶）を記憶し、始動記憶に基づき、特図 1 変動表示ゲームの大当り判定用乱数値を抽出して ROM 1 1 1 b に記憶されている判定値と比較し、特図 1 変動表示ゲームの当り外れを判定する。

【0160】

また、普通変動入賞装置 3 7 に備えられた始動口 2 スwitch 3 7 a からの遊技球の検出信号の入力に基づき始動記憶を記憶し、始動記憶に基づき、特図 2 変動表示ゲームの大当り判定用乱数値を抽出して ROM 1 1 1 b に記憶されている判定値と比較し、特図 2 変動表示ゲームの当り外れを判定する。

20

【0161】

そして、遊技制御装置 1 0 0 の CPU 1 1 1 a は、特図 1 変動表示ゲームや特図 2 変動表示ゲームの判定結果を含む制御信号（演出制御コマンド）を、演出制御装置 3 0 0 に出力する。そして、特図 1 表示器 5 1 や特図 2 表示器 5 2 に、識別図柄を所定時間変動表示した後、停止表示する特図変動表示ゲームを表示する。すなわち、遊技制御装置 1 0 0 が、遊技領域 3 2 を流下する遊技球の始動入賞領域（第 1 始動入賞口 3 6、普通変動入賞装置 3 7）への入賞に基づき変動表示ゲームの進行制御を行う遊技制御手段をなす。

【0162】

また、演出制御装置 3 0 0 は、遊技制御装置 1 0 0 からの制御信号に基づき、表示装置 4 1 で特図変動表示ゲームに対応した飾り特図変動表示ゲームを表示する。さらに、演出制御装置 3 0 0 は、遊技制御装置 1 0 0 からの制御信号に基づき、演出状態の設定や、スピーカ 1 9 a, 1 9 b からの音の出力、各種 LED の発光を制御する処理等を行う。すなわち、演出制御装置 3 0 0 が、遊技（変動表示ゲーム等）に関する演出を制御する演出制御手段をなす。

30

【0163】

そして、遊技制御装置 1 0 0 の CPU 1 1 1 a は、特図変動表示ゲームの結果が当りの場合は、特図 1 表示器 5 1 や特図 2 表示器 5 2 に特別結果態様を表示するとともに、特別遊技状態を発生させる。特別遊技状態を発生させる処理においては、CPU 1 1 1 a は、例えば、大入賞口ソレノイド 3 9 b により特別変動入賞装置 3 9 の開閉扉 3 9 c を開放させ、大入賞口内への遊技球の流入を可能とする制御を行う。

40

【0164】

そして、大入賞口に所定個数（例えば、1 0 個）の遊技球が入賞するか、大入賞口の開放から所定の開放可能時間（例えば、2 7 秒又は 0 . 0 5 秒）が経過するかのいずれかの条件が達成されるまで大入賞口を開放することを 1 ラウンド（R）とし、これを所定ラウンド回数（例えば、1 5 回、1 1 回又は 2 回）継続する（繰り返す）制御（サイクル遊技）を行う。すなわち、遊技制御装置 1 0 0 が、停止結果態様が特別結果態様となった場合に、大入賞口を開閉する制御を行う大入賞口開閉制御手段をなす。また、特図変動表示ゲームの結果がはずれの場合は、特図 1 表示器 5 1 や特図 2 表示器 5 2 にはずれの結果態様を表示する制御を行う。

50

【0165】

また、遊技制御装置100は、特図変動表示ゲームの結果態様に基づき、特別遊技状態の終了後に、遊技状態として高確率状態を発生可能である。高確率状態（確変状態）は、特図変動表示ゲームにて当り結果となる確率が、通常確率状態と比較して高い状態である。また、特図1変動表示ゲーム及び特図2変動表示ゲームのどちらの特図変動表示ゲームの結果態様に基づき高確率状態となっても、特図1変動表示ゲーム及び特図2変動表示ゲームの両方が高確率状態となる。

【0166】

また、遊技制御装置100は、特図変動表示ゲームの結果態様に基づき、特別遊技状態の終了後に、遊技状態として時短状態（特定遊技状態）を発生可能である。時短状態においては、普図変動表示ゲーム及び普通変動入賞装置37を時短動作状態とする制御を行ってよく、特別な遊技を行わない通常遊技状態よりも、単位時間当りの普通変動入賞装置37の開放時間が実質的に多くなるように制御するため、普電サポート状態となる。なお、潜伏確変状態を除く高確率状態（通常の確変状態）でも、重複して時短状態にして普電サポートを実行する。

10

【0167】

なお、時短状態においては、特図変動表示ゲームの実行時間（特図変動時間）も通常より短縮され得るようにし、特図変動表示ゲームの時間短縮変動も実行可能である。

【0168】

また、時短状態においては、普図変動表示ゲームの1回の当り結果に対して、普通変動入賞装置37の開放回数（普電開放回数）を第1開放回数（例えば2回）よりも多い回数（例えば、4回）の第2開放回数に設定することが可能である。また、時短状態においては、普図変動表示ゲームの当り結果となる確率（普図確率、普図当り確率）を通常動作状態である場合の通常確率（低確率）よりも高い高確率とすることが可能である。

20

【0169】

時短状態においては、普図変動時間、普図停止時間、普電開放回数、普電開放時間、普図確率のいずれか一つ又は複数を変化させることで普通変動入賞装置37を開状態に状態変換する時間を通常よりも延長するようにする。これにより、時短状態では、特別な遊技を行わない通常遊技状態よりも普通変動入賞装置37への入賞が容易化して、単位時間当たりの特図変動表示ゲームの実行回数が当該通常遊技状態よりも増加可能であり、特図変動表示ゲームの実行間隔も短縮可能である。また、変化させるものが異なる複数種類の時短状態を設定することも可能である。また、通常動作状態において可動部材37bを開放しないように設定（普図確率が0）してもよい。また、当りとなった場合に第1開放態様と第2開放態様のいずれかを選択するようにしてもよい。この場合、第1開放態様と第2開放態様の選択確率を異ならせてもよい。また、高確率状態と時短状態は、それぞれ独立して発生可能であり、両方を同時に発生することも可能であるし一方のみを発生させることも可能である。

30

【0170】

〔電源投入時の移行状態〕

前述のように、電源投入時のRAM初期化スイッチ112及び設定キースイッチ93のオンオフ状態によって、4つの状態（モード）へ移行する。

40

【0171】

電源投入時に、RAM初期化スイッチ112と設定キースイッチ93とがオンにされている場合には、確率設定値（設定値）を変更可能（設定可能）な設定可変状態（設定変更状態、設定可能状態、設定変更モード）に移行する（図5BのA1030－A1039と図14参照）。

【0172】

次に、電源投入時に、設定キースイッチ93がオンにされているがRAM初期化スイッチ112がオフの場合には、確率設定値を確認可能な設定確認状態（設定確認モード）に移行する（図5BのA1034－A1039と図14参照）。

50

【0173】

また、電源投入時に、設定キースイッチ93がオフであるがRAM初期化スイッチ112がオンにされている場合には、RAM初期化状態（RAMクリアモード）に移行し、RAM初期化処理（RAMクリア処理）が実行されて、RAM111cが初期化される（図5BのA1045－A1047参照）。

【0174】

電源投入時に、設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112とがオフである場合には、通常復電状態（通常復電モード）に移行し、単に復電されるだけの状態になる。

【0175】

〔遊技制御装置の制御〕

以下、このような遊技を行う遊技機の制御について説明する。まず、上記遊技制御装置100の遊技用マイクロコンピュータ（遊技用マイコン）111によって実行される制御について説明する。遊技用マイコン111による制御処理は、主に図5A、図5B、図5Cに示すメイン処理と、所定時間周期（例えば4msec）で行われる図9に示すタイム割込み処理とからなる。

【0176】

〔メイン処理（遊技制御装置）〕

まず、メイン処理について説明する。図5A、図5B、図5Cは、遊技制御装置100によるメイン処理の手順を示すフローチャートである。メイン処理は、電源が投入されることで開始される。なお、遊技制御装置100が実行する処理のフローチャートにおいて、ステップの符号（番号）は「A****」と表されている。

【0177】

図5Aに示すように、遊技制御装置100は、メイン処理を開始すると、まず、割込みを禁止する処理を実行する（A1001）。さらに、割込み発生時にレジスタ等の値を退避する領域の先頭アドレスであるスタックポインタを設定するスタックポインタ設定処理を実行する（A1002）。

【0178】

続いて、使用するレジスタバンクとしてレジスタバンク0を指定し（A1003）、所定のレジスタにRAM先頭アドレスの上位アドレスをセットする（A1004）。例えば、RAMのアドレスが0000h～01FFhの範囲である場合に、上位アドレスとして00hをセットする。

【0179】

次に、遊技制御装置100は、発射禁止の信号を出力して発射許可信号を禁止状態に設定する（A1005）。発射許可信号は遊技制御装置100と払出制御装置200の少なくとも一方が発射禁止の信号を出力している場合に禁止状態に設定され、球発射装置からの遊技球の発射が禁止されるようになっている。その後、遊技制御装置100は、設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112の状態を読み込む（A1006）。即ち、設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112からの信号を読み込む。

【0180】

さらに、遊技制御装置100は、電源ディレイタイマを設定する（A1007）。電源ディレイタイマに所定の初期値を設定することにより、主制御手段をなす遊技制御装置100からの指示に従い種々の制御を行う従制御手段（例えば、払出制御装置200や演出制御装置300）のプログラムが正常に起動するまで待機するための待機時間（例えば3秒）が設定される。これにより、電源投入の際に仮に遊技制御装置100が先に立ち上がって従制御装置（例えば払出制御装置200や演出制御装置300）が立ち上がる前にコマンドを従制御装置に送ってしまい、従制御装置がコマンドを取りこぼすことを回避することができる。すなわち、遊技制御装置100が、電源投入時において、主制御手段（遊技制御装置100）の起動を遅らせて従制御装置（払出制御装置200、演出制御装置300等）の起動を待つための所定の待機時間を設定する待機手段をなす。

【0181】

また、電源ディレイタイマの計時は、RAMの正当性判定（チェックサム算出）の対象とならない記憶領域（正当性判定対象外のRAM領域又はレジスタ等）を用いて行われる。これにより、RAM領域のチェックサム等のチェックデータを算出する際に、一部のRAM領域を除外して算出する必要がないため電源投入時の制御が複雑になることを防止することができる。

【0182】

なお、待機時間の開始前に設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112の状態を読み込むことで、設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112の操作を確実に検出できる。すなわち、待機時間の経過後に設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112の状態を読み込むようにすると、待機時間の経過を待ってから設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112を操作したり、電源投入から待機時間の経過まで設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112を操作し続けたりする必要がある。しかし、待機時間の開始前に状態を読み込むことで、このような煩わしい操作を行わなくても、電源投入時に行った設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112の操作が受け付けられないような事態を防止できる。

【0183】

電源ディレイタイマを設定すると（A1007）、遊技制御装置100は、待機時間の計時と、待機時間中における停電の発生を監視する処理とを実行する（A1008からA1010）。

【0184】

停電監視処理が開始されると、遊技制御装置100は、まず、電源装置400から入力されている停電監視信号をポート及びデータバスを介して読み込むなどして、停電が発生しているか否か判定する（A1008）。停電が発生している場合に（A1008の結果が「Y」）、遊技機の電源が遮断されるまで待機する。

【0185】

遊技制御装置100は、停電が発生していない場合には（A1008の結果が「N」）、電源投入ディレイタイマを-1更新し（A1009）、タイマの値が0であるか否かを判定する（A1010）。タイマの値が0でない場合（A1010の結果が「N」）、すなわち、待機時間が終了していない場合には、ステップA1008の処理に戻る。

【0186】

すなわち、遊技制御装置100が、所定の待機時間において停電の発生を監視する停電監視手段をなす。これにより、主制御手段をなす遊技制御装置100の起動を遅らせている期間において発生した停電に対応することが可能となり、電源投入時における不具合に適切に対処することができる。なお、待機時間の終了まではRAMへのアクセスが許可されておらず、前回の電源遮断時の記憶内容が保持されたままとなっているため、ここでの停電発生時にはバックアップの処理等は行う必要がない。したがって、待機時間中に停電が発生してもRAMのバックアップを取る必要がなく、制御の負担を軽減することができる。

【0187】

一方、遊技制御装置100は、タイマの値が0である場合（A1010の結果が「Y」）、すなわち、待機時間が終了した場合には、RAMやEEPROM等の読出し書込み可能なRWM（リードライトメモリ）のアクセスを許可し（A1011）、全出力ポートにオフデータを出力（出力が無い状態に設定）する（A1012）。

【0188】

次に、遊技制御装置100は、シリアルポート（遊技用マイコン111に予め搭載されているポートで、本実施形態では、演出制御装置300や払出制御装置200との通信に使用）を設定する（A1013）。

【0189】

次に、遊技制御装置100は、遊技用マイコン111（クロックジェネレータ）内のタイマ割込み信号及び乱数更新トリガ信号（CTC）を発生するCTC（Counter／Time

10

20

30

40

50

r C

ircuit) 回路を起動する (A 1 0 1 4)。なお、C T C 回路は、遊技用マイコン 1 1 1 内のクロックジェネレータに設けられている。クロックジェネレータは、発振回路 1 1 3 からの発振信号 (原クロック信号) を分周する分周回路と、分周された信号に基づいて C P U 1 1 1 a に対して所定周期 (例えば、4 ミリ秒) のタイマ割込み信号及び乱数生成回路に供給する乱数更新のトリガを与える信号 C T C を発生する C T C 回路とを備えている。

【0 1 9 0】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、R A M (ここでは R A M 1 1 1 c) の異常を示す R A M 異常フラグをセットする (A 1 0 1 5)。ここでは、一旦、異常前提のフラグを所定のレジスタにセットしておく。

【0 1 9 1】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、R W M 内の停電検査領域 1 の値が正常な停電検査領域チェックデータであるか否かを判定する (A 1 0 1 6)。そして、正常であれば (A 1 0 1 6 の結果が「Y」)、R W M 内の停電検査領域 2 の値が正常な停電検査領域チェックデータであるか否かを判定する (A 1 0 1 7)。

【0 1 9 2】

さらに、遊技制御装置 1 0 0 は、停電検査領域 2 の値が正常であれば (A 1 0 1 7 の結果が「Y」)、R W M 内の所定領域 (例えば領域内ワーク領域) のチェックサムを算出するチェックサム算出処理を実行し (A 1 0 1 8)、算出されたチェックサムと電源断時のチェックサムが一致するか否かを判定する (A 1 0 1 9)。チェックサムが一致する場合には (A 1 0 1 9 の結果が「Y」)、R A M は正常であり、R A M の異常を示す R A M 異常フラグをクリアする (A 1 0 2 0)。その後、ステップ A 1 0 2 1 の処理に移行する。

【0 1 9 3】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、停電検査領域のチェックデータが正常なデータでないと判定された場合 (A 1 0 1 6 の結果が「N」、又は、A 1 0 1 7 の結果が「N」)、チェックサムが一致しない場合には (A 1 0 1 9 の結果が「N」)、R A M 異常フラグをクリアすることなく、ステップ A 1 0 2 1 の処理に移行する。

【0 1 9 4】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、設定キースイッチ 9 3 及び R A M 初期化スイッチ 1 1 2 の両スイッチがオンであるか否かを判定する (A 1 0 2 1)。遊技制御装置 1 0 0 は、両スイッチがオンである場合に (A 1 0 2 1 の結果が「Y」)、設定可変状態 (設定変更モード) に移行し、ステップ A 1 0 3 0 - A 1 0 4 0 の確率設定変更中の処理を実行する。

【0 1 9 5】

遊技制御装置 1 0 0 は、設定キースイッチ 9 3 及び R A M 初期化スイッチ 1 1 2 の少なくとも一方がオフである場合に (A 1 0 2 1 の結果が「N」)、R A M (ここでは R A M 1 1 1 c) の異常を示す R A M 異常フラグがセットされているか否かを判定する (A 1 0 2 2)。R A M 異常フラグがセットされていない場合に (A 1 0 2 2 の結果が「N」)、確率設定変更中フラグがセットされているか否かを判定する (A 1 0 2 3)。確率設定変更中フラグがセットされていない場合に (A 1 0 2 3 の結果が「N」)、ステップ A 1 0 3 4 - A 1 0 4 0 の確率設定確認中 (設定確認状態中、設定確認モード中) の処理、ステップ A 1 0 4 4 - A 1 0 4 7 の R A M 初期化処理 (R A M クリア処理)、又は、ステップ A 1 0 4 4、A 1 0 4 8 - A 1 0 5 1 の通常の電源投入時 (電源復旧時) の処理を実行する。

【0 1 9 6】

遊技制御装置 1 0 0 は、確率設定変更中フラグがセットされている場合に (A 1 0 2 3 の結果が「Y」)、遊技制御装置 1 0 0 (主基板、メイン基板) に異常があったことを報知するメイン異常エラー報知のコマンドを演出制御装置 3 0 0 に送信する (A 1 0 2 4)。メイン異常エラー報知のコマンドを受信した演出制御装置 3 0 0 は、遊技制御装置 1 0 0 の異常があったことを報知する。

【0 1 9 7】

10

20

30

40

50

続いて、遊技制御装置 100 は、遊技停止時の 7 セグ表示データ（「E1」のエラー表示のデータ）を性能表示装置 152 で表示するために性能表示装置 152 のドライバ 150 a、150 b に出力する（A1025）。そして、外部装置（遊技場内部管理装置（ホールコンピュータ）や情報収集端末など）に異常を知らせるためのセキュリティ信号のオンデータを外部情報端子 71 に出力する（A1026）。なお、ここで、大当りに関する情報が RAM 111 c に残っている場合でも、大当り信号など外部情報端子 71 への他の信号はオフ状態に維持される。その後、ステップ A1025 と A1026 の処理を繰り返して待機し、再度、設定変更の操作（設定キースイッチ 93 及び RAM 初期化スイッチ 112 の両方のオン操作）をして電源が投入されるのを待つ。なお、ステップ A1025 と A1026 の処理を繰り返して待機している間、割込みは禁止されたままであり（A1001）、特図ゲーム処理や普図ゲーム処理を実行可能なタイマ割込み処理（図 9）が実行できないため、遊技（特図変動表示ゲーム、普図変動表示ゲーム、ラウンド遊技等）は実行できない。

10

【0198】

このように、設定変更の操作（設定キースイッチ 93 及び RAM 初期化スイッチ 112 の両方のオン操作）を実行していないのに、確率設定変更中フラグがセットされている場合に異常があったとして、A1024－A1026 の処理を実行する。例えば、確率設定変更中（設定変更が完了する前）に電源がオフして再起動した場合などに、設定変更の操作を実行していないのに、確率設定変更中フラグがセットされることがある。

【0199】

20

一方、遊技制御装置 100 は、RAM 異常フラグがセットされている場合も（A1022 の結果が「Y」）、遊技制御装置 100（メイン基板）に異常があったことを報知するメイン異常エラー報知のコマンドを演出制御装置 300 に送信し（A1024）、遊技停止時の 7 セグ表示データ（「E1」のエラー表示のデータ）を性能表示装置 152 のドライバ 150 a、150 b に出力し（A1025）、外部装置に RAM 異常を知らせるために、セキュリティ信号のオンデータを外部情報端子 71 に出力する（A1026）。なお、前述と同様に、大当りに関する情報が RAM 111 c に残っている場合でも、大当り信号など外部情報端子 71 への他の信号はオフ状態に維持される。

【0200】

その後、停電が発生しているか否かを判定し（A1027）、停電が発生していない場合に（A1027 の結果が「N」）、ステップ A1025 と A1026 の処理を繰り返して待機する。一方、停電が発生していると判定した際に（A1027 の結果が「Y」）、全出力ポートにオフデータを出力し（A1028）、RAM や EEPROM 等の読出し書き込み可能な RWM（リードライトメモリ）のアクセスを禁止する（A1029）。その後、遊技機の電源が遮断されるまで待機する。

30

【0201】

遊技制御装置 100 は、設定キースイッチ 93 及び RAM 初期化スイッチ 112 の両スイッチがオンである場合に（A1021 の結果が「Y」）、確率設定変更中（設定可変状態中）の処理を開始して、まず、RAM 異常フラグがセットされているか否かを判定する（A1030）。RAM 異常フラグがセットされている場合に（A1030 の結果が「Y」）、確率設定値が正しいものであるか不明であるため、RAM 111 c の確率設定値領域に記憶されている確率設定値をクリアし初期値（例えば最低設定値「1」）にしてから（A1031）、確率設定変更中であることを示す確率設定変更中フラグをセットする（A1032）。RAM 異常フラグがセットされていない場合に（A1030 の結果が「N」）、確率設定値をクリアせずに、確率設定変更中フラグをセットする（A1032）。次に、確率設定変更中のコマンドを演出制御装置 300（演出制御基板）に送信し（A1033）、ステップ A1037 の処理に移行する。なお、確率設定変更中のコマンドを受信した演出制御装置 300 は、確率設定変更中であることを表示装置 41 などにおいて報知する。

40

【0202】

50

遊技制御装置 100 は、設定キースイッチ 93 及び RAM 初期化スイッチ 112 の少なくとも一方がオフであり（A1021の結果が「N」）、RAM 異常フラグがセットされておらず（A1022の結果が「N」）、且つ、確率設定変更中フラグがセットされていない場合に（A1023の結果が「N」）、設定キースイッチ 93 がオンであるか否かを判定する（A1034）。設定キースイッチ 93 がオンである場合に（A1034の結果が「Y」）、RAM 初期化スイッチ 112 はオフということになり、確率設定確認中（設定確認状態中）の処理が開始して、確率設定確認中であることを示す確率設定確認中フラグをセットする（A1035）。そして、確率設定確認中のコマンドを演出制御装置 300（演出制御基板）に送信し（A1036）、ステップ A1037 の処理に移行する。なお、確率設定変更中のコマンドを受信した演出制御装置 300 は、確率設定確認中であることを表示装置 41 などにおいて報知する。

10

【0203】

ステップ A1033 又はステップ A1036 の後に、遊技制御装置 100 は、確率設定変更中と確率設定確認中の共通の処理として、ステップ A1037 から A1043 の処理を実行する。

【0204】

遊技制御装置 100 は、まず、確率設定変更中と確率設定確認中においてセキュリティ信号を出力するために、セキュリティ信号制御タイマ領域に 128ms（所定時間）をセーブする（A1037）。なお、セキュリティ信号制御タイマのカウントとセキュリティ信号の出力は、後述の確率設定変更／確認処理（図 14）において実行されるが、確率設定変更又は確率設定確認が早期に終了した場合には、残りのセキュリティ信号制御タイマのカウントとセキュリティ信号の出力は、外部情報編集処理（A1318）で実行される。確率設定変更中と確率設定確認中において、少なくとも 50ms は、セキュリティ信号は出力される。

20

【0205】

次に、遊技制御装置 100 は、割込みを許可する（A1038）。これにより、タイマ割込み処理（図 9）が実行可能となる。そして、設定キースイッチ 93 がオフであるか否かを判定する（A1039）。設定キースイッチ 93 がオンである場合に（A1039の結果が「N」）、停電が発生しているか否かを判定する（A1040）。停電が発生していない場合に（A1040の結果が「N」）、ステップ A1039 の処理に戻る。一方、停電が発生している場合に（A1040の結果が「Y」）、ステップ A1063 - A1069 の停電発生時の処理を実行する。

30

【0206】

このように、設定キースイッチ 93 がオンであり、停電が発生していない限り、確率設定値を変更可能な設定可変状態（設定変更状態、設定変更モード）、又は、確率設定値を確認可能な設定確認状態（設定確認モード）が継続される。

【0207】

一方、遊技制御装置 100 は、設定キースイッチ 93 がオフである場合に（A1039の結果が「Y」）、割込みを禁止し（A1041）、報知終了のコマンドを演出制御装置 300（演出制御基板）に送信する（A1042）。なお、報知終了のコマンドを受信した演出制御装置 300 は、確率設定確認中であることの報知又は確率設定変更中であることの報知を終了する。

40

【0208】

次に、遊技制御装置 100 は、確率設定変更中フラグがセットされているか否か、即ち、これまで確率設定変更中であつたか否かを判定する（A1043）。確率設定変更中フラグがセットされている場合に（A1043の結果が「Y」）、即ち、これまで確率設定変更中であつた場合に、ステップ A1045 - A1047 の RAM 初期化処理（後述）を実行する。一方、確率設定変更中フラグがセットされていない場合に（A1043の結果が「N」）、即ち、これまで確率設定確認中であつた場合に、ステップ A1048 以降の電源投入時（電源復旧時）の通常の処理を実行する。

50

【0209】

遊技制御装置100は、設定キースイッチ93がオフである場合に（A1034の結果が「N」）、RAM初期化スイッチ112がオンであるか否かを判定する（A1044）。RAM初期化スイッチ112がオンである場合に（A1044の結果が「Y」）、RAM111cにおいて、確率設定値を記憶するための確率設定値領域以外のRAM領域を0クリアする（A1045）。即ち、確率設定値領域で記憶されている確率設定値を除いて、RAM111cに記憶された遊技情報は0クリアされる。ここで、前述の確率設定変更中フラグもここでクリアされる。また、所定時間周期内（ここではタイマ割込みの1割込み内）において獲得した賞球の数（合計）である獲得遊技球数を格納する獲得遊技球数領域も0クリアされる。そして、安全装置（前述）が作動中であるか否かを示す安全装置作動中フラグを格納する安全装置作動中フラグ領域も0クリアされ（安全装置作動中フラグ＝0）、安全装置の作動が解除される。なお、ステップA1045において、設定変更を伴うRAMクリア（A1043の結果が「Y」の場合）と、設定変更を伴わないRAMクリア（A1044の結果が「Y」の場合）の何れの場合でも、安全装置作動中フラグ領域を0クリアすることによって安全装置の作動が解除されるが、安全装置の作動が解除されるのは片方の場合に限定してもよい。即ち、ステップA1045のRAMクリア時に、安全装置作動中フラグ領域を0クリアしない場合があってもよい。

10

【0210】

また、ここでは、確率設定値領域の他に、スタック領域や未使用領域をクリアしない構成や、性能情報やその表示（性能表示）に関連する性能表示用ワーク領域（領域外ワーク領域の一部）とスタック領域（領域外スタック領域）をクリアしなくてよい。なお、性能情報は、入賞により得られた賞球数に基づいて導出されるもので、例えば、出玉率、ベース値（通常遊技状態における出玉率）、役物比率、排出球数などである。

20

【0211】

次に、遊技制御装置100は、初期化すべき領域にRAM初期化時の初期値をセーブする（A1046）。そして、RAM初期化時のコマンドを演出制御装置300（演出制御基板）に送信し（A1047）、ステップA1052の処理に移行する。なお、ステップA1045で0クリアされない領域は、初期化すべき領域から除かれる。

【0212】

一方、遊技制御装置100は、RAM初期化スイッチ112がオフである場合に（A1044の結果が「N」）、設定キースイッチ93とRAM初期化スイッチ112が両方ともオフであるため、通常の電源投入時（停電からの電源復旧時）の処理を開始し、停電復旧処理として初期化すべき領域に停電復旧時（復電時）の初期値をセーブする（A1048）。ここでの初期化すべき領域は、領域内ワーク領域（図6）の停電検査領域1、停電検査領域2、チェックサム領域を含む。その他、通常の電源投入時にエラーは全て再監視になるため、初期化すべき領域は、領域内ワーク領域と領域外ワーク領域（図6）のいずれでもエラー又はエラー監視に関する領域（エラーに関する試験信号出力データの領域など）を含む。また、前述の確率設定確認中フラグもここでクリア（初期化）される。ステップA1048で初期化すべき領域は、必要に応じて追加してよい。なお、RAM初期化時とは異なり、通常の電源投入時には、領域内ワーク領域（図6）の安全装置作動中フラグ領域は、安全装置の作動が解除されないように、クリア（初期化）されず値が維持される。

30

40

【0213】

また、領域外ワーク領域の安全装置に関する安全装置関連ワーク領域（後述の安全装置カウンタ領域、安全装置作動情報領域、旧作動情報領域）は、ステップA1048では初期化されないが、後述の安全装置情報初期化处理（A1053）で初期化される。なお、安全装置カウンタ領域の安全装置カウンタ値（差玉数に関する情報）が初期化されることによって、差玉数に関して安全装置の作動（遊技停止状態の発生）までの余地（差玉数の許容範囲、差玉数の限度）を大きくできる。領域外ワーク領域の性能表示用ワーク領域もステップA1048では初期化されないが、後述のように性能表示編集処理（A1059

50

）で初期化されることがある。

【0214】

また、RAM初期化のない通常の電源投入時（停電からの電源復旧時）のステップA1048において、電源投入後又は大当り終了後に確変状態以外の状態で特図変動表示ゲームが実行された実行回数を示す天井カウンタ値が格納される天井カウンタ領域（後述）も、遊技者に不利益にならないようにクリア（初期化）されず値が維持されてよい。後述のように天井カウンタ値が天井回数になると時短状態になるが（図34B）、天井カウンタ値がクリア（初期化）されないことによって、時短状態の発生までの（天井回数までの）残りのゲーム回数は電源投入によって変わらず、遊技者は不利益を受けない。

【0215】

なお、この実行回数（即ち天井カウンタ値）又は天井までの残りのゲーム回数（天井回数－実行回数）が、変動回数表示によって表示装置41に表示される場合、演出制御装置300は、通常の電源投入時に、変動回数表示と天井カウンタ領域の天井カウンタ値の整合を取ってよいし、整合を取らずに変動回数表示を初期値0にして表示してよい。なお、整合を取らない場合には、変動回数表示は、天井カウンタ値を反映しない値を表示することになる。

【0216】

同様に、ステップA1048において、遊技場側（遊技店側）の不利益にならないように、時短状態における特図変動表示ゲーム（特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲーム）の残りの実行回数に対応する時間短縮変動回数1（後述）が格納される時間短縮変動回数1領域と、時短状態における特図2変動表示ゲームの残りの実行回数に対応する時間短縮変動回数2（後述）が格納される時間短縮変動回数2領域もクリア（初期化）されず値が維持されてよい。また、回数切りタイプ（ST）の確変状態が存在する機種では、遊技場側の不利益にならないように、確変状態における特図変動表示ゲーム（特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲーム）の残りの実行回数に対応する高確率変動回数が格納される高確率変動回数領域（STカウンタ）もクリア（初期化）されず値が維持されてよい。また、連続して発生する大当りの回数（後述の連チャンの回数でもよい）に制限（リミット）が設けられる機種では、遊技場側の不利益にならないように、連続して発生した大当りの回数が格納される大当り回数領域もクリア（初期化）されず値が維持されてよい。

【0217】

次に、後述の特図ゲーム処理等を合理的に実行するために用意されている処理番号に対応する停電復旧時のコマンドを演出制御装置300（演出制御基板）に送信し（A1049）、ステップA1050の処理に移行する。

【0218】

なお、ステップA1047の処理で送信されるRAM初期化時のコマンド及びステップA1049の処理で送信される停電復旧時のコマンドには、遊技機の種類を示す機種指定コマンド、特図1、2の保留数を示す飾り特図1保留数コマンド及び飾り特図2保留数コマンド、確率の状態（高確率状態又は低確率状態）や時短状態の有無を示す確率情報コマンド、所定の演出モードで特図変動表示ゲームが実行された回数を示す演出回数情報コマンド、電源投入されたこと示す停電復旧コマンドが含まれる。

【0219】

さらに、RAM初期化時のコマンド及び停電復旧時のコマンドには、遊技機10の確率設定値（設定値）の情報である設定値情報（設定情報）を示す設定値情報コマンド（確率設定値情報コマンド）が含まれる。遊技制御装置100は、電源の復旧（投入）時に、一度だけ設定値情報コマンドを演出制御装置300に送信するだけでよく、以降、演出制御装置300は自身が記憶した設定値情報を参照して演出制御を行える。

【0220】

なお、RAM初期化時のコマンドには、RAM初期化のコマンド（RAMクリアのコマンド）も含まれる。RAM初期化のコマンドを受信した演出制御装置300は、例えば、表示装置41に客待ちデモを表示し、盤装飾装置46等のLEDとスピーカの音でRAM

10

20

30

40

50

初期化（RAMクリア）の報知を30秒間行う。また、停電復旧時のコマンドには、表示装置41の画面の表示内容を指定する画面指定のコマンドが含まれる。なお、画面指定のコマンドは、特図1，2について共に普段処理中では（変動中でも当り中でもないとき）、客待ちデモコマンドであり、それ以外なら復旧画面コマンドでよい。また、停電復旧時のコマンドには、前述のように変動回数表示と天井カウンタ値の整合を取るために、天井カウンタ値を示すコマンドが含まれてよい。

【0221】

次に、安全装置が作動中であるか否か判定する（A1050）。例えば、安全装置作動中フラグとして、安全装置が作動中であることを示す「1」が、安全装置作動中フラグ領域にセーブされている場合に安全装置が作動中であると判定できる（安全装置作動中フラグ＝1）。そして、安全装置が作動中である場合に（A1050の結果が「Y」）、安全装置が作動中であることを示す安全装置作動中のコマンドを演出制御装置300（演出制御基板）に送信し（A1051）、ステップA1052の処理に移行する。安全装置が作動中でない場合に（A1050の結果が「N」）、そのままステップA1052の処理に移行する。

【0222】

そして、フラグレジスタの情報（値）を領域内スタック領域に退避（PUSH）し（A1052）、安全装置に関連する安全装置情報（後述の安全装置カウンタ値、安全装置作動情報、旧作動情報など）を初期化する安全装置情報初期化処理を実行する（A1053）。その後、フラグレジスタの情報を復帰（POP）する（A1054）。なお、RAM異常による遊技停止時（A1025－A1026）を除いて、電源投入すると無条件に安全装置情報（安全装置カウンタ値など）を初期化（クリア）するようにしたが、カウント継続スイッチを設けて、カウント継続スイッチを押しながら電源投入すると安全装置情報を初期化（クリア）しなくてよい。

【0223】

なお、後述のように、安全装置情報初期化処理に移行する際に、スタックポインタを遊技制御に関連する領域内スタック領域から安全装置情報や性能情報や性能表示（性能情報の表示）に関連する領域外スタック領域に切り替える。その際、遊技制御用のスタックポインタをRAM111cのスタックポインタ保存領域に保存する時にフラグレジスタのフラグ（特にゼロフラグ）が変化する可能性があるため、ステップA1052において事前にフラグレジスタの情報を退避しておく。フラグレジスタは、8ビットの各ビットが0又は1の値をとるフラグになっている。なお、フラグレジスタについては、特開2013-233299号公報や特開2018-94101号公報等に関示されたものが使用できる。

【0224】

次に、遊技制御装置100は、乱数生成回路を起動設定する（A1055）。具体的には、乱数生成回路内の所定のレジスタ（CTC更新許可レジスタ）に乱数生成回路を起動させるためのコード（指定値）の設定などがCPU111aによって行われる。また、乱数生成回路のハードウェアで生成されるハード乱数のビット転置パターンの設定も行われる。なお、本実施形態において、乱数生成回路は、ハードウェアのみで更新される乱数として、大当り乱数、特図図柄乱数、普図の当り乱数、及び、変動パターン乱数1～3を生成する。これら乱数は、動作クロックと同等以上の速度のクロックを基にして更新される所謂「高速カウンタ」でよい。

【0225】

ビット転置パターンとは、抽出した乱数のビット配置（上段のビット転置前の配置）を、予め定められた順で入れ替えて異なるビット配置（下段のビット転置後の配置）として格納する際の入れ替え方を定めるパターンである。

【0226】

本実施形態では、ビット転置パターンに従い乱数のビットを入れ替えることで、乱数の規則性を崩すことができるとともに、乱数の秘匿性を高めることができる。なお、ビット

10

20

30

40

50

転置パターンは、固定された単一のパターンであってもよいし、予め用意された複数のパターンから選択するようにしてもよい。また、ユーザーが任意に設定できるようにしてもよい。

【0227】

次に、遊技制御装置100は、割込みを禁止し（A1056）、遊技停止中であるか否かを判定する（A1057）。安全装置が作動した場合（安全装置作動中フラグ＝1の場合）や、遊技（特図変動表示ゲームや普図変動表示ゲームやラウンド遊技等）を停止する必要のある強エラー2（後述）が発生している場合に、遊技停止中であると判定できる。

【0228】

遊技制御装置100は、遊技停止中でない場合に（A1057の結果が「N」）、フラグレジスタの情報（値）を領域内スタック領域に退避（PUSH）して（A1058）、ベース値（出玉率）などの性能情報を計算する性能表示編集処理を実行する（A1059）。ここで、性能情報（役物比率や出玉率など）を計算してよい。また、性能情報やその表示（性能表示）に関連する性能表示用ワーク領域（領域外ワーク領域の一部）に異常がある場合に、これをクリアしてもよい。その後、フラグレジスタの情報を復帰（POP）して（A1060）、割込みを許可する（A1061）。エラーが全く発生していない場合の他に、強エラー2以外のエラーである弱エラー（後述）又は強エラー1（後述）が発生している場合も、遊技停止中でなく、性能表示編集処理等を含めてステップA1058－A1060の処理が実行される。なお、弱エラー又は強エラー1が発生している場合に、ステップA1058－A1060の処理を実行しない構成も可能である。

【0229】

なお、後述のように、性能表示編集処理に移行する際に、スタックポインタを遊技制御に関連する領域内スタック領域から安全装置情報や性能情報や性能表示（性能情報の表示）に関連する領域外スタック領域に切り替える。その際、遊技制御用のスタックポインタをRAM111cのスタックポインタ保存領域に保存する時にフラグレジスタのフラグ（特にゼロフラグ）が変化する可能性があるため、ステップA1058において事前にフラグレジスタの情報を退避しておく。

【0230】

一方、遊技制御装置100は、遊技停止中である場合に（A1057の結果が「Y」）、性能表示編集処理等を実行することなく、割込みを許可する（A1061）。即ち、安全装置が作動した場合や強エラー2が発生している場合に、性能表示編集処理（特に、性能表示編集処理中のベース値算出処理）が実行されないため、ベース値などの性能情報が新たに計算されず変化しない。なお、強エラー2が発生しても、遊技停止とせず、性能表示編集処理等を実行する構成も可能である。また、割込みの許可により、タイマ割込み処理（図9）が実行可能となる。

【0231】

本実施形態において、エラーは、弱エラー、強エラー1、強エラー2の3つに区分けされる。なお、エラー／不正系のコマンドを受信した演出制御装置300は、エラー／不正設定処理（B1316）で、弱エラー、強エラー1、強エラー2に対応した異なる強さのエラー報知を設定して実行できる。

【0232】

例えば、演出制御装置300は、スピーカからのエラーの報知音の音量、又は、エラー報知のために発光するLED（盤装飾装置46又は枠装飾装置18の演出用LED）の輝度（明るさ）を、弱エラー＜強エラー1≤強エラー2の順に大きくしてもよい。なお、強エラー1と強エラー2のスピーカの音量又はLEDの輝度を同じにしてもよい。また、演出制御装置300は、弱エラーの発生した場合に、報知音の音量をホール・遊技者設定モード処理（B0011）で調整した音量（最大の音量以下）にし、強エラー1と強エラー2の発生した場合に、報知音の音量を最大の音量にしてよい。

【0233】

弱エラーは、払出前の遊技球の不足に対応してシュート球切れスイッチ信号が発生する

10

20

30

40

50

ようなシュート球切れエラーと、下皿 2 3 が満杯になったことに対応してオーバーフロースイッチ信号が発生するようなオーバーフローエラーを含む。弱エラーでは、外部情報信号は外部情報端子 7 1 に出力されない（図 5 1 A 参照）。また、弱エラーに、スイッチ異常エラーや、払出異常を示すステータス信号が発生する払出異常エラーを含めてもよい。

【0234】

強エラー 1 は、枠開放に関する枠開放エラーであり、ガラス枠開放エラーと本体枠開放エラー（前面枠開放エラー）を含む。強エラー 1 では、外部情報信号として扉・枠開放信号（A 9 3 0 5）が外部情報端子 7 1 に出力される（図 5 1 A 参照）。

【0235】

強エラー 2 は、不正に関係する不正系エラーであり遊技停止とすることが好ましく、磁石不正、盤電波不正、枠電波不正、振動不正、異常排出エラー、V 通過エラー、大入賞口不正、普電不正を含む。強エラー 2 では、外部情報信号としてセキュリティ信号（A 9 3 2 2）が外部情報端子 7 1 に出力される（図 5 1 A 参照）。また、強エラー 2 に残存球エラーを含めてもよい。強エラー 2 が発生している場合に、遊技（特図変動表示ゲームと普図変動表示ゲームやラウンド遊技等）は停止され、遊技停止中であると判定できる（A 1 0 5 7）。また、強エラー 2 が発生している場合に、安全装置が作動した場合と同じく、遊技として特図変動表示ゲーム、普図変動表示ゲーム、及び、ラウンド遊技（大当たり中や小当たり中での遊技）等が実行できない遊技停止状態（遊技不可状態、遊技禁止状態）が発生可能である。

【0236】

遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 1 0 6 1 の後に、停電が発生しているか否かを判定する（A 1 0 6 2）。停電が発生していない場合に（A 1 0 6 2 の結果が「N」）、ステップ A 1 0 5 6 の処理に戻る。これにより、停電が発生するまで、ステップ A 1 0 5 6 - A 1 0 6 2 のループ処理が繰り返される。そして、停電が発生するまでは、遊技停止にならない限り、即ち、安全装置が作動したり強エラー 2 が発生しない限り、性能表示編集処理（A 1 0 5 9）においてベース値などの性能情報が繰り返し計算できる。

【0237】

なお、ループ処理の繰り返しの周期は、タイマ割込みの割込み周期（所定時間周期、例えば 4 m s e c）よりもかなり短いため、割込み周期の間に何度も性能表示編集処理が実行される。従って、遊技球の入賞や排出球数の変化（アウト口 3 0 b に対する遊技球の入球）等があると、すぐにベース値などの性能情報が変化可能である。

【0238】

停電が発生した場合に（A 1 0 6 2 の結果が「Y」）、遊技制御装置 1 0 0 は、停電発生時の処理を開始し、一旦割込みを禁止し（A 1 0 6 3）、全出力ポートにオフデータを出力する（A 1 0 6 4）。その後、停電検査領域 1 に停電検査領域チェックデータ 1 をセーブし（A 1 0 6 5）、停電検査領域 2 に停電検査領域チェックデータ 2 をセーブする（A 1 0 6 6）。さらに、RWM の電源遮断時のチェックサムを算出するチェックサム算出処理を実行し（A 1 0 6 7）、さらに、算出したチェックサムをチェックサム領域にセーブする（A 1 0 6 8）。最後に、RWM へのアクセスを禁止する処理を実行し（A 1 0 6 9）、遊技機の電源が遮断されるまで待機する。

【0239】

このように、停電検査領域にチェックデータをセーブするとともに、電源遮断時のチェックサムを算出することで、電源の遮断の前に RWM に記憶されていた情報が正しくバックアップされているか否かを電源再投入時に判断することができる。

【0240】

以上のように、メイン処理について説明したが、例えばステップ A 1 0 5 6 - A 1 0 6 2 の処理中に設定キースイッチと RAM 初期化スイッチがオンにされた場合に、ステップ A 1 0 2 1 と同様の判定処理を行って、ステップ A 1 0 3 2 と同様に確率設定変更中フラグをセットさせることで、遊技機 1 0 が起動している間に何度でも設定可変状態（設定変更モード）に切り替え可能にしてもよい。

【0241】

〔RAM領域の構成例〕

図6は、遊技用マイコン111のRAM111cの構成（アドレス空間におけるメモリマップ）を示す図である。図6のように、RAM111cの先頭アドレスから領域内ワーク領域、未使用領域、領域内スタック領域、未使用領域、領域外ワーク領域、未使用領域、領域外スタック領域がアドレス空間において順に配置される。領域内ワーク領域と領域内スタック領域（遊技制御用スタック領域、領域内用スタック領域）の間の未使用領域と、領域外ワーク領域と領域外スタック領域（領域外用スタック領域）の間の未使用領域はなくてもよい。

【0242】

RAMの領域内ワーク領域（遊技制御用ワーク領域、第1領域）は、領域内プログラムで読み書きされ、領域外プログラムで読まれる遊技制御用の作業領域である。領域内ワーク領域は、確率設定値領域、試験信号出力データ領域（エラーに関する試験信号出力データの領域を含む）、乱数領域、スイッチ制御領域、セグメント領域、停電検査領域1、停電検査領域2、チェックサム領域などの他に、安全装置が作動中であるか否か（作動したか否か）を示す安全装置作動中フラグ領域や、タイマ割込みの1割込み（例えば4 msec）内で賞球として獲得した獲得遊技球数を格納する獲得遊技球数領域などを含む。

【0243】

RAMの領域外ワーク領域（第2領域）は、領域外プログラムで読み書きされ、領域内プログラムで読まれる領域である。領域外ワーク領域は、差玉数に対応する安全装置カウンタ値（差玉数＋初期値）を格納する安全装置カウンタ領域、安全装置の状態に対応する安全装置作動情報を格納する安全装置作動情報領域、旧作動情報を格納する旧作動情報領域を含み、安全装置に関連する安全装置情報を記憶可能である。安全装置カウンタ領域（3バイトサイズ）は、基本的には領域内プログラムでは読まれないが、安全装置カウンタ値又は差玉数の情報を差玉コマンドで演出制御装置300に送信する場合には、領域内プログラムで読まれて参照されることもある。本実施形態において、安全装置カウンタ値は、差玉数に比例して、差玉数に所定の初期値（10万）を加えた値である（安全装置カウンタ値＝差玉数＋10万）。しかし、安全装置カウンタ値は、差玉数に対応付けられ差玉数を示唆するものであればこれに限られない。なお、領域外ワーク領域を領域内ワーク領域から分離することによって、プログラムの開発効率を向上できる他、これら領域の初期化も区別して行い易くなる。

【0244】

さらに、領域外ワーク領域は、性能情報や性能表示に関連する性能表示用ワーク領域を含み、性能情報や性能表示に関連する情報などを記憶可能である。その他、領域外ワーク領域は、試験信号に関連する情報や、エラー監視に関連する情報を記憶してよい。なお、領域外ワーク領域において、安全装置情報に関連する安全装置関連ワーク領域（安全装置カウンタ領域、安全装置作動情報領域、旧作動情報領域を含む）と、性能情報や性能表示に関連する性能表示用ワーク領域を、明確に区別して配置してもよいし、混在させてもよい。

【0245】

そして、領域外スタック領域は、性能情報や性能表示に関する処理を行う時と、安全装置に関する処理を行う時とで共用される。また、領域外スタック領域は、試験信号に関する処理、エラー監視に関する処理を行う時にも使用される。

【0246】

なお、領域内プログラム（領域内処理のプログラム）と領域外プログラム（領域外処理のプログラム）は、この順に、ROM111bのアドレス空間内で先頭アドレス側から配置され、領域内プログラムの領域と領域外プログラムの領域の間に未使用領域を挟んで配置されて区別される。ROMの領域内プログラムは、遊技制御用プログラムや遊技制御用データ等からなり、メイン処理（図5A～図5C）に対応するメインプログラムと、後述のタイマ割込み処理に対応する割込み処理プログラムを含む。遊技制御用プログラムの領

10

20

30

40

50

域と遊技制御用データの領域（データエリア）の間には、未使用領域を挟んでよい。メインプログラム又は割込み処理プログラムのサブルーチンは、基本的に領域内プログラムとなる（特に記載がない場合に領域内プログラムとなる）が、例外的に領域外プログラムとなることもある。ROMの領域外プログラムは、安全装置情報初期化処理に対応する安全装置情報初期化プログラム、性能表示編集処理に相当する性能表示編集処理プログラム、後述の領域外統合処理に対応する領域外統合処理プログラムを含む。

【0247】

〔安全装置情報初期化処理〕

次に、メイン処理における安全装置情報初期化処理（A1053）の詳細について説明する。図7は、安全装置情報初期化処理の手順を示すフローチャートである。安全装置情報初期化処理では、安全装置カウンタ領域、安全装置作動情報領域、旧作動情報領域を初期化又はクリアし、安全装置カウンタ値、安全装置作動情報、旧作動情報などの安全装置情報を初期値（初期情報）にする。なお、安全装置作動情報は、現在の状態を示す情報であり、旧作動情報は前回（主に1割込み前）の状態を示す。

10

【0248】

遊技制御装置100は、まず、スタックポインタを領域外ワーク領域のスタックポインタ保存領域にセーブし（A1101）、スタックポインタに領域外スタック領域（領域外用スタック領域）の値として、領域外スタック領域の先頭を示すアドレス値を設定する（A1102）。これにより、使用するスタックを示すスタックポインタを領域内スタック領域から領域外スタック領域に切り替える。

20

【0249】

次に、遊技制御装置100は、レジスタの情報（値）を領域外スタック領域に退避（PUSH）する（A1103）。退避するレジスタは、保護すべきレジスタ（安全装置情報初期化処理内で使用されるレジスタ）のみでよいし、全ての汎用レジスタを退避してもよい。全ての汎用レジスタを退避するには、レジスタバンク0とレジスタバンク1の両方に対して退避（PUSH）する。

【0250】

続いて、遊技制御装置100は、安全装置カウンタ領域に初期値（10万）をセーブし、安全装置カウンタ値が初期値となる（A1104）。大当たりが発生しない場合など差玉数が0から減少する場合に、安全装置カウンタ値（＝差玉数＋初期値）は初期値より小さくなることもあるため、初期値は0より大きく設定されているが10万以外の数値でもよい。なお、このように、停電復旧時（電源投入時）に、安全装置カウンタ値は遊技者に不利益にならないように初期化（クリア）されるが、特図変動表示ゲームが確変状態以外で実行された回数を示す天井カウンタ値は、RAM初期化スイッチ112がオンでない限り、停電復旧時に初期化（クリア）されなくてよい。安全装置カウンタ値（差玉数に関する情報）が初期化（クリア）されると、差玉数に関して安全装置の作動（遊技停止状態の発生）までの余地（差玉数の許容範囲、差玉数の限度）を大きくでき遊技者の利益となる。一方、前述のように停電復旧時（電源投入時）に天井カウンタ値がクリア（初期化）されないことによって、時短状態の発生までの（天井回数までの）残りのゲーム回数は電源投入によって変わらず、遊技者の利益となる。そして、安全装置作動情報領域に安全装置の未作動状態（通常状態）に対応する安全装置未作動情報（値0）を安全装置作動情報としてセーブする（A1105）。さらに、旧作動情報領域に安全装置未作動情報（値0）を旧作動情報としてセーブする（A1106）。

30

40

【0251】

次に、遊技制御装置100は、退避したレジスタを復帰し（A1107）、スタックポインタ保存領域からロードしてスタックポインタを設定し（A1108）、安全装置情報初期化処理を終了する。設定したスタックポインタは、領域内スタック領域のアドレスを示すことになる。

【0252】

上記の安全装置情報初期化処理において、レジスタを使用せずRAMに直接情報を書き

50

込む場合には、レジスタを退避／復帰しない。この場合に、レジスタのRAMへの退避も行わないのでスタックポインタ関連の処理（A1101，A1102，A1103，A1107，A1108）も不要となる。また、安全装置情報初期化処理前後のフラグレジスタの退避／復帰（A1052，A1054）も不要になる。

【0253】

なお、本実施形態において、安全装置カウンタ値が0～189999（安全装置カウンタ＝0～189999）の場合に、安全装置作動情報は、安全装置が未作動（通常）である未作動状態（作動予告状態や作動警告状態や作動状態でない通常状態）に対応する安全装置未作動情報（値0）となる。安全装置カウンタ値が190000～194999（安全装置カウンタ＝190000～194999）の場合に、安全装置作動情報は、安全装置の作動を予告する作動予告状態に対応する安全装置作動予告情報（値1）となる。

10

【0254】

また、安全装置カウンタ値がカウンタ基準値である195000（安全装置カウンタ＝195000）に到達しても遊技停止できる状態になっていない場合に、安全装置作動情報は、安全装置の作動を警告する作動警告状態に対応する安全装置作動警告情報（値2）となる。この場合は、差玉数（＝セーフ球数－排出球数）が差玉基準値95000に達しても、大当たり中又は小当たり中であるため、前述の条件（1）は成立したが条件（2）が不成立で安全装置の作動条件が成立していない場合に相当する。

【0255】

さらに、安全装置カウンタ値が195000（安全装置カウンタ＝195000）に到達して遊技停止中である場合に、安全装置作動情報は、安全装置が作動中である作動状態（作動中状態）に対応する安全装置作動中情報（値3）となる。この場合は、差玉数が差玉基準値95000に達して、且つ、大当たり中でも小当たり中でもないため前述の条件（1）（2）の両方が成立することによって、安全装置の作動条件が成立した場合に相当する。

20

【0256】

〔性能表示編集処理〕

次に、メイン処理における性能表示編集処理（A1059）の詳細について説明する。図8は、性能表示編集処理の手順を示すフローチャートである。

【0257】

遊技制御装置100は、まず、スタックポインタを領域外ワーク領域のスタックポインタ保存領域にセーブし（A1201）、スタックポインタに領域外スタック領域の値として、領域外スタック領域（領域外用スタック領域）の先頭を示すアドレス値を設定する（A1202）。これにより、使用するスタックを示すスタックポインタを領域内スタック領域から領域外スタック領域に切り替える。

30

【0258】

次に、遊技制御装置100は、レジスタバンク0とレジスタバンク1の両方に対してレジスタの情報（値）を領域外スタック領域に退避（PUSH）する（A1203）。ここで、汎用レジスタ全部を退避することが好適である。そして、領域外ワーク領域のうち性能表示用ワーク領域の正当性を判定する正当性判定を実行し、正当でなく異常である場合に、性能表示用ワーク領域の初期化（初期値設定も含む）を実行する（A1204）。

40

【0259】

正当性判定では、性能表示用ワーク領域に格納される値が設計上あり得ない値であったり設計値から外れる場合（所定範囲外の場合）に、正当でないと判定できる。例えば、性能表示用ワーク領域の初期化が済んだことを示す性能表示用RAM初期化済みフラグに特定の値（例えば5Ah）が格納されているか否かを判定し、ベース値算出等に用いる除算処理の進行を管理する番号が所定範囲内であるかを判定し、スイッチカウンタの値が監視されるスイッチの数以下の範囲内であるかを判定し、現在の表示期間を示す表示期間管理番号が期間数の範囲内（0～3）であるかを判定し、現在の集計区間を示す集計区間番号が区間数の範囲内（0～4）であるかを判定する。このように、正当性判定では、データ

50

テーブルに対してポインタとして使用する領域の値に対して所定範囲内にあるかの判定を行うのが好適である。これにより、範囲外の値を取得することによってプログラムが暴走するのを事前に防ぐことができる。また、性能表示編集処理毎に、正当性判定を行っているので効果的である。

【0260】

なお、性能表示編集処理が実行される度に正当性判定が実行されるため、性能表示用ワーク領域が正当でない場合に、すぐにその初期化が実行でき、異常な性能表示（異常なベース値等の表示）が極力防止できる。

【0261】

また、性能表示用ワーク領域の初期化（初期値設定も含む）は、スタックポインタ保存領域を保護するよう、スタックポインタ保存領域以外を初期化の対象とする。なお、本実施形態において領域外スタック領域は初期化しないが、初期化するようにしてもよい。領域外スタック領域を初期化する場合でも、領域外スタック領域に退避したレジスタの値は保護して初期化しない。性能表示用ワーク領域の初期化は、領域内ワーク領域（遊技制御用ワーク領域）と領域内スタック領域（遊技制御用スタック領域）の初期化とは区別されて実行されるため、領域内ワーク領域と領域内スタック領域には影響を与えない。

【0262】

続いて、遊技制御装置100は、ベース値（出玉率）の計算の元になるデータ（通常アウト球数や通常賞球数など）を集計する集計区間の切替えタイミングであるか否かを判定する（A1205）。電源投入からの総アウト球数（総排出球数、総アウト数）に対して集計区間が設けられ、総アウト球数が複数の所定個数に達するごとに（例えば60000増えるごとに）集計区間が切り替えられる。

【0263】

例えば、集計区間の切替えタイミングは、電源投入からの総アウト球数が所定個数としての300個、60300個、120300個、180300個・・・になるタイミングである。即ち、集計区間の幅は最初の第1集計区間を除いて基本的に60000であり、第1集計区間＝0～300個、第2集計区間＝300～60300個、第3集計区間＝60300～120300個、第4集計区間＝120300～180300個、第5集計区間＝180300～240300個・・・となる。第1～5集計区間を示す集計区間番号はそれぞれ0～4であり、第6集計区間以降に対して集計区間番号は4に維持される。なお、現在の集計区間番号は、性能表示用ワーク領域に記憶される。

【0264】

遊技制御装置100は、集計区間の切替えタイミングである場合に（A1205の結果が「Y」）、集計区間の切替え設定をする（A1206）。集計区間の切替え設定では、総アウト球数（総アウト数）をカウントする総アウトカウンタ、各集計区間内におけるアウト球数（排出球数）である通常アウト球数（通常アウト数）をカウントする通常アウトカウンタ、及び、各集計区間内における全賞球数（獲得球数）である通常賞球数をカウントする通常賞球数カウンタをクリアしたり、各集計区間の最終ベース値（又は最新ベース値）を隣の集計区間のベース値格納領域にシフト（移動）したりする。

【0265】

遊技制御装置100は、集計区間の切替えタイミングでない場合に（A1205の結果が「N」）、監視対象の入力ポートにスイッチの入力があるか否かを判定する（A1207）。本実施形態において、監視対象の入力ポートは、第3入力ポート124と第4入力ポート126である（図3参照）。

【0266】

ここでは、監視対象の入力ポートごとに性能表示用ワーク領域にコピーしたスイッチ立ち上がりエッジの情報（図55のステップA9603でコピーされる）をチェックする。監視対象の入力ポートごとに、コピーしたスイッチ立ち上がりエッジの情報を記憶する8ビットの領域がある。全ての監視対象の入力ポートに関してスイッチ立ち上がりエッジの情報が全て0である場合に入力がないと判定でき、それ以外の場合に入力があると判定で

10

20

30

40

50

きる。なお、スイッチ立ち上がりエッジの情報として、コピー時にマスクされない限り、入力処理（A 1 3 0 3）において新たな入力（検出）があったスイッチに対応するビットが1に設定され、新たな入力のないスイッチに対応するビットが0に設定されている。

【0 2 6 7】

遊技制御装置100は、監視対象の入力ポートにスイッチの入力がある場合に（A 1 2 0 7の結果が「Y」）、スイッチカウンタに対応するスイッチ（対象スイッチ）の入力をチェックして入力情報を取得する（A 1 2 0 8）。ここでの対象スイッチは、第1特別変動入賞装置38の下大入賞口スイッチ38a、第2特別変動入賞装置39の上大入賞口スイッチ39a、第1始動入賞口36の始動口1スイッチ36a、第2始動入賞口37（普通変動入賞装置）の始動口2スイッチ37a、一般入賞口35の入賞口スイッチ35a（左入賞口スイッチ、右入賞口スイッチ）、アウト球検出スイッチ74、など、遊技球の検出によってベース値（又は出玉率）を変化させ得るものである。

10

【0 2 6 8】

続いて、遊技制御装置100は、対象スイッチの有効期間であるか否かを判定する（A 1 2 0 9）。なお、大入賞口不正や普電不正が発生して、大入賞口や第2始動入賞口37への入賞が無効な場合、即ち大入賞口スイッチ38a、39aや始動口2スイッチ37aが有効でない場合がある。また、第1始動入賞口36やアウト球検出スイッチ74など常時有効なスイッチもある。

【0 2 6 9】

遊技制御装置100は、対象スイッチの有効期間である場合に（A 1 2 0 9の結果が「Y」）、スイッチカウンタに対応する対象スイッチに入力があるか否かを判定する（A 1 2 1 0）。対象スイッチの有効期間でない場合に（A 1 2 0 9の結果が「N」）又は対象スイッチに入力がない場合に（A 1 2 1 0の結果が「N」）、ステップA 1 2 1 8の処理に移行する。

20

【0 2 7 0】

遊技制御装置100は、対象スイッチに入力がある場合に（A 1 2 1 0の結果が「Y」）、対象スイッチに対応するビットの入力情報（1ビット）をクリアし（A 1 2 1 1）、通常ベース状態中であるか否かを判定する（A 1 2 1 2）。通常ベース状態（低ベース状態）は、ベース値を算出且つ更新できる期間であり、本実施形態において通常遊技状態である。

30

【0 2 7 1】

遊技制御装置100は、通常ベース状態中（通常遊技状態中）である場合に（A 1 2 1 2の結果が「Y」）、対象スイッチが賞球の付与されるスイッチであれば、対象スイッチに対応する賞球数を加算することによって、集計区間内における全賞球数である通常賞球数を更新する（A 1 2 1 3）。続いて、対象スイッチがアウト球検出スイッチ74である場合に1を加算することによって、集計区間内におけるアウト球数である通常アウト球数（通常アウト数、通常排出球数）を更新する（A 1 2 1 4）。次に、対象スイッチがアウト球検出スイッチ74である場合に1を加算することによって、総アウト球数（総アウト数、総排出球数）を更新する（A 1 2 1 5）。

【0 2 7 2】

なお、本実施形態において、アウト球検出スイッチ74は、遊技領域32から排出された全ての遊技球（即ち、入賞口又はアウト口30bを通過した全ての遊技球）を検出する。アウト口30bに入球した遊技球だけでなく、入賞口（第1始動入賞口36、第2始動入賞口37、大入賞口、又は、一般入賞口35）に入球した遊技球は、図示しない通路等を介してアウト球検出スイッチ74に導かれて検出される。

40

【0 2 7 3】

遊技制御装置100は、通常遊技状態である通常ベース状態中でない場合に（A 1 2 1 2の結果が「N」）、通常賞球数も通常アウト球数も更新することなく、総アウト球数だけを更新する（A 1 2 1 5）。従って、通常ベース状態でない高ベース状態（第2の遊技状態、時短状態、確変状態又は特別遊技状態）において、通常賞球数も通常アウト球数も

50

更新されず、通常賞球数と通常アウト球数から算出されるベース値（通常賞球数÷通常アウト球数）は、更新されず変化がない。なお、ステップ A 1 2 1 2 の通常ベース状態に関する判定処理をなくして、ベース値を全ての遊技状態における出玉率として更新可能（変化可能）とする構成も可能である。

【0 2 7 4】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、次の性能表示編集処理で対象スイッチを次のものに変更するために、スイッチカウンタを + 1 更新する（A 1 2 1 6）。なお、メイン処理におけるループ処理によって性能表示編集処理は、タイマ割込みの割込み周期（所定時間周期、例えば 4 m s e c）よりもかなり短い時間間隔で実行される（例えば、数 μ s e c）。このため、割込み周期の間に、性能表示編集処理は繰り返し実行され、スイッチカウンタ（例えば 0 から 7）は、監視対象の入力ポートごとに全スイッチのビット（例えばビット 0 からビット 7）を網羅する。また、スイッチカウンタは最終の値（例えば 7）の後に 0 に更新されて、次の監視対象の入力ポートに関してスイッチの入力がチェック開始される。例えば、最初に第 3 入力ポート 1 2 4 に関してスイッチの入力がチェックされた後に、次に第 4 入力ポート 1 2 6 に関してスイッチの入力がチェックされる。

10

【0 2 7 5】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、全ての監視対象の入力ポートにスイッチの入力がない場合に（A 1 2 0 7 の結果が「N」）、ベース値を算出するためのベース値算出処理（所定処理）を実行する（A 1 2 1 7）。なお、監視対象の入力ポートにスイッチの入力が最初からない場合がある。他方、一部又は全ての監視対象の入力ポートにスイッチの入力が最初にあったとしても、全ての監視対象の入力ポートに関してスイッチの入力がチェックされた後は、入力があった対象スイッチの入力情報はクリアされている（A 1 2 1 1）ので、全ての監視対象の入力ポートにスイッチの入力がない状態となる。

20

【0 2 7 6】

ベース値算出処理において、ベース値は、通常アウト球数に対する通常賞球数の比率であり、通常賞球数÷通常アウト球数で算出される。従って、始動入賞口（始動入賞口 3 6、普通変動入賞装置 3 7）、大入賞口、又は、一般入賞口 3 5 に入球があった場合に、第 1 段階として、賞球が付与される入賞口のスイッチ 3 5 a、3 6 a、3 7 a、3 8 a、3 9 a の入力（検出）によって通常賞球数が更新され変化してベース値が変化し、且つ、第 2 段階としてアウト球検出スイッチ 7 4 の入力（検出）によって通常アウト球数が更新され変化してベース値が変化することになる（影響を受けることになる）。遊技盤 3 0 に開口するアウト口 3 0 b に入球があった場合に、アウト球検出スイッチ 7 4 の入力（検出）によって通常アウト球数が更新され変化して、ベース値も変化することになる。一方で、普図始動ゲート 3 4 に入球があった場合には、通常賞球数も通常アウト球数もその入球自体によっては更新されず変化しないため、ベース値も変化せずに維持される。普図始動ゲート 3 4 に入球があっても、賞球が付与されないため通常賞球数は更新されない。

30

【0 2 7 7】

ベース値は、変化の有無にかかわらず、出力処理のステップ A 1 6 1 9 - A 1 6 2 5 の処理によって、性能表示装置 1 5 2 に性能表示として出力されることになる。ただし、安全装置が作動して遊技停止中である場合や、強エラー 2 が発生して遊技停止中である場合に、性能表示装置 1 5 2 は、オフデータが出力されて消灯する。

40

【0 2 7 8】

なお、特殊な例として、ベース値のリアルタイム値（b L .）を表示するリアルタイム値表示期間でのみ、ベース値の算出を実行してよく、この特殊な例では、リアルタイム値表示期間が到来するまで通常賞球数と通常アウト球数は更新されるが、ベース値は算出されず変化しない。

【0 2 7 9】

遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 1 2 1 6 又は A 1 2 1 7 の後、退避したレジスタを復帰し（A 1 2 1 8）、スタックポインタ保存領域からロードしてスタックポインタを設

50

定し（A 1 2 1 9）、性能表示編集処理を終了する。設定したスタックポインタは、領域内スタック領域のアドレスを示すことになる。

【0 2 8 0】

なお、図 8 において、ステップ A 1 2 1 7 の処理を、ステップ A 1 2 1 4 の直後に実施して、監視対象の入力ポートの全てのスイッチの入力チェックを待たずに、通常賞球数又は通常アウト球数が更新された直後にベース値算出処理を行うような構成も可能である。

【0 2 8 1】

〔タイマ割込み処理〕

次に、タイマ割込み処理について説明する。図 9 は、タイマ割込み処理（割込み処理プログラム）の手順を示すフローチャートである。タイマ割込み処理は、クロックジェネレータ内の C T C 回路で生成される周期的なタイマ割込み信号が C P U 1 1 1 a に入力されることで開始される。遊技用マイコン 1 1 1 においてタイマ割込みが発生すると、タイマ割込み処理が開始される。

【0 2 8 2】

タイマ割込み処理が開始されると、遊技制御装置 1 0 0 は、まず、使用するレジスタバンクとしてレジスタバンク 1 を指定し（A 1 3 0 1）、所定のレジスタに R A M 先頭アドレスの上位アドレスをセットする（A 1 3 0 2）。タイマ割込み処理の開始時にメイン処理で使用するレジスタバンク 0 からレジスタバンク 1 に切り替えることで、メイン処理で使っているレジスタを退避したのと同等になる。なお、タイマ割込み処理が開始されると、自動的に割込み禁止状態になる。

【0 2 8 3】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、各種センサやスイッチからの入力や、信号の取り込み、すなわち、各入力ポートの状態を読み込む入力処理を実行する（A 1 3 0 3）。次に、確率設定変更中フラグと確率設定確認中フラグに基づいて、確率設定変更中又は確率設定確認中であるか否かを判定する（A 1 3 0 4）。確率設定変更中又は確率設定確認中である場合に（A 1 3 0 4 の結果が「Y」）、確率設定値を変更又は確認するための確率設定変更／確認処理を実行する（A 1 3 0 5）。

【0 2 8 4】

遊技制御装置 1 0 0 は、確率設定変更中でも確率設定確認中でもない場合に（A 1 3 0 4 の結果が「N」）、各種処理でセットされた出力データに基づき、ソレノイド（例えば大入賞口ソレノイド 3 9 b）等のアクチュエータの駆動制御や L E D の駆動制御（発光制御）などを行うための出力処理を実行する（A 1 3 0 6）。なお、メイン処理におけるステップ A 1 0 0 5 の処理で発射禁止の信号を出力した場合は、この出力処理が行われることで発射許可の信号が出力でき、発射許可信号を許可状態に設定可能である。

【0 2 8 5】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、各種処理で送信バッファにセットされたコマンド（払出コマンドなど）を払出制御装置 2 0 0 に出力する払出コマンド送信処理を実行する（A 1 3 0 7）。その後、始動口 1 スwitch 3 6 a、始動口 2 スwitch 3 7 a、入賞口スswitch 3 5 a、大入賞口スswitch 3 9 a から正常な信号の入力があるか否かの監視や、エラーの監視（前面枠やガラス枠が開放されていないかなど）を行う入賞口スswitch／状態監視処理を実行する（A 1 3 0 8）。

【0 2 8 6】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、遊技停止中であるか否かを判定する（A 1 3 0 9）。安全装置が作動した場合（安全装置作動中フラグ＝1 の場合）や、遊技を停止する必要のある強エラー 2 が発生している場合に、遊技停止中であると判定できる。

【0 2 8 7】

遊技制御装置 1 0 0 は、遊技停止中でない場合に（A 1 3 0 9 の結果が「N」）、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）、普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）、セグメント L E D 編集処理（A 1 3 1 2）を実行する。その後、ステップ A 1 3 1 3 以降の処理を実行する。なお、エラーが全く発生していない場合の他に、弱エラーと強エラー 1 が発生している場合にも

10

20

30

40

50

、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）、普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）、セグメントLED編集処理（A 1 3 1 2）を実行する。

【0 2 8 8】

セグメントLED編集処理では、一括表示装置50を構成する複数のセグメントLEDの一部（記憶表示部やラウンド表示部等：LEDランプD3-D7、D11-D17）の駆動に関する設定等が実行される。なお、一括表示装置50の他の一部（変動表示部：LEDランプD1、D2、D8、D10、D18）の駆動に関する設定等は、図柄変動制御処理（A 2 6 2 1、A 2 6 2 3、A 7 6 1 5）で実行される。一括表示装置50の別の他の一部（確率状態表示部：LEDランプD9）の駆動に関する設定等は、停電復旧処理（A 1 0 4 8）などで実行される。

10

【0 2 8 9】

遊技制御装置100は、遊技停止中である場合に（A 1 3 0 9の結果が「Y」）、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）、普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）、セグメントLED編集処理（A 1 3 1 2）を実行することなく、ステップA 1 3 1 3以降の処理に移行する。このように安全装置が作動した場合や、強エラー2が発生して遊技停止中である場合に、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）と普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）が実行されないため、特図保留数（A 2 9 0 6、A 4 6 1 1）と普図保留数は変化しない。一方、弱エラーや強エラー1が発生した場合に、遊技停止中でなく、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）と普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）が実行されるため、特図保留数（A 2 9 0 6、A 4 6 1 1）と普図保留数は+1更新（保留発生時）や-1更新（保留消化時）によって変化可能である。

20

【0 2 9 0】

なお、弱エラーと強エラー1と強エラー2などのエラーの種類に応じて、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）、普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）、セグメントLED編集処理（A 1 3 1 2）のうちいずれか一部を実行してその他を実行しない構成も可能である。例えば、強エラー2が発生した場合に、セグメントLED編集処理だけは実行するなどしてよい。

【0 2 9 1】

さらに、遊技制御装置100は、安全装置の状態に対応する安全装置作動情報を演出コマンドとして演出制御装置300に送信したり、安全装置作動中フラグを設定できる安全装置関連処理を実行する（A 1 3 1 3）。そして、磁気センサスイッチ61からの検出信号をチェックして異常がないか否かを判定する磁石不正監視処理を実行する（A 1 3 1 4）。

30

さらに、遊技盤の電波センサ62からの検出信号をチェックして異常がないか否かを判定する電波不正監視処理（盤電波不正監視処理）を実行する（A 1 3 1 5）。

【0 2 9 2】

その後、遊技制御装置100は、振動センサ65からの入力に基づいて振動による不正を監視する振動不正監視処理を実行する（A 1 3 1 6）。次に、大入賞口からの異常排出を監視する異常排出監視処理を実行する（A 1 3 1 7）。異常排出監視処理では、特別変動入賞装置39における大入賞口スイッチ39a、特定領域スイッチ72（V入賞口スイッチ）、残存球排出口スイッチ73からの入力に基づいて、特別変動入賞装置39の異常排出を監視し、異常排出が発生した場合に異常排出発生中フラグが設定される。なお、特別変動入賞装置39の大入賞口スイッチ39aを通過した遊技球は、特定領域スイッチ72（V入賞口スイッチ）又は残存球排出口スイッチ73を通過して排出される。

40

【0 2 9 3】

次に、遊技制御装置100は、各種外部装置に出力する信号を出力バッファにセットする外部情報編集処理を実行する（A 1 3 1 8）。そして、ステップA 1 3 0 9等と同じく、遊技停止中であるか否かを判定する（A 1 3 1 9）。

【0 2 9 4】

遊技制御装置100は、遊技停止中でない場合に（A 1 3 1 9の結果が「N」）、フラグレジスタを領域内スタック領域に退避し（A 1 3 2 0）、安全装置カウンタ値の更新（差玉数の算出）や性能表示装置152の表示制御などを行う領域外統合処理を実行する（A 1 3 2 1）。その後、フラグレジスタを復帰して（A 1 3 2 2）、タイマ割込み処理を

50

終了する。安全装置が作動しておらず且つ強エラー 2 が発生していない場合に、遊技停止中でなく、領域外統合処理等を含めてステップ A 1 3 2 0 – A 1 3 2 2 の処理が実行される。

【0295】

なお、後述のように、領域外統合処理に移行する際に、スタックポインタを遊技制御に関連する領域内スタック領域から領域外スタック領域に切り替える。その際、遊技制御用のスタックポインタを R A M 1 1 1 c のスタックポインタ保存領域に保存する時にフラグレジスタのフラグ（特にゼロフラグ）が変化する可能性があるため、ステップ A 1 3 2 0 において事前にフラグレジスタを退避しておく。

【0296】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、遊技停止中である場合に（A 1 3 1 9 の結果が「Y」）、領域外統合処理等を実行することなく、タイマ割込み処理を終了する。即ち、安全装置が作動した場合（安全装置作動中フラグ＝1 の場合）や強エラー 2 が発生している場合に、領域外統合処理が実行されないため、安全装置カウンタ値は更新されないしベース値などの性能表示の表示内容は更新されない。これにより、遊技停止中の不要な制御を省略できる。

【0297】

なお、上記と異なり、強エラー 2 が発生しても、遊技停止とせず、特図ゲーム処理（A 1 3 1 0）、普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）、セグメント L E D 編集処理（A 1 3 1 2）を実行する構成も可能である。また、強エラー 2 が発生しても、領域外統合処理等を実行する構成も可能である。

【0298】

また、タイマ割込み処理のリターンの際、割込み禁止状態の復元やレジスタバンクの指定の復元は、自動的に行われる構成とするが、使用する C P U によっては、外部情報編集処理の後に、割込みを許可する処理やレジスタバンクの指定をレジスタバンク 0 に戻す処理を行ってもよい。

【0299】

〔出力処理〕

次に、タイマ割込み処理（図 9）における出力処理（A 1 3 0 6）の詳細について説明する。図 1 0 は、出力処理の手順を示すフローチャートである。

【0300】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、一括表示装置（L E D）5 0 のセグメントのデータを出力する出力ポート 1 3 5（セグメント出力ポート）（図 3 参照）にオフデータを出力して出力ポート 1 3 5 をリセットする（A 1 6 0 1）。続いて、全ソレノイド（大入賞口ソレノイド 3 8 b、3 9 b、レバーソレノイド 8 6 b、普電ソレノイド 3 7 c）に対するオフの出力データをセットする（A 1 6 0 2）。そして、ステップ A 1 3 0 9 等と同じく、遊技停止中であるか否かを判定する（A 1 6 0 3）。安全装置が作動した場合（安全装置作動中フラグ＝1 の場合）や、遊技を停止する必要がある強エラー 2 が発生している場合に、遊技停止中であると判定できる。

【0301】

遊技制御装置 1 0 0 は、遊技停止中でない場合に（A 1 6 0 3 の結果が「N」）、大入賞口ソレノイド 3 8 b、3 9 b、レバーソレノイド 8 6 b、普電ソレノイド 3 7 c のデータを出力するソレノイド出力ポート 1 3 4 に出力するデータを合成する（A 1 6 0 4）。そして、ソレノイド出力ポート 1 3 4 にデータを出力する（A 1 6 0 5）。遊技停止中である場合に（A 1 6 0 3 の結果が「Y」）、何もせず、ステップ A 1 6 0 5 の処理に移行して、ソレノイド出力ポート 1 3 4 にオフデータ（A 1 6 0 2）を出力する。これにより、遊技停止状態である場合に、全ソレノイドの動作が停止し、大入賞口、特定領域 8 6、普通変動入賞装置 3 7 等が閉鎖して閉状態となる。このように遊技停止状態において大入賞口が閉鎖されてラウンド遊技（大当たり中や小当たり中での遊技）が実行できない。

【0302】

そして、遊技制御装置 100 は、一括表示装置 (LED) 50 のデジット線を順次スキャンするためのデジットカウンタの値を 0～3 の範囲で +1 更新する (1 だけ加算するが 3 の次は 0 に更新される) (A1606)。さらに、デジットカウンタの値に対応する LED のデジット線へのデジット出力データを取得する (A1607)。そして、取得したデジット出力データと外部情報データを合成し (A1608)、合成したデータをデジット出力・外部情報出力ポート 136 に出力する (A1609)。

【0303】

次に、遊技制御装置 100 は、セグメント線へのセグメント出力データとしてオフデータをセットする (A1610)。そして、発射禁止の出力データをセットする (A1611)。さらに、ステップ A1603 等と同じく、遊技停止中であるか否かを判定する (A1612)。

10

【0304】

遊技制御装置 100 は、遊技停止中でない場合に (A1612 の結果が「N」)、デジットカウンタの値に対応する RAM111c 内のセグメント領域からセグメント線へのセグメント出力データをロードし (A1613)、発射許可の出力データをセットし (A1614)、ロードしたセグメント出力データをセグメント出力用の出力ポート 135 に出力する (A1615)。なお、このセグメント領域は、領域内ワーク領域 (遊技制御用ワーク領域) に含まれてよい。

【0305】

このように、遊技停止中でない場合に、デジットカウンタの値が 0～3 の範囲で +1 更新される度に、新たなデジット線が選択されて、このデジット線が接続する桁の 8 本のセグメント線にセグメント出力データが出力される。桁 0～桁 3 (デジット 0～3) が順次選択されて、一括表示装置 50 に対するダイナミック駆動方式 (ダイナミック点灯制御) が実現される。

20

【0306】

一方、遊技制御装置 100 は、遊技停止中である場合に (A1612 の結果が「Y」、ステップ A1613 と A1614 の処理をすることなく、オフデータ (A1610) をセグメント出力用の出力ポート 135 に出力する (A1615)。これにより、安全装置が作動した場合 (安全装置作動中フラグ = 1 の場合) や強エラー 2 が発生している場合の遊技停止状態において、一括表示装置 50 は消灯する。これにより、遊技停止状態において特図変動表示ゲームと普図変動表示ゲームが実行できない。そして、一括表示装置 50 を見た遊技者は、遊技停止中であることや、安全装置が作動したこと又は強エラー 2 (不正系エラー) が発生したことを認識できる。

30

【0307】

続いて、遊技制御装置 100 は、外部情報端子 71 に出力する外部情報データをロードして合成し (A1616)、さらに、合成した外部情報データと発射許可または発射禁止の出力データを合成し (A1617)、最終的に合成したデータを外部情報・発射許可信号出力ポート 137 に出力する (A1618)。なお、ここで、遊技停止中でない場合に発射許可の出力データになり (A1614)、遊技停止中である場合に発射禁止 (発射停止) の出力データになる (A1611)。これにより、安全装置が作動した場合や強エラー 2 が発生している場合の遊技停止状態において、球発射装置からの遊技球の発射が禁止されるようになっていて一方で、遊技停止状態でなければ、球発射装置からの遊技球の発射が許可されるようになっていて。なお、遊技停止状態でも、球発射装置からの遊技球の発射を許可して、発射禁止 (発射停止) しない構成も可能である。

40

【0308】

次に、遊技制御装置 100 は、性能表示装置 (LED) 152 のセグメントのデータを出力する出力ポート 141 (セグメント出力ポート 2) にオフデータを出力して出力ポート 141 をリセットする (A1619)。次に、性能表示装置 152 のデジット線を順次スキャンするためのデジットカウンタ 2 の値を 0～3 の範囲で +1 更新する (1 だけ加算するが 3 の次は 0 に更新される) (A1620)。さらに、デジットカウンタ 2 の値に対

50

応するLEDのデジット線へのデジット出力データを取得する（A1621）。そして、取得したデジット出力データを出力ポート142（デジット出力ポート2）に出力する（A1622）。

【0309】

次に、遊技制御装置100は、ステップA1603等と同じく、遊技停止中であるか否かを判定する（A1623）。遊技停止中でない場合に（A1623の結果が「N」）、デジットカウンタ2の値に対応するRAM111c内の性能表示装置セグメント領域からセグメント出力データをロードする（A1624）。性能表示装置セグメント領域は、性能情報やその表示（性能表示）に関連する性能表示用ワーク領域に含まれる。そして、ロードしたセグメント出力データを性能表示装置152用の出力ポート141（セグメント出力ポート2）に出力し（A1625）、その後、出力処理を終了する。

10

【0310】

一方、遊技制御装置100は、遊技停止中である場合に（A1623の結果が「Y」）、ステップA1624とA1625の処理を実行することなく、出力処理を終了する。従って、安全装置が作動して遊技停止中である場合（安全装置作動中フラグ＝1の場合）や強エラー2が発生して遊技停止中である場合に、性能表示装置セグメント領域のセグメント出力データを出力ポート141に出力できないため、ステップA1619のオフデータがそのまま性能表示装置152用の出力ポート141に出力される。そして、この場合に、デジットカウンタ2の値が0～3の範囲で一巡すると、性能表示装置152は、全LEDが強制的に消灯して非表示になり、性能表示装置152を見た遊技場の責任者や係員は、遊技停止中であることや安全装置が作動したこと又は強エラー2（不正系エラー）が発生したことを認識できる。

20

【0311】

また、強エラー2が発生しても、遊技停止とせず、ステップA1624とA1625の処理等を実行する構成も可能である。

【0312】

〔入賞口スイッチ／状態監視処理〕

次に、タイマ割込み処理（図9）における入賞口スイッチ／状態監視処理（A1308）の詳細について説明する。図11は、入賞口スイッチ／状態監視処理の手順を示すフローチャートである。

30

【0313】

遊技制御装置100は、まず、領域内ワーク領域に含まれる獲得遊技球数領域を0クリアする（A2001）。これにより、獲得遊技球数領域は、1割込み内（所定時間周期内）に獲得した賞球の数（合計）である獲得遊技球数を格納する領域となる。なお、獲得遊技球数は、1割込み内でのセーフ球数の増加に等しい。そして、上大入賞口（特別変動入賞装置39）内の上大入賞口スイッチ39aに対応する入賞口監視テーブル1を準備する（A2002）。そして、上大入賞口が開いていないにもかかわらず上大入賞口に不正な入賞がないかを監視するとともに正常な入賞を検出する不正&入賞監視処理を実行する（A2003）。

【0314】

その後、遊技制御装置100は、下大入賞口（特別変動入賞装置38）内の下大入賞口スイッチ38aに対応する入賞口監視テーブル2を準備する（A2004）。そして、下大入賞口が開いていないにもかかわらず下大入賞口に不正な入賞がないかを監視するとともに正常な入賞を検出する不正&入賞監視処理を実行する（A2005）。

40

【0315】

そして、遊技制御装置100は、普通変動入賞装置37内の始動口2スイッチ37aに対応する入賞口監視テーブルを準備する（A2006）。そして、不正入賞を監視するとともに正常な入賞を検出する不正&入賞監視処理を実行する（A2007）。続いて、常時入賞可能で不正監視が不要な入賞口スイッチの入賞口監視テーブルを準備する（A2008）。常時入賞可能な入賞口スイッチは、始動口1スイッチ36aや一般入賞口35等

50

である。

【0316】

次に、遊技制御装置100は、入賞数を更新する入賞数カウンタ更新処理を実行する（A2009）。そして、状態を監視すべき複数のスイッチ並びに信号のうちいずれのスイッチ又は信号を今回の監視の対象とするかを順番に指定するための状態スキャンカウンタを更新する（A2010）。状態スキャンカウンタは0から3の範囲で更新される。

【0317】

その後、遊技制御装置100は、状態スキャンカウンタの値に応じて、監視する状態を設定するための遊技機状態監視テーブル1を準備する（A2011）。そして、エラーが発生しているかなどの状態を判定する遊技機状態チェック処理を実行する（A2012）。

10

【0318】

状態スキャンカウンタの値を遊技機状態監視テーブル1に参照することで、状態スキャンカウンタの値が0である場合はスイッチのコネクタ抜けなどの発生により出力される異常検知信号に基づく状態（スイッチ異常エラー）の監視が設定され、状態スキャンカウンタの値が1である場合は払出制御装置200からのシュート玉切れスイッチ信号に基づく状態（シュート球切れエラー）の監視が設定される。状態スキャンカウンタの値が2である場合はオーバフロースイッチ信号に基づく状態（オーバフローエラー）の監視が設定され、状態スキャンカウンタの値が3である場合は払出異常ステータス信号に基づく状態（払出異常エラー）の監視が設定される。このように、遊技機状態監視テーブル1では、弱エラーが監視される。

20

【0319】

次に、遊技制御装置100は、状態スキャンカウンタの値に応じて、監視する状態を設定するための遊技機状態監視テーブル2を準備する（A2013）。そして、エラーが発生しているかなどの状態を判定する遊技機状態チェック処理を実行する（A2014）。

【0320】

状態スキャンカウンタの値を遊技機状態監視テーブル2に参照することで、状態スキャンカウンタの値が0である場合はガラス枠開放検出スイッチから出力される信号に基づく状態（ガラス枠開放エラー）の監視が設定され、状態スキャンカウンタの値が1である場合は前面枠開放検出スイッチから出力される信号に基づく状態（本体枠開放エラー、前面枠開放エラー）の監視が設定される。また、状態スキャンカウンタの値が2である場合は枠電波不正信号に基づく状態（枠電波不正）の監視が設定され、状態スキャンカウンタの値が3である場合はタッチスイッチ信号に基づく状態の監視が設定される。

30

【0321】

次に、遊技制御装置100は、状態スキャンカウンタの値が0であるか否かを判定する（A2015）。そして、エラースキャンカウンタの値が0でない場合には（A2015の結果が「N」）、ステップA2017の処理に移行する。

【0322】

また、遊技制御装置100は、エラースキャンカウンタの値が0である場合には（A2015の結果が「Y」）、払出制御装置200が払出制御を開始可能であることを示す払出ビジー信号に基づきビジー信号ステータス（払出ビジー信号フラグ）を設定する払出ビジー信号チェック処理を実行し（A2016）、ステップA2017の処理に移行する。

40

【0323】

なお、ステップA2016の処理は、タイマ割込み毎に更新される状態スキャンカウンタの値が0の場合のみ実行されるため、4回のタイマ割込みに1回の割合で実行されることとなる。すなわち、タイマ割込みが4ms毎に行われる場合は、16ms毎にA2016の処理が行われることとなる。

【0324】

次に、遊技制御装置100は、不適切なタイミングで特定領域スイッチ72を遊技球が通過したか否かを監視するV通過タイミング監視処理を実行する（A2017）。V通過

50

タイミング監視処理では、不適切なタイミングで特定領域スイッチ 72 の検出信号が発生した場合に V 通過エラーとする。

【0325】

続いて、遊技制御装置 100 は、特定領域スイッチ 72 に遊技球が残っていないかを監視する残存球監視処理を実行し（A2018）、入賞口スイッチ／状態監視処理を終了する。

【0326】

なお、入賞口スイッチ／状態監視処理における V 通過タイミング監視処理と残存球監視処理は、本実施形態のようないわゆる 1 種 2 種混合機（1 + 2 種機）に必要であり、通常の 1 種パチンコ機では不要となることもある。

【0327】

入賞口スイッチ／状態監視処理におけるステップ A2012、A2014 などにて実行される遊技機状態チェック処理では、状態スキャンカウンタに対応する状態監視テーブルを取得し、チェック対象の信号がオフの場合には、対象の状態オフコマンドを取得し、演出コマンドとして演出制御装置 300 に送信する。遊技機状態チェック処理では、チェック対象の信号がオンの場合には、対象の状態オンコマンドを取得し、演出コマンドとして演出制御装置 300 に送信する。

【0328】

状態オンコマンドがエラー系のコマンドであれば、演出制御装置 300 にエラー報知を開始させる。演出制御装置 300 にエラー報知を開始させる状態オンコマンドとして、シュート球切れエラーやオーバーフローエラーや払出異常エラーなどの遊技球の払い出しに関する払い出しエラー（弱エラーに含まれる）に対応するコマンドがあり、また、ガラス枠開放エラーや本体枠開放エラーなどの枠開放エラー（強エラー 1 に含まれる）に対応するコマンドや、枠電波不正のエラー（強エラー 2 に含まれる）に対応するコマンドがある。

【0329】

〔不正 & 入賞監視処理〕

図 12 は、不正 & 入賞監視処理の手順を示すフローチャートである。不正 & 入賞監視処理は、図 11 に示した入賞口スイッチ／状態監視処理におけるステップ A2003、A2005、A2007 にて実行される。

【0330】

不正 & 入賞監視処理は、特別変動入賞装置 38 内の下大入賞口スイッチ 38a、特別変動入賞装置 39 の上大入賞口スイッチ 39a、普通変動入賞装置 37 内の入賞口スイッチ（始動口 2 スwitch 37a）に対して行われる処理である。第 2 始動入賞口（普通変動入賞装置 37）や大入賞口（特別変動入賞装置 38、39）については、無理やり開閉部材を開いて遊技球を入れて賞球を払い出させる不正が行われ易いため、入賞の検出の他に不正の監視をする。

【0331】

遊技制御装置 100 は、まず、エラー監視対象の入賞口スイッチの不正監視期間フラグをチェックし（A2101）、不正監視期間中であるか否かを判定する（A2102）。例えば、不正監視期間とは、エラー監視対象の入賞口スイッチが本来遊技球を検出しない期間であり、例えば入賞口スイッチが下大入賞口スイッチ 38a である場合に特別変動入賞装置 38 を開放する特別遊技状態中以外の期間である。

【0332】

そして、遊技制御装置 100 は、不正監視期間である場合には（A2102 の結果が「Y」）、対象の入賞口スイッチに入力があるか否かを判定する（A2103）。対象の入賞口スイッチに入力がない場合には（A2103 の結果が「N」）、対象の報知タイマ更新情報をロードする（A2112）。また、対象の入賞口スイッチに入力がある場合には（A2103 の結果が「Y」）、対象の不正入賞数を +1 更新し（A2104）、加算後の不正入賞数が監視対象の不正発生判定個数（例えば 5 個）以上であるか否かを判定する

10

20

30

40

50

(A 2 1 0 5)。

【0 3 3 3】

判定個数を5個としている理由は、例えば、開状態にある大入賞口が閉状態に変換した際に遊技球が大入賞口の扉部材に挟まり、その遊技球がカウントスイッチの有効期間を過ぎて入賞した場合や信号にノイズがのった場合などを不正と判断しないようにするためであり、不正でないにもかかわらず容易にエラーと判定しないようにするためである。

【0 3 3 4】

そして、遊技制御装置100は、判定個数以上でない場合には(A 2 1 0 5の結果が「N」)、対象の入賞口スイッチの入賞口監視テーブルを準備する(A 2 1 1 0)。また、判定個数以上の場合には(A 2 1 0 5の結果が「Y」)、不正入賞数を不正発生判定個数に留め(A 2 1 0 6)、対象の不正入賞報知タイマ領域に初期値(例えば6 0 0 0 0 m s)をセーブする(A 2 1 0 7)。

【0 3 3 5】

次に、遊技制御装置100は、対象の不正発生コマンドを演出コマンドとして準備し(A 2 1 0 8)、さらに、不正フラグとして不正入賞発生フラグを準備する(A 2 1 0 9)。そして、準備した不正フラグを対象の不正フラグ領域の値と比較する(A 2 1 2 0)。

【0 3 3 6】

一方、遊技制御装置100は、不正監視期間でない場合には(A 2 1 0 2の結果が「N」)、対象の入賞口スイッチの入賞口監視テーブルを準備し(A 2 1 1 0)、賞球の設定を行う入賞数カウンタ更新処理を実行する(A 2 1 1 1)。入賞数カウンタ更新処理の詳細については、後述する。

【0 3 3 7】

そして、遊技制御装置100は、対象の報知タイマ更新情報をロードし(A 2 1 1 2)、報知タイマの更新許可の有無を判定する(A 2 1 1 3)。報知タイマの更新が許可されない場合には(A 2 1 1 3の結果が「N」)、不正&入賞監視処理を終了する。一方、報知タイマの更新が許可される場合には(A 2 1 1 3の結果が「Y」)、対象の報知タイマが0でなければ-1更新する(A 2 1 1 4)。なお、報知タイマの最小値は0に設定されている。

【0 3 3 8】

報知タイマの更新は、エラー監視対象の入賞口スイッチが普通変動入賞装置37内の入賞口スイッチ(始動口2スイッチ37a)である場合は許可される。また、一つの特別変動入賞装置(大入賞口)内に2つ入賞口スイッチがある場合に、報知タイマの更新は、エラー監視対象の入賞口スイッチが一方である場合は許可され、エラー監視対象の入賞口スイッチが他方の場合は許可されない。これにより、一つの特別変動入賞装置についての不正報知について、報知タイマの更新が倍の頻度で行われてしまい、規定時間(例えば6 0 0 0 0 m s)の半分でタイムアップしてしまうことを防止している。

【0 3 3 9】

その後、遊技制御装置100は、報知タイマの値が0であるか否かを判定し(A 2 1 1 5)、値が0でない場合(A 2 1 1 5の結果が「N」)、すなわち、タイムアップしていない場合には、不正&入賞監視処理を終了する。また、報知タイマの値が0である場合(A 2 1 1 5の結果が「Y」)、すなわち、タイムアップした又は既にタイムアップしていた場合は、対象の不正解除コマンドを演出コマンドとして準備し(A 2 1 1 6)、不正フラグとして不正入賞解除フラグを準備する(A 2 1 1 7)。そして、報知タイマの値が0になった瞬間であるか否かを判定する(A 2 1 1 8)。

【0 3 4 0】

遊技制御装置100は、報知タイマの値が0になった瞬間である場合(A 2 1 1 8の結果が「Y」)、すなわち、今回の不正&入賞監視処理で報知タイマの値が0になった場合には、対象の不正入賞数をクリアする(A 2 1 1 9)。

【0 3 4 1】

また、遊技制御装置100は、ステップA 2 1 1 9の処理が終了後、又は、報知タイマ

10

20

30

40

50

の値が0になった瞬間でない場合（A 2 1 1 8の結果が「N」）、すなわち、前回以前の不正&入賞監視処理で報知タイマの値が0になった場合には、準備した不正フラグを対象の不正フラグ領域の値と比較する（A 2 1 2 0）。

【0 3 4 2】

そして、遊技制御装置100は、準備した不正フラグと対象の不正フラグ領域の値が一致した場合には（A 2 1 2 0の結果が「Y」）、不正&入賞監視処理を終了する。また、準備した不正フラグと対象の不正フラグ領域の値が一致しない場合には（A 2 1 2 0の結果が「N」）、準備した不正フラグを対象の不正フラグ領域にセーブし（A 2 1 2 1）、演出コマンド設定処理を実行する（A 2 1 2 2）。その後、不正&入賞監視処理を終了する。

10

【0 3 4 3】

以上の処理により、不正の発生に伴い不正発生コマンドが演出制御装置300に送信され、不正の解除に伴い不正解除コマンドが演出制御装置300に送信されて、不正の報知の開始、終了が設定されることとなる。

【0 3 4 4】

〔入賞数カウンタ更新処理〕

図13は、入賞数カウンタ更新処理の手順を示すフローチャートである。入賞数カウンタ更新処理は、図11に示した入賞口スイッチ／状態監視処理のステップA 2 0 0 9や図12に示した不正&入賞監視処理のステップA 2 1 1 1にて実行される。

【0 3 4 5】

20

遊技制御装置100は、まず、遊技停止中であるか否かを判定する（A 2 2 0 1）。安全装置が作動した場合（安全装置作動中フラグ=1の場合）や、遊技を停止する必要がある強エラー2が発生している場合に、遊技停止中であると判定できる。

【0 3 4 6】

遊技制御装置100は、遊技停止中でない場合に（A 2 2 0 1の結果が「N」）、入賞口監視テーブルから監視する入賞口スイッチの個数を取得し（A 2 2 0 2）、対象の入賞口スイッチに入力があるか否かを判定する（A 2 2 0 3）。入賞口監視テーブルのうちの入賞テーブルには、監視する入賞口スイッチ毎に、賞球数、入賞数カウンタ領域1のアドレス、入賞数カウンタ領域2のアドレスなどが定義されている。入力がない場合には（A 2 2 0 3の結果が「N」）、テーブルアドレスを次レコードのアドレスに更新し（A 2 2 1 5）、全スイッチの監視が終了したか否かを判定する（A 2 2 1 6）。

30

【0 3 4 7】

一方、遊技制御装置100は、対象の入賞口スイッチに入力がある場合には（A 2 2 0 3の結果が「Y」）、獲得遊技球数領域から獲得遊技球数をロードし（A 2 2 0 4）、対象の入賞口スイッチに対応する賞球数を獲得遊技球数に加算し（A 2 2 0 5）、加算後の値を獲得遊技球数領域にセーブする（A 2 2 0 6）。これにより、獲得遊技球数領域に記憶される獲得遊技球数が入賞口スイッチごとに更新されていき、獲得遊技球数は、最終的に1割込み内に獲得した賞球の数（合計）になる。

【0 3 4 8】

なお、獲得遊技球数領域は、領域内ワーク領域にあり、入賞数カウンタ更新処理のプログラム（領域内プログラムの一部）で書き込まれ、後述の差玉確認処理のプログラム（領域外プログラムの一部）では読み出すだけとなる。なお、全ての入賞口スイッチに同時に入力したとしても賞球の合計値は255（1バイト）に満たないため、獲得遊技球数に対して上限のチェックは行わない。

40

【0 3 4 9】

次に、遊技制御装置100は、対象の入賞数カウンタ領域1の値をロードし（A 2 2 0 7）、ロードした値を+1更新する（A 2 2 0 8）。さらに、更新された値によってオーバーフローが発生するか否かを判定する（A 2 2 0 9）。入賞数カウンタ領域1は、2バイト（0～65535）のサイズである。

【0 3 5 0】

50

遊技制御装置 100 は、オーバーフローが発生していない場合には（A 2 2 0 9 の結果が「N」）、更新後の値を入賞数カウンタ領域 1 にセーブする（A 2 2 1 0）。ステップ A 2 2 1 0 の処理の終了後、又は、オーバーフローが発生した場合には（A 2 2 0 9 の結果が「Y」）、対象の入賞数カウンタ領域 2 の値をロードする（A 2 2 1 1）。

【0351】

その後、遊技制御装置 100 は、ロードした値を +1 更新し（A 2 2 1 2）、更新した値によってオーバーフローが発生するか否かを判定する（A 2 2 1 3）。オーバーフローが発生しない場合には（A 2 2 1 3 の結果が「N」）、更新後の値を入賞数カウンタ領域 2 にセーブする（A 2 2 1 4）。入賞数カウンタ領域 2 は、1 バイト（0 ～ 2 5 5）のサイズである。

10

【0352】

遊技制御装置 100 は、ステップ A 2 2 1 4 の処理の終了後、又は、オーバーフローが発生した場合には（A 2 2 1 3 の結果が「Y」）、テーブルアドレスを次レコードのアドレスに更新する（A 2 2 1 5）。そして、全スイッチの監視が終了したか否かを判定する（A 2 2 1 6）。

【0353】

遊技制御装置 100 は、全スイッチの監視が終了していない場合には（A 2 2 1 6 の結果が「N」）、対象の入賞口スイッチに入力があるか否かを判定するステップ A 2 2 0 3 の処理に戻る。また、全スイッチの監視が終了した場合には（A 2 2 1 6 の結果が「Y」）、入賞数カウンタ更新処理を終了する。これにより、全スイッチの監視が終了するまで、ステップ A 2 2 0 3 - A 2 2 1 6 の処理が繰り返されて、1 割込み内で獲得した賞球の数（合計）である獲得遊技球数が得られるとともに、1 割込み内での各入賞口（各入賞領域）への入賞に基づき入賞数カウンタ領域 1 及び 2 が更新されて入賞の情報が記憶されることとなる。

20

【0354】

遊技制御装置 100 は、遊技停止中である場合に（A 2 2 0 1 の結果が「Y」）、何れもせず、入賞数カウンタ更新処理を終了する。これにより、遊技停止状態において、入賞口スイッチでの遊技球の検出が無効になり、獲得遊技球数は更新されず、入賞数カウンタ領域 1 及び 2 が更新されないため入賞の情報が記憶されず賞球も得られない（払い出されない）。なお、遊技停止状態になる前に（即ち、入賞口スイッチでの遊技球の検出が有効であるときに）記憶された入賞の情報に基づく賞球の払い出しは、遊技停止状態でも継続する。

30

【0355】

なお、入賞数カウンタ領域 1 は、払出制御装置 200 に対して賞球の払い出しを指示するための払出コマンド（賞球指令）を送信するために用いる領域であって、払出コマンドを未だ送信していない賞球に対応する入賞のデータが記憶される。すなわち、入賞数カウンタ領域 1 が、賞球指令に関する情報を記憶可能な賞球指令カウンタをなす。

【0356】

入賞数カウンタ領域 2 は、入賞口への入賞により発生した賞球数（払出予定数）が所定数（ここでは 10 個）になる毎に外部装置に出力するメイン賞球信号を送信するために用いる領域であって、メイン賞球信号の生成処理を行っていない賞球に対応する入賞のデータが記憶される。すなわち、入賞数カウンタ領域 2 が、メイン賞球信号に関する情報を記憶可能なメイン賞球信号カウンタをなす。

40

【0357】

これらの入賞数カウンタ領域にはそれぞれ、各入賞口に対して設定された賞球数別（例えば、1 個賞球、6 個賞球、15 個賞球）に入賞数カウンタ領域が設けられており、入賞口への入賞に基づき対応する入賞数カウンタ領域のカウント数が 1 加算されるようになっている。つまり、入賞口への一の入賞を単位として当該入賞の情報を記憶可能とされている。なお、入賞数カウンタ領域 1（2 バイト）は入賞数カウンタ領域 2（1 バイト）よりも広い領域が割り当てられ、より多くの入賞のデータを記憶できるようにされている。こ

50

れは、メイン賞球信号が送信先の状態に関係なく送信可能であることに對し、払出コマンドが送信先である払出制御装置 200 の状態により送信を保留する場合もあり、より多くの未送信データが蓄積される可能性があるためである。

【0358】

〔確率設定変更／確認処理〕

次に、タイマ割込み処理における確率設定変更／確認処理（A1305）の詳細について説明する。図 14 は、確率設定変更／確認処理の手順を示すフローチャートである。確率設定変更／確認処理では、確率設定値が変更又は確認できる。

【0359】

遊技制御装置 100 は、まず、確率設定値が正常範囲内であるか否かを判定する（A2401）。ここでの確率設定値は、RAM 111c の領域内ワーク領域に含まれる確率設定値領域に記憶されている。

【0360】

遊技制御装置 100 は、確率設定値が正常範囲内である場合に（A2401 の結果が「Y」）、確率設定値に対応する確率設定値表示データを設定して（A2402）、性能表示装置 152 にドライバ 150a、150b を介して出力する（A2404）。確率設定値が正常範囲内でない場合に（A2401 の結果が「N」）、確率設定値表示データとして消灯データを設定して（A2403）、性能表示装置 152 にドライバ 150a、150b を介して出力する（A2404）。

【0361】

ここで、確率設定値表示データは、性能表示装置 152 で表示される表示用確率設定値のデータであり、確率設定値表示データ領域に記憶されている。なお、遊技場の責任者や係員などホール関係者等の混乱を防止するため、確率設定値が異なっても同じ大当り確率（及び小当り確率）であれば、表示用確率設定値を大当り確率（及び小当り確率）に対応付けて同じにしてよい。即ち、同じ表示用確率設定値は、同じ大当り確率（及び小当り確率）を意味してよい。

【0362】

次に、遊技制御装置 100 は、セキュリティ信号制御タイマが 0 でなければ -1 更新する（A2405）。セキュリティ信号制御タイマは、ステップ A1037 で設定された 128ms（所定時間）である。続いて、外部装置（遊技場内部管理装置（ホールコンピュータ）など）に異常を知らせるためのセキュリティ信号のオンデータを外部情報端子 71 に出力する（A2406）。なお、ここで、大当り信号など外部情報端子 71 への他の信号はオフ状態に維持される。

【0363】

その後、遊技制御装置 100 は、確率設定変更中フラグがセットされているか否かを判定する（A2407）。確率設定変更中フラグがセットされていない場合に（A2407 の結果が「N」）、即ち、確率設定確認中である場合に、何もせずに確率設定変更／確認処理を終了する。

【0364】

遊技制御装置 100 は、確率設定変更中フラグがセットされている場合に（A2407 の結果が「Y」）、即ち、確率設定変更中である場合に、電源投入後の最初のタイマ割込み処理であるか否かを判定する（A2408）。電源投入後の最初のタイマ割込み処理である場合に（A2408 の結果が「Y」）、確率設定変更／確認処理を終了する。これは、RAM 初期化スイッチ 112 を押しっぱなしだった場合に、意図せずに確率設定値の更新がされる事態を防止するためである。

【0365】

遊技制御装置 100 は、電源投入後の最初のタイマ割込み処理でない場合に（A2408 の結果が「N」）、RAM 初期化スイッチ 112 の入力があるか否かを判定する（A2409）。RAM 初期化スイッチの入力がない場合に（A2409 の結果が「N」）、確率設定変更／確認処理を終了する。

【0366】

遊技制御装置100は、RAM初期化スイッチ112の入力がある場合に（A2409の結果が「Y」）、作業用設定値領域（RAM111c内又はレジスタ）の作業用設定値を取り得る範囲内で+1更新するとともに、作業用設定値に対応して確率設定値領域の確率設定値を+1更新する（A2410）。これにより、RAM初期化スイッチ112が操作される度に、確率設定値領域の確率設定値が1ずつ更新される。その後、確率設定変更／確認処理を終了する。なお、設定変更モードに入ったときに作業用設定値を格納する作業用設定値領域（RAM111c内又はレジスタ）に、確率設定値領域から読み出した確率設定値に対応する値（確率設定値から1減算した値）が格納されてよい。なお、作業用設定値5（確率設定値6）のときに+1更新される場合は、作業用設定値0（確率設定値1）に戻ることができる。したがって、確率設定値1～6は、何度も繰り返し+1更新して切り替えることができる。また、作業用設定値の取り得る範囲は、複数の確率設定値が存在する多段階設定の場合は例えば0～1や0～5などであるが、一段階設定の場合は0のみである。多段階設定の場合に、RAM初期化スイッチ112が操作される度に作業用設定値と確率設定値が異なる値に更新されるが、一段階設定の場合は更新されても同じ値のままである（同じ値に更新される）。

10

【0367】

また、確率設定値が+1更新される毎や、設定可変状態等への遊技状態の切り替えがあった場合に、演出制御装置300に設定値を知らせるコマンド（設定値情報コマンド）を送信してもよい。また、同様に、確率設定値が+1更新される毎や、設定可変状態等への遊技状態の切り替えがあった場合に、試験信号を外部の試験試験装置に出力可能にしてもよい。なお、これらの送信や出力は、遊技制御装置100にメイン異常等の異常がある場合には中止することが好ましい。その他、確変状態、時短状態や大当たり状態などの遊技状態の切り替えがあった場合や特図変動表示ゲームの開始時に、演出制御装置300に設定値を知らせるコマンド（設定値情報コマンド）を送信してもよいし、試験信号を外部の試験試験装置に出力可能にしてもよい。

20

【0368】

なお、上記では、RAM初期化スイッチ112が操作される度に、作業用設定値の更新に対応して確率設定値領域の確率設定値を直接更新するようにしたが、RAM111cの作業用設定値領域に設定変更中の確率設定値（作業用設定値）を記憶するようにし、設定キースwitch93がオフになり設定変更作業が完了したときに（A1039の結果が「Y」）、作業用設定値領域の作業用設定値に対応する値をはじめて確率設定値領域に格納するようにしてもよい。このようにすれば、設定変更中に停電が発生した場合（A1040の結果が「Y」）に、遊技制御や演出制御等に使用される確率設定値（確率設定値領域に記憶される確率設定値）が意図しない値で変更される事態を防止できる。

30

【0369】

〔特図ゲーム処理〕

次に、前述のタイマ割込み処理における特図ゲーム処理（A1310）の詳細について説明する。図15は、特図ゲーム処理の手順を示すフローチャートである。特図ゲーム処理では、始動口1スイッチ36a及び始動口2スイッチ37aの入力の監視と、特図変動表示ゲームに関する処理全体の制御、特図の表示の設定を行う。

40

【0370】

遊技制御装置100は、まず、始動口1スイッチ36a及び始動口2スイッチ37aの入賞を監視する始動口スイッチ監視処理を実行する（A2601）。始動口スイッチ監視処理では、始動入賞口36、第2始動入賞口をなす普通変動入賞装置37に遊技球が入賞すると、各種乱数（大当たり乱数など）を抽出し、当該入賞に基づく特図変動表示ゲームの開始前の段階で入賞に基づく遊技結果を事前に判定する遊技結果事前判定を行う。なお、始動口スイッチ監視処理の詳細については後述する。

【0371】

次に、遊技制御装置100は、大入賞口スイッチ監視処理を実行する（A2602）。

50

大入賞口スイッチ監視処理では、大入賞口スイッチ 43（下大入賞口スイッチ 38a、上大入賞口スイッチ 39a）での遊技球の検出を監視する。

【0372】

続いて、特定領域 86（V入賞口）への遊技球の入賞（入球）を監視する特定領域スイッチ監視処理を実行する（A2603）。なお、特定領域スイッチ監視処理の詳細については後述する。

【0373】

次に、遊技制御装置 100 は、特図ゲーム処理タイマが 0 でなければ -1 更新する（1 だけ減算する）（A2604）。特図ゲーム処理タイマは、-1 更新によって、タイマ割込み処理の割込み周期（4 msec）の分だけ計時されることになる。なお、特図ゲーム処理タイマの最小値は 0 に設定されている。次に、特図ゲーム処理タイマが 0 であるか否かを判定する（A2605）。特図ゲーム処理タイマが 0 でない場合（A2605 の結果が「N」）、ステップ A2620 の処理に移行する。

【0374】

遊技制御装置 100 は、特図ゲーム処理タイマが 0 である場合（A2605 の結果が「Y」）、すなわち、タイムアップした又は既にタイムアップしていた場合には、特図ゲーム処理番号に対応する処理に分岐させるために参照する特図ゲームシーケンス分岐テーブルをレジスタに設定する（A2606）。さらに、特図ゲームシーケンス分岐テーブルを用いて特図ゲーム処理番号に対応する処理の分岐先アドレスを取得する（A2607）。続いて、特図ゲーム処理番号によるサブルーチンコールを行って、特図ゲーム処理番号に応じたゲーム分岐処理を実行する（A2608）。

【0375】

遊技制御装置 100 は、ステップ A2608 にてゲーム処理番号が「0」の場合には、特図変動表示ゲームの変動開始を監視し、特図変動表示ゲームの変動開始の設定、演出の設定や、特図変動中処理を行うために必要な情報の設定等を行う特図普段処理を実行する（A2609）。なお、特図普段処理の詳細については後述する。

【0376】

遊技制御装置 100 は、ステップ A2608 にてゲーム処理番号が「1」の場合には、特図の停止表示時間の設定や、特図表示中処理を行うために必要な情報の設定等を行う特図変動中処理を実行する（A2610）。例えば、特図変動中処理では、特別図柄の停止を示す図柄停止コマンドや停止図柄パターンに対応する停止表示時間など必要な情報を設定して、特図表示中処理に係る処理番号「2」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

【0377】

遊技制御装置 100 は、ステップ A2608 にてゲーム処理番号が「2」の場合には、大当たり状態又は小当たり状態に移行するために必要な情報の設定等を行う特図表示中処理を実行する（A2611）。例えば、特図表示中処理では、特図変動表示ゲームの結果が大当たりであれば、大当たりファンファーレコマンドや大当たりファンファーレ時間など必要な情報を設定して、処理番号「7」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。特図変動表示ゲームの結果が小当たりであれば、小当たりファンファーレコマンドや小当たりファンファーレ時間など必要な情報を設定して、小当たりファンファーレ中処理に係る処理番号「3」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。特図変動表示ゲームの結果がはずれであれば、特図普段処理に係る処理番号「0」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

【0378】

遊技制御装置 100 は、ステップ A2608 にてゲーム処理番号が「3」の場合には、小当たりファンファーレ中処理を実行する（A2612）。例えば、小当たりファンファーレ中処理では、小当たり開放中処理に係る処理番号「4」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブし、小当たりによる大入賞口の開放時間（小当たり開放時間）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし、上大入賞口ソレノイド出力データ領域にオンデータをセーブしたりする

。

【0379】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「4」の場合には、小当り開放中処理を実行する（A2613）。例えば、小当り開放中処理では、小当り残存球処理時間（例えば0.9秒）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし、小当り残存球処理に係る処理番号「5」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブしたりする。

【0380】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「5」の場合には、小当り残存球処理を実行する（A2614）。例えば、小当り残存球処理では、小当り終了処理に係る処理番号「6」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブし、小当りエンディング時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブしたりする。

10

【0381】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「6」の場合には、小当り終了処理を実行する（A2615）。例えば、小当り終了処理では、遊技球が特定領域86（いわゆるV入賞口）を通過した場合に、大当りファンファーレコマンドや大当りファンファーレ時間など必要な情報を設定して、ファンファーレ／インターバル中処理に係る処理番号「7」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブし、遊技球が特定領域86を通過していない場合に、特図普段処理に係る処理番号「0」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブしたりする。

【0382】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「7」の場合には、大入賞口の開放時間の設定や開放回数（ラウンド数）の更新、大入賞口開放中処理を行うために必要な情報の設定等を行うファンファーレ／インターバル中処理を実行する（A2616）。例えば、ファンファーレ／インターバル中処理では、実行するラウンド遊技のラウンドに対応するラウンドコマンドや大入賞口の開放時間など必要な情報を設定して、大入賞口開放中処理に係る処理番号「8」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

20

【0383】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「8」の場合には、大当りラウンドが最終ラウンドでなければインターバルコマンドを設定する一方で最終ラウンドであればエンディングコマンドを設定する処理や、大入賞口残存球処理を行うために必要な情報の設定等を行う大入賞口開放中処理を実行する（A2617）。例えば、大入賞口開放中処理では、インターバルコマンドやエンディングコマンドなど必要な情報を設定して、大入賞口残存球処理に係る処理番号「9」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

30

【0384】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「9」の場合には、大当りラウンドが最終ラウンドであれば大入賞口内にある残存球が排出されるための時間を設定する処理や、大当り終了処理を行うために必要な情報の設定等を行う大入賞口残存球処理を実行する（A2618）。例えば、大入賞口残存球処理では、最終ラウンドでなければインターバル時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし、ファンファーレ／インターバル中処理に係る処理番号「7」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。最終ラウンドであればエンディング時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし、大当り終了処理に係る処理番号「10」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

40

【0385】

遊技制御装置100は、ステップA2608にてゲーム処理番号が「10」の場合には、特図普段処理を実行するために必要な情報の設定等を行う大当り終了処理を実行する（A2619）。例えば、大当り終了処理では、大当り状態終了後の普電サポート状態（時短状態）など必要な情報の設定を行い、特図普段処理に係る処理番号「0」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

50

【0386】

特図ゲーム処理番号に基づく処理が終了すると、遊技制御装置100は、特図1表示器51の変動を制御するための特図1変動制御テーブルを準備した後(A2620)、特図1表示器51に係る図柄変動制御処理を実行する(A2621)。そして、特図2表示器52の変動を制御するための特図2変動制御テーブルを準備した後(A2622)、特図2表示器52に係る図柄変動制御処理を実行する(A2623)。次に、小当たり中にレバーソレノイド86bを開放するようにレバーソレノイド86bの開放動作を制御するレバーソレノイド制御処理(A2624)を実行して、特図ゲーム処理を終了する。

【0387】

〔始動口スイッチ監視処理〕

次に、特図ゲーム処理における始動口スイッチ監視処理(A2601)の詳細について説明する。図16は、始動口スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。

【0388】

遊技制御装置100は、まず、始動入賞口36(始動口1)に対する入賞監視テーブルを準備し(A2701)、ハード乱数取得処理を実行し(A2702)、始動入賞口36への入賞があるか否かを判定する(A2703)。始動入賞口36への入賞がない場合(A2703の結果が「N」)には、ステップA2709以降の処理を実行する。一方、始動入賞口36への入賞がある場合(A2703の結果が「Y」)、右打ちする遊技状態であるか否かを判定する(A2704)。

【0389】

遊技制御装置100は、右打ちする遊技状態でないと判定した場合(A2704の結果が「N」)、ステップA2707以降の処理を実行する。一方、右打ちする遊技状態である場合(A2704の結果が「Y」)、右打ち指示報知コマンドを演出コマンドとして準備して(A2705)、演出コマンド設定処理を実行する(A2706)。演出コマンド設定処理では、シリアル送信バッファに演出コマンドを書き込み、演出コマンドが演出制御装置300に送信されることになる。

【0390】

即ち、普電サポート状態(時短状態)であれば、変動表示ゲームの確率状態(高確率状態/低確率状態)にかかわらず、右打ち指示報知コマンドを準備して、演出コマンド設定処理を実行する。本実施形態の場合、始動入賞口36へは左打ちの方が入賞し易く、普通変動入賞装置37へは右打ちでないと入賞しない。また、右打ちでないと、遊技球が普図始動ゲート34を通過しない。したがって、普電サポート状態(時短状態)は、左打ちよりも右打ちの方が有利となるが、普電サポート状態中に始動入賞口36に入賞があった場合(すなわち、普電サポート状態中に左打ちされた場合)には、右打ち指示報知コマンドを演出制御装置300に送信し、演出制御装置300は、右打ちするよう指示する報知(警告)を右打ち指示表示によって表示装置41等で実行する。

【0391】

次に、遊技制御装置100は、始動入賞口36(始動口1)による保留の情報を設定するテーブルを準備した後(A2707)、特図始動口スイッチ共通処理を実行する(A2708)。そして、第2始動入賞口(普通変動入賞装置37)に対する入賞監視テーブルを準備し(A2709)、ハード乱数取得処理を実行し(A2710)、第2始動入賞口への入賞があるか否かを判定する(A2711)。第2始動入賞口への入賞がない場合(A2711の結果が「N」)には、始動口スイッチ監視処理を終了する。

【0392】

一方、遊技制御装置100は、第2始動入賞口への入賞がある場合(A2711の結果が「Y」)には、普通電動役物(普通変動入賞装置37)が作動中であるか否か、すなわち、普通変動入賞装置37が作動して遊技球の入賞が可能な開状態となっているか否かを判定する(A2712)。普通電動役物が作動中である場合(A2712の結果が「Y」)、ステップA2714の処理に移行する。

【0393】

一方、遊技制御装置 100 は、普通電動役物が作動中でない場合（A 2 7 1 2 の結果が「N」）、普電不正発生中であるかを判定する（A 2 7 1 3）。普通変動入賞装置 3 7 への不正入賞数が不正発生判定個数（例えば 5 個）以上である場合に普電不正発生中であると判定する。普通変動入賞装置 3 7 は、閉状態では遊技球が入賞不可能であり、開状態でのみ遊技球が入賞可能である。従って、閉状態で遊技球が入賞した場合は何らかの異常や不正が発生した場合であり、このような閉状態で入賞した遊技球があった場合はその数を不正入賞数として計数する。そして、このように計数された不正入賞数が所定の不正発生判定個数（上限値）以上である場合に不正発生中と判定する。

【0394】

遊技制御装置 100 は、普電不正発生中でない場合（A 2 7 1 3 の結果が「N」）、第 2 始動入賞口（普通変動入賞装置 3 7）による保留の情報を設定するテーブルを準備した後（A 2 7 1 4）、特図始動口スイッチ共通処理を実行し（A 2 7 1 5）、始動口スイッチ監視処理を終了する。また、A 2 7 1 3 にて、普電不正発生中である（A 2 7 1 3 の結果が「Y」）と判定した場合にも、始動口スイッチ監視処理を終了する。すなわち、第 2 始動記憶をそれ以上発生させないようにする。

【0395】

〔ハード乱数取得処理〕

次に、始動口スイッチ監視処理におけるハード乱数取得処理（A 2 7 0 2、A 2 7 1 0）の詳細について説明する。図 1 7 は、ハード乱数取得処理の手順を示すフローチャートである。

【0396】

遊技制御装置 100 は、まず、始動口入賞がないことを示す始動口入賞なし情報を設定する（A 2 8 0 1）。次に、対象のスイッチに入力があった否かを判定し（A 2 8 0 2）、対象のスイッチに入力がなかった場合（A 2 8 0 2 の結果が「N」）、ハード乱数取得処理を終了する。なお、対象のスイッチは、ステップ A 2 7 0 2 のハード乱数取得処理では、始動口 1 スwitch 3 6 a であり、ステップ A 2 7 1 0 のハード乱数取得処理では、始動口 2 スwitch 3 7 a である。

【0397】

遊技制御装置 100 は、対象のスイッチに入力があった場合（A 2 8 0 2 の結果が「Y」）、乱数ラッチレジスタステータス（乱数ラッチレジスタの状態）を読み込み、対象の乱数ラッチレジスタにラッチデータあるか否かを判定する（A 2 8 0 3、A 2 8 0 4）。対象の乱数ラッチレジスタにラッチデータない場合（A 2 8 0 4 の結果が「N」）、ハード乱数取得処理を終了する。

【0398】

遊技制御装置 100 は、対象の乱数ラッチレジスタにラッチデータある場合（A 2 8 0 4 の結果が「Y」）、対象のハード乱数ラッチレジスタに抽出された大当たり乱数をロードして準備し（A 2 8 0 5）、対象のハード乱数ラッチレジスタに抽出された特図図柄乱数をロードして準備し（A 2 8 0 6）、始動口入賞があることを示す始動口入賞あり情報を設定する（A 2 8 0 7）。なお、準備した大当たり乱数は、特図始動口スイッチ共通処理で使用される。

【0399】

〔特図始動口スイッチ共通処理〕

次に、始動口スイッチ監視処理における特図始動口スイッチ共通処理（A 2 7 0 8、A 2 7 1 5）の詳細について説明する。図 1 8 は、特図始動口スイッチ共通処理の手順を示すフローチャートである。特図始動口スイッチ共通処理は、始動口 1 スwitch 3 6 a や始動口 2 スwitch 3 7 a の入力があった場合に、各々の入力について共通して行われる処理である。

【0400】

遊技制御装置 100 は、まず、始動口 1 スwitch 3 6 a 及び始動口 2 スwitch 3 7 a のうち、監視対象の始動口スイッチへの入賞の回数に関する情報を遊技機 10 の外部の管理

10

20

30

40

50

装置に対して出力する回数である始動口信号出力回数をロードし（A 2 9 0 1）、ロードした値を+1更新して（A 2 9 0 2）、出力回数がオーバーフローするか否かを判定する（A 2 9 0 3）。出力回数がオーバーフローしない場合（A 2 9 0 3の結果が「N」）、更新後の値をRWMの始動口信号出力回数領域にセーブして（A 2 9 0 4）、ステップA 2 9 0 5の処理に移行する。一方、出力回数がオーバーフローする場合（A 2 9 0 3の結果が「Y」）、ステップA 2 9 0 5の処理に移行する。本実施形態では、始動口信号出力回数領域に「0」から「255」までの値を記憶することができる。そして、ロードした値が「255」である場合には+1更新によって更新後の値は「0」になり、出力回数がオーバーフローすると判定するよう構成されている。

【0401】

10

次に、遊技制御装置100は、始動口1スイッチ36a及び始動口2スイッチ37aのうち、監視対象の始動口スイッチに対応する更新対象の特図保留数（始動記憶数）が上限値（ここでは4）未満か否かを判定する（A 2 9 0 5）。更新対象の特図保留数が上限値未満でない場合（A 2 9 0 5の結果が「N」）は、特図始動口スイッチ共通処理を終了する。また、更新対象の特図保留数が上限値未満（ここでは4）である場合（A 2 9 0 5の結果が「Y」）は、更新対象の特図保留数（特図1保留数又は特図2保留数）を+1更新して（A 2 9 0 6）、対象の始動口入賞フラグをセーブする（A 2 9 0 7）。

【0402】

次に、遊技制御装置100は、監視対象の始動口スイッチ及び特図保留数に対応する乱数格納領域のアドレスを算出して（A 2 9 0 8）、ステップA 2 8 0 5にて準備した大当り乱数をRWMの大当り乱数格納領域にセーブする（A 2 9 0 9）。次に、ステップA 2 8 0 6にて準備した特図図柄乱数を、RWMの特図図柄乱数格納領域にセーブする（A 2 9 1 0）。

20

【0403】

なお、特図図柄乱数は、後述の特図1停止図柄設定処理と特図2停止図柄設定処理において、小当り時の停止図柄番号、サポ当り時の停止図柄番号、又は大当り時の停止図柄番号と、これら停止図柄番号に対応する小当り停止図柄パターン、サポ当り停止図柄パターン、又は大当り停止図柄パターンを決定するために用いられる。

【0404】

本実施形態において、RWMの乱数格納領域を小さくするため、1つの乱数（共通乱数）としての特図図柄乱数を共用して、小当り図柄（小当り時の停止図柄番号、小当り停止図柄パターン）、サポ当り図柄（サポ当り時の停止図柄番号、サポ当り停止図柄パターン）、大当り図柄（大当り時の停止図柄番号、大当り停止図柄パターン）の振り分けを行う。即ち、小当り図柄を決定する場合に、特図図柄乱数の範囲を区分して各小当り図柄に割り当てたり、サポ当り図柄を決定する場合に、特図図柄乱数の範囲を区分して各サポ当り図柄に割り当てたり、大当り図柄を決定する場合に、特図図柄乱数の範囲を区分して各大当り図柄に割り当てたりする。ここで、各区分は重ならないようにする。なお、共用する特図図柄乱数に代えて、小当りの図柄を決定するための小当り図柄乱数、時短図柄（サポ当り図柄、サポ当りの停止図柄）を決定するためのサポ当り図柄乱数、大当りの図柄を決定するための大当り図柄乱数を、各々、独立に設けてもよい。

30

40

【0405】

次に、遊技制御装置100は、変動パターン乱数1から3を対応するRWMの変動パターン乱数格納領域にセーブして（A 2 9 1 1）、変動表示ゲームの結果（遊技結果）を事前に判定可能な特図保留情報判定処理（事前判定処理、先読み処理）を実行する（A 2 9 1 2）。特図保留情報判定処理では、セーブした大当り乱数や特図図柄乱数などに基づく停止図柄情報（大当り停止図柄、小当り停止図柄、時短停止図柄、はずれ停止図柄）に対応する先読み停止図柄コマンドや、セーブした変動パターン乱数1から3に基づく前半変動番号（リーチ前変動の番号）及び後半変動番号（リーチ後変動の番号）に対応する先読み変動パターンコマンドを演出コマンドとして設定する。そして、監視対象の始動口スイッチ及び特図保留数に対応する飾り特図保留数コマンドを演出コマンドとして準備し（A

50

2913)、演出コマンド設定処理(A2914)を実行して、特図始動口スイッチ共通処理を終了する。このように、遊技制御装置100は、始動記憶に基づく変動表示ゲームが実行されるよりも前に当該変動表示ゲームの結果を事前に判定可能な事前判定手段を構成する。

【0406】

ここで、遊技制御装置100(RAM111c)は、始動入賞口36や普通変動入賞装置37の始動入賞領域への遊技球の流入に基づき、所定の乱数を抽出し前記変動表示ゲームの実行権利となる始動記憶として所定数を上限に記憶する始動記憶手段をなす。また、始動記憶手段(遊技制御装置100)は、第1始動入賞口(始動入賞口36)への遊技球の入賞に基づき抽出した各種の乱数値を、所定数を上限に第1始動記憶として記憶し、第2始動入賞口(普通変動入賞装置37)への遊技球の入賞に基づき抽出した各種の乱数値を、所定数を上限に第2始動記憶として記憶する。

10

【0407】

〔特図保留情報判定処理〕

次に、始動口スイッチ共通処理における特図保留情報判定処理(A2912)の詳細について説明する。図19は、特図保留情報判定処理の手順を示すフローチャートである。特図保留情報判定処理は、対応する始動記憶に基づく特図変動表示ゲームの開始タイミングより前に当該始動記憶に対応した結果関連情報の判定等を行う先読み(事前判定)処理である。

【0408】

遊技制御装置100は、まず、今回の特図保留情報判定処理の事前判定が特図2保留に関する判定であるか否かを判定する(A3001)。ステップA2707にて始動入賞口36(始動口1)による保留の情報を設定するテーブルが準備されていれば、特図1保留に関する判定である。ステップA2714にて第2始動入賞口(始動口2、普通変動入賞装置37)による保留の情報を設定するテーブルが準備されていれば、特図2保留に関する判定である。

20

【0409】

遊技制御装置100は、特図1保留に関する判定である場合に(A3001の結果が「N」)、大当たり中であるか否かを判定する(A3002)。大当たり中でない場合に(A3002の結果が「N」)、普電サポート中であるか否かを判定する(A3003)。

30

【0410】

遊技制御装置100は、大当たり中である場合(A3002の結果が「Y」)又は普電サポート中である場合(A3003の結果が「Y」)、特図保留情報判定処理を終了する。これによって、大当たり中又は普電サポート中に、特図1保留に関する先読み(事前判定)は実行されない。

【0411】

遊技制御装置100は、特図2保留に関する判定である場合(A3001の結果が「Y」)又は普電サポート中でない場合(A3003の結果が「N」)、ステップA3004以降の処理を開始し、まず、大当たり乱数値が大当たり判定値と一致するか否かにより大当たりであるかを判定する大当たり判定処理を実行する(A3004)。これによって、通常遊技状態や小当たり状態など大当たり中でも普電サポート中でもない状態で、特図1保留に関する先読み(事前判定)は実行できる。また、特図2保留に関する先読み(事前判定)は遊技状態によらず実行できる。

40

【0412】

遊技制御装置100は、判定結果が大当たりである場合に(A3005の結果が「Y」)、対象の始動口スイッチに対応する大当たり図柄チェックテーブルを設定し(A3006)、大当たり図柄チェックテーブルから準備した特図図柄乱数に対応する停止図柄情報を取得して(A3007)、ステップA3015の処理に移行する。

【0413】

遊技制御装置100は、判定結果が大当たりでない場合に(A3005の結果が「N」)

50

、大当り乱数値が小当り判定値と一致するか否かにより小当りであるかを判定する小当り判定処理を実行する（A 3 0 0 8）。そして、判定結果が小当りである場合（A 3 0 0 9の結果が「Y」）には、小当り図柄チェックテーブルを設定し（A 3 0 1 0）、小当り図柄チェックテーブルから準備した特図図柄乱数に対応する停止図柄情報を取得して（A 3 0 0 7）、ステップA 3 0 1 5の処理に移行する。

【0 4 1 4】

遊技制御装置1 0 0は、判定結果が小当りでない場合（A 3 0 0 9の結果が「N」）、大当り乱数値がサポ当り判定値と一致するか否かによりサポ当り（時短図柄の当り、時短当り）であるかを判定するサポ当り判定処理を実行する（A 3 0 1 1）。そして、判定結果がサポ当りである場合（A 3 0 1 2の結果が「Y」）には、サポ当り図柄チェックテーブルを設定し（A 3 0 1 3）、サポ当り図柄チェックテーブルから準備した特図図柄乱数に対応する停止図柄情報を取得して（A 3 0 0 7）、ステップA 3 0 1 5の処理に移行する。

10

【0 4 1 5】

遊技制御装置1 0 0は、判定結果がサポ当りでない場合（A 3 0 1 2の結果が「N」）、はずれの停止図柄情報を設定して（A 3 0 1 4）、ステップA 3 0 1 5の処理に移行する。

【0 4 1 6】

次に、遊技制御装置1 0 0は、対象の始動口スイッチ及び停止図柄情報に対応する先読み停止図柄コマンドを演出コマンドとして準備し（A 3 0 1 5）、演出コマンド設定処理を実行する（A 3 0 1 6）。次に、変動パターンを設定するためのパラメータである特図情報を設定する特図情報設定処理を行い（A 3 0 1 7）、特図変動表示ゲームの変動態様を設定する変動パターン設定処理を実行する（A 3 0 1 8）。

20

【0 4 1 7】

その後、遊技制御装置1 0 0は、特図変動表示ゲームの変動態様における前半変動パターンを示す前半変動番号及び後半変動パターンを示す後半変動番号に対応する先読み変動パターンコマンドを演出コマンドとして準備して（A 3 0 1 9）、演出コマンド設定処理を行い（A 3 0 2 0）、特図保留情報判定処理を終了する。なお、ステップA 3 0 1 7における特図情報設定処理、ステップA 3 0 1 8における変動パターン設定処理は、特図普段処理で特図変動表示ゲームの開始時に実行される処理と同様である。演出コマンド設定処理では、シリアル送信バッファに演出コマンドを書き込み、演出コマンドが演出制御装置3 0 0に送信されることになる。

30

【0 4 1 8】

以上の処理により、先読み対象の始動記憶に基づく特図変動表示ゲームの結果を含む先読み図柄コマンドと、当該始動記憶に基づく特図変動表示ゲームでの変動パターンの情報を含む先読み変動パターンコマンドが準備され、演出制御装置3 0 0に送信される。これにより、始動記憶に対応した結果関連情報（大当りか否かや変動パターンの種類）の判定結果（先読み結果）を、対応する始動記憶に基づく特図変動表示ゲームの開始タイミングより前に演出制御装置3 0 0に対して知らせることができ、特に表示装置4 1に表示される飾り特図始動記憶表示を変化させるなどして、その特図変動表示ゲームの開始タイミングより前に遊技者に結果関連情報を報知することが可能となる。

40

【0 4 1 9】

すなわち、遊技制御装置1 0 0が、始動記憶手段（遊技制御装置1 0 0）に始動記憶として記憶される乱数を、当該始動記憶に基づく変動表示ゲームの実行前に判定する（例えば特別結果となるか否か等を判定）事前判定手段をなす。なお、始動記憶に対応して記憶された乱数値を事前に判定する時期は、当該始動記憶が発生した始動入賞時だけでなく、当該始動記憶に基づく変動表示ゲームが行われる前であればいつでもよい。

【0 4 2 0】

なお、上記において、大当り判定処理、小当り判定処理、サポ当り判定処理は、タイマ割込み処理中に実行される他の処理における大当り判定処理、小当り判定処理、サポ当り

50

判定処理に共通する処理である。大当り乱数が、大当り判定値、小当り判定値、又は、サポ当り判定値に一致する場合に、それぞれ、大当り、小当り、又は、サポ当りであると判定される。例えば、当り判定値は、下限判定値以上かつ上限判定値以下の連続する複数の値であり、当り確率は、 $(\text{上限判定値} - \text{下限判定値} + 1) / (\text{大当り乱数の範囲})$ であり、

【0421】

当然ながら、同じ特図変動表示ゲームの結果が同時に大当り、小当り、サポ当りの2つ以上になることを避けるべく、大当り判定値の範囲、小当り判定値の範囲、サポ当り判定値の範囲は互いに重ならない。なお、本実施形態において、独自に小当り乱数やサポ当り乱数を設けることはせず、小当り判定やサポ当り判定にも大当り乱数を利用するが、独自の

10

【0422】

大当り確率、小当り確率、サポ当り確率は、低確率状態（確変状態以外の通常確率状態）と高確率状態（確変状態）とで異なっており、確率設定値に応じて異なっており、なお、確率設定値が異なっても、大当り確率、小当り確率、又は、サポ当り確率を同一にする構成も可能である。

【0423】

〔大入賞口スイッチ監視処理〕

次に、特図ゲーム処理における大入賞口スイッチ監視処理（A2602）の詳細について説明する。図20は、大入賞口スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。

20

【0424】

遊技制御装置100は、まず、特図ゲーム処理番号の値が「8」であるか、すなわち大入賞口開放中処理中であるか否かを判定する（A3101）。大入賞口開放中処理中である場合（A3101の結果が「Y」）、ステップA3105の処理に移行する。また、大入賞口開放中処理中でない場合（A3101の結果が「N」）、特図ゲーム処理番号の値が「9」であるか、すなわち大入賞口残存球処理中であるか否かを判定する（A3102）。

【0425】

遊技制御装置100は、大入賞口残存球処理中である場合（A3102の結果が「Y」）、ステップA3105の処理に移行する。また、大入賞口残存球処理中でない場合（A3102の結果が「N」）、特図ゲーム処理番号の値が「4」であるか、すなわち小当り開放中処理中であるか否かを判定する（A3103）。小当り開放中処理中である場合（A3103の結果が「Y」）、ステップA3105の処理に移行する。また、小当り開放中処理中でない場合（A3103の結果が「N」）、特図ゲーム処理番号の値が「5」であるか、すなわち小当り残存球処理中であるか否かを判定する（A3104）。特図ゲーム処理タイマが0になるまで特図ゲーム処理番号は次に移行しないため、このように特図ゲーム処理番号によって遊技の進行状態をチェックすることができる。

30

【0426】

遊技制御装置100は、小当り残存球処理中でない場合（A3104の結果が「N」）、大入賞口スイッチ監視処理を終了する。また、小当り残存球処理中である場合（A3104の結果が「Y」）は、ステップA3105の処理に移行する。そして、大入賞口スイッチ43（下大入賞口スイッチ38a、上大入賞口スイッチ39a）に入力があるか否かを判定する（A3105）。

40

【0427】

遊技制御装置100は、大入賞口スイッチ43に入力がある場合（A3105の結果が「Y」）、大入賞口カウントコマンドを演出コマンドとして準備して（A3106）、演出コマンド設定処理（A3107）を実行する。そして、大入賞口残存球処理中であるか否かを判定する（A3108）。大入賞口残存球処理中である場合（A3108の結果が「Y」）、大入賞口スイッチ監視処理を終了し、大入賞口残存球処理中でない場合（A3108の結果が「N」）、小当り残存球処理中であるか否かを判定する（A3109）。

50

【0428】

遊技制御装置100は、小当り残存球処理中である場合（A3109の結果が「Y」）は、大入賞口スイッチ監視処理を終了し、小当り残存球処理中でない場合（A3109の結果が「N」）、大入賞口カウント数を+1更新し（A3110）、大入賞口カウント数が上限値（一のラウンドで入賞可能な遊技球数。例えば10）以上となったか否かを判定する（A3111）。

【0429】

遊技制御装置100は、大入賞口カウント数が上限値以上となっていない場合（A3111の結果が「N」）、大入賞口スイッチ監視処理を終了する。また、大入賞口カウント数が上限値以上となった場合（A3111の結果が「Y」）、特図ゲーム処理タイマ領域を0クリアする（A3112）。これにより大入賞口が閉鎖されて一のラウンドが終了することとなる。続いて、小当り開放中処理中であるかを判定する（A3113）。

【0430】

遊技制御装置100は、小当り開放中処理中でない場合（A3113の結果が「N」）、大入賞口スイッチ監視処理を終了し、小当り開放中処理中である場合（A3113の結果が「Y」）、大入賞口制御ポインタ領域に小当り開放動作終了の値をセーブして（A3114）、大入賞口スイッチ監視処理を終了する。なお、本実施形態では、1回の小当りに関して小当り開放中に複数回大入賞口が開放されることがあるため、ここで大入賞口制御ポインタ領域に小当り開放動作終了の値をセーブする。仮に1回の大当りに関して大当り開放中に複数回大入賞口が開放される構成であれば、同様に、大当り開放中処理中である場合に大入賞口制御ポインタ領域に大当り開放動作終了の値をセーブしてよい。

【0431】

〔特定領域スイッチ監視処理〕

次に、特図ゲーム処理における特定領域スイッチ監視処理（A2603）の詳細について説明する。図21は、特定領域スイッチ監視処理の手順を示すフローチャートである。

【0432】

遊技制御装置100は、まず、小当り中であるか否かを判定する（A3201）。例えば、特図ゲーム処理番号が「3」「4」「5」であれば、小当り中であると判定できる。小当り中である場合に（A3201の結果が「Y」）、特定領域通過済みであるか否かを判定する（A3202）。特定領域通過情報領域に正常通過情報又は異常通過情報がセーブされていれば、特定領域通過済みであると判定できる。

【0433】

遊技制御装置100は、特定領域通過済みでない場合に（A3202の結果が「N」）、特定領域スイッチ72に入力があるか否かを判定する（A3203）。特定領域スイッチ72に入力がある場合に（A3203の結果が「Y」）、即ち、特定領域86への入賞（V入賞）があった場合に、特定領域通過コマンドを演出コマンドとして準備し（A3204）、演出コマンド設定処理を行う（A3205）。さらに、ここで、遊技球が特定領域を通過したことを示す特定領域通過フラグを特定領域通過領域にセットしてもよい。

【0434】

一方、遊技制御装置100は、小当り中でない場合（A3201の結果が「N」）、特定領域通過済みである場合（A3202の結果が「Y」）、又は、特定領域スイッチ72に入力がない場合に（A3203の結果が「N」）、何もせずに特定領域スイッチ監視処理を終了する。

【0435】

次に、遊技制御装置100は、イレギュラーなV入賞であるか否かを判定する（A3206）。本実施形態において、特図1変動表示ゲームの結果が小当り（特図1小当り）である場合や、通常遊技状態において残保留以外の保留に係る特図2変動表示ゲームの結果が小当り（特図2小当り）である場合、イレギュラーなV入賞となる。即ち、本実施形態において、特定遊技状態（時短状態）において特図2小当りが発生する場合や、残保留に係る特図2変動表示ゲームで特図2小当りが発生する場合に、正常なV入賞となる。

【0436】

遊技制御装置100は、イレギュラーなV入賞でない場合、即ち正常なV入賞である場合（A3206の結果が「N」）、特定領域通過情報領域に正常通過情報をセーブし（A3207）、イレギュラーなV入賞である場合（A3206の結果が「Y」）、特定領域通過情報領域に異常通過情報をセーブする（A3208）。そして、ラウンド数上限値テーブルを設定する（A3209）。

【0437】

次に、遊技制御装置100は、ラウンド数上限値情報に対応するラウンド数上限値（例えば、3、10）を取得し、RWMのラウンド数上限値領域にセーブする（A3210）。ラウンド数上限値は、ラウンド数の上限値であり最終ラウンドのラウンド数に対応する。続けて、ラウンド数上限値情報に対応するラウンドLEDポインタを取得し、RWMのラウンドLEDポインタ領域にセーブする（A3211）。

10

【0438】

続いて、遊技制御装置100は、大当りの開始に関する信号をRWMの外部情報出力データ領域にセーブする（A3212）。例えば、大当りの開始に関する信号は、大当り1信号のオンデータ（大当り、特図2の小当りでオン）、大当り2信号のオンデータ（大当り、特図2の小当り、時短状態、特図2残保留消化期間でオン）、大当り3信号のオンデータ（大当り、特図2の小当りでオン）である。なお、大当りの開始に関する信号（大当り1信号、大当り2信号、大当り3信号等のオンオフ）は、機種により定義されてよい。そして、大当りの開始に関する試験信号（例えば、条件装置作動中信号をオン、役物連続作動装置作動中信号をオン、条件装置作動領域1有効信号をオフ、役物連続作動装置作動領域1有効信号をオフ）をRWMの試験信号出力データ領域にセーブする（A3213）。

20

【0439】

次に、遊技制御装置100は、時短状態の終了に関する信号を試験信号出力データ領域にセーブし（A3214）、普図ゲームモードフラグ領域に普図サボなしフラグをセーブし（A3215）、変動図柄判別フラグ領域をクリアし（A3216）、特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率&時短なしフラグをセーブする（A3217）。そして、停電復旧時に演出制御装置300に出力されるコマンドをセーブする停電復旧時送信コマンド領域に確率情報コマンド（特図低確率&時短なし）をセーブする（A3218）。

30

【0440】

続いて、遊技制御装置100は、時短状態における特図変動表示ゲームの残りの実行回数に対応する時間短縮変動回数1領域をクリアし（A3219）、時短状態における特図2変動表示ゲームの残りの実行回数に対応する時間短縮変動回数2領域をクリアする（A3220）。そして、確変状態以外の状態で特図変動表示ゲームが実行された実行回数を示す天井カウンタ領域をクリアし（A3221）、天井時短発動フラグが格納される天井時短発動フラグ領域をクリアし（A3222）、天井到達済みフラグが格納される天井到達済みフラグ領域をクリアする（A3223）。

【0441】

さらに、遊技制御装置100は、演出モード番号領域に演出モード1の番号をセーブし（A3224）、演出残り回転数領域をクリアし（A3225）、次モード移行情報領域に更新なしコードをセーブし（A3226）、通常ベース状態判定領域に通常ベース状態以外情報をセーブし（A3227）、特定領域スイッチ監視処理を終了する。このようにして、大当り状態が開始する前に、大当り状態中の演出モード1が設定される。

40

【0442】

〔特図普段処理〕

次に、特図ゲーム処理における特図普段処理（A2609）の詳細について説明する。図22は、特図普段処理の手順を示すフローチャートである。

【0443】

遊技制御装置100は、まず、大入賞口の残存球カウンタが0であるか否かを判定する

50

(A 3 3 0 1)。大入賞口の残存球カウンタが0でない場合に(A 3 3 0 1の結果が「N」)、特図変動表示ゲームを開始せずステップA 3 3 1 4の処理に移行する。

【0 4 4 4】

遊技制御装置1 0 0は、大入賞口の残存球カウンタが0である場合に(A 3 3 0 1の結果が「Y」)、特図2保留数(第2始動記憶数)が0であるか否かを判定する(A 3 3 0 2)。特図2保留数が0である場合(A 3 3 0 2の結果が「Y」)、特図1保留数(第1始動記憶数)が0であるか否かを判定する(A 3 3 0 6)。そして、特図1保留数が0である場合(A 3 3 0 6の結果が「Y」)、客待ちデモが開始済みであるか否かを判定し(A 3 3 1 0)、客待ちデモが開始済みでない場合(A 3 3 1 0の結果が「N」)は、客待ちデモフラグ領域に客待ちデモ中フラグをセットする(A 3 3 1 1)。

10

【0 4 4 5】

続けて、遊技制御装置1 0 0は、客待ちデモコマンドを演出コマンドとして準備して(A 3 3 1 2)、演出コマンド設定処理を行い(A 3 3 1 3)、ステップA 3 3 1 4の処理に移行する。一方、ステップA 3 3 1 0にて、客待ちデモが開始済みである場合(A 3 3 1 0の結果が「Y」)、処理番号として特図普段処理に係る「0」を設定し(A 3 3 1 4)、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブして(A 3 3 1 5)、変動図柄判別フラグ領域をクリアする(A 3 3 1 6)。そして、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間中フラグをセーブして(A 3 3 1 7)、特図普段処理を終了する。

【0 4 4 6】

また、遊技制御装置1 0 0は、特図2保留数が0でない場合(A 3 3 0 2の結果が「N」)、特図2保留数に対応する飾り特図保留数コマンド(飾り特図2保留数コマンド)を演出コマンドとして準備して(A 3 3 0 3)、演出コマンド設定処理を実行する(A 3 3 0 4)。なお、ここでの飾り特図保留数コマンドは、後に特図2変動表示ゲームの開始によって特図2保留数が1だけ減少することを考慮して、現時点での特図2保留数から1だけ減算した値に対応する情報を含んでよい。或いは、特図2変動表示ゲームの開始によって演出制御装置3 0 0が管理する特図2保留数を1だけ減少する場合には、ここでの飾り特図保留数コマンドは、現時点での特図2保留数に対応する情報を含んでよい。その後、特図2変動開始処理を実行し(A 3 3 0 5)、特図普段処理を終了する。

20

【0 4 4 7】

また、遊技制御装置1 0 0は、特図1保留数が0でない場合(A 3 3 0 6の結果が「N」)、特図1保留数に対応する飾り特図保留数コマンド(飾り特図1保留数コマンド)を演出コマンドとして準備して(A 3 3 0 7)、演出コマンド設定処理を実行する(A 3 3 0 8)。なお、ここでの飾り特図保留数コマンドは、後に特図1変動表示ゲームの開始によって特図1保留数が1だけ減少することを考慮して、現時点での特図1保留数から1だけ減算した値に対応する情報を含んでよい。或いは、特図1変動表示ゲームの開始によって演出制御装置3 0 0が管理する特図1保留数を1だけ減少する場合には、ここでの飾り特図保留数コマンドは、現時点での特図1保留数に対応する情報を含んでよい。その後、特図1変動開始処理を実行し(A 3 3 0 9)、特図普段処理を終了する。

30

【0 4 4 8】

このように、特図2保留数のチェックを特図1保留数のチェックよりも先に行うことで、特図2保留数が0でない場合には特図2変動開始処理(A 3 3 0 5)が実行されることとなる。すなわち、特図2変動表示ゲームが特図1変動表示ゲームに優先して実行されることとなる(特図2保留優先消化)。つまり、遊技制御装置1 0 0が、第2始動記憶手段(遊技制御装置1 0 0)に第2始動記憶がある場合には、当該第2始動記憶に基づく変動表示ゲームを、第1始動記憶に基づく変動表示ゲームよりも優先的に実行する優先制御手段をなす。なお、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームは、入賞(即ち始動記憶)の発生した順に実行されてもよく(入賞順消化)、特図1変動表示ゲーム及び／又は特図2変動表示ゲームの始動記憶が生じて特図変動表示ゲームの実行が可能な状態になった場合は、最も古くに発生した始動記憶に基づく変動表示ゲームが実行されてもよい。

40

【0 4 4 9】

50

〔特図 1 変動開始処理〕

次に、特図 1 変動開始処理における特図 1 変動開始処理（A 3 3 0 9）の詳細について説明する。図 2 3 は、特図 1 変動開始処理の手順を示すフローチャートである。特図 1 変動開始処理は、特図 1 変動表示ゲームの開始時に行う処理である。

【0 4 5 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、実行する特図変動表示ゲームの種別（ここでは特図 1）を示す特図 1 変動フラグを変動図柄判別領域にセーブする（A 3 4 0 1）。続いて、特図 1 変動表示ゲームが大当りであるか否かを判別するための大当りフラグ 1 にはずれ情報や大当り情報を設定するなどの処理を行う大当りフラグ 1 設定処理を実行する（A 3 4 0 2）。大当りフラグ 1 設定処理の詳細については後述する。

10

【0 4 5 1】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 変動表示ゲームに関する特図 1 停止図柄（図柄情報）の設定に係る特図 1 停止図柄設定処理を実行する（A 3 4 0 3）。特図 1 停止図柄設定処理では、はずれ時、サポ当り時、小当り時、又は大当り時の停止図柄番号と、この停止図柄番号に対応するはずれ停止図柄パターン、サポ当り停止図柄パターン、小当り停止図柄パターン、又は大当り停止図柄パターンをセーブする。サポ当り時、小当り時、又は大当り時の停止図柄番号は、各々、特図図柄乱数に対応して決定される。

【0 4 5 2】

さらに、遊技制御装置 1 0 0 は、変動パターンを設定するためのパラメータである特図情報を設定する特図情報設定処理を実行する（A 3 4 0 4）。

20

【0 4 5 3】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 変動表示ゲームの変動パターンの設定に関する種々の情報を参照するための情報が設定されたテーブルである特図 1 変動パターン設定情報テーブルを準備する（A 3 4 0 5）。

【0 4 5 4】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 変動表示ゲームにおける変動態様である変動パターン（変動パターン番号）を振り分けによって設定する変動パターン設定処理を実行する（A 3 4 0 6）。本実施形態において、変動パターンは、特図変動表示ゲームの開始からリーチ状態となるまでの変動態様である前半変動パターンと、リーチ状態となってから特図変動表示ゲームの終了までの変動態様である後半変動パターンとからなる。変動パターン設定処理によって、前半変動パターンに対応する前半変動番号と後半変動パターンに対応する後半変動番号が取得され、それぞれ前半変動番号領域と後半変動番号領域にセーブされる。なお、前半変動パターンと後半変動パターンを区別しない構成も可能である。

30

【0 4 5 5】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 変動表示ゲームの変動開始の情報を設定する変動開始情報設定処理を実行する（A 3 4 0 7）。変動開始情報設定処理では、変動パターン（変動パターン番号）に対応する変動時間値を取得し、特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする。そして、変動パターン番号に対応する変動コマンド（MODE、ACTION）を演出コマンドとして準備して、演出コマンド設定処理を行う。また、変動開始情報設定処理では、これから開始する特図変動表示ゲームの特図種別（特図 1 又は特図 2）に係る特図保留数を - 1 更新する（1 だけ減少する）。

40

【0 4 5 6】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、処理番号として特図変動中処理に係る「1」を設定し（A 3 4 0 8）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A 3 4 0 9）。

【0 4 5 7】

そして、遊技制御装置 1 0 0 は、客待ちデモフラグ領域をクリアし（A 3 4 1 0）、特図 1 の変動開始に関する信号（特別図柄 1 変動中信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 3 4 1 1）。その後、特図 1 変動制御フラグ領域に変動中フラグをセーブし（A 3 4 1 2）、特図 1 点減制御タイマ領域に点減制御タイマ（特図 1 表示器 5 1 の点減の周期のタイマ）の初期値（例えば 1 0 0 m s）を設定する（A 3 4 1 3）。続いて

50

、特図 1 変動図柄番号領域に初期値（例えば 0）をセーブし（A 3 4 1 4）、特図 1 変動開始処理を終了する。

【0 4 5 8】

なお、本実施形態において、確率状態（低確率／高確率）や時短状態の有無（時短あり／なし）は変動パターンの振り分けに直接影響せず、遊技制御装置 1 0 0 が管理している演出モードが変動の振り分けに影響する。演出モードは、確率状態、時短状態の有無、特図変動表示ゲームの進行状況などに応じて、複数の演出モードから一の演出モードが設定されるようになっている。なお、確率状態、時短状態の有無、特図変動表示ゲームの進行状況などに基づいて直接的に変動の振り分けを行ってもよい。

【0 4 5 9】

〔特図 2 変動開始処理〕

次に、特図 2 変動開始処理における特図 2 変動開始処理（A 3 3 0 5）の詳細について説明する。図 2 4 は、特図 2 変動開始処理の手順を示すフローチャートである。特図 2 変動開始処理は、特図 2 変動表示ゲームの開始時に行う処理であって、図 2 3 に示した特図 1 変動開始処理での処理と同様の処理を、第 2 始動記憶を対象として行うものである。

【0 4 6 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、実行する特図変動表示ゲームの種別（ここでは特図 2）を示す特図 2 変動フラグを変動図柄判別領域にセーブする（A 3 5 0 1）。続いて、特図 2 変動表示ゲームが大当りであるか否かを判別するための大当りフラグ 2 にはずれ情報や大当り情報を設定するなどの処理を行う大当りフラグ 2 設定処理を実行する（A 3 5 0 2）。

【0 4 6 1】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 2 変動表示ゲームに関する特図 2 停止図柄（図柄情報）の設定に係る特図 2 停止図柄設定処理を実行する（A 3 5 0 3）。さらに、変動パターンを設定するためのパラメータである特図情報を設定する特図情報設定処理を実行する（A 3 5 0 4）。続いて、特図 2 変動表示ゲームの変動パターンの設定に関する種々の情報を参照するための情報が設定されたテーブルである特図 2 変動パターン設定情報テーブルを準備する（A 3 5 0 5）。

【0 4 6 2】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 2 変動表示ゲームの変動パターンを振り分けによって設定する変動パターン設定処理を実行する（A 3 5 0 6）。そして、特図 2 変動表示ゲームの変動開始の情報を設定する変動開始情報設定処理を実行する（A 3 5 0 7）。

【0 4 6 3】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、処理番号として特図変動中処理に係る「1」を設定し（A 3 5 0 8）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A 3 5 0 9）。

【0 4 6 4】

そして、遊技制御装置 1 0 0 は、客待ちデモフラグ領域をクリアし（A 3 5 1 0）、特図 2 の変動開始に関する信号（特別図柄 2 変動中信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 3 5 1 1）。その後、特図 2 変動制御フラグ領域に変動中フラグをセーブし（A 3 5 1 2）、特図 2 点滅制御タイマ領域に点滅制御タイマ（特図 2 表示器 5 2 の点滅の周期のタイマ）の初期値（例えば 1 0 0 m s）を設定する（A 3 5 1 3）。続いて、特図 2 変動図柄番号領域に初期値（例えば 0）をセーブし（A 3 5 1 4）、特図 2 変動開始処理を終了する。

【0 4 6 5】

〔大当りフラグ 1 設定処理〕

次に、特図 1 変動開始処理における大当りフラグ 1 設定処理（A 3 4 0 2）の詳細について説明する。図 2 5 は、大当りフラグ 1 設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0 4 6 6】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、大当りフラグ 1 領域、小当りフラグ 1 領域、サポ当りフラグ 1 領域にはずれ情報をセーブする（A 3 6 0 1）。次に、RWM の特図 1 大当り乱数

10

20

30

40

50

格納領域（保留数 1 用）から大当り乱数をロードし、準備して（A 3 6 0 2）、当該特図 1 大当り乱数格納領域（保留数 1 用）を 0 クリアする（A 3 6 0 3）。なお、保留数 1 用とは、消化順序が最先（ここでは特図 1 のうちで最先）の特図始動記憶についての情報（乱数等）を格納する領域である。その後、準備した大当り乱数値が大当り判定値と一致するか否かに応じて大当りであるか否かを判定する大当り判定処理を実行する（A 3 6 0 4）。

【0 4 6 7】

遊技制御装置 1 0 0 は、大当り判定処理（A 3 6 0 4）の判定結果が大当りである場合（A 3 6 0 5 の結果が「Y」）、ステップ A 3 6 0 1 にてはずれ情報をセーブした大当りフラグ 1 領域に大当り情報を上書きしてセーブし（A 3 6 0 6）、大当りフラグ 1 設定処理を終了する。

10

【0 4 6 8】

一方、大当り判定処理（A 3 6 0 4）の判定結果が大当りでない場合（A 3 6 0 5 の結果が「N」）、準備した大当り乱数値が小当り判定値と一致するか否かに応じて小当りであるか否かを判定する小当り判定処理を実行する（A 3 6 0 8）。なお、本実施形態では、小当りの判定にも大当り乱数値が使用される。小当り判定処理（A 3 6 0 7）の判定結果が小当りである場合（A 3 7 0 8 の結果が「Y」）、ステップ A 3 6 0 1 にてはずれ情報をセーブした小当りフラグ 1 領域に小当り情報を上書きしてセーブし（A 3 7 0 9）、大当りフラグ 2 設定処理を終了する。

【0 4 6 9】

20

一方、小当り判定処理（A 3 6 0 7）の判定結果が小当りでない場合（A 3 6 0 8 の結果が「N」）、取得した大当り乱数値に基づいて、特図変動表示ゲームがサポ当りであるか否かを判定するサポ当り判定処理を実行し（A 3 6 1 0）、判定の結果はサポ当りであるか否か判断する（A 3 6 1 1）。なお、本実施形態では、サポ当りの判定にも大当り乱数値が使用される。ここで、特図変動表示ゲームのサポ当り（時短当り）とは、次回の特図変動表示ゲームから時短状態に突入する時短結果（特定結果）のことである。この時短結果に対応して、特図変動表示ゲームの停止結果として時短図柄を特図表示器（第 1 特図変動表示部 5 1 又は第 2 特図変動表示部 5 2）と表示装置 4 1 に表示できる。

【0 4 7 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、特図変動表示ゲームがサポ当りである場合（A 3 6 1 1 の結果が「Y」）、ステップ A 3 6 0 1 にてはずれ情報をセーブしたサポ当りフラグ 1 領域にサポ当り情報を上書きしてセーブし（A 3 6 1 2）、大当りフラグ 1 設定処理を終了する。一方、特図変動表示ゲームがサポ当りでない場合（A 3 6 1 1 の結果が「N」）、サポ当りフラグ 1 領域にサポ当り情報をセーブすることなく、大当りフラグ 1 設定処理を終了する。

30

【0 4 7 1】

このように、本実施形態において、特図 1 変動表示ゲームの結果は、「大当り」、「小当り」、「サポ当り（時短当り）」、及び「はずれ」のうちの何れかとなる。

【0 4 7 2】

特図変動表示ゲームの結果がサポ当り結果（時短結果）の場合に、特図 1 停止図柄設定処理（A 3 4 0 3）又は特図 2 停止図柄設定処理（A 3 5 0 3）において、停止図柄（停止図柄番号、停止図柄パターン）として時短図柄（時短図柄番号、時短図柄パターン）が設定され、次回の特図変動表示ゲームから時短状態に突入する。即ち、この場合には、大当りを経由せずに突然に時短状態になる（突然時短）。また、この場合に、特図表示器に時短図柄が表示されるとともに、時短図柄に対応する飾り特図コマンドが演出制御装置 3 0 0 に送信され、表示装置 4 1 において、演出制御装置 3 0 0 によって飾り停止図柄としても時短図柄（飾り時短図柄）が表示される。

40

【0 4 7 3】

表示装置 4 1 に表示される時短図柄としては、例えば、左図柄と中図柄のみが揃った「1, 1, 3」などがある。時短図柄は、予め決めておけば制約はないが、数字が順番に並

50

んだ「１，２，３」や左図柄と右図柄のみが揃った「１，３，１」など規則性があるものが、遊技者が覚えやすく好ましい。時短図柄を複数用意しておき、時短状態が継続する特図変動表示ゲームの回数（時短回数）が時短図柄ごとに定められてもよい。

【０４７４】

ランプ表示装置８０のランプ表示部１，２は、時短結果（時短図柄）の場合に、大当たり結果又は小当たり結果の場合と異なって、第四特別図柄（第４図柄）として特定の態様で発光する。例えば、ランプ表示部１，２は、大当たり結果又は小当たり結果の場合に、赤色などの暖色系の色で発光してよく、時短結果（時短図柄）の場合に、緑色や青色などの中性色系や寒色系の色（即ち暖色系以外の色）で発光してよい。また、はずれの場合に消灯状態となる。従って、停止図柄として時短図柄が表示される場合に、大当たりが発生したと遊技者が誤認することが防止できるとともに、時短に当選したことを遊技者は把握しやすくなる。

10

【０４７５】

なお、大当たり状態終了後に実行される特図変動表示ゲームの回数（確変状態での回数を除く）が所定回数（いわゆる天井回数、時短天井）に到達した場合に、サポ当りに当選しなくても時短状態（遊タイム）に突入する。このとき、特図変動表示ゲームの結果がはずれであればランプ表示部１，２は消灯状態とし、小当たり又は大当たりであれば暖色系の色で発光する。なお、このとき、小当たり又は大当たりでなければ、時短状態に突入することを遊技者が認識しやすくするため、ランプ表示部１，２は寒色系の色で第４図柄として発光してもよい。所定回数（天井回数）は、例えば、５００回や８００回である。この場合に、特図表示器や表示装置４１において停止図柄としてはずれ図柄（時短図柄でもよい）又は小当たり図柄（Ｖ入賞のない小当たりであれば）が表示され、次回の特図変動表示ゲームから時短状態に突入する。

20

【０４７６】

〔大当たりフラグ２設定処理〕

次に、特図２変動開始処理における大当たりフラグ２設定処理（Ａ３５０２）の詳細について説明する。図２６は、大当たりフラグ２設定処理の手順を示すフローチャートである。

【０４７７】

遊技制御装置１００は、まず、大当たりフラグ２領域、小当たりフラグ２領域にはずれ情報をセーブする（Ａ３７０１）。次に、ＲＷＭの特図２大当たり乱数格納領域（保留数１用）から大当たり乱数をロードし、準備して（Ａ３７０２）、当該特図２大当たり乱数格納領域（保留数１用）を０クリアする（Ａ３７０３）。なお、保留数１用とは、消化順序が最先（ここでは特図２のうちで最先）の特図始動記憶についての情報（乱数等）を格納する領域である。その後、準備した大当たり乱数値が大当たり判定値と一致するか否かに応じて大当たりであるか否かを判定する大当たり判定処理を実行する（Ａ３７０４）。遊技制御装置１００は、大当たり判定処理（Ａ３７０４）の判定結果が大当たりである場合（Ａ３７０５の結果が「Ｙ」）、ステップＡ３７０１にてはずれ情報をセーブした大当たりフラグ２領域に大当たり情報を上書きしてセーブし（Ａ３７０６）、大当たりフラグ２設定処理を終了する。一方、大当たり判定処理（Ａ３７０４）の判定結果が大当たりでない場合（Ａ３７０５の結果が「Ｎ」）、準備した大当たり乱数値が小当たり判定値と一致するか否かに応じて小当たりであるか否かを判定する小当たり判定処理を実行する（Ａ３７０７）。

30

40

【０４７８】

遊技制御装置１００は、小当たり判定処理（Ａ３７０７）の判定結果が小当たりである場合（Ａ３７０８の結果が「Ｙ」）、ステップＡ３７０１にてはずれ情報をセーブした小当たりフラグ２領域に小当たり情報を上書きしてセーブし（Ａ３７０９）、大当たりフラグ２設定処理を終了する。

【０４７９】

一方、遊技制御装置１００は、特図変動表示ゲームが小当たりでない場合（Ａ３７０８の結果が「Ｎ」）、大当たりフラグ２設定処理を終了する。

【０４８０】

50

このように、本実施形態では、特図 2 変動表示ゲームの結果は、「大当り」、「小当り」、及び「はずれ」のうちの何れかとなるが、オプションで、大当りフラグ 1 設定処理と同様に、特図 2 変動表示ゲームの結果として「サポ当り（時短当り）」を設ける構成も可能である。

【0481】

〔特図 1 停止図柄設定処理〕

次に、特図 1 変動開始処理における特図 1 停止図柄設定処理（A 3 4 0 3）の詳細について説明する。図 2 7 は、特図 1 停止図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0482】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、特図 1 特図図柄乱数格納領域（保留数 1 用）から特図図柄乱数をロードする（A 4 0 0 1）。そして、大当りフラグ 1 は大当りであるか否か、即ち、大当りフラグ 1 領域に大当り情報がセーブされているか判定する（A 4 0 0 2）。大当りフラグ 1 が大当りである場合（A 4 0 0 2 の結果が「Y」）、次に、特図 1 大当り図柄テーブルを設定し（A 4 0 0 3）、ロードした特図図柄乱数に対応する停止図柄番号を取得して RWM の特図 1 停止図柄番号領域にセーブする（A 4 0 0 4）。この処理により特別結果の種類として特図 1 の大当り図柄が選択される。

【0483】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 大当り停止図柄情報テーブルを設定し（A 4 0 0 5）、停止図柄番号に対応する停止図柄パターンを取得して停止図柄パターン領域にセーブする（A 4 0 0 6）。停止図柄パターンに基づいて、表示装置 4 1 での停止図柄を設定できる。そして、停止図柄番号に対応するラウンド数上限値情報を取得し、RWM の特図 1 ラウンド数上限値情報領域にセーブする（A 4 0 0 7）。これらの情報は、特別遊技状態の実行態様を設定するためのものである。

【0484】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、停止図柄番号に対応する時間短縮判定データを取得し、時間短縮判定データ領域にセーブする（A 4 0 0 8）。時間短縮判定データは、大当り終了後の時短状態の有無（時短あり又は時短なし）や時短回数の情報を含む。続いて、停止図柄パターン（或は停止図柄番号）及び確率状態に対応する演出モード移行情報をセーブする（A 4 0 0 9）。その後、ステップ A 4 0 2 3 の処理に移行する。

【0485】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、大当りフラグ 1 が大当りでない場合（A 4 0 0 2 の結果が「N」）、小当りフラグ 1 は小当りであるか否かを判定する（A 4 0 1 0）。小当りフラグ 1 は小当りである場合に（A 4 0 1 0 の結果が「Y」）、特図 1 小当り図柄テーブルを設定する（A 4 0 1 1）。そして、特図 1 小当り図柄テーブルを参照して、ロードした特図図柄乱数に対応する停止図柄番号を取得し、特図 1 停止図柄番号領域にセーブする（A 4 0 1 2）。この処理により特別結果の種類として特図 1 の小当り図柄が選択される。続いて、停止図柄番号に対応する停止図柄パターンを取得し、停止図柄パターン領域にセーブする（A 4 0 1 3）。その後、停止図柄パターンに対応する演出モード移行情報をセーブする（A 4 0 1 4）。その後、ステップ A 4 0 2 3 の処理に移行する。

【0486】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、小当りフラグ 1 が小当りでない場合（A 4 0 1 0 の結果が「N」）、サポ当りフラグ 1 はサポ当りであるか否かを判定する（A 4 0 1 5）。サポ当りフラグ 1 はサポ当りである場合に（A 4 0 1 5 の結果が「Y」）、特図 1 サポ当り図柄テーブルを設定する（A 4 0 1 6）。そして、特図 1 サポ当り図柄テーブルを参照して、ロードした特図図柄乱数に対応する停止図柄番号を取得し、特図 1 停止図柄番号領域にセーブする（A 4 0 1 7）。この処理により特別結果の種類として特図 1 のサポ当り図柄が選択される。続いて、停止図柄番号に対応する停止図柄パターンを取得し、停止図柄パターン領域にセーブする（A 4 0 1 8）。その後、停止図柄番号に対応する時間短縮判定データを取得し、時間短縮判定データ領域にセーブし（A 4 0 1 9）、停止図柄パターンに対応する演出モード移行情報をセーブする（A 4 0 2 0）。その後、ステップ A 4 0 2

3 の処理に移行する。

【0487】

一方、遊技制御装置100は、大当りフラグ1が大当りでない場合（A4002の結果が「N」）、小当りフラグ1が小当りでない場合（A4010の結果が「N」）、且つ、サポ当りフラグ1はサポ当りでない場合に（A4015の結果が「N」）、はずれ時の停止図柄番号を特図1停止図柄番号領域にセーブし（A4021）、はずれ停止図柄パターンを停止図柄パターン領域にセーブする（A4022）。その後、ステップA4023の処理に移行する。

【0488】

遊技制御装置100は、ステップA4009、A4014、A4020、A4022の後、停止図柄パターンに対応する飾り特図コマンドを準備し（A4023）、演出コマンドとして飾り特図コマンドを飾り特図コマンド領域にセーブする（A4024）。以上の処理により、特図1変動表示ゲームの結果に対応した停止図柄が設定される。

【0489】

その後、遊技制御装置100は、演出コマンド設定処理を実行する（A4025）。これにより、飾り特図コマンドは、演出制御装置300に送信される。

【0490】

次に、遊技制御装置100は、停止図柄番号に対応する図柄データを試験信号出力データ領域にセーブし（A4026）、特図1特図図柄乱数格納領域（保留数1用）を0クリアする（A4027）。その後、特図1停止図柄設定処理を終了する。なお、前述の図柄変動制御処理によって、停止図柄番号（或いは停止図柄パターン）に対応した停止図柄（大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、はずれ図柄など）の停止表示が、特図1表示器51で実行される。

【0491】

〔特図2停止図柄設定処理〕

次に、特図2変動開始処理における特図2停止図柄設定処理（A3503）の詳細について説明する。図28は、特図2停止図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0492】

遊技制御装置100は、まず、特図2特図図柄乱数格納領域（保留数1用）から特図図柄乱数をロードする（A4101）。そして、大当りフラグ2は大当りであるか否か、即ち、大当りフラグ2領域に大当り情報がセーブされているか判定する（A4102）。大当りフラグ2が大当りである場合（A4102の結果が「Y」）、次に、特図2大当り図柄テーブルを設定し（A4103）、ロードした特図図柄乱数に対応する停止図柄番号を取得してRWMの特図2停止図柄番号領域にセーブする（A4104）。この処理により特別結果の種類として特図2の大当り図柄が選択される。なお、特図2大当り図柄テーブルが特図1大当り図柄テーブルと異なれば、特図1と特図2の大当り図柄の振り分けが異なる。

【0493】

その後、遊技制御装置100は、特図2大当り停止図柄情報テーブルを設定し（A4105）、停止図柄番号に対応する停止図柄パターンを取得して停止図柄パターン領域にセーブする（A4106）。停止図柄パターンに基づいて、表示装置41での停止図柄を設定できる。そして、停止図柄番号に対応するラウンド数上限値情報を取得し、RWMの特図2ラウンド数上限値情報領域にセーブする（A4107）。これらの情報は、特別遊技状態の実行態様を設定するためのものである。

【0494】

次に、遊技制御装置100は、停止図柄番号に対応する時間短縮判定データを取得し、時間短縮判定データ領域にセーブする（A4108）。時間短縮判定データは、大当り終了後の時短状態の有無（時短あり又は時短なし）や時短回数の情報を含む。続いて、停止図柄パターン（或は停止図柄番号）及び確率状態に対応する演出モード移行情報をセーブする（A4109）。その後、ステップA4117の処理に移行する。

【0495】

遊技制御装置100は、大当りフラグ2は大当りでない場合（A4102の結果が「N」）、小当りフラグ2は小当りであるか否かを判定する（A4110）。小当りフラグ2が小当りである場合に（A4110の結果が「Y」）、特図2小当り図柄テーブルを設定する（A4111）。そして、特図2小当り図柄テーブルを参照して、ロードした特図図柄乱数に対応する停止図柄番号を取得し、特図2停止図柄番号領域にセーブする（A4112）。この処理により特別結果の種類として特図2の小当り図柄が選択される。なお、特図2小当り図柄テーブルが特図1小当り図柄テーブルと異なれば、特図1と特図2の小当り図柄の振り分けが異なる。続いて、停止図柄番号に対応する停止図柄パターンを取得し、停止図柄パターン領域にセーブし（A4113）、停止図柄パターンに対応する演出モード移行情報をセーブし（A4114）、ステップA4117の処理に移行する。

10

【0496】

遊技制御装置100は、大当りフラグ2が大当りでなく（A4102の結果が「N」）、且つ、小当りフラグ2は小当りでない場合に（A4110の結果が「N」）、はずれ時の停止図柄番号を特図2停止図柄番号領域にセーブし（A4115）、はずれ停止図柄パターンを停止図柄パターン領域にセーブする（A4116）。その後、ステップA4117の処理に移行する。

【0497】

遊技制御装置100は、ステップA4109、A4114、A4116の後、停止図柄パターンに対応する飾り特図コマンドを準備し（A4117）、演出コマンドとして飾り特図コマンドを飾り特図コマンド領域にセーブする（A4118）。以上の処理により、特図2変動表示ゲームの結果に対応した停止図柄が設定される。

20

【0498】

その後、遊技制御装置100は、演出コマンド設定処理を実行する（A4119）。飾り特図コマンドは、演出制御装置300に送信される。

【0499】

次に、遊技制御装置100は、停止図柄番号に対応する図柄データを試験信号出力データ領域にセーブし（A4120）、特図2特図図柄乱数格納領域（保留数1用）を0クリアする（A4121）。その後、特図2停止図柄設定処理を終了する。なお、前述の図柄変動制御処理によって、停止図柄番号（或いは停止図柄パターン）に対応した停止図柄（大当り図柄、小当り図柄、時短図柄、はずれ図柄など）の停止表示が、特図2表示器52で実行される。

30

【0500】

このように、遊技制御装置100が、第1始動入賞口36での遊技球の検出に基づいて変動表示ゲームとして特図1変動表示ゲームを実行し、普通変動入賞装置37での遊技球の検出に基づいて変動表示ゲームとして特図2変動表示ゲームを実行する変動表示ゲーム実行手段をなす。また、遊技制御装置100が、判定手段（遊技制御装置100）による判定結果に基づき変動表示ゲームの実行を制御する変動表示ゲーム実行制御手段をなす。

【0501】

〔変動開始情報設定処理〕

次に、特図1変動開始処理及び特図2変動開始処理における変動開始情報設定処理（A3407、A3507）の詳細について説明する。図29は、変動開始情報設定処理の手順を示すフローチャートである。

40

【0502】

遊技制御装置100は、まず、対象の変動パターン乱数1～3の乱数格納領域をクリアする（A4601）。次に、前半変動時間値テーブルを設定し（A4602）、前半変動番号に対応する前半変動時間値を取得する（A4603）。さらに、後半変動時間値テーブルを設定し（A4604）、後半変動番号に対応する後半変動時間値を取得する（A4605）。

【0503】

50

そして、遊技制御装置 100 は、前半変動時間値と後半変動時間値を加算し (A 4 6 0 6)、加算値 (全変動時間値) を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする (A 4 6 0 7)。その後、前半変動番号に対応する変動コマンド (MODE) を準備し (A 4 6 0 8)、後半変動番号に対応する変動コマンド (ACTION) を演出コマンドとして準備して (A 4 6 0 9)、演出コマンド設定処理を行う (A 4 6 1 0)。次に、開始する変動の図柄 (特図 1 又は特図 2) を示す変動図柄判別フラグに対応する特図保留数を -1 更新して (A 4 6 1 1)、変動図柄判別フラグに対応する乱数格納領域のアドレスを設定する (A 4 6 1 2)。次いで、乱数格納領域をシフトし (A 4 6 1 3)、シフト後の空き領域をクリアして (A 4 6 1 4)、変動開始情報設定処理を終了する。

【0504】

以上の処理により、特図変動表示ゲームの開始に関する情報が設定される。すなわち、遊技制御装置 100 が、始動記憶手段 (遊技制御装置 100) に記憶された各種の乱数値の判定を行う判定手段をなす。また、遊技制御装置 100 が、始動記憶の判定情報に基づいて、変動表示ゲームで実行する識別情報の変動パターンを決定することが可能な変動パターン決定手段をなす。

【0505】

そして、これらの特図変動表示ゲームの開始に関する情報は後に演出制御装置 300 に送信され、演出制御装置 300 では、特図変動表示ゲームの開始に関する情報の受信に基づき、決定された変動パターンに応じて飾り特図変動表示ゲームでの詳細な演出内容を設定する。これらの特図変動表示ゲームの開始に関する情報としては、始動記憶数 (保留数) に関する情報を含む飾り特図保留数コマンド、停止図柄に関する情報を含む飾り特図コマンド、特図変動表示ゲームの変動パターンに関する情報を含む変動コマンドが挙げられ、この順でコマンドが演出制御装置 300 に送信される。特に、飾り特図コマンドを変動コマンドよりも先に送信することで、演出制御装置 300 での処理を効率よく進めることができる。

【0506】

〔特図変動中処理〕

次に、特図ゲーム処理における特図変動中処理 (A 2 6 1 0) の詳細について説明する。図 30 は、特図変動中処理の手順を示すフローチャートである。

【0507】

遊技制御装置 100 は、まず、変動図柄判別フラグ (特図 1 変動フラグ又は特図 2 変動フラグ) に対応する図柄停止コマンド (特図 1 図柄停止コマンド又は特図 2 図柄停止コマンド) を演出コマンドとして準備し (A 4 7 0 1)、演出コマンド設定処理を実行する (A 4 7 0 2)。変動図柄判別フラグは、開始する変動の図柄 (特図 1 又は特図 2) を示し、開始した特図変動表示ゲームが特図 1 変動表示ゲームであるか特図 2 変動表示ゲームであるかを判別する。図柄停止コマンドを受信した演出制御装置 300 は、対応する飾り特図変動表示ゲーム (飾り特図 1 変動表示ゲーム又は飾り特図 2 変動表示ゲーム) を停止する。

【0508】

次に、遊技制御装置 100 は、停止図柄パターンを示す停止図柄パターン番号に対応する停止表示時間 (表示時間) を設定して (A 4 7 0 3)、設定した停止表示時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする (A 4 7 0 4)。本実施形態の場合、停止図柄パターンがはずれ図柄パターン、大当り図柄パターン、小当り図柄パターン、サポ当り図柄パターンである場合に、停止表示時間として共通に 600 msec を設定する。停止表示時間が共通であるため制御が簡単になり、遊技制御用プログラムのプログラム容量が削減できる。

【0509】

その後、遊技制御装置 100 は、演出モードがサポモード B 中 (時短モード #1 B 中) であるか否かを判定する (A 4 7 0 5)。サポモード B 中でない場合に (A 4 7 0 5 の結果が「N」)、即ち、サポモード B 以外の演出モード (時短モード以外も含む) である場

10

20

30

40

50

合に、時短の終了を判定する時短終了判定処理を実行し（A 4 7 0 6）、ステップ A 4 7 0 7 の処理に移行する。演出モードがサポモード B 中である場合に（A 4 7 0 5 の結果が「Y」）、時短の終了を判定する時短終了判定処理を実行することなく、ステップ A 4 7 0 7 の処理に移行する。

【0510】

従って、サポモード B 中では、特図変動中処理の実行時、即ち、特図変動表示ゲームの変動終了の際（停止図柄の表示開始直前又は表示開始の際）に、時短の終了（即ち普電サポートの終了）が設定されることはない。しかし、サポモード B 以外の演出モード中では、特図変動中処理の実行時に時短の終了（普電サポートの終了）が設定される可能性がある。なお、後述のように、サポモード B 以外の演出モードとして、普電サポートのあるサポモード A（時短モード # 1 A）、時短モード # 3、時短モード # 4 や、普電サポートのないサポなしモードとしての通常モード、残保留消化モードなどがある。

10

【0511】

なお、サポモード A（時短モード # 1 A）、サポモード B（時短モード # 1 B）、時短モード # 3、時短モード # 4 は、後述のように時短回数が互いに異なる時短状態となる。

【0512】

なお、ステップ A 4 7 0 5 で、サポモード B 中であり且つ特図 2 小当りであるか否かを判定して、サポモード B 以外の演出モードであるか又は特図 2 小当りでない場合にのみ、時短終了判定処理を実行してもよい。このようにすると、サポモード B 以外の演出モードであるか又は特図 2 小当りでない場合に、特図変動中処理の実行時、即ち、特図変動表示ゲームの変動終了の際に、時短の終了（普電サポートの終了）が設定可能となる。

20

【0513】

次いで、遊技制御装置 1 0 0 は、特図表示中処理に係る処理番号「2」を設定し（A 4 7 0 7）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A 4 7 0 8）。

【0514】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 の変動終了に関する信号（特別図柄 1 変動中信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブし（A 4 7 0 9）、さらに、特図 2 の変動終了に関する信号（特別図柄 2 変動中信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 4 7 1 0）。

【0515】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、特図変動表示ゲームの実行回数に係る図柄確定回数信号を外部情報端子に出力する際に使用する図柄確定回数信号制御タイマ領域に制御タイマ初期値（例えば 2 5 6 m s e c）をセーブする（A 4 7 1 1）。

30

【0516】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、特図 1 表示器 5 1 における特図 1 変動表示ゲームの制御用の情報として、特図 1 表示器 5 1 での変動停止に係る停止フラグを特図 1 変動制御フラグ領域にセーブする（A 4 7 1 2）。さらに、特図 2 表示器 5 2 における特図 2 変動表示ゲームの制御用の情報として、特図 2 表示器 5 2 での変動停止に係る停止フラグを特図 2 変動制御フラグ領域にセーブし（A 4 7 1 3）、特図変動中処理移行設定処理を終了する。

40

【0517】

〔時短終了判定処理〕

次に、特図変動中処理における時短終了判定処理（A 4 7 0 6）の詳細について説明する。図 3 1 は、時短終了判定処理の手順を示すフローチャートである。なお、サポモード B 中でない場合に特図変動中処理において時短終了判定処理が実行されるが、後述のように、サポモード B 中の場合には特図表示中処理において時短終了判定処理（A 5 1 3 7）が実行される。

【0518】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、普電サポート中（時短状態中）であるか否か判定する（A 4 8 0 1）。普電サポート中でない場合（A 4 8 0 1 の結果が「N」）、時短終了設定

50

処理を実行することなく演出モード情報チェック処理を実行する（A 4 8 0 9）。普電サポート中である場合（A 4 8 0 1の結果が「Y」）、特図1変動表示ゲームの変動であるか否か判定する（A 4 8 0 2）。特図1変動表示ゲームの変動である場合（A 4 8 0 2の結果が「Y」）、ステップA 4 8 0 6の処理に移行する。

【0 5 1 9】

遊技制御装置100は、特図2変動表示ゲームの変動である場合（A 4 8 0 2の結果が「N」）、特図2変動表示ゲームが小当り結果（特図2小当り）であるか否かを判定する（A 4 8 0 3）。小当りフラグ2が小当りであれば小当り結果であると判定できる。特図2変動表示ゲームが小当り結果である場合に（A 4 8 0 3の結果が「Y」）、時短の終了を設定する時短終了設定処理を実行する（A 4 8 0 8）。 10

【0 5 2 0】

従って、サポモードB以外の時短モードの場合に、特図2小当りであれば、特図変動中処理の実行時に、即ち、特図2変動表示ゲームの変動が終了（停止）する際に、時短の終了（普電サポートの終了）が設定されることになる（図49A参照）。なお、後述のように、サポモードBの時短モードの場合に、特図2小当りであれば、特図表示中処理の実行時に、即ち、小当り図柄の停止表示終了の際（停止表示時間の終了の際、小当りファンファーレ直前又は小当りファンファーレの開始の際）に、時短の終了（普電サポートの終了）が設定されることになる（図49A参照）。 20

【0 5 2 1】

遊技制御装置100は、特図2変動表示ゲームが小当り結果でない場合に（A 4 8 0 3の結果が「N」）、時間短縮変動回数2を-1更新（1だけ減少）して（A 4 8 0 4）、時間短縮変動回数2が0であるか否か判定する（A 4 8 0 5）。時間短縮変動回数2が0である場合（A 4 8 0 5の結果が「Y」）、時短の終了を設定する時短終了設定処理を実行する（A 4 8 0 8）。時間短縮変動回数2は、後述の時短回数の残り回数に相当する。 30

【0 5 2 2】

遊技制御装置100は、時間短縮変動回数2が0でない場合（A 4 8 0 5の結果が「N」）、時間短縮変動回数1を-1更新（1だけ減少）して（A 4 8 0 6）、時間短縮変動回数1が0であるか否か判定する（A 4 8 0 7）。時間短縮変動回数1が0でない場合（A 4 8 0 7の結果が「N」）、ステップA 4 8 0 9の処理に移行する。一方、時間短縮変動回数1が0である場合（A 4 8 0 7の結果が「Y」）、時短の終了を設定する時短終了設定処理を実行する（A 4 8 0 8）。その後、後述の演出モード情報チェック処理を実行する（A 4 8 0 9）。時間短縮変動回数1は、後述の合計時短回数の残り回数に相当する。 40

【0 5 2 3】

このように、特図2変動表示ゲームが小当り結果（特図2小当り）である場合に、時短（時短モード、時短状態）が終了し普電サポートも終了する。なお、特図1変動表示ゲームが小当り結果（特図1小当り）である場合には、時間短縮変動回数1が0になる特殊な場合を除いて、時短終了判定処理では時短が終了しない（A 4 8 0 2の結果が「Y」）が、小当り中のV入賞時に時短が終了する（特定領域スイッチ監視処理のA 3 2 1 5、A 3 2 1 7）。後述のように、特図1小当りではV入賞が発生し難いため、基本的には、特図1小当りでは時短は終了しない（小当り状態中も時短が継続する）が、特図2小当りでは時短が終了することになる。なお、特図1小当りの場合に、時短終了判定処理において時短が終了する構成も可能である。 50

【0 5 2 4】

また、時短（時短モード、時短状態）の開始から特図2変動表示ゲームが第1所定回数だけ実行された場合、即ち、特図2変動表示ゲームの実行ゲーム回数が第1所定回数になった場合に、時間短縮変動回数2が0になって、時短が終了し普電サポートも終了する。ここで、第1所定回数は、時間短縮変動回数2の初期値としての時短回数（例えば7回、30回、200回等）である。

【0 5 2 5】

また、時短の開始から特図変動表示ゲーム（特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲーム）が第 2 所定回数だけ実行された場合、即ち、特図変動表示ゲームの実行ゲーム回数が第 2 所定回数になった場合に、時間短縮変動回数 1 が 0 になって、時短が終了し普電サポートも終了する。ここで、第 2 所定回数は、時間短縮変動回数 1 の初期値としての合計時短回数であって、時短終了までに実行される特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームの合計回数であり、第 1 所定回数に 4 を加算した値（例えば 11 回、34 回、204 回等）である。

【0526】

まとめると、時短終了判定処理において、時短の終了が設定される時短終了条件は、時間短縮変動回数 1 或いは時間短縮変動回数 2 が 0 になること、又は、特図 2 変動表示ゲームが小当り結果であること（特図 2 小当り）である。

10

【0527】

なお、時短中の特図 1 変動表示ゲームの小当り結果（特図 1 小当り）では、小当り中に V 入賞があれば時短の終了が設定されるが、小当り中に V 入賞がなければ時短の終了を設定せず小当り後に時短での変動表示ゲームが再開する。また、特図 1 変動表示ゲーム又は特図 2 変動表示ゲームが直撃大当り（即ち V 入賞によるものではない大当り）である場合は、大当り図柄の停止表示終了の際（即ち、停止表示時間の終了の際、大当りファンファーレ直前又は大当りファンファーレの開始の際）に時短の終了が設定される（図 35、図 49B 参照）。

【0528】

20

なお、時間短縮変動回数 1 又は時間短縮変動回数 2 が 0 になって時短が終了となる特図変動表示ゲーム（先の特図変動表示ゲーム）がちょうど天井回数に達した場合や時短図柄で停止した場合に次回の特図変動表示ゲームから新たに時短が開始することがある。しかし、サポモード B 以外の演出モードでは、特図変動表示ゲームの変動が終了（停止）する際に、時短が一旦終了したことが明確になる。加えて、サポモード B 以外の演出モードでは、外部情報（大当り 2 信号など）や試験信号（変動時間短縮状態信号など）の出力が、停止結果（停止図柄）の停止表示時間の分だけオフ状態となることにより、時短が再開した場合に、外部情報や試験信号の出力のオン状態が、明確に識別できる。

【0529】

〔時短終了設定処理〕

30

次に、特図変動中処理における時短終了設定処理（A4808）の詳細について説明する。図 32 は、時短終了設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0530】

遊技制御装置 100 は、まず、時短終了に関する信号を RWM の外部情報出力データ領域にセーブする（A4901）。ここで、時短終了に関する信号は、大当り 2 信号のオフデータである。これにより、時短終了に関する信号が外部情報として外部情報端子 71 を介して外部装置（ホールコンピュータなど）に出力される。

【0531】

なお、通常遊技状態において、普電サポートがないため、基本的に普通変動入賞装置 37 への入賞はなく第 2 始動記憶は発生しない。このため、時短終了の時点で第 2 始動記憶（特図 2 始動記憶、特図 2 保留）が残保留として残っている場合に、大当り 2 信号のオンデータの出力を継続し（このようにしても不都合が生じない）、最後の残保留に係る特図変動表示ゲームの変動表示が停止するときに、大当り 2 信号のオフデータ（時短終了に関する信号）を外部装置に出力する。

40

【0532】

次に、遊技制御装置 100 は、時短終了に関する信号を RWM の試験信号出力データ領域にセーブする（A4902）。これにより、時短終了に関する信号が、試験信号として試験装置に出力される。ここでの時短終了に関する信号は、例えば、特別図柄 1 変動時間短縮状態信号のオフデータ、特別図柄 2 変動時間短縮状態信号のオフデータ、普通電動役物 1 開放延長状態信号のオフデータである。そして、RWM の遊技状態表示番号領域

50

に時短なしの番号をセーブし（A 4 9 0 3）、RWMの普図ゲームモードフラグ領域に普図サポなしフラグをセーブし（A 4 9 0 4）、RWMの特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率&時短なしフラグをセーブする（A 4 9 0 5）。以上により時短状態（普電サポート状態）が終了する。

【0533】

続いて、遊技制御装置100は、時間短縮変動回数1が格納されるRWMの時間短縮変動回数1領域をクリアし（A 4 9 0 6）、時間短縮変動回数2が格納されるRWMの時間短縮変動回数2領域をクリアする（A 4 9 0 7）。そして、左打ち指示に関する信号をRWMの試験信号出力データ領域にセーブし（A 4 9 0 8）、RWMの遊技状態表示番号2領域に左打ち状態中の番号をセーブする（A 4 9 0 9）。 10

【0534】

その後、RWMの通常ベース状態判定領域に通常ベース状態情報をセーブする（A 4 9 1 0）。ここで、通常ベース状態情報は、ベース値（通常遊技状態における出玉率）を算出する期間である通常遊技状態を示す値である。その後、時短終了設定処理を終了する。

【0535】

このように、時短終了設定処理が実行されることで、時短状態（特図低確率且つ普電サポートありの状態）から適切に通常遊技状態（特図低確率且つ普電サポートなしの状態）へ移行させることができる。

【0536】

〔演出モード情報チェック処理〕 20

次に、特図変動中処理における演出モード情報チェック処理（A 4 8 0 9）の詳細について説明する。図33は、演出モード情報チェック処理の手順を示すフローチャートである。

【0537】

遊技制御装置100は、まず、次モード移行情報が更新なしコードであるか否かを判定する（A 5 0 0 1）。次モード移行情報が更新なしコードである場合（A 5 0 0 1の結果が「Y」）は、演出モード情報チェック処理を終了する。この場合は、実行した特図変動表示ゲームの回数に応じた演出モードの変更が行われない場合であって、例えば次の大当たりまで継続する演出モードが選択されている場合である。

【0538】

また、遊技制御装置100は、次モード移行情報が更新なしコードでない場合（A 5 0 0 1の結果が「N」）は、演出モードの変更までの特図変動表示ゲームの実行可能回数である演出残り回転数を-1更新し（A 5 0 0 2）、演出残り回転数が0となったか否かを判定する（A 5 0 0 3）。ここで、演出残り回転数は、今回実行したのが主となる特図変動表示ゲームである場合にのみ、-1更新されるが、主ではない変動表示ゲームである場合も-1更新される構成も可能である。

【0539】

遊技状態等に応じて、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームのうち一方の変動表示ゲームが、主となる変動表示ゲームとして定められている。例えば、主となる変動表示ゲーム（主変動表示ゲーム）は、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームのうち 40
頻繁に実行される方であり、主ではない変動表示ゲーム（従変動表示ゲーム）は、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームのうち頻繁には実行されない方である。なお、遊技制御装置100及び／又は演出制御装置300は、遊技状態等に応じて、主となる変動表示ゲームを示す情報（特図1又は特図2）を記憶してもよい。

【0540】

演出残り回転数が0となっていない場合（A 5 0 0 3の結果が「N」）には、演出モード情報チェック処理を終了する。また、演出残り回転数が0となった場合（A 5 0 0 3の結果が「Y」）、すなわち次の特図変動表示ゲームから演出モードを移行する場合は、演出モード情報アドレステーブルを設定し（A 5 0 0 4）、次モード移行情報に対応するテーブルのアドレスを取得する（A 5 0 0 5）。 50

【0541】

そして、遊技制御装置100は、移行する演出モードの演出モード番号を取得し、RWM内の演出モード番号領域にセーブして(A5006)、移行する演出モードの演出残り回転数(初期値)を取得し、RWM内の演出残り回転数領域にセーブして(A5007)、移行する演出モードの次モード移行情報を取得し、RWM内の次モード移行情報領域にセーブする(A5008)。

【0542】

なお、時短状態の終了(時間短縮変動回数1又は2=0)によって演出モードを移行する場合には、移行する演出モードの演出残り回転数(初期値)を規定の残保留数(例えば4)に設定してよい。残保留数とは、時短状態終了後に消化される特図2保留(残保留)の数であり、時短終了後の特図2変動回数である。残保留は、時短状態中の普図当りによって開放される普通変動入賞装置37への入賞によって生じる。このようにして、残保留(特図2保留、特図2始動記憶)の消化中に対応する演出モードとして残保留消化モードを設定できる。

【0543】

その後、遊技制御装置100は、新たに設定された演出モード番号に対応する確率情報コマンド(確率状態の情報と時短の有無の情報と演出モードの情報を含む)を演出コマンドとして準備し(A5009)、準備した確率情報コマンドが停電復旧時送信コマンド領域の値と一致するか否かを判定する(A5010)。準備した確率情報コマンドが停電復旧時送信コマンド領域の値と一致する場合(A5010の結果が「Y」)、すなわち確率情報コマンドが変化していない場合には、演出モード情報チェック処理を終了する。

【0544】

また、準備した確率情報コマンドが停電復旧時送信コマンド領域の値と一致しない場合(A5010の結果が「N」)には、準備した確率情報コマンドを停電復旧時送信コマンド領域にセーブして(A5011)、確率情報コマンドを演出コマンドとして設定する演出コマンド設定処理を実行する(A5012)。

【0545】

次いで、遊技制御装置100は、演出残り回転数に対応する演出回転数コマンドを演出コマンドとして準備して(A5013)、演出コマンド設定処理を実行する(A5014)。これにより、演出制御装置300は、演出残り回転数を取得できる。次に、時間短縮変動回数2に対応する時間短縮変動回数コマンドを演出コマンドとして準備して(A5015)、演出コマンド設定処理(A5016)を実行する。これにより、演出制御装置300は、時間短縮変動回数2を取得できる。なお、遊技制御装置100は、同様に、時間短縮変動回数1も演出コマンドとして準備して、演出コマンド設定処理を実行してよい。

【0546】

次いで、遊技制御装置100は、ステップA5006で新たな演出モード番号が取得された場合に、新たな演出モードは左打ちするモードであるか否かを判定し(A5017)、左打ちするモードでない場合(A5017の結果が「N」)には、演出モード情報チェック処理を終了する。また、左打ちするモードである場合(A5017の結果が「Y」)には、左打ち指示報知コマンドを演出コマンドとして準備し(A5018)、演出コマンド設定処理を実行して(A5019)、演出モード情報チェック処理を終了する。

【0547】

なお、上記において、さらに、演出残り回転数が0であるか否かの判定結果(A5003)によらず、更新された演出残り回転数(A5002)に対応する演出回転数コマンドと更新された時間短縮変動回数1, 2(A4804、A4806)に対応する時間短縮変動回数コマンドも演出コマンドとして準備して、演出コマンド設定処理を実行してもよい。

【0548】

〔特図表示中処理〕

次に、特図ゲーム処理における特図表示中処理(A2611)の詳細について説明する

10

20

30

40

50

。図 3 4 は、特図表示中処理の手順を示すフローチャートである。図 3 4 A は、特図表示中処理の前半部分を示し、図 3 4 B は、特図表示中処理の後半部分を示す。

【0549】

遊技制御装置 100 は、まず、サポ当りフラグ 1 とサポ当りフラグ 2 をロードして (A 5 1 0 1)、RWM のサポ当りフラグ 1 領域及びサポ当りフラグ 2 領域をクリアする (A 5 1 0 2)。続いて、小当りフラグ 1 と小当りフラグ 2 をロードして (A 5 1 0 3)、RWM の小当りフラグ 1 領域及び小当りフラグ 2 領域をクリアする (A 5 1 0 4)。続いて、大当りフラグ 1 と大当りフラグ 2 をロードして (A 5 1 0 5)、RWM の大当りフラグ 1 領域及び大当りフラグ 2 領域をクリアする (A 5 1 0 6)。

【0550】

そして、遊技制御装置 100 は、ロードされた大当りフラグ 2 が大当りか否かを判定して (A 5 1 0 7)、大当りである場合 (A 5 1 0 7 の結果が「Y」)、第 2 特図変動表示ゲームの大当り (特図 2 大当り) の開始に関する試験信号 (例えば、条件装置作動中信号をオン、役物連続作動装置作動中信号をオン、特別図柄 2 当り信号をオン) を RWM の試験信号出力データ領域にセーブして (A 5 1 1 0)、特図ゲームモードフラグをロードし、ロードしたフラグを特図ゲームモードフラグ退避領域にセーブする (A 5 1 1 1)。

【0551】

一方、遊技制御装置 100 は、大当りフラグ 2 のチェックの結果、大当りでない場合 (A 5 1 0 7 の結果が「N」)、ロードされた大当りフラグ 1 が大当りか否かを判定して (A 5 1 0 8)、大当りである場合 (A 5 1 0 8 の結果が「Y」)、第 1 特図変動表示ゲームの大当り (特図 1 大当り) の開始に関する試験信号 (例えば、条件装置作動中信号をオン、役物連続作動装置作動中信号をオン、特別図柄 1 当り信号をオン) を RWM の試験信号出力データ領域にセーブし (A 5 1 0 9)、特図ゲームモードフラグをロードし、ロードしたフラグを特図ゲームモードフラグ退避領域にセーブする (A 5 1 1 1)。

【0552】

その後、遊技制御装置 100 は、ラウンド数上限値テーブルを設定し (A 5 1 1 2)、ラウンド数上限値テーブルに基づいて、ラウンド数上限値情報 (A 4 0 0 7、A 4 1 0 7) に対応するラウンド数上限値 (例えば、3、10) を取得し、RWM のラウンド数上限値領域にセーブする (A 5 1 1 3)。ラウンド数上限値情報は、特図 1 停止図柄設定処理又は特図 2 停止図柄設定処理で取得され、大当りの停止図柄番号に対応する。このため、ラウンド数上限値は、大当り図柄 (大当りの停止図柄番号) に応じて異なることになる。続けて、ラウンド数上限値情報に対応するラウンド LED ポインタを取得し、RWM のラウンド LED ポインタ領域にセーブする (A 5 1 1 4)。

【0553】

次に、遊技制御装置 100 は、停止図柄パターンに対応した飾り特図コマンドを RWM の飾り特図コマンド領域からロードし、演出コマンドとして準備して (A 5 1 1 5)、演出コマンド設定処理を実行する (A 5 1 1 6)。その後、特図変動表示ゲームにて当り結果となる確率を通常確率状態 (低確率状態) とするとともに時短なし (普電サポートなし) とする情報に係る確率情報コマンドを演出コマンドとして準備して (A 5 1 1 7)、演出コマンド設定処理を実行する (A 5 1 1 8)。続けて、ラウンド数上限値に対応するファンファーレコマンドを演出コマンドとして準備して (A 5 1 1 9)、演出コマンド設定処理を実行する (A 5 1 2 0)。

【0554】

次に、遊技制御装置 100 は、大当りの開始に関する信号を RWM の外部情報出力データ領域にセーブする (A 5 1 2 1)。本実施形態では、大当り 1 信号は、大当り又は特図 2 の小当りの開始時にオンし、大当り又は特図 2 の小当りの終了時にオフする。大当り 2 信号は、大当り又は特図 2 の小当りの開始時にオンし、大当り後に時短状態にならなければ大当り又は特図 2 の小当りの終了時にオフする。さらに、大当り 2 信号は、時短の開始時にオンし残保留消化モードの終了時 (最後の残保留に係る変動表示ゲームの停止時) にオフする。大当り 3 信号は、大当り又は特図 2 の小当りの開始時にオンし、大当り又は特

10

20

30

40

50

図 2 の小当りの終了時にオフする。なお、大当りの開始に関する信号（大当り 1 信号、大当り 2 信号、大当り 3 信号等のオンオフ）は、機種により定義されてよい。

【0555】

その後、遊技制御装置 100 は、停止図柄パターンと演出モードに対応する大当りファンファーレ時間を設定して（A5119）、設定した大当りファンファーレ時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A5123）。

【0556】

そして、遊技制御装置 100 は、大入賞口不正入賞数領域をクリアし（A5124）、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間外フラグをセーブする（A5125）。その後、ファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理 1 を実行し（A5126）、特図表示中処理を終了する。

10

【0557】

遊技制御装置 100 は、大当りフラグ 1, 2 が大当りでない場合に（A5107 と A5108 の結果が「N」）、特図変動表示ゲームの実行された回数が天井回数（時短天井）に到達したことを示す天井到達済みフラグがあるか否かを判定する（A5127）。天井到達済みフラグがない場合に（A5127 の結果が「N」）、RWM の天井カウンタ領域の天井カウンタ値を +1 更新（1 だけ増加）する（A5128）。そして、確変状態以外の状態で特図変動表示ゲーム（特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームを含む）の実行された回数を示す天井カウンタ値が天井回数に到達したか否かを判定する（A5129）。例えば、天井回数は、500 回や 800 回である。天井回数に到達した場合（A5129 の結果が「Y」）、天井時短が発生することを示す天井時短発動フラグと、天井回数に到達したことを示す天井到達済みフラグをセット（オン）する（A5130）。また、本実施形態では確変状態が存在しないが、確変状態が存在する機種では、特図高確率中（確変状態中）でない場合に限り、ステップ A5128 における天井カウンタ値の +1 更新処理を実行する。その後、小当りフラグ 2 が小当りか否かを判定する（A5131）。

20

【0558】

なお、天井到達済みフラグは、大当りが発生するとクリアされるが、大当りが発生しない限りクリアされない。従って、一旦天井回数に到達した後、大当りしないまま時短回数が終了してしまうと、天井到達済みフラグがセット（オン）されたままであるため、以降、天井時短は発生しないことになるし、天井カウンタ値も更新されない。

30

【0559】

一方、遊技制御装置 100 は、天井到達済みフラグがある場合（A5127 の結果が「Y」）、天井回数に到達していない場合（A5129 の結果が「N」）、小当りフラグ 2 が小当りか否かを判定する（A5131）。

【0560】

遊技制御装置 100 は、小当りフラグ 2 は小当りである場合に（A5131 の結果が「Y」）、特図 2 小当りの開始に関する信号（特別図柄 2 小当り信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブし（A5134）、特図ゲームモードフラグ領域の値をロードし、特図ゲームモードフラグ退避領域にセーブする（A5135）。

【0561】

40

遊技制御装置 100 は、小当りフラグ 2 は小当りでない場合に（A5131 の結果が「Y」）、小当りフラグ 1 が小当りか否かを判定する（A5132）。小当りフラグ 1 は小当りである場合に（A5132 の結果が「Y」）、特図 1 小当りの開始に関する信号（特別図柄 1 小当り信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブし（A5133）、特図ゲームモードフラグ領域の値をロードし、特図ゲームモードフラグ退避領域にセーブする（A5135）。

【0562】

次に、遊技制御装置 100 は、演出モードがサポモード B 中（時短モード #1 B 中）であるか否かを判定する（A5136）。サポモード B 中である場合に（A5136 の結果が「Y」）、即ち、サポモード B 中に小当り結果となる場合に、時短の終了を判定する時

50

短終了判定処理（A 5 1 3 7）を実行し、ステップ A 5 1 3 8 の処理に移行する。サポモード B 中でない場合に（A 5 1 3 6 の結果が「N」）、即ち、サポモード B 以外の演出モードで小当り結果となる場合に、時短終了判定処理を実行することなく、ステップ A 5 1 3 8 の処理に移行する。

【0 5 6 3】

従って、サポモード B 中で特図 2 変動表示ゲームが小当り（特図 2 小当り）となる場合は、特図表示中処理の実行時に、即ち、小当り図柄の停止表示終了の際（停止表示時間の終了の際、小当りファンファーレ直前又は小当りファンファーレの開始の際）に、時短の終了（普電サポートの終了）が設定されることになる（図 4 9 A 参照）。なお、サポモード B 中でも特図 1 変動表示ゲームが小当り（特図 1 小当り）となる場合には、時短終了判定処理（A 5 1 3 7）では時短が終了しないことがある（A 4 8 0 2 の結果が「Y」）が、少なくとも小当り中の V 入賞時には時短が終了する（特定領域スイッチ監視処理の A 3 2 1 5、A 3 2 1 7）。なお、特図 1 小当りの場合に、時短終了判定処理において時短（普電サポート）が必ず終了する構成も可能である。

【0 5 6 4】

また、前述のように、サポモード B 以外の演出モード中（例えばサポモード A 中）で特図 2 小当りとなる場合では、特図変動中処理の実行時に、即ち、特図 2 変動表示ゲームの変動が終了する際に、時短の終了が設定されることになる（図 4 9 A 参照）。

【0 5 6 5】

このように、時短の終了する終了タイミングは、サポモード B と、サポモード B 以外の時短モードと、で異なっており、サポモード B でサポモード B 以外よりも遅くなる。

【0 5 6 6】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、飾り特図コマンド領域から飾り特図コマンドを演出コマンドとしてロードし、準備し（A 5 1 3 8）、演出コマンド設定処理を実行する（A 5 1 3 9）。そして、小当りファンファーレコマンドを演出コマンドとして準備し（A 5 1 4 0）、演出コマンド設定処理を実行する（A 5 1 4 1）。その後、小当りファンファーレ中処理移行設定処理を実行して（A 5 1 4 2）、特図表示中処理を終了する。

【0 5 6 7】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、小当りフラグ 1 と小当りフラグ 2 のいずれもが小当りでない場合、即ち、はずれの場合に（A 5 1 3 1 と A 5 1 3 2 の結果が「N」）、演出モードがサポモード B 中（時短モード # 1 B 中）であるか否かを判定する（A 5 1 4 3）。サポモード B 中である場合に（A 5 1 4 3 の結果が「Y」）、即ち、サポモード B 中にはずれの場合に、時短の終了を判定する時短終了判定処理（A 5 1 4 4）を実行し、ステップ A 5 1 4 5 の処理に移行する。サポモード B 中でない場合に（A 5 1 4 3 の結果が「N」）、即ちサポモード B 以外ではずれの場合に、時短終了判定処理を実行することなく、ステップ A 5 1 4 5 の処理に移行する。

【0 5 6 8】

従って、サポモード B 中で特図 1 変動表示ゲーム又は特図 2 変動表示ゲームがはずれとなる場合は、時短終了判定処理において時間短縮変動回数 1，2 に関する時短終了条件が成立すれば、特図表示中処理の実行時に、即ち、はずれ図柄の停止表示終了の際（停止表示時間の終了の際）に、時短の終了（普電サポートの終了）が設定される。

【0 5 6 9】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、天井時短が発生することを示す天井時短発動フラグがあるか否かを判定する（A 5 1 4 5）。天井時短発動フラグがある場合（A 5 1 4 5 の結果が「Y」）、天井時短回数（天井時短による時短回数）となる初期値を時間短縮変動回数 1 領域と時間短縮変動回数 2 領域にセーブする（A 5 1 4 6）。天井時短の場合の時間短縮変動回数 1 と時間短縮変動回数 2 の初期値（例えば 2 5 5 回と 2 5 1 回）は、ここでセーブされることになる。続いて、天井時短による時短状態が発生するためにサポ作動設定処理を実行し（A 5 1 5 0）、特図普段処理移行設定処理を実行し（A 5 1 5 1）、特図表示中処理を終了する。特図普段処理移行設定処理では、特図普段処理に係る処理番号「

10

20

30

40

50

0」を設定し特図ゲーム処理番号領域にセーブする。

【0570】

遊技制御装置100は、天井時短が発生することを示す天井時短発動フラグがない場合（A5145の結果が「N」）、サポ当りフラグ2はサポ当りであるか否かを判定する（A5147）。そして、サポ当りフラグ2はサポ当りでない場合（A5147の結果が「N」）、サポ当りフラグ1はサポ当りであるか否かを判定する（A5148）。

【0571】

遊技制御装置100は、サポ当りフラグ1とサポ当りフラグ2のいずれかがサポ当りである場合（A5147又はA5148の結果が「Y」）、時間短縮判定データに対応する初期値を時間短縮変動回数1領域と時間短縮変動回数2領域にセーブする（A5149）。サポ当り結果（突然時短）の場合の時間短縮変動回数1と時間短縮変動回数2の初期値（例えば34回と30回、或いは、14回と10回）は、ここでセーブされることになる。続いて、時短図柄による時短状態（突然時短）が発生するためにサポ作動設定処理を実行し（A5150）、特図普段処理移行設定処理を実行し（A5151）、特図表示中処理を終了する。

【0572】

なお、時間短縮判定データは、特図1停止図柄設定処理（A3403）や特図2停止図柄設定処理（A3503）において、停止図柄番号に対応して設定されるため、サポ当り結果の場合の初期値（即ち時短回数と合計時短回数）は、特図図柄乱数による抽選で決定されることになる。

【0573】

遊技制御装置100は、サポ当りフラグ1とサポ当りフラグ2の両方がサポ当りでない場合（A5147とA5148の結果が「N」）、時短を設定するサポ作動設定処理を実行せずに、特図普段処理移行設定処理を実行し（A5151）、特図表示中処理を終了する。

【0574】

以上のように、特図表示中処理において、天井時短と突然時短に関して、時短回数（即ち、時間短縮変動回数の初期値）の設定など、時短の設定が実行される。なお、大当りによる時短、即ち、大当り状態の終了から開始する時短に関しては、大当り終了処理において、時短回数の設定など、時短の設定が実行される。

【0575】

なお、特図表示中処理は、停止表示時間（A4704）が設定された特図ゲーム処理タイムが0になったときに実行されるため（A2605、A2611）、特図変動表示ゲームの停止結果（停止図柄）の表示が終了する際に実行されることになる。従って、特図変動表示ゲームの停止結果の表示が終了するとき（次の特図変動表示ゲームが開始するなら開始するときに略等しい）に、時間短縮変動回数（A5146、A5149）が設定され、天井時短と突然時短による時短状態が開始する。

【0576】

〔ファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理1〕

次に、特図表示中処理におけるファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理1（A5126）の詳細について説明する。図35は、ファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理1の手順を示すフローチャートである。

【0577】

遊技制御装置100は、まず、ファンファーレ／インターバル中処理に係る処理番号である「7」を設定し（A5301）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A5302）。

【0578】

次に、遊技制御装置100は、時短の終了に関する信号（例えば、特別図柄1変動時間短縮状態信号をオフ、特別図柄2変動時間短縮状態信号をオフ、普通電動役物1開放延長状態信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A5303）。なお、例えば

10

20

30

40

50

、時短状態中（普電サポート状態中）でも普電開放時間しか変化しない構成では、普通図柄1変動時間短縮状態信号及び普通図柄1高確率状態信号は常時オフされている。その後、特別遊技状態で実行したラウンド数を管理するためのラウンド数領域をクリアし（A5304）、遊技状態表示番号領域に時短なしの番号をセーブして（A5305）、普図ゲームモードフラグ領域に普図サポなしフラグをセーブする（A5306）。

【0579】

そして、遊技制御装置100は、変動図柄判別フラグ領域をクリアし（A5307）、特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率&時短なしフラグをセーブする（A5308）。次に、停電復旧時に演出制御装置300に出力されるコマンドをセーブする停電復旧時送信コマンド領域に確率情報コマンド（特図低確率&時短なし）をセーブする（A5309）。以上により時短状態（普電サポート状態）が終了する。

10

【0580】

次に、遊技制御装置100は、時間短縮変動回数1領域をクリアし（A5310）、時間短縮変動回数2領域をクリアし（A5311）、天井カウンタ領域をクリアし（A5312）、天井時短発動フラグ領域をクリアし（A5313）、天井到達済みフラグ領域をクリアする（A5314）。

【0581】

その後、遊技制御装置100は、演出モード番号領域に演出モード1の番号をセーブし（A5315）、演出残り回転数領域をクリアして（A5316）、次モード移行情報領域に更新なしコードをセーブする（A5317）。そして、右打ち指示に関する信号（例えば、発射位置指定信号1をオン）を試験信号出力データ領域にセーブし（A5318）、右打ち中の表示LED（第1遊技状態表示部57）を点灯させるため、遊技状態表示番号2領域に右打ち状態中の番号をセーブして（A5319）、通常ベース状態判定領域に通常ベース状態以外情報をセーブし（A5320）、ファンファーレ／インターバル中処理移行設定処理1を終了する。

20

【0582】

〔小当りファンファーレ中処理移行設定処理〕

次に、特図表示中処理における小当りファンファーレ中処理移行設定処理（A5134）の詳細について説明する。図36は、小当りファンファーレ中処理移行設定処理の手順を示すフローチャートである。

30

【0583】

遊技制御装置100は、まず、処理番号として小当りファンファーレ中処理にかかる「3」を設定して（A5401）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A5402）。

【0584】

次に、遊技制御装置100は、停止図柄パターンに対応する小当りファンファーレ時間（例えば特図1小当りで4000msec、特図2小当りで1000msec）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A5403）。次に、特図2小当りであるか否かを判定する（A5404）。特図2小当りである場合に（A5404の結果が「Y」）、小当り遊技の開始に関する信号（例えば、大当り1信号のオンデータ、大当り2信号のオンデータ、大当り3信号のオンデータ）を外部情報出力データ領域にセーブし（A5405）、ステップA5406の処理に移行し、特図2小当りでない場合に（A5404の結果が「N」）、何もせずにステップA5406の処理に移行する。

40

【0585】

次いで、遊技制御装置100は、右打ち指示に関する信号（発射位置指定信号1をオン）を試験信号出力データ領域にセーブし（A5406）、右打ち中の表示LED（第1遊技状態表示部57）を点灯させるため、遊技状態表示番号2領域に右打ち状態中の番号をセーブして（A5407）、小当りファンファーレ中処理移行設定処理を終了する。

【0586】

〔サポ作動設定処理〕

50

次に、特図表示中処理におけるサポ作動設定処理（A 5 1 5 0）の詳細について説明する。図 3 7 は、サポ作動設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0 5 8 7】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、時短開始に関する信号を外部情報出力データ領域にセーブする（A 5 5 0 1）。これにより、天井回数到達による天井時短と時短図柄（サポ当り）による突然時短の開始時に、時短開始に関する信号が外部情報として外部情報端子 7 1 ひいては外部装置（ホールコンピュータなど）に出力される。ここで、時短開始に関する信号は、大当たり 2 信号と大当たり 4 信号のオンデータである。このように、天井時短（特定遊技状態 B）と突然時短（特定遊技状態 C）の開始時には、大当たり 4 信号が特別に外部情報として送信される。なお、後述のように大当たりに伴う時短（特定遊技状態 A、サポモード A、B）の開始時には、大当たり 4 信号は外部情報として送信されないため、外部装置で時短状態の種類（大当たりに伴う時短とそれ以外の時短）を区別可能となる利点がある。

10

【0 5 8 8】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、時短開始に関する信号を試験信号出力データ領域にセーブする（A 5 5 0 2）。これにより、天井時短と突然時短の開始時に、時短開始に関する信号が試験信号として試射試験装置に出力される。ここでの時短開始に関する信号は、例えば、特別図柄 1 変動時間短縮状態信号のオンデータ、特別図柄 2 変動時間短縮状態信号のオンデータ、普通電動役物 1 開放延長状態信号のオンデータである。そして、遊技状態表示番号領域に時短ありの番号をセーブし（A 5 5 0 3）、普図ゲームモードフラグ領域に普図サポありフラグをセーブし（A 5 5 0 4）、特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率 & 時短ありフラグを合成する（A 5 5 0 5）。続いて、右打ち指示に関する信号を試験信号出力データ領域にセーブし（A 5 5 0 6）、遊技状態表示番号 2 領域に右打ち状態中の番号をセーブする（A 5 5 0 7）。

20

【0 5 8 9】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、演出モード情報アドレステーブルを設定し（A 5 5 0 8）、特図 1 停止図柄設定処理（A 3 4 0 3）又は特図 2 停止図柄設定処理（A 3 5 0 3）などで設定した演出モード移行情報に対応するテーブルのアドレスを取得し（A 5 5 0 9）、演出モードの演出モード番号（演出モードの番号）をテーブルに基づいて取得してセーブする（A 5 5 1 0）。これにより、天井時短と突然時短の開始時に移行する演出モードが選択できる。

30

【0 5 9 0】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、演出モードの演出残り回転数（初期値）をテーブルに基づいて取得してセーブする（A 5 5 1 1）。例えば、演出残り回転数（初期値）は、時短回数（時間短縮変動回数 1 又は時間短縮変動回数 2 の初期値）である。これにより、例えば、時短が終了するまで同一の演出モードが継続できる。

【0 5 9 1】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、天井時短中又は突然時短中の演出モードの次のモードへの移行の情報である次モード移行情報をテーブルに基づいて取得してセーブする（A 5 5 1 2）。そして、特図ゲームモードフラグと今回新たに設定された演出モード番号に対応する確率情報コマンドを演出コマンドとして準備し（A 5 5 1 3）、準備した確率情報コマンドを停電復旧時送信コマンド領域にセーブし（A 5 5 1 4）、確率情報コマンドを演出コマンドとして設定する演出コマンド設定処理を実行する（A 5 5 1 5）。ここで、確率情報コマンドには、確率状態、時短（普電サポート）の有無、演出モードの情報が含まれる。

40

【0 5 9 2】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、演出残り回転数に対応する演出回転数コマンドを演出コマンドとして準備し（A 5 5 1 6）、演出コマンド設定処理を実行する（A 5 5 1 7）。そして、時間短縮変動回数 1 と時間短縮変動回数 2（ここでは初期値である時短回数と合計時短回数）のそれぞれに対応する時間短縮変動回数コマンドを演出コマンドとして準備し（A 5 5 1 8）、演出コマンド設定処理を実行する（A 5 5 1 9）。

50

【0593】

その後、遊技制御装置100は、時間短縮判定データ領域をクリアし（A5520）、演出モード移行情報領域をクリアし（A5521）、通常ベース状態判定領域に通常ベース状態以外情報をセーブし（A5522）、サポ作動設定処理を終了する。また、ここで、天井時短が発動したため天井時短発動フラグが格納される天井時短発動フラグ領域をクリアしてもよい。

【0594】

〔特図普段処理移行設定処理〕

次に、特図表示中処理における特図普段処理移行設定処理（A5151）の詳細について説明する。図38は、特図普段処理移行設定処理の手順を示すフローチャートである。

10

【0595】

遊技制御装置100は、まず、処理番号として特図普段処理に係る「0」を設定し（A5601）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A5602）。その後、変動図柄判別フラグ領域をクリアし（A5603）、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間中フラグをセーブし（A5604）、特図普段処理移行設定処理を終了する。

【0596】

〔小当りファンファーレ中処理〕

次に、特図ゲーム処理における小当りファンファーレ中処理（A2612）の詳細について説明する。図39は、小当りファンファーレ中処理の手順を示すフローチャートである。

20

【0597】

遊技制御装置100は、まず、処理番号として小当り開放中処理に係る「4」を設定して（A5801）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A5802）。

【0598】

次いで、遊技制御装置100は、小当り停止図柄パターンに対応して、小当り遊技における大入賞口の開放時間である小当り開放時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A5803）。そして、小当り中制御ポインタ領域に小当り停止図柄パターンに対応する小当り動作初期値をセーブする（A5804）。本実施形態において、特図1の小当り停止図柄パターンと特図2の小当り停止図柄パターンが異なるため、小当り開放時間と小当り動作初期値は、少なくとも、特図1小当りと特図2小当りとで異なる。また、小当り動作初期値は、特図1小当りで38であり、特図2小当りで0となる。従って、小当りによる大入賞口の開放パターンが特図1小当りと特図2小当りで異なることになる。

30

【0599】

次に、遊技制御装置100は、小当り動作の開始に関する信号（例えば、特別電動役物1作動中信号をオン、条件装置作動領域1有効信号をオン、役物連続作動装置作動領域1有効信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブする（A5805）。次いで、特別大入賞口（ここでは変動入賞装置39の開閉扉39c）を開放するために、大入賞口ソレノイド（ここでは大入賞口ソレノイド39b）をオンさせるためのオンデータを大入賞口ソレノイド出力データ領域にセーブする（A5806）。

40

【0600】

その後、遊技制御装置100は、大入賞口への入賞数を記憶する大入賞口カウント数領域の情報をクリアし（A5807）、レバーソレノイド動作初期値をレバーソレノイド制御ポインタ領域にセーブする（A5808）。なお、大入賞口の開放パターンによらず、レバーソレノイド86bのオン／オフ動作、即ち、特定領域86の開放／閉塞の動作は一定である。

【0601】

次に、遊技制御装置100は、特定領域通過情報領域をクリアし（A5809）、大入賞口不正入賞数領域をクリアし（A5810）、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正

50

監視期間外フラグをセーブし（A 5 8 1 1）、小当りファンファーレ中処理を終了する。

【0 6 0 2】

〔小当り開放中処理〕

次に、特図ゲーム処理における小当り開放中処理（A 2 6 1 3）の詳細について説明する。図 4 0 は、小当り開放中処理の手順を示すフローチャートである。

【0 6 0 3】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、小当り中制御ポインタの値が小当り動作終了値（ここでは 3 8）以上であるか否かを判定する（A 5 9 0 1）。本実施形態では、特図 1 小当りに関して、小当り動作終了値と小当り動作初期値が同じ値（3 8）であるため、1 回の小当りによって小当り開放時間（A 5 8 0 3）で大入賞口が 1 回だけ開放する開放パターンとなる。特図 2 小当りに関して、小当り動作終了値（3 8）が小当り動作初期値（0）よりも大きいため、1 回の小当りによって大入賞口が複数回開放する開放パターンとなる。このように、小当りによる大入賞口の開放パターンが特図 1 小当りと特図 2 小当りで異なることになる。

【0 6 0 4】

そして、1 回の大入賞口開放となる特図 1 小当りでは V 入賞が発生し難いが、複数回の入賞口開放となる特図 2 小当りでは V 入賞が発生し易い。このため、基本的に、V 入賞が発生し難い特図 1 小当りでは時短は終了せず、V 入賞が発生し易い特図 2 小当りで時短は終了することになる。

【0 6 0 5】

遊技制御装置 1 0 0 は、小当り中制御ポインタの値が小当り動作終了値未満である場合（A 5 9 0 1 の結果が「N」）、小当り動作移行設定処理を実行して（A 5 9 0 2）、小当り中制御ポインタを + 1 更新し（A 5 9 0 3）、小当り中処理を終了する。

【0 6 0 6】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、小当り中制御ポインタの値が小当り動作終了値以上である場合（A 5 9 0 1 の結果が「Y」）には、処理番号として小当り残存球処理に係る「5」を設定し（A 5 9 0 4）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A 5 9 0 5）。次いで、小当り残存球処理時間（例えば 0. 9 秒）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A 5 9 0 6）、大入賞口ソレノイド出力データ領域にオフデータをセーブして（A 5 9 0 7）、小当り開放中処理を終了する。

【0 6 0 7】

〔小当り動作移行設定処理〕

次に、小当り開放中処理における小当り動作移行設定処理（A 5 9 0 2）の詳細について説明する。図 4 1 は、小当り動作移行設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0 6 0 8】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、制御ポインタ（小当り中制御ポインタ）に応じて分岐処理を実行する（A 6 1 0 1）。制御ポインタが 0 の場合は、制御ポインタに対応するウェイト時間 1（例えば 2 8 6 0 m s e c）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A 6 1 0 2）、大入賞口ソレノイド出力データ領域にオフデータをセーブして（A 6 1 0 3）、小当り動作移行設定処理を終了する。

【0 6 0 9】

遊技制御装置 1 0 0 は、制御ポインタが奇数の場合は、制御ポインタに対応する大入賞口開放時間（例えば 4 8 m s e c）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A 6 1 0 4）、大入賞口ソレノイド出力データ領域にオンデータをセーブして（A 6 1 0 5）、小当り動作移行設定処理を終了する。

【0 6 1 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、制御ポインタ（小当り中制御ポインタ）に応じて分岐処理を実行する（A 6 1 0 1）。制御ポインタが偶数（0 を含めない）の場合は、制御ポインタに対応するウェイト時間 2（例えば 4 2 4 m s e c）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A 6 1 0 6）、大入賞口ソレノイド出力データ領域にオフデータをセーブして（A 6

10

20

30

40

50

107)、小当り動作移行設定処理を終了する。

【0611】

〔小当り残存球処理〕

次に、特図ゲーム処理における小当り残存球処理（A2614）の詳細について説明する。図42は、小当り残存球処理の手順を示すフローチャートである。

【0612】

遊技制御装置100は、まず、残存球カウンタが0であるか否かを判定する（A6301）。残存球カウンタが0でない場合に（A6301の結果が「N」）、何もせず小当り残存球処理を終了する。残存球カウンタが0である場合に（A6301の結果が「Y」）、V異常入賞フラグがセットされているか否かを判定する（A6302）。特定領域通過情報領域に異常通過情報があれば、V異常入賞フラグがセットされていることになる。V異常入賞フラグがセットされている場合に（A6302の結果が「Y」）、イレギュラー発生フラグをイレギュラー大当りフラグ領域にセーブし（A6303）、ステップA6304の処理に移行し、V異常入賞フラグがセットされていない場合に（A6302の結果が「N」）、何もせずにステップA6304の処理に移行する。

10

【0613】

次に、遊技制御装置100は、小当り停止図柄パターンに対応する小当りエンディングコマンドを演出コマンドとして準備し（A6304）、演出コマンド設定処理を実行する（A6305）。本実施形態において、特図1の小当り停止図柄パターンと特図2の小当り停止図柄パターンが異なるため、小当りエンディングコマンドひいては小当りのエンディング演出は、少なくとも、特図1小当りと特図2小当りとで異なっており、処理番号として小当り終了処理にかかる「6」を設定して（A6306）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A6307）。

20

【0614】

次に、遊技制御装置100は、小当りエンディング時間（例えば1.1秒）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブして（A6308）、小当り動作の終了に関する信号（例えば、特別電動役物1作動中信号をオフ、条件装置作動領域1有効信号をオフ、役物連続作動装置作動領域1有効信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A6309）。次いで、大入賞口カウント数領域の情報をクリアし（A6310）、小当り中制御ポインタ領域の情報をクリアする（A6311）。

30

【0615】

続いて、遊技制御装置100は、レバーソレノイド制御ポインタ領域に更新なしコードをセーブし（A6312）、レバーソレノイド制御タイマ領域をクリアする（A6313）。これによって、レバーソレノイド86bのオン／オフ動作、即ち、特定領域86の開放／閉塞の動作を終了して、特定領域86は閉塞状態に維持される。そして、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間中フラグをセーブし（A6314）、小当り残存球処理を終了する。

【0616】

〔小当り終了処理〕

次に、特図ゲーム処理における小当り終了処理（A2615）の詳細について説明する。図43は、小当り終了処理の手順を示すフローチャートである。

40

【0617】

遊技制御装置100は、まず、特定領域通過フラグが特定領域通過領域にセットされているか否かを判定する（A6401）。V入賞があった場合に、特定領域通過フラグがセットされている。V入賞によって特定領域通過フラグがセットされている場合に（A6401の結果が「Y」）、飾り特図コマンド領域からコマンドをロードして演出コマンドとして準備し（A6402）、演出コマンド設定処理を実行する（A6403）。

【0618】

次に、遊技制御装置100は、確率情報コマンド（特図低確率&時短なし）を演出コマンドとして準備し（A6404）、演出コマンド設定処理を実行する（A6405）。そ

50

して、ファンファーレコマンドを演出コマンドとして準備し（A 6 4 0 6）、演出コマンド設定処理を実行する（A 6 4 0 7）。その後、ファンファーレ／インターバル中処理に係る処理番号として「7」を設定し（A 6 4 0 8）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A 6 4 0 9）。

【0 6 1 9】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、小当り経由の大当りについての大当りファンファーレ時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A 6 4 1 0）。大当りファンファーレ時間は、例えば 1 0 0 m s e c であるが、小当り図柄や演出モードに対応させて異ならせてもよい。なお、小当り経由の大当りとは、小当り中の V 入賞による大当り（V 入賞大当り）である。

10

【0 6 2 0】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、ラウンド数を 1 に設定するためラウンド数領域に 1 をセーブする（A 6 4 1 1）。これによって、小当りのラウンド（大入賞口の開放）が 1 ラウンド目と扱われるため、小当り後の大当り（V 入賞大当り）のラウンドは 2 ラウンド目から開始する。即ち、小当りから大当りへ継続して大入賞口の開放をラウンドとして数える。そして、特定領域通過情報領域をクリアし（A 6 4 1 2）、小当りの終了に関する信号（例えば、特別図柄 1 小当り信号をオフ、特別図柄 2 小当り信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 6 4 2 4）。

【0 6 2 1】

遊技制御装置 1 0 0 は、V 入賞がなく特定領域通過フラグがセットされていない場合に（A 6 4 0 1 の結果が「N」）、天井時短が発生することを示す天井時短発動フラグがあるか否かを判定する（A 6 4 1 3）。天井時短発動フラグがない場合（A 6 4 1 3 の結果が「N」）、何もせずステップ A 6 4 1 6 の処理に移行する。天井時短発動フラグがある場合（A 6 4 1 3 の結果が「Y」）、天井時短回数（天井時短による時短回数）となる初期値を時間短縮変動回数 1 領域と時間短縮変動回数 2 領域にセーブする（A 6 4 1 4）。小当りの変動表示ゲームで天井回数に到達して V 入賞しない場合に、天井時短の場合の時間短縮変動回数 1 と時間短縮変動回数 2 の初期値（例えば 2 5 5 回と 2 5 1 回）は、ここでセーブされることになる。続いて、天井時短による時短状態が発生するためにサポ作動設定処理を実行する（A 6 4 1 5）。

20

【0 6 2 2】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、特図ゲームモードフラグ領域のフラグに基づいて、特図時短中（時短状態中）であるかを否か判定する（A 6 4 1 6）。特図ゲームモードフラグ領域のフラグが特図低確率 & 時短ありフラグであれば、特図時短中であると判定できる。特図時短中である場合（A 6 4 1 6 の結果が「Y」）には、ステップ A 6 4 1 9 の処理に移行する。また、特図時短中でない場合（A 6 4 1 6 の結果が「N」）、左打ち指示に関する信号（例えば、発射位置指定信号 1 をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブし（A 6 4 1 7）、右打ち中の表示 LED（第 1 遊技状態表示部 5 7）を消灯させるため、遊技状態表示番号 2 領域に左打ち状態中の番号をセーブして（A 6 4 1 8）、ステップ A 6 4 1 9 の処理に移行する。

30

【0 6 2 3】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、処理番号として特図普段処理にかかる「0」を設定して（A 6 4 1 9）、当該処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A 6 4 2 0）。その後、演出モード移行情報領域をクリアし（A 6 4 2 1）、小当りの終了に関する信号（例えば、大当り 1 信号をオフ、大当り 3 信号をオフ）を外部情報出力データ領域にセーブして（A 6 4 2 2）、特図ゲームモードフラグ退避領域をクリアする（A 6 4 2 3）。そして、小当りの終了に関する信号（例えば、特別図柄 1 小当り信号をオフ、特別図柄 2 小当り信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 6 4 2 4）。

40

【0 6 2 4】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、大入賞口不正入賞数領域をクリアし（A 6 4 2 5）、変動図柄判別フラグ領域の情報をクリアし（A 6 4 2 6）、小当り終了処理を終了する。

50

【0625】

〔ファンファーレ／インターバル中処理〕

次に、特図ゲーム処理におけるファンファーレ／インターバル中処理（A2616）の詳細について説明する。図44は、ファンファーレ／インターバル中処理の手順を示すフローチャートである。

【0626】

遊技制御装置100は、まず、残存球カウンタが0であるか否かを判定する（A6501）。残存球カウンタが0でない場合に（A6501の結果が「N」）、ファンファーレ／インターバル中処理を終了する。なお、残存球カウンタが0でない場合は、処理番号は「7」のまま特図ゲーム処理タイマが変更されず0に維持されるので、次のタイマ割込みでもファンファーレ／インターバル中処理が実行されることになる。

10

【0627】

遊技制御装置100は、残存球カウンタが0である場合に（A6501の結果が「Y」）、特別遊技状態のラウンド数を+1更新し（A6502）、特別遊技状態（大当たり状態）のラウンド数に対応するラウンドコマンドを演出コマンドとして準備して（A6503）、演出コマンド設定処理（A6504）を行う。

【0628】

その後、遊技制御装置100は、処理番号を大入賞口開放中処理にかかる「8」に設定し（A6505）、処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A6506）。そして、大入賞口開放時間（例えば25秒）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A6507）、大入賞口の開放開始に関する信号（例えば、特別電動役物1作動中信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブして（A6508）、大入賞口への入賞数である大入賞口カウント数をクリアする（A6509）。そして、大入賞口ソレノイド出力データ領域にオンデータをセーブして（A6510）、大入賞口不正入賞数領域をクリアし（A6511）、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間外フラグをセーブし（A6512）、ファンファーレ／インターバル中処理を終了する。

20

【0629】

〔大入賞口開放中処理〕

次に、特図ゲーム処理における大入賞口開放中処理（A2617）の詳細について説明する。図45は、本実施形態の大入賞口開放中処理の手順を示すフローチャートである。

30

【0630】

遊技制御装置100は、まず、実行中の特別遊技状態における現在のラウンド数とRWMのラウンド数上限値領域のラウンド数上限値とを比較して現在のラウンドが最終ラウンドであるかを判定する（A6601）。そして、最終ラウンドでない場合（A6601の結果が「N」）、ラウンド間のインターバルに係るインターバルコマンドを演出コマンドとして準備して（A6602）、演出コマンド設定処理を実行する（A6603）。

【0631】

遊技制御装置100は、最終ラウンドである場合（A6601の結果が「Y」）、時間短縮判定データに対応する時間短縮変動回数コマンドを演出コマンドとして準備し（A6604）、演出コマンド設定処理を実行する（A6605）。そして、特別遊技状態の終了の際におけるエンディング表示画面の表示制御等に係るエンディングコマンドを演出コマンドとして準備して（A6606）、演出コマンド設定処理を実行する（A6607）。

40

【0632】

その後、処理番号を大入賞口残存球処理に係る「9」に設定し（A6608）、処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A6609）。続いて、残存球処理時間（例えば900msec）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブし（A6610）、その後大入賞口ソレノイドをオフさせるためのオフデータを大入賞口ソレノイド出力データ領域にセーブし（A6611）、大入賞口開放中処理を終了する。

【0633】

50

〔大入賞口残存球処理〕

次に、特図ゲーム処理における大入賞口残存球処理（A 2 6 1 8）の詳細について説明する。図 4 6 は、大入賞口残存球処理の手順を示すフローチャートである。

〔0 6 3 4〕

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、残存球カウンタが 0 であるか否かを判定する（A 6 8 0 1）。残存球カウンタが 0 でない場合に（A 6 8 0 1 の結果が「N」）、大入賞口残存球処理を終了する。

〔0 6 3 5〕

遊技制御装置 1 0 0 は、残存球カウンタが 0 である場合に（A 6 8 0 1 の結果が「Y」）、実行中の特別遊技状態における現在のラウンド数と RWM のラウンド数上限値領域のラウンド数上限値とを比較して現在のラウンドが最終ラウンドであるかを判定する（A 6 8 0 2）。 10

〔0 6 3 6〕

そして、遊技制御装置 1 0 0 は、特別遊技状態における現在のラウンドが最終ラウンドでない場合（A 6 8 0 2 の結果が「N」）、インターバル時間（例えば 1 0 0 m s e c）を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A 6 8 0 3）。そして、ファンファーレ／インターバル中処理に係る処理番号である「7」を設定し（A 6 8 0 4）、特図ゲーム処理番号領域に処理番号をセーブする（A 6 8 0 5）。

〔0 6 3 7〕

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、大入賞口（特別変動入賞装置）の開放終了に関する信号（例えば、特別電動役物 1 作動中信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブし（A 6 8 0 6）、大入賞口残存球処理を終了する。 20

〔0 6 3 8〕

一方、特別遊技状態における現在のラウンドが最終ラウンドである場合（A 6 8 0 2 の結果が「Y」）、停止図柄パターンと演出モードに対応するエンディング時間を設定し（A 6 8 0 7）、エンディング時間を特図ゲーム処理タイマ領域にセーブする（A 6 8 0 8）。そして、大当たり終了処理に係る処理番号として「1 0」を設定し（A 6 8 0 9）、処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A 6 8 1 0）。

〔0 6 3 9〕

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、大入賞口（特別変動入賞装置）の開放終了に関する信号（例えば、特別電動役物 1 作動中信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 6 8 1 1）。次に、大入賞口への入賞数を記憶する大入賞口カウント数領域の情報をクリアし（A 6 8 1 2）、特別遊技状態のラウンド数を記憶するラウンド数領域の情報をクリアし（A 6 8 1 3）、特別遊技状態のラウンド数の上限値を記憶するラウンド数上限値領域の情報をクリアし（A 6 8 1 4）、ラウンド数上限値情報領域をクリアし（A 6 8 1 5）、大入賞口不正監視期間フラグ領域に不正監視期間中フラグをセーブし（A 6 8 1 6）、大入賞口残存球処理を終了する。 30

〔0 6 4 0〕

〔大当たり終了処理〕

次に、特図ゲーム処理における大当たり終了処理（A 2 6 1 9）の詳細について説明する。図 4 7 は、大当たり終了処理の手順を示すフローチャートである。 40

〔0 6 4 1〕

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、大当たり終了設定処理を実行し（A 6 9 0 1）、演出モード情報アドレステーブルを設定し（A 6 9 0 2）、特図 1 停止図柄設定処理又は特図 2 停止図柄設定処理で設定した演出モード移行情報（A 4 0 0 9、A 4 0 1 4、A 4 1 0 9、A 4 1 1 4）に対応するテーブルのアドレスを取得し（A 6 9 0 3）、大当たり状態の終了後に設定される演出モードの演出モード番号（演出モードの番号）を取得してセーブする（A 6 9 0 4）。これにより、大当たり終了後に移行する演出モードが選択できる。

〔0 6 4 2〕

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、大当たり終了後に設定される演出モードの演出残り回転数 50

（初期値）を取得してセーブする（A 6 9 0 5）。例えば、演出残り回転数（初期値）は、時短回数（時間短縮変動回数初期値）などであり、大当たり終了後に、時短が終了するまで同一の演出モードが継続できる。

【0 6 4 3】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、大当たり状態終了直後に設定される演出モードの次のモードへの移行の情報である次モード移行情報を取得してセーブする（A 6 9 0 6）。そして、今回新たに設定された演出モード番号などに対応する確率情報コマンドを演出コマンドとして準備し（A 6 9 0 7）、準備した確率情報コマンドを停電復旧時送信コマンド領域にセーブし（A 6 9 0 8）、確率情報コマンドを演出コマンドとして設定する演出コマンド設定処理を実行する（A 6 9 0 9）。ここで、確率情報コマンドには、大当たり状態の終了後における確率状態、時短（普電サポート）の有無、演出モードの情報が含まれる。

10

【0 6 4 4】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、演出残り回転数に対応する演出回転数コマンドを演出コマンドとして準備し（A 6 9 1 0）、演出コマンド設定処理を実行する（A 6 9 1 1）。そして、時間短縮変動回数 2（ここでは初期値である時短回数、例えば、7 回、2 0 0 回）に対応する時間短縮変動回数コマンドを演出コマンドとして準備し（A 6 9 1 2）、演出コマンド設定処理を実行する（A 6 9 1 3）。

【0 6 4 5】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、特図普段処理に係る処理番号として「0」を設定し（A 6 9 1 4）、処理番号を特図ゲーム処理番号領域にセーブする（A 6 9 1 5）。

20

【0 6 4 6】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、大当たりの終了に関する信号（例えば、大当たり 1 信号をオフ、大当たり 3 信号をオフ、大当たり 4 信号をオフ）を外部情報出力データ領域にセーブして（A 6 9 1 6）、大当たりの終了に関する信号（例えば、条件装置作動中信号をオフ、役物連続作動装置作動中信号をオフ、特別図柄 1 当り信号をオフ、特別図柄 2 当り信号をオフ）を試験信号出力データ領域にセーブする（A 6 9 1 7）。

【0 6 4 7】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、時間短縮判定フラグ領域の情報をクリアし（A 6 9 1 8）、大当たりのラウンド回数を示すラウンド L E D のポインタ領域の情報をクリアして（A 6 9 1 9）、演出モード移行情報領域の情報をクリアする（A 6 9 2 0）。そして、特定領域通過情報領域（イレギュラー情報領域）をクリアし（A 6 9 2 1）、特図ゲームモードフラグ退避領域の情報をクリアし（A 6 9 2 2）、大当たり終了処理を終了する。

30

【0 6 4 8】

〔大当たり終了設定処理〕

次に、大当たり終了処理における大当たり終了設定処理（A 6 9 0 1）の詳細について説明する。図 4 8 は、大当たり終了設定処理の手順を示すフローチャートである。

【0 6 4 9】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、停止図柄パターンが図柄種別 1 であるか否かを判定する（A 7 0 0 1）。本実施形態では、図柄種別 1 は、3 R 通常大当り C の大当り図柄と、3 R 通常小当り A の小当り図柄であるが、これに限られるものではない。なお、3 R とは、ラウンド数上限値が 3 であることを示す。3 R 通常小当りは、1 ラウンド目が小当りのラウンド（大入賞口の開放）であり、2, 3 ラウンド目が V 入賞大当りのラウンドである。

40

【0 6 5 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、停止図柄パターンが図柄種別 1 である場合に（A 7 0 0 1 の結果が「Y」）、特図ゲームモードフラグ退避領域の情報に基づいて、当たった時の遊技状態は時短あり中（即ち普電サポートあり中）であるか否かを判定する（A 7 0 0 2）。なお、当たった時とは、特図変動表示ゲームの変動が終了した後に小当り図柄又は大当り図柄が停止表示されているとき（例えば、特図表示中処理の実行時、停止表示時間の終了の際、小当り又は大当りのファンファーレ直前）である。小当り又は大当りの場合に情報がセーブされる特図ゲームモードフラグ退避領域（A 5 1 1 1、A 5 1 3 5）に特図低確率

50

&時短ありフラグが格納されている場合に、当たった時の遊技状態は時短あり中であると判定でき、特図低確率&時短なしフラグが格納されている場合に、当たった時の遊技状態は時短なし中であると判定できる。

【0651】

なお、前述のようにサポモードBで当り（小当り又は大当り）となった場合では、当り図柄が停止表示されている当たった時の遊技状態は時短あり中（普電サポートあり中）である（図49A、図49B参照）。しかし、サポモードB以外の時短モードで当りとなった場合では、当りの特図変動表示ゲームの変動が終了する際に時短の終了が設定されていれば、当たった時の遊技状態は時短あり中でなく時短なし中である（図49A参照）。なお、本実施形態では、サポモードB以外の時短モードにおいて、特図2変動表示ゲームが当たった時に時短なし中であるが、特図1変動表示ゲームが当たった時には時短あり中である。また、当然ながら、通常遊技状態（通常モード、残保留消化モード）で当たった時の遊技状態も時短なし中である。

【0652】

遊技制御装置100は、図柄種別1の停止図柄パターンで当たった時（当り停止表示中）に時短なし中である場合に（A7002の結果が「N」）、普図ゲームモードフラグ領域に普図サポなしフラグをセーブし（A7003）、特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率&時短なしフラグをセーブし（A7004）、時間短縮変動回数1領域と時間短縮変動回数2領域をクリアし（A7005）、通常ベース状態判定領域に通常ベース状態情報をセーブする（A7006）。

【0653】

このようにして、図柄種別1の停止図柄パターンで当たった時に時短なし中であれば、大当り終了後の遊技状態は、時短状態（普電サポート状態、時短モード）でなく、通常遊技状態（通常モード）となる。なお、大当り終了後とは、V入賞によるものではない直撃大当りの終了後だけでなく、小当り中にV入賞大当りが発生した場合の大当り終了後も含む。

【0654】

一方、図柄種別1の停止図柄パターンで当たった時（当り停止表示中）に時短あり中である場合に（A7002の結果が「Y」）、ステップA7016以降の処理を実行する。これによって、図柄種別1の停止図柄パターンで当たった時に時短あり中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、後述のように、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が11回であり、時間短縮変動回数2の初期値（時短回数）が7回である時短状態（時短モード#1B（サポモードB））となる。

【0655】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別1でない場合に（A7001の結果が「N」）、停止図柄パターンが図柄種別2であるか否かを判定する（A7007）。本実施形態では、図柄種別2は、3R通常大当りA、3R通常大当りB、10R通常大当りBの大当り図柄、及び、10R通常小当りBの小当り図柄であるが、これに限られるものではない。なお、3R、10Rとは、各々、ラウンド数上限値が3、10であることを示す。10R通常小当りは、1ラウンド目が小当りのラウンド（大入賞口の開放）であり、2-10ラウンド目がV入賞大当りのラウンドである。

【0656】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別2である場合に（A7007の結果が「Y」）、ステップA7016以降の処理を実行する。これによって、停止図柄パターンが図柄種別2である場合は必ず、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が11回であり、時間短縮変動回数2の初期値（時短回数）が7回である時短状態となる。

【0657】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別2でない場合に（A7007の結果が「N」）、停止図柄パターンが図柄種別4であるか否かを判定する（A7008）。

本実施形態では、図柄種別 4 は、10R 通常大当り A と 10R 通常大当り C の大当り図柄であるが、これに限られるものではない。

【0658】

遊技制御装置 100 は、停止図柄パターンが図柄種別 4 でない場合に（A7008 の結果が「N」）、即ち、停止図柄パターンが図柄種別 3（図柄種別 1，2，4 以外）である場合に、特図ゲームモードフラグ退避領域の情報に基づいて、当たった時の遊技状態は時短あり中であるか否かを判定する（A7009）。ステップ A7009 は、ステップ A7002 の同じ内容の処理である。本実施形態では、図柄種別 3 は、10R 通常小当り A の小当り図柄であるが、これに限られるものではない。

【0659】

遊技制御装置 100 は、図柄種別 3 の停止図柄パターンで当たった時（当り停止表示中）に時短あり中である場合に（A7009 の結果が「Y」）、時短の開始に関する信号を外部情報として外部情報出力データ領域にセーブする（A7011）。なお、時短の開始に関する信号は、大当り 2 信号のオンデータと大当り 3 信号のオンデータであるが、大当り 2 信号は大当り中からオンされているので継続する形となる。

【0660】

次に、遊技制御装置 100 は、時短の開始に関する信号（特別図柄 1 変動時間短縮状態信号をオン、特別図柄 2 変動時間短縮状態信号をオン、普通電動役物 1 開放延長状態信号をオン）を試験信号出力データ領域にセーブする（A7012）。そして、普図ゲームモードフラグ領域に普図サポありフラグをセーブし（A7013）、特図ゲームモードフラ

【0661】

続いて、遊技制御装置 100 は、時間短縮変動回数 1 領域に 204 をセーブし、時間短縮変動回数 2 領域に 200 をセーブし（A7015）、大当り終了設定処理を終了する。これによって、図柄種別 3 の停止図柄パターンで当たった時に時短あり中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数 1 の初期値（合計時短回数）が 204 回であり、時間短縮変動回数 2 の初期値（時短回数）が 200 回である時短状態（時短モード #1 A（サポモード A））となる。特に、本実施形態では、サポモード B で特定の小当り（図柄種別 3：10R 通常小当り A）が発生した場合に、大当り終了後に大きな時短回数 200 回が得られることになる。

【0662】

遊技制御装置 100 は、図柄種別 3 の停止図柄パターンで当たった時（当り停止表示中）に時短なし中である場合に（A7009 の結果が「N」）、時短の開始に関する信号を外部情報として外部情報出力データ領域にセーブする（A7016）。なお、ここでの時短の開始に関する信号には、大当り 3 信号のオンデータはなく、大当り 2 信号のオンデータだけであるが、大当り 2 信号は大当り中からオンされているので継続する形となる。

【0663】

このように、大当り 3 信号のオンデータは、大当り終了後に時短回数 7 回の時短状態（時短モード #1 B（サポモード B））となる場合に外部装置に送信されないが（A7016）、大当り終了後に時短回数 200 回の時短状態（時短モード #1 A（サポモード A））となる場合に外部装置に送信されることになる（A7011）。従って、大当り終了後の時短回数に応じて、時短状態開始の際（大当り終了の際）に外部装置に送信される外部情報信号が異なっているため、外部装置で大当り終了後の時短状態の種類を区別可能となる利点がある。

【0664】

続いて、遊技制御装置 100 は、時短の開始に関する信号を試験信号出力データ領域にセーブし（A7017）、普図ゲームモードフラグ領域に普図サポありフラグをセーブし（A7018）、特図ゲームモードフラグ領域に特図低確率 & 時短ありフラグをセーブする（A7019）。

【0665】

続いて、遊技制御装置 100 は、時間短縮変動回数 1 領域に 11、時間短縮変動回数 2 領域に 7 をセーブし (A7020)、大当り終了設定処理を終了する。これによって、図柄種別 3 (10R 通常小当り A) の停止図柄パターンで当たった時に時短なし中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数 1 の初期値 (合計時短回数) が 11 回であり、時間短縮変動回数 2 の初期値 (時短回数) が 7 回である時短状態 (時短モード #1B (サポモード B)) となる。

【0666】

遊技制御装置 100 は、停止図柄パターンが図柄種別 4 である場合に (A7008 の結果が「Y」)、特図ゲームモードフラグ退避領域の情報に基づいて、当たった時の遊技状態は時短あり中であるか否かを判定する (A7010)。本実施形態では、図柄種別 4 は、10R 通常大当り A と 10R 通常大当り C の大当り図柄であるが、これに限られるものではない。

【0667】

遊技制御装置 100 は、図柄種別 4 の停止図柄パターンで当たった時 (当りの停止表示中) に時短なし中である場合に (A7010 の結果が「N」)、ステップ A7011 以降の処理を実行する。これによって、図柄種別 4 の停止図柄パターンで当たった時に時短なし中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数 1 の初期値 (合計時短回数) が 204 回であり、時間短縮変動回数 2 の初期値 (時短回数) が 200 回である時短状態 (時短モード #1A (サポモード A)) となる。特に、本実施形態では、通常遊技状態での特定の大当り (図柄種別 4) が発生した場合に、大当り終了後に大きな時短回数 200 回が得られることになる。

【0668】

遊技制御装置 100 は、図柄種別 4 の停止図柄パターンで当たった時 (当り停止表示中) に時短あり中である場合に (A7010 の結果が「Y」)、ステップ A7016 以降の処理を実行する。これによって、図柄種別 4 の停止図柄パターンで当たった時に時短あり中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数 1 の初期値 (合計時短回数) が 11 回であり、時間短縮変動回数 2 の初期値 (時短回数) が 7 回である時短状態 (時短モード #1B (サポモード B)) となる。

【0669】

以上の大当り終了設定処理によって、停止図柄パターンの図柄種別と、当たった時 (当りの停止表示中) の時短の有無と、に応じて、大当り終了後の遊技状態の種類 (通常遊技状態、数種類の時短状態など) が決定されることになる。

【0670】

〔タイムチャート (時短の有無)〕

図 49A と図 49B は、以上の特図ゲーム処理による時短の有無 (即ち普電サポートの有無) の変化の様子を示すタイムチャートである。図 49A は、小当り (+V 入賞大当り) で時短の有無がどのように変化するかを示し、図 49B は、直撃大当り (小当りを經由しない大当り) で時短の有無がどのように変化するかを示す。

【0671】

図 49A のように、特図ゲーム処理によって、サポモード B 以外の時短モード (特にサポモード A) の場合に、小当り結果となる特図変動表示ゲームの変動 (小当り変動) が終了 (停止) する時に、時短の終了が設定され、普電サポート有り (サポ有) の状態から普電サポート無し (サポ無) の状態に変化する。一方、サポモード B の場合に、小当り図柄の停止表示終了の際 (停止表示時間の終了の際、小当りファンファーレ直前又は小当りファンファーレの開始の際) に、時短の終了が設定され、普電サポート有り (サポ有) の状態から普電サポート無し (サポ無) の状態に変化する。

【0672】

即ち、時短の終了タイミングは、サポモード B 以外の時短モードよりもサポモード B で遅くなる。このような時短の終了タイミングの違いにより、同じ当り図柄 (例えば図柄種別 3 : 10R 通常小当り A) で当たった場合でも、当りの直前に滞在していた時短モード

10

20

30

40

50

（即ち当りの変動表示中の時短モード）がサポモード B であるかサポモード B 以外であるかによって、当り状態終了後に移行する時短モード（時短回数の異なる遊技状態）を異ならせることができる（後述の図 7 1 と図 7 2 も参照）。従って、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。なお、このような時短の終了タイミングの違いを演出制御装置 3 0 0 が演出の設定などにも利用して、遊技の興趣が向上させることもできる。

【0 6 7 3】

なお、図 4 9 A は、小当り結果となる特図 2 変動表示ゲームの変動（特図 2 小当り変動）の場合を示す。小当り結果となる特図 1 変動表示ゲームの変動（特図 1 小当り変動）の場合には、特図 1 の小当り状態中に例外的に V 入賞があれば（前述のように基本的に V 入賞は発生しない）、V 入賞時に時短の終了を設定してよく、V 入賞がなければ時短の終了を設定しなくてよい。なお、特図 1 小当り変動の場合にも、図 4 9 A のように、特図 2 小当り変動の場合と同じように、サポモード（時短モード）に応じて時短の終了を設定してよい。

10

【0 6 7 4】

なお、別の構成として、サポモード B 以外の時短モード、及び、サポモード B の両方について、図 4 9 A から時短終了の設定タイミングを遅らせてもよい。例えば、サポモード B 以外の時短モードについて、小当り図柄の表示終了の際（小当りファンファーレ直前）に時短の終了を設定し、サポモード B について、小当り状態中や小当り状態の終了時（小当りエンディング終了時）に時短の終了を設定してよい。或いは、別の構成として、時短終了の設定タイミングを、図 4 9 A とは逆にして、サポモード B 以外の時短モードよりもサポモード B で早くしてもよい。

20

【0 6 7 5】

図 4 9 B のように、特図ゲーム処理によって、特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームのいずれかの結果が直撃大当り（V 入賞によるものではない大当り）となる場合には、時短の終了タイミングはサポモード（時短モード）や特図種別（特図 1 又は特図 2）によらない。サポモード B での小当りと同様に、直撃大当りの場合には、停止図柄（大当り図柄）の停止表示終了の際（停止表示時間の終了の際、大当りのファンファーレ直前又は大当りのファンファーレの開始の際）に、時短の終了が設定され、普電サポート有り（サポ有）の状態から普電サポート無し（サポ無）の状態に変化する。

30

【0 6 7 6】

なお、図 4 9 B と異なって、時短の終了タイミングを図 4 9 A と同様に、サポモード（時短モード）によって異ならせてもよく、この場合にもゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。

【0 6 7 7】

〔普図ゲーム処理〕

次に、タイマ割込み処理における普図ゲーム処理（A 1 3 1 1）の詳細について説明する。図 5 0 は、普図ゲーム処理の手順を示すフローチャートである。普図ゲーム処理では、ゲートスイッチ 3 4 a の入力の監視と、普図変動表示ゲームに関する処理全体の制御、普図の表示の設定、普通変動入賞装置 3 7（普通電動役物、普電）の開閉制御等を行う。

40

【0 6 7 8】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、ゲートスイッチ 3 4 a からの入力を監視するゲートスイッチ監視処理を実行する（A 7 6 0 1）。

【0 6 7 9】

続いて、遊技制御装置 1 0 0 は、始動口 2 スwitch 3 7 a からの入力を監視する普電入賞スイッチ監視処理を実行する（A 7 6 0 2）。

【0 6 8 0】

次に、遊技制御装置 1 0 0 は、普図ゲーム処理タイマが 0 でなければ - 1 更新する（1 だけ減算する）（A 7 6 0 3）。なお、普図ゲーム処理タイマの最小値は 0 に設定されている。そして、遊技制御装置 1 0 0 は、普図ゲーム処理タイマの値が 0 となったか否かを

50

判定する（A 7 6 0 4）。

【0 6 8 1】

遊技制御装置 1 0 0 は、普図ゲーム処理タイマの値が 0 である場合（A 7 6 0 4 の結果が「Y」）、すなわち、タイムアップした又はすでにタイムアップしていた場合には、普図ゲーム処理番号に対応する処理に分岐させるために参照する普図ゲームシーケンス分岐テーブルをレジスタに設定する（A 7 6 0 5）。

【0 6 8 2】

さらに、遊技制御装置 1 0 0 は、設定された普図ゲームシーケンス分岐テーブルに基づいて普図ゲーム処理番号に対応する処理の分岐先アドレスを取得する（A 7 6 0 6）。そして、普図ゲーム処理番号によるサブルーチンコールを行って、普図ゲーム処理番号に応じたゲーム分岐処理を実行する（A 7 6 0 7）。

10

【0 6 8 3】

遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「0」の場合には、普図変動表示ゲームの変動開始を監視し、普図変動表示ゲームの変動開始の設定や演出の設定や、普図変動中処理を行うために必要な情報の設定等を行う普図普段処理を実行する（A 7 6 0 8）。

【0 6 8 4】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「1」の場合には、普図表示中処理を行うために必要な情報の設定等を行う普図変動中処理を実行する（A 7 6 0 9）。例えば、普図変動中処理では、普図表示中処理に移行するために、ゲーム処理番号として「2」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする他、普図表示時間を普図ゲーム処理タイマ領域にセーブする。

20

【0 6 8 5】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「2」の場合には、普図変動表示ゲームの結果が当りであれば、普電開放時間の設定や、普図当り中処理を行うために必要な情報の設定等を行う普図表示中処理を実行する（A 7 6 1 0）。例えば、普図表示中処理では、普図変動表示ゲームの結果が当りの場合に、普図当り中処理に移行するために、ゲーム処理番号として「3」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする一方、はずれの場合に、普図普段処理に移行するために、ゲーム処理番号として「0」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする。

30

【0 6 8 6】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「3」の場合には、普図当り中処理の継続、あるいは普電残存球処理を行うために必要な情報の設定等を行う普図当り中処理を実行する（A 7 6 1 1）。例えば、普図当り中処理では、所定回数だけ普通変動入賞装置 3 7 を開放するための設定を行った後、普電残存球処理に移行するために、ゲーム処理番号として「4」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする。

【0 6 8 7】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「4」の場合には、普図当り終了処理を行うために必要な情報の設定等を行う普電残存球処理を実行する（A 7 6 1 2）。例えば、普電残存球処理では、普図当り終了処理に移行するために、ゲーム処理番号として「5」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする他、普図エンディング時間を普図ゲーム処理タイマ領域にセーブする。

40

【0 6 8 8】

また、遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 7 6 0 7 にてゲーム処理番号が「5」の場合には、普図普段処理（A 7 6 0 8）を行うために必要な情報の設定等を行う普図当り終了処理を実行する（A 7 6 1 3）。例えば、普図当り終了処理では、普図普段処理に移行するために、ゲーム処理番号として「0」を設定して普図ゲーム処理番号領域にセーブする。

【0 6 8 9】

その後、遊技制御装置 1 0 0 は、普図表示器 5 3 による普通図柄の変動を制御するための普図変動制御テーブルを準備する（A 7 6 1 4）。その後、普図表示器 5 3 による普通

50

図柄（普図）の変動の制御に係る図柄変動制御処理を実行し（A 7 6 1 5）、普図ゲーム処理を終了する。

【0 6 9 0】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、普図ゲーム処理タイマの値が 0 でない場合（A 7 6 0 4 の結果が「N」）、すなわち、タイムアップしていない場合には、ステップ A 7 6 1 4 以降の処理を実行する。

【0 6 9 1】

〔外部情報編集処理〕

次に、タイマ割込み処理における外部情報編集処理（A 1 3 1 8）の詳細について説明する。図 5 1 A と図 5 1 B は、外部情報編集処理の手順を示すフローチャートである。図 5 1 A は外部情報編集処理の前半部分を示し、図 5 1 B は外部情報編集処理の後半部分を示す。外部情報編集処理では、払出コマンド送信処理（A 1 3 0 7）、入賞口スイッチ／状態監視処理（A 1 3 0 8）、磁石不正監視処理（A 1 3 1 4）、盤電波不正監視処理（A 1 3 1 5）での監視結果に基づいて、情報収集端末や遊技場内部管理装置等の外部装置や、試射試験装置に出力する情報を作成して出力バッファにセットする処理等を行う。

【0 6 9 2】

遊技制御装置 1 0 0 は、まず、ガラス枠開放エラーが発生中であるか否かを判定する（A 9 3 0 1）。ガラス枠開放エラーが発生中でない場合（A 9 3 0 1 の結果が「N」）、本体枠開放エラー（前面枠開放エラー）が発生中であるか否かを判定する（A 9 3 0 2）。本体枠開放エラーが発生中でない場合（A 9 3 0 2 の結果が「N」）、扉・枠開放信号のオフデータを外部情報出力データ領域にセーブする（A 9 3 0 3）。

【0 6 9 3】

遊技制御装置 1 0 0 は、ガラス枠開放エラーが発生中である場合（A 9 3 0 1 の結果が「Y」）、又は、本体枠開放エラーが発生中である場合（A 9 3 0 2 の結果が「Y」）、扉・枠開放信号のオンデータを外部情報出力データ領域にセーブし（A 9 3 0 5）、遊技機エラー状態信号のオンデータを試験信号出力データ領域にセーブする（A 9 3 0 6）。

【0 6 9 4】

遊技制御装置 1 0 0 は、ステップ A 9 3 0 3、A 9 3 0 6 の後、セキュリティ信号のオフデータを外部情報出力データ領域にセーブする（A 9 3 0 4）。そして、セキュリティ信号制御タイマが 0 でなければ -1 更新し（A 9 3 0 7）、セキュリティ信号制御タイマが 0 であるか否か（タイムアップしたか否か）を判定する（A 9 3 0 8）。セキュリティ信号制御タイマの初期値は、初期化スイッチ（設定値変更スイッチ 1 0 2）の操作等により R A M に記憶されたデータが初期化されたときなどに、所定時間（例えば 2 5 6 m s e c）が設定される（メイン処理の A 1 0 4 6）。そして、セキュリティ信号制御タイマは R A M 初期化時から計時されることになる。

【0 6 9 5】

遊技制御装置 1 0 0 は、セキュリティ信号制御タイマが 0 でない場合（A 9 3 0 8 の結果が「N」）、セキュリティ信号のオンデータを外部情報出力データ領域にセーブし（A 9 3 0 9）、ステップ A 9 3 1 0 の処理に移行する。即ち、R A M に記憶されたデータの初期化が行われたことが外部情報として出力される。

【0 6 9 6】

遊技制御装置 1 0 0 は、セキュリティ信号制御タイマが 0 である場合（A 9 3 0 8 の結果が「Y」）、磁石不正が発生中であるか否かを判定する（A 9 3 1 0）。なお、磁気センサスイッチ 6 1 からの検出信号があった場合に、磁石不正が発生中であると判定できる。磁石不正が発生中でない場合（A 9 3 1 0 の結果が「N」）、さらに、盤電波不正が発生中であるか否かを判定する（A 9 3 1 1）。なお、電波センサ 6 2 から検出信号があった場合に、盤電波不正が発生中であると判定できる。

【0 6 9 7】

遊技制御装置 1 0 0 は、盤電波不正が発生中でない場合（A 9 3 1 1 の結果が「N」）、さらに、枠電波不正が発生中であるか否かを判定する（A 9 3 1 2）。枠電波不正信号

10

20

30

40

50

があった場合に、枠電波不正が発生中であると判定できる。枠電波不正が発生中でない場合（A 9 3 1 2の結果が「N」）、さらに、大入賞口不正が発生中であるか否か判定する（A 9 3 1 3）。なお、入賞口スイッチ／状態監視処理によって大入賞口に関しての不正入賞発生フラグが不正フラグ領域にセーブされている場合、大入賞口不正が発生中であると判定できる。大入賞口不正が発生中でない場合（A 9 3 1 3の結果が「N」）、さらに、普電不正発生中であるか否かを判定する（A 9 3 1 4）。なお、入賞口スイッチ／状態監視処理によって普通変動入賞装置 3 7 の第 2 始動入賞口に関しての不正入賞発生フラグが不正フラグ領域にセーブされている場合、普電不正が発生中であると判定できる。

【0 6 9 8】

遊技制御装置 1 0 0 は、普電不正発生中でない場合（A 9 3 1 4の結果が「N」）、振動不正が発生中であるか否か判定する（A 9 3 1 5）。なお、振動センサ 6 5 から検出信号があった場合に、振動不正が発生中であると判定できる。振動不正が発生中でない場合（A 9 3 1 5の結果が「N」）、異常排出エラーが発生中であるか否か判定する（A 9 3 1 6）。なお、異常排出監視処理（A 1 3 1 7）によって異常排出発生中フラグが設定された場合に、異常排出エラーが発生中であると判定できる。

【0 6 9 9】

遊技制御装置 1 0 0 は、異常排出エラーが発生中でない場合（A 9 3 1 6の結果が「N」）、V 通過エラーが発生中であるか否か判定する（A 9 3 1 7）。不適切なタイミングで特定領域スイッチ 7 2 の検出信号が発生した場合に、V 通過エラーが発生中であると判定できる。V 通過エラーが発生中でない場合（A 9 3 1 7の結果が「N」）、残存球に関するエラーである残存球エラーが発生中であるか否か判定する（A 9 3 1 8）。残存球エラーが発生中でない場合（A 9 3 1 8の結果が「N」）、安全装置作動中フラグに基づいて安全装置が作動中であるか否か判定する（A 9 3 1 9）。安全装置が作動中でない場合（A 9 3 1 9の結果が「N」）、スイッチ異常エラーが発生中であるか否かを判定する（A 9 3 2 0）。

【0 7 0 0】

遊技制御装置 1 0 0 は、スイッチのコネクタ抜けなどのスイッチ異常エラーが発生中でない場合（A 9 3 2 0の結果が「N」）、遊技機エラー状態信号のオフデータを試験信号出力データ領域にセーブする（A 9 3 2 1）。スイッチ異常エラーが発生中である場合（A 9 3 2 0の結果が「Y」）、遊技機エラー状態信号のオンデータを試験信号出力データ領域にセーブする（A 9 3 2 3）。

【0 7 0 1】

一方、遊技制御装置 1 0 0 は、磁石不正が発生中である場合（A 9 3 1 0の結果が「Y」）、盤電波不正が発生中である場合（A 9 3 1 1の結果が「Y」）、枠電波不正が発生中である場合（A 9 3 1 2の結果が「Y」）、大入賞口不正が発生中である場合（A 9 3 1 3の結果が「Y」）、普電不正発生中である場合（A 9 3 1 4の結果が「Y」）、振動不正が発生中である場合（A 9 3 1 5の結果が「Y」）、異常排出エラーが発生中である場合（A 9 3 1 6の結果が「Y」）、V 通過エラーが発生中である場合（A 9 3 1 7の結果が「Y」）、残存球エラーが発生中である場合（A 9 3 1 8の結果が「Y」）、安全装置が作動中である場合（A 9 3 1 9の結果が「Y」）、セキュリティ信号のオンデータを外部情報出力データ領域にセーブし（A 9 3 2 2）、遊技機エラー状態信号のオンデータを試験信号出力データ領域にセーブする（A 9 3 2 3）。セキュリティ信号のオンデータの設定によって、セキュリティ信号が外部情報として外部情報端子 7 1 を介して外部装置（ホールコンピュータなど）に出力される。なお、本実施形態では、安全装置作動中フラグ = 1 の場合に安全装置が作動中である。

【0 7 0 2】

このように、安全装置が作動中である場合に（A 9 3 1 9の結果が「Y」）、セキュリティ信号がオン状態になりホールコンピュータなどの外部装置に出力され（A 9 3 2 2）、遊技場の責任者や係員などが安全装置が作動中であることを認識できる。なお、安全装置が作動中に継続的にセキュリティ信号を外部装置に出力する構成の他に、安全装置が作

10

20

30

40

50

動した際に1パルス（例：256ms）だけセキュリティ信号を外部装置に出力する構成も可能である。また、セキュリティ信号の代わりに又はセキュリティ信号と併用して、安全装置専用に外部情報を設けて、安全装置が作動中に専用の外部情報を外部装置に出力してもよい。

【0703】

また、安全装置が作動中である場合（A9319の結果が「Y」）、遊技機エラー状態信号のオンデータが試験信号出力データ領域にセーブされ、遊技機エラー状態信号が試験信号として試射試験装置へ出力される。なお、安全装置が作動中であることに対応する試験信号（遊技機エラー状態信号）を出力しない構成も可能である。また、遊技機エラー状態信号とは別の試験信号を試射試験装置へ出力してもよい。

10

【0704】

遊技制御装置100は、ステップA9321、A9323の後、始動口の入賞信号を編集する始動口信号編集処理を実行する（A9324）。続いて、払出予定の賞球数に関する情報を設定するメイン賞球信号編集処理を実行し（A9325）、特図変動表示ゲームの停止図柄が確定する際に生成される図柄確定回数信号を外部装置に出力する図柄確定回数信号編集処理を実行する（A9326）し、外部情報編集処理を終了する。

【0705】

〔安全装置関連処理〕

次に、タイマ割込み処理（図9）における安全装置関連処理（A1313）の詳細について説明する。図52は、安全装置関連処理の手順を示すフローチャートである。安全装置関連処理は、領域内処理であり前述の領域内プログラムの一部として実行される。

20

【0706】

遊技制御装置100は、まず、領域内ワーク領域に含まれる安全装置作動中フラグ領域の安全装置作動中フラグに基づいて安全装置が作動中であるか否かを判定する（A9401）。安全装置作動中フラグ=1であれば安全装置が作動中であると判断できる。安全装置が作動中である場合に（A9401の結果が「Y」）、安全装置関連処理を終了する。

【0707】

遊技制御装置100は、安全装置が作動中でない場合に（A9401の結果が「N」）、領域外ワーク領域に含まれる安全装置作動情報領域から安全装置作動情報をロードし（A9402）、安全装置作動情報が旧作動情報領域の値であるか否かを判定する（A9403）。安全装置作動情報が旧作動情報領域の値である場合に（A9403の結果が「Y」）、安全装置作動情報に変化がないため、演出コマンドを設定（送信）せずに、ステップA9409の処理に移行する。

30

【0708】

遊技制御装置100は、安全装置作動情報が旧作動情報領域の値でない場合に（A9403の結果が「N」）、安全装置作動情報に変化があるため、演出コマンドを設定（送信）できるよう、安全装置作動情報とコマンドを対応付けた安全装置作動関連コマンドテーブルを設定し（A9404）、安全装置作動情報に対応するコマンド（ACTION部）を取得する（A9405）。そして、コマンド定義なしであるか否かを判定する（A9406）。安全装置作動関連コマンドテーブルにおいて、安全装置未作動情報（値0）に対応するコマンドが定義されていないため（コマンドがないため）、安全装置作動情報が安全装置未作動情報（値0）である場合に、コマンド定義なしと判定できる。コマンド定義なしの場合に（A9406の結果が「Y」）、演出コマンドを設定（送信）せずに、ステップA9409の処理に移行する。

40

【0709】

遊技制御装置100は、コマンド定義ありの場合に（A9406の結果が「N」）、安全装置作動関連コマンド（MODE部）を演出コマンドとして準備する（A9407）。安全装置作動情報が安全装置作動予告情報（値1）、安全装置作動警告情報（値2）、安全装置作動中情報（値3）である場合に、コマンド定義ありと判定できる。そして、演出コマンドを設定（送信）する演出コマンド設定処理を実行する（A9408）。なお、演

50

出コマンドは、MODE部及びACTION部からなる。なお、安全装置作動関連コマンドテーブルにおいて、安全装置未作動情報（値0）に対応するコマンドを定義して、ステップA9406の判定を省略し、安全装置未作動情報（値0）に対しても安全装置作動関連コマンドを設定（送信）できるようにしてよい。

【0710】

次に、遊技制御装置100は、安全装置作動情報が安全装置作動中情報（値3）であるか否かを判定する（A9409）。安全装置作動情報が安全装置作動中情報（値3）でない場合に（A9409の結果が「N」）、そのまま安全装置関連処理を終了する。一方、安全装置作動情報が安全装置作動中情報（値3）である場合に（A9409の結果が「Y」）、安全装置作動中フラグ領域に安全装置が作動中であることを示す「1」を安全装置作動中フラグとしてセーブし（A9410）、その後安全装置関連処理を終了する。なお、前回のタイマ割込み処理においてステップA9804（後述）にて安全装置作動中情報（値3）がセーブされた場合に、次のタイマ割込み処理においてステップA9409の結果が「Y」となる。

10

【0711】

以上のようにして、安全装置作動情報が変化して安全装置作動予告情報（値1）、安全装置作動警告情報（値2）、安全装置作動中情報（値3）となった際に、安全装置作動関連コマンドが安全装置作動情報を一部（ACTION部）に含んだ形で、演出制御装置300に送信される。安全装置作動関連コマンドは、ACTION部が安全装置作動予告情報（値1）、安全装置作動警告情報（値2）、安全装置作動中情報（値3）の場合に、それぞれ、作動予告状態に対応する作動予告コマンド、作動警告状態に対応する作動警告コマンド、作動状態に対応する作動中コマンドになる。

20

【0712】

演出制御装置300が、作動予告コマンドを受信することによって、安全装置の作動予告状態で作動予告表示（例えば「まもなく打ち止めです」の文字）を表示装置41に表示できる。従って、遊技者に遊技停止状態になる可能性があることを事前に報知して、遊技者に遊技を終了させることを促し、遊技者が意図せず不利益を受けることを防止できる。また、不正を行っている者には驚きを与えて、不正を止めることを促すことができる。

【0713】

演出制御装置300が、作動警告コマンドを受信することによって、安全装置の作動警告状態で作動警告表示（例えば「当り終了後に打ち止めとなります」の文字）を表示装置41に表示できる。従って、遊技者に小当り又は大当りの終了後に遊技停止状態になることを事前に報知して、連チャンが止まるなど不利益を受けることを遊技者に警告することができる。なお、連チャン（連荘）とは、例えば通常モード（又は通常遊技状態）を経ないで、大当りが連続的に発生することである。また、作動警告状態によって、不正を行っている者には驚きを与えて、不正を止めることを促すことができる。

30

【0714】

演出制御装置300が、作動中コマンドを受信することによって、安全装置の作動状態（作動中状態）で、作動中表示513（例えば「打ち止め中」の文字）を表示装置41に表示できる。従って、新たな遊技者（客）が遊技機10を使用することを防止でき、不正を行っている者がいれば不正行為を止めさせることもできる。

40

【0715】

なお、安全装置作動情報が変化せず0, 1, 2, 3に維持される場合（0→0、1→1、2→2、3→3の無変化の場合）に、安全装置作動関連コマンドは演出制御装置300に送信されない。安全装置カウンタ値が190000～194999になった後に190000未満となって安全装置作動情報が1から0に変化したとき（1→0の変化時）にも、安全装置作動関連コマンドはコマンド定義なしで送信されない。なお、安全装置作動情報が2から1に或いは3から2に変化すること（2→1、3→2の変化）は、後述の差玉確認処理や安全装置作動監視処理によって除かれている。

【0716】

50

安全装置作動情報が0から1に変化したとき（0→1の変化時）に、安全装置作動関連コマンドのうち作動予告コマンドが演出制御装置300に送信される。安全装置作動情報が1から2に変化したとき（1→2の変化時）に、安全装置作動関連コマンドのうち作動警告コマンドが演出制御装置300に送信される。安全装置作動情報が2から3に変化したとき（2→3の変化時）に、安全装置作動関連コマンドのうち作動中コマンドが演出制御装置300に送信される。なお、安全装置作動情報が2から3に変化した場合は、直後の1回だけ、ステップA9403の結果が「Y」となりステップA9404－A9410を通り作動中コマンドが送信され、安全装置作動中フラグ＝1となるため安全装置が作動中になり（A9401の結果が「Y」）、以降のタイマ割込み処理ではステップA9404－A9410を通らず安全装置作動関連コマンドは送信されない。

10

【0717】

なお、安全装置作動情報が1から3に直接的に変化すること自体（1→3の変化自体）は、後述の差玉確認処理や安全装置作動監視処理によって除かれているが、安全装置作動情報が瞬時に1→2→3と変化することはある（2は瞬間値になり後述のように作動警告状態は発生しない）。この1→2→3の変化は、大当たり中でも小当たり中でもない場合に安全装置カウンタ値が195000に達して作動予告状態から作動状態に移行したことに対応する。そして、安全装置の作動予告状態から作動状態に移行したことに対応して、作動中コマンドが安全装置作動関連コマンドとして演出制御装置300に送信される（A9405、A9407）。

20

【0718】

〔領域外統合処理〕

次に、タイマ割込み処理（図9）における領域外統合処理（A1321）の詳細について説明する。図53は、領域外統合処理の手順を示すフローチャートである。領域外統合処理は、領域外処理であり前述の領域外プログラムの一部として実行される。

【0719】

遊技制御装置100は、まず、スタックポインタを領域外ワーク領域のスタックポインタ保存領域にセーブし（A9501）、スタックポインタに領域外スタック領域の値として、領域外スタック領域（領域外用スタック領域）の先頭を示すアドレス値を設定する（A9502）。これにより、使用するスタックを示すスタックポインタを領域内スタック領域から領域外スタック領域に切り替える。

30

【0720】

次に、遊技制御装置100は、レジスタバンク0とレジスタバンク1の両方に対してレジスタの情報（値）を領域外スタック領域に退避（PUSH）する（A9503）。ここで、汎用レジスタ全部を退避することが好適である。その後、試験信号を出力するための試験信号出力処理を実行する（A9504）。そして、性能表示装置152の表示制御等を行う性能表示装置制御処理を実行する（A9505）。続いて、差玉数（安全装置カウンタ値）を更新して差玉数（安全装置カウンタ値）に対応して安全装置作動情報を設定する差玉確認処理（A9506）を実行する。次に、安全装置の作動を監視する安全装置作動監視処理を実行する（A9507）。

【0721】

その後、遊技制御装置100は、退避したレジスタを復帰し（A9508）、スタックポインタ保存領域からロードしてスタックポインタを設定し（A9509）、性能表示編集処理を終了する。設定したスタックポインタは、領域内スタック領域のアドレスを示すことになる。

40

【0722】

〔試験信号出力処理〕

次に、領域外統合処理（図53）における試験信号出力処理（A9504）の詳細について説明する。図54は、試験信号出力処理の手順を示すフローチャートである。

【0723】

遊技制御装置100は、まず、試射試験装置への試験信号を出力する中継基板70上の

50

試験端子出力ポート 1 に出力するデータをロードして合成し、中継基板 70 上の試験端子出力ポート 1 に合成したデータを出力する (A 1 0 1 0 1)。その後、試射試験装置への試験信号を出力する中継基板 70 上の試験端子出力ポート 2 に出力するデータをロードして合成し、中継基板 70 上の試験端子出力ポート 2 に合成したデータを出力する (A 1 0 1 0 2)。

【0724】

次に、遊技制御装置 100 は、試射試験装置への試験信号を出力する中継基板 70 上の試験端子出力ポート 3 に出力するデータをロードして合成し、中継基板 70 上の試験端子出力ポート 3 に合成したデータを出力する (A 1 0 1 0 3)。さらに、試射試験装置の試験信号を出力する中継基板 70 上の試験端子出力ポート 4 に出力するデータをロードして合成し、中継基板 70 上の試験端子出力ポート 4 に合成したデータを出力する (A 1 0 1 0 4)。そして、試射試験装置への試験信号を出力する中継基板 70 上の試験端子出力ポート 5 に出力するデータをロードして合成し、中継基板 70 上の試験端子出力ポート 5 に合成したデータを出力する (A 1 0 1 0 5)。

【0725】

試験信号出力処理は、領域外処理に対応する領域外プログラムの一部である試験信号出力処理プログラムとして実行される。一方、出力処理 (図 10) は、領域内処理に対応する領域内プログラムの一部である出力処理プログラムとして実行される。なお、ステップ A 1 0 1 0 1 - A 1 0 1 0 5 の処理において、試験端子出力ポート 1 - 5 に出力するデータは、RAM の領域内ワーク領域から読み出される (ロードされる)。

【0726】

〔性能表示装置制御処理〕

次に、領域外統合処理 (図 53) における性能表示装置制御処理 (A 9 5 0 5) の詳細について説明する。図 55 は、性能表示装置制御処理の手順を示すフローチャートである。性能表示装置制御処理は、領域外処理であり前述の領域外プログラムの一部として実行される。

【0727】

遊技制御装置 100 は、まず、性能表示用ワーク領域の正当性を判定する正当性判定を実行し、正当でなく異常な場合に、性能表示用ワーク領域の初期化 (初期値設定も含む) を実行する (A 9 6 0 1)。ステップ A 9 6 0 1 の処理は、図 8 のステップ A 1 2 0 4 の処理と同様である。

【0728】

なお、性能表示装置制御処理が実行される度に正当性判定が実行されるため、性能表示用ワーク領域が正当でない場合に、すぐにその初期化が実行でき、異常な性能表示 (異常なベース値等の表示) が極力防止できる。

【0729】

また、性能表示用ワーク領域の初期化 (初期値設定も含む) は、スタックポインタ保存領域を保護するよう、スタックポインタ保存領域以外を初期化の対象とする。なお、本実施形態において領域外スタック領域は初期化しないが、初期化するようにしてもよい。領域外スタック領域を初期化する場合でも、領域外スタック領域に退避したレジスタの値は保護して初期化しない。性能表示用ワーク領域の初期化は、領域内ワーク領域 (遊技制御用ワーク領域) と領域内スタック領域 (遊技制御用スタック領域) の初期化とは区別されて実行されるため、領域内ワーク領域と領域内スタック領域には影響を与えない。

【0730】

続いて、遊技制御装置 100 は、初期表示タイマ更新処理を実行する (A 9 6 0 2)。初期表示タイマ更新処理において、性能表示開始時 (電源投入後) に約 5 秒間だけ性能表示装置 152 の各桁の表示器の LED を全て点滅する全点滅制御 (初期表示制御) するためのタイマの更新を行う。

【0731】

次に、遊技制御装置 100 は、ベース値の算出の対象となる入力ポートのスイッチ立ち

10

20

30

40

50

上がりエッジ情報を性能表示ワーク領域にコピーする（A 9 6 0 3）。スイッチ立ち上がりエッジ情報は、入力処理で取得されて領域内ワーク領域（特にスイッチ制御領域）に記憶されている（A 1 3 0 3）。前述のとおり、本実施形態において、ベース値算出の対象となる入力ポート（監視対象の入力ポート）は、第3入力ポート1 2 4と第4入力ポート1 2 6である。コピーしたスイッチ立ち上がりエッジ情報は、性能表示編集処理（図8）で使用される。

【0 7 3 2】

なお、遊技球を検出しても直接的に通常賞球数又は通常アウト球数を変化させず、ベース値の算出の対象とならないスイッチの立ち上がりエッジ情報（ビット）はクリアした状態でコピーする（マスクする）。例えば、ゲートスイッチ3 4 aや特定領域スイッチ7 2や残存球排出口スイッチ7 3などの情報はクリアした状態でコピーする。これにより、性能表示編集処理において、これらスイッチに関する処理（少なくともA 1 2 1 1のクリア処理）が省略できる。

【0 7 3 3】

なお、通常アウト球数は、仮に、入賞口のスイッチ3 5 a、3 6 a、3 7 a、3 8 a、3 9 a、ゲートスイッチ3 4 aや特定領域スイッチ7 2や残存球排出口スイッチ7 3での入力（遊技球検出）自体によって更新されてしまうと、遊技領域3 2から排出された全ての遊技球を検出するアウト球検出スイッチ7 4と重複して余分に更新され、ベース値が誤った値に算出されてしまう。また、通常賞球数は、仮に、入賞口のスイッチと重複して遊技球が通過可能なゲートスイッチ3 4 aや特定領域スイッチ7 2や残存球排出口スイッチ7 3での入力（遊技球検出）自体によって更新されてしまうと、入賞口のスイッチと重複して余分に更新され、ベース値が誤った値に算出されてしまう。

【0 7 3 4】

次に、遊技制御装置1 0 0は、性能表示装置表示処理を実行する（A 9 6 0 4）。性能表示装置表示処理では、表示期間の種類や、その他各種条件に合わせ、性能表示装置1 5 2に表示するベース値に対応するセグメント出力データ（ベース値に関する表示データや点灯パターンデータ）を設定する。例えば、表示期間として、リアルタイム値表示期間B L、1回前表示期間B 1、2回前表示期間B 2、3回前表示期間B 3を設けて、それぞれの表示期間において、ベース値の計測中のリアルタイム値、1回前の集計区間、2回前の集計区間、3回前の集計区間で計測したベース値に対応するセグメント出力データを設定してよい。

【0 7 3 5】

次に、遊技制御装置1 0 0は、表示期間の期間切替えのためのタイマの更新を行うとともに、表示期間の切替えタイミングであるか否かを判定する（A 9 6 0 5）。表示期間の切替えタイミングである場合に（A 9 6 0 5の結果が「Y」）、表示期間の切替え設定を実行し（A 9 6 0 6）、性能表示装置制御処理を終了する。遊技制御装置1 0 0は、表示期間の切替えタイミングでない場合に（A 9 6 0 5の結果が「N」）、表示期間の切替え設定を実行せずに、性能表示装置制御処理を終了する。

【0 7 3 6】

表示期間の切替え設定では、B L→B 1→B 2→B 3→B L→・・・のように、表示期間の情報の切り替え設定を行う。また、期間切替えのためのタイマの初期値（例えば所定期間5秒に相当する初期値）を設定する。

【0 7 3 7】

〔差玉確認処理〕

次に、領域外統合処理（図5 3）における差玉確認処理（A 9 5 0 6）の詳細について説明する。図5 6は、差玉確認処理の手順を示すフローチャートである。差玉確認処理は、領域外処理であり前述の領域外プログラムの一部として実行される。差玉確認処理では、差玉数を示唆する安全装置カウンタ値（差玉数+1 0万）を更新し、安全装置の状態を示唆する安全装置作動情報を更新する。

【0 7 3 8】

遊技制御装置100は、まず、領域内ワーク領域に含まれる安全装置作動中フラグ領域の安全装置作動中フラグに基づいて安全装置が作動中であるか否かを判定する(A9701)。安全装置が作動中である場合に(A9701の結果が「Y」)、直ちに差玉確認処理を終了して、安全装置カウンタ値と安全装置作動情報の更新は行われない。なお、本実施形態では、領域外プログラムに含まれる領域外統合処理プログラム(安全装置に関するプログラム)が遊技停止中に実行されない構成を有し、安全装置が作動して遊技停止状態になっている場合には、差玉確認処理を含む領域外統合処理は実行されないため(A1319の結果が「Y」)、ステップA9701の処理は無くてもよい。なお、ステップA9701の処理が無い場合に、安全装置作動中フラグ領域は領域内プログラムで読み書きされ、領域外プログラムで読まれない領域(アクセスされない領域)となる。

10

【0739】

遊技制御装置100は、安全装置が作動中でない場合に(A9701の結果が「N」)、領域外ワーク領域に含まれる旧作動情報領域の旧作動情報が2以上(旧作動情報領域 ≥ 2)であるか否かを判定する(A9702)。旧作動情報が2以上である場合に(A9702の結果が「Y」)、差玉確認処理を終了して、安全装置カウンタ値と安全装置作動情報の更新は行われない。

【0740】

遊技制御装置100は、旧作動情報が2未満である場合に(A9702の結果が「N」)、第4入力ポート126に関するスイッチ制御領域(領域内ワーク領域)のスイッチ立ち上がりエッジ情報に基づいてアウト球検出スイッチ74に入力があるか否かを判定する(A9703)。アウト球検出スイッチ74に入力がある場合に(A9703の結果が「Y」)、安全装置カウンタ値が0であるか否かを判定する(A9704)。安全装置カウンタ値が0でない場合に(A9704の結果が「N」)、安全装置カウンタ領域の値である安全装置カウンタ値を-1更新する(1だけ減少する)(A9705)。従って、アウト球検出スイッチ74への入力で排出球数が1だけ増加することに対応して、差玉数(=セーフ球数-排出球数)ひいては安全装置カウンタ値(=差玉数+10万)が1だけ減少して更新されることになる。次に、領域内ワーク領域に含まれる獲得遊技球数領域から獲得遊技球数をロードする(A9706)。

20

【0741】

遊技制御装置100は、アウト球検出スイッチ74に入力がない場合に(A9703の結果が「N」)、又は、安全装置カウンタ値が0である場合に(A9704の結果が「Y」)、安全装置カウンタ値を-1更新することなく維持して、獲得遊技球数をロードする(A9706)。

30

【0742】

次に、遊技制御装置100は、領域外ワーク領域に含まれる安全装置カウンタ領域の安全装置カウンタ値をロードし(A9707)、安全装置カウンタ値に獲得遊技球数を加算する(A9708)。獲得遊技球数は、1割込み内に獲得した賞球の数(合計)、即ち、1割込み内でのセーフ球数の増加であるため、ステップA9708において、差玉数(=セーフ球数-排出球数)ひいては安全装置カウンタ値(=差玉数+10万)が獲得遊技球数の分だけ増加して更新されることになる。

40

【0743】

続いて、遊技制御装置100は、安全装置カウンタ値がカウンタ基準値(195000)以上であるか否か(安全装置カウンタ ≥ 195000 であるか否か)を判定する(A9709)。安全装置カウンタ値がカウンタ基準値(195000)以上である場合に(A9709の結果が「Y」)、安全装置カウンタ値を上限値(195000のカウンタ基準値)まで戻すように安全装置カウンタ値に上限値(195000)をセットし(A9710)、加算後の値として上限値を安全装置カウンタ領域にセーブする(A9711)。なお、安全装置カウンタ値はステップA9708において上限値を超えて195000+ α になることもある。ここで、 α は、獲得遊技球数(1割込み内で獲得)の最大値未満であり、例えば、全ての入賞口スイッチに同時に入力があった場合の賞球の合計値よりも小さ

50

い。

【0744】

一方、安全装置カウンタ値がカウンタ基準値（195000）未満である場合に（A9709の結果が「N」）、上限値に制限する必要がないため、ステップA9708の加算処理による加算後の値をそのまま安全装置カウンタ領域にセーブする（A9711）。このようにして、安全装置カウンタ領域の安全装置カウンタ値が、加算後の値（上限値に制限されたものも含む）に更新される。

【0745】

なお、安全装置カウンタ値を上限値19500に制限することによって、安全装置カウンタ領域の範囲（バイト数又はビット数）が明確になり、遊技制御用プログラムの開発に都合がよい。

10

【0746】

次に、遊技制御装置100は、安全装置カウンタ値に対応する作動情報番号（ここでは0～2）を設定する（A9712）。0～189999の安全装置カウンタ値、190000～194999の安全装置カウンタ値、195000の安全装置カウンタ値のそれぞれに対応して、作動情報番号は、安全装置の未作動状態（通常状態）を示す「0」、作動予告状態を示す「1」、作動警告状態を示す「2」に設定される。なお、作動情報番号は、安全装置が作動中である作動状態を示す「3」には設定されない。ここで、前述のように条件（1）に関する差玉数を、最低値を基準とした差玉数（最低値の時点から現在までの所定期間における差玉数）とする場合には、ステップA9709において、現在の安全装置カウンタ値から、現在までの最低の安全装置カウンタ値を減算した値が、差玉基準値95000以上であるか否かを判定し、差玉基準値95000以上であればステップA9710で差玉数を95000に設定してよい。そして、ステップA9712において、最低値を基準として0～89999の差玉数、90000～94999の差玉数、95000の差玉数のそれぞれに対応して、作動情報番号は、安全装置の未作動状態（通常状態）を示す「0」、作動予告状態を示す「1」、作動警告状態を示す「2」に設定されてよい。また、上述の最低の安全装置カウンタ値は、領域外ワーク領域の最低値領域に保存され、現在の安全装置カウンタ値が保存された最低の安全装置カウンタ値よりも小さくなる度に、最低の安全装置カウンタ値は現在の安全装置カウンタ値に更新されてよい。なお、作動情報番号が「2」となると、後述のように、即時、又は、大当たりや小当たりの終了後に遊技停止状態になってしまう。このように、条件（1）に関する差玉数を最低値を基準とした差玉数とする場合、現時点での差玉数が差玉基準値95000以上であれば遊技停止状態が発生可能になるため、条件（1）に関する差玉数を、1日の営業における差玉数の最大増加幅（いわゆるMY）としたのと同等になる。

20

30

【0747】

続いて、遊技制御装置100は、領域外ワーク領域に含まれる安全装置作動情報領域から現在の安全装置作動情報をロードして、旧作動情報領域にセーブする（A9713）。そして、旧作動情報が2で且つ作動情報番号が1（旧作動情報＝2且つ作動情報番号＝1）であるか否かを判定する（A9714）。旧作動情報＝2且つ作動情報番号＝1である場合（A9714の結果が「Y」）、作動情報番号を安全装置作動情報領域にセーブすることなく安全装置作動情報「2」（ロードした値）を維持して、差玉確認処理を終了する。これにより、安全装置作動情報が「2」から「1」に変化することが防止される（2→1の変化の防止）。そして、次のタイマ割込み以降の差玉確認処理は、旧作動情報が2であるため（A9702の結果が「Y」）、すぐに終了して、安全装置カウンタ値と安全装置作動情報の更新は行われず、安全装置作動情報「2」が維持される。

40

【0748】

一方、遊技制御装置100は、旧作動情報が2でないか又は作動情報番号が1でない場合に（A9714の結果が「N」：旧作動情報≠2又は作動情報番号≠1の場合）、作動情報番号を安全装置作動情報領域にセーブして、安全装置作動情報領域を更新する（A9715）。その後、差玉確認処理を終了する。なお、安全装置作動情報領域に作動警告状

50

態を示す「2」がセーブされても、大当たり中でも小当たり中でもない場合には、後の安全装置作動監視処理において瞬時に安全装置の作動状態を示す「3」が安全装置作動情報領域にセーブされて、作動警告状態は発生しない。

【0749】

このようにして、差玉確認処理において、0～189999の安全装置カウンタ値、190000～194999の安全装置カウンタ値、195000の安全装置カウンタ値のそれぞれに対応して、安全装置作動情報は、安全装置の未作動状態（通常状態）を示す「0」（安全装置未作動情報）、作動予告状態を示す「1」（安全装置作動予告情報）、作動警告状態を示す「2」（安全装置作動警告情報）に設定される。

【0750】

安全装置作動情報の旧情報（A9713の旧作動情報）から更新後の新情報（A9715）への変化パターン（維持パターン含む）は、0→0、0→1、1→0、1→1、1→2、2→2のいずれかになり、前述のとおり、2→1の変化は防止されている（A9714）。

【0751】

なお、遊技制御装置100は、更新された安全装置カウンタ値（A9711）を示す差玉コマンド、或いは、更新された差玉数（＝安全装置カウンタ値－10万）を示す差玉コマンドを、演出制御装置300（サブ基板）に送信し、演出制御装置300は表示装置41等に安全装置カウンタ値或いは差玉数を表示させてもよい。その場合、差玉確認処理において、旧作動情報領域の旧作動情報が2（安全装置作動警告情報）でも（A9702）、安全装置カウンタ値の更新を行うようにするとともに、ステップA9709とA9710の処理を省略して、安全装置カウンタ値を上限値19500に制限しないようにする。ただし、195000以上の安全装置カウンタ値に対応して、安全装置作動情報は、作動警告状態を示す「2」（安全装置作動警告情報）に設定されるようにする。

【0752】

以上、差玉確認処理について説明したが、差玉確認処理のステップA9706は、払い出された遊技媒体の数又は払い出されることが決定された遊技媒体の数である払出数（付与された遊技価値の量又は付与されることが決定された遊技価値の量）を計数可能な第1計数手段を構成する。差玉確認処理のステップA9703－A9705は、使用された遊技媒体の数である使用数（例えば発射球数又は排出球数）を計数可能な第2計数手段を構成する。差玉確認処理のステップA9708は、払出数と使用数とに基づいた演算値（例えば安全装置カウンタ値又は差玉数）を演算可能な演算手段を構成する。

【0753】

〔安全装置作動監視処理〕

次に、領域外統合処理（図53）における安全装置作動監視処理（A9507）の詳細について説明する。図57は、安全装置作動監視処理の手順を示すフローチャートである。安全装置作動監視処理は、領域外処理であり前述の領域外プログラムの一部として実行される。

【0754】

遊技制御装置100は、まず、安全装置作動情報が2以上（安全装置作動情報 ≥ 2 ）であるか否かを判定する（A9801）。安全装置作動情報が2以上である場合に（A9801の結果が「Y」）、即ち、安全装置作動警告情報（値2）又は安全装置作動中情報（値3）が設定されている場合に、大当たり中又は小当たり中であるか否かを判定する（A9802）。ここで、大当たり中又は小当たり中であるか否かは、例えば、特図ゲーム処理番号に基づいて判定できる。特図ゲーム処理番号は、領域内ワーク領域の特図ゲーム処理番号領域に記憶される。

【0755】

例えば、大当たりファンファーレの特図ゲーム処理番号から大当たりエンディングのゲーム処理番号なら、大当たり中と判定できる。本実施形態では、特図ゲーム処理番号が7から10なら大当たり中と判定できる。また、例えば、小当たりファンファーレのゲーム処理番号が

10

20

30

40

50

ら小当りのエンディングのゲーム処理番号なら、小当り中と判定できる。本実施形態では、特図ゲーム処理番号が3から6なら小当り中と判定できる。なお、小当り図柄が導出された時点や小当りファンファーレ終了時点から小当り中と判定してもよいし、大当り図柄が導出された時点や大当りファンファーレ終了時点から大当り中と判定してもよい。小当り中のV入賞によって大当りが発生する場合は、V入賞があった時点から大当り中と判定してもよい。

【0756】

遊技制御装置100は、小当り中でも大当り中でもない場合に（A9802の結果が「N」）、領域外ワーク領域に含まれる安全装置作動情報領域から現在の安全装置作動情報をロードして、旧作動情報領域にセーブする（A9803）。そして、安全装置作動情報領域に安全装置作動中情報（値3）をセーブして、安全装置作動情報領域を更新する（A9804）。

【0757】

一方、安全装置作動情報が2より小さい「0」又は「1」の場合に（A9801の結果が「N」）、或いは、大当り中又は小当り中である場合に（A9802の結果が「Y」）、安全装置作動監視処理をすぐに終了して、実質的に安全装置作動監視処理では何もしない。

【0758】

以上のように、安全装置作動警告情報（値2）が設定されており安全装置の作動を警告する作動警告状態（条件（1）が成立し、条件（2）は未成立）において、大当り又は小当りが終了することによって小当り中でも大当り中でもなくなったら（条件（2）が成立したら）、安全装置作動情報を安全装置作動中情報（値3）に設定する（安全装置作動情報の2→3の変化）（A9804）。これによって、安全装置作動中フラグを「1」にして（安全装置関連処理のA9410）、安全装置が作動した作動状態（打ち止め状態）、即ち、遊技として特図変動表示ゲーム、普図変動表示ゲーム、及び、ラウンド遊技等が実行できない遊技停止状態（遊技不可状態、遊技禁止状態）を発生できることになる。このように、安全装置作動中フラグは、安全装置作動情報領域（領域外ワーク領域の一部）の安全装置作動情報に基づいて設定可能である。そして、「1」の安全装置作動中フラグは、作動条件（所定条件）の成立に基づいて安全装置が作動したこと（作動中であること）や遊技不可状態の発生を示すことになる。なお、「1」の安全装置作動中フラグに基づいて、ステップA1309、A1603、A1612、A2201等の結果が「Y」となり、遊技停止状態が発生する。

【0759】

安全装置が作動して遊技ができなくなることによって、差玉数やセーフ球数が大きい場合などに不正対策を適切に行うことができ、また、差玉数やセーフ球数を抑制することによって遊技者の遊技に対するのめり込みも抑制できる可能性がある。

【0760】

なお、195000の安全装置カウンタ値に達して安全装置作動警告情報（値2）が設定されていても（差玉確認処理のA9712、A9715）、大当り中でも小当り中でもない場合には（A9802の結果が「N」）、安全装置作動情報が瞬時に安全装置作動警告情報（値2）から安全装置作動中情報（値3）に切り替わることになる（A9804）。即ち、この場合には、作動警告コマンドが演出制御装置300に送信される前に、安全装置作動情報領域の安全装置作動警告情報（値2）が安全装置作動中情報（値3）で上書きされ消去されてしまう。従って、大当り中でも小当り中でもない場合に、安全装置カウンタ値が195000に達すると、安全装置の作動を警告する作動警告状態は発生せず、直後から安全装置が作動して遊技停止状態（遊技不可状態、遊技禁止状態）が発生する。なお、これは前述のように安全装置作動情報が瞬時に1→2→3と変化することに相当するが（2は瞬間値になり作動警告状態は発生しない）、安全装置の作動を予告する作動予告状態から安全装置が作動中である作動状態に移行したことに対応して、作動中コマンドが安全装置作動関連コマンドとして演出制御装置300に送信される（A9405、A9

407)。

【0761】

また、安全装置作動警告情報（値3）が設定されており、安全装置が既に作動して遊技停止状態になっている場合には、領域外統合処理は実行されないため（A1319の結果が「Y」）、安全装置作動情報を安全装置作動中情報（値3）に維持し、遊技停止状態を継続する。

【0762】

なお、本実施形態では、小当り中においてV入賞の前後のいずれでも、195000の安全装置カウンタ値に到達して安全装置作動警告情報（値2）が設定されたら、V入賞による大当りの終了後に、ステップA9804で安全装置作動中情報（値3）を設定して遊技停止状態にする（大当りは発生する）。しかし、他の例として、小当り中においてV入賞の前に安全装置作動警告情報（値2）が設定されたら、小当り終了直後に安全装置作動中情報（値3）を設定して遊技停止状態にし（大当りは発生せず）、小当り中においてV入賞の後に安全装置作動警告情報（値2）が設定されたら、V入賞による大当り終了後に安全装置作動中情報（値3）を設定して遊技停止状態にしてよい（大当りは発生する）。また、さらなる他の例として、小当り中においてV入賞の前後のいずれで安全装置作動警告情報（値2）が設定されても、小当り終了直後に、安全装置作動中情報（値3）を設定して遊技停止状態にしてよい（大当りは発生しない）。

【0763】

〔演出制御装置の制御〕

以下に、演出制御装置300が演出制御用プログラムによって実行する制御（処理）を説明する。

【0764】

〔メイン処理（演出制御装置）〕

最初に、演出制御装置300によって実行されるメイン処理の詳細を説明する。図58は、演出制御装置300によって実行されるメイン処理（メインプログラム）の手順を示すフローチャートである。メイン処理は、遊技機10に電源が投入されると主制御用マイコン311（演出用マイコン）によって実行される。なお、演出制御装置300が実行する処理のフローチャートにおいて、ステップの符号（番号）は「B****」と表されている。

【0765】

演出制御装置300は、メイン処理の実行が開始されると、まず、割込みを禁止する（B0001）。次にCPU311及びVDP312の初期設定を実行し（B0002、B0003）、割込みを許可する（B0004）。割込みが許可されると、遊技制御装置100から送信されたコマンドを受信するコマンド受信割込み処理を実行可能な状態となる。

【0766】

次に、演出制御装置300は、表示装置41等に表示する表示用データの生成を許可し（B0005）、乱数生成に用いる乱数シードを設定する（B0006）。そして、初期化すべき領域に電源投入時の初期値をセーブする（B0007）。

【0767】

続いて、演出制御装置300は、WDT（ウォッチドッグタイマ）をクリアする（B0008）。WDTは、上述したCPU初期設定（B0002）で起動され、CPU311が正常に動作しているかどうかを監視する。WDTが一定周期を経過してもクリアされない場合は、WDTがタイムアップしてCPU311がリセットされる。

【0768】

その後、演出制御装置300は、RTC（リアルタイムクロック）338から時刻の情報を読み込むRTC読込処理を実行する（B0009）。

【0769】

RTC読込処理では、所定の周期（例えば2時間おき）でRTC338から時刻の情報

10

20

30

40

50

を読み込む構成としてもよく、ステップ B 0 0 0 9 へ処理が移行する度に時刻の情報を読み込む必要はない。演出制御装置 3 0 0 への電源投入（即ち遊技機 1 0 への電源投入）の際に、一度だけ、R T C 読込処理を実行する構成としてもよい（R T C 読込処理の位置を変えて、例えばステップ B 0 0 0 3 と B 0 0 0 4 の間で実行してもよい）。演出制御装置 3 0 0 は、R A M 内のタイマ領域に時刻を計時する時刻用タイマ（計時手段）を設定し、所定の周期で R T C 3 3 8 から時刻の情報を読み込んだ際又は電源投入時に一度だけ R T C 3 3 8 から時刻の情報を読み込んだ際に、時刻用タイマ（計時手段）を R T C 3 3 8 の時刻に合わせるよう調整してよい。そして、演出制御装置 3 0 0 は、時刻用タイマを使用して各種処理を実行してもよい。このようにすれば、R T C 3 3 8 から時刻を読み込む処理の回数を低減でき、C P U 3 1 1 の負荷が減少する。

10

【0770】

次に、演出制御装置 3 0 0 は、遊技者による演出ボタン 2 5 の操作信号（演出ボタンスイッチ 2 5 a 又はタッチパネル 2 5 b の信号）を検出したり、検出した信号に応じて演出内容（設定）を変更したりする演出ボタン入力処理を実行する（B 0 0 1 0）。続いて、遊技場（遊技店）の責任者や遊技者等による L E D や液晶（表示装置 4 1 等）の輝度、音量の変更などの操作を受け付けるホール・遊技者設定モード処理を実行する（B 0 0 1 1）。操作としては、十字キースイッチ 4 5 0、音量調整用ボタンスイッチ 4 5 1 a、4 5 1 b、演出ボタン 2 5、遊技機裏面の音量調節スイッチ 3 3 5 などの操作部の操作がある。ホール・遊技者設定モード処理において、後述の演出ポイントに応じて、遊技者は演出をカスタマイズすることができる。

20

【0771】

次に、演出制御装置 3 0 0 は、演出ポイントの加算やクリアを実行する演出ポイント制御処理を実行する（B 0 0 1 2）。演出ポイント制御処理では、演出ポイントの加算対象となる演出や操作が実行されることで演出ポイントが加算される処理がされ、また、演出ポイントを次の遊技に繰り越せるよう遊技終了時又は遊技停止時（打ち止め時）などに、例えば、演出ポイントの情報等を含む情報が 2 次元コードである Q R コード（登録商標）として表示装置 4 1 に表示される。例えば、演出制御装置 3 0 0 は、ホール・遊技者設定モード処理や安全装置系処理（作動中コマンド受信時）において、Q R コード（登録商標）を表示装置 4 1 に表示できる。

30

【0772】

次に、演出制御装置 3 0 0 は、演出乱数などの乱数を更新するための乱数更新処理を実行し（B 0 0 1 3）、遊技制御装置 1 0 0 から受信した受信コマンドを解析して対応する受信コマンドチェック処理を実行する（B 0 0 1 4）。なお、受信コマンドチェック処理の詳細については、図 5 9 にて後述する。

【0773】

続いて、演出制御装置 3 0 0 は、表示装置 4 1 で表示される客待ちデモの内容を編集して制御する客待ちデモ編集処理を実行し（B 0 0 1 5）、客待ち中の遊技機 1 0 の節電状態を制御する節電制御処理を実行する（B 0 0 1 6）。

【0774】

次に、演出制御装置 3 0 0 は、表示装置 4 1 等の表示装置（表示手段）に表示する内容に合わせて各種データの更新を行ったり、表示装置 4 1 に表示する描画を表示フレームバッファに設定したりする演出表示編集処理を実行する（B 0 0 1 7）。このとき設定される描画データは、フレーム周期 1 / 3 0 秒（約 3 3 . 3 m s e c）以内に V D P 3 1 2 が描画を完了することができるものであれば問題なく表示装置 4 1 の画像を更新することができる。そして、表示フレームバッファへの描画準備を完了させて描画コマンド準備終了設定を実行する（B 0 0 1 8）。

40

【0775】

続いて、演出制御装置 3 0 0 は、フレーム切替タイミングであるか否かを判定する（B 0 0 1 9）。フレーム切替タイミングでない場合は（B 0 0 1 9 の結果が「N」）、フレーム切替タイミングになるまで B 0 0 1 9 の処理を繰り返し、フレーム切替タイミングで

50

ある場合は（B 0 0 1 9の結果が「Y」）、表示装置 4 1 への画面描画を指示する（B 0 0 2 0）。本実施形態のフレーム周期は 1 / 3 0 秒なので、例えば 1 / 6 0 秒（フレーム周期の 1 / 2）毎の周期的な V ブランク（画像更新）が 2 回実行されるとフレームの切り替えが行われる。なお、1 / 6 0 秒で画像を更新せず、さらに間隔を大きくしてもよい。

【0 7 7 6】

また、演出制御装置 3 0 0 は、スピーカ 1 9 から出力される音を制御するサウンド制御処理を実行する（B 0 0 2 1）。

【0 7 7 7】

また、演出制御装置 3 0 0 は、LED 等からなる装飾装置（盤装飾装置 4 6、枠装飾装置 1 8）を制御する装飾制御処理を実行する（B 0 0 2 2）。装飾制御処理では、例えば、LED 等の装飾装置の輝度制御（発光制御）を実行する。

【0 7 7 8】

さらに、演出制御装置 3 0 0 は、モータ及びソレノイドで駆動される可動役物（電動役物）などの演出装置（盤演出装置 4 4、枠演出装置等）を制御する可動体制御処理を実行する（B 0 0 2 3）。可動体制御処理では、例えば、モータを駆動する役物動作演出を設定する。

【0 7 7 9】

そして、演出制御装置 3 0 0 は、前述の B 0 0 2 3 の処理を終えると、B 0 0 0 8 の処理に戻る。以降、B 0 0 0 8 から B 0 0 2 3 までの処理を繰り返す。

【0 7 8 0】

〔受信コマンドチェック処理〕

次に、図 5 9 を参照して、上述したメイン処理（図 5 8）における受信コマンドチェック処理（B 0 0 1 4）の詳細について説明する。図 5 9 は、演出制御装置 3 0 0 によって実行される受信コマンドチェック処理の手順を示すフローチャートである。

【0 7 8 1】

演出制御装置 3 0 0 は、まず、遊技制御装置 1 0 0 から受信したコマンド数をチェックするために RAM のコマンド受信カウンタ領域のコマンド受信カウンタの値をコマンド受信数としてロードする（B 1 1 0 1）。そして、コマンド受信数が 0 でないか否かを判定する（B 1 1 0 2）。コマンド受信数が 0 である場合、すなわち、遊技制御装置 1 0 0 から受信したコマンドがない場合には（B 1 1 0 2 の結果が「N」）、解析するコマンドがないので、受信コマンドチェック処理を終了する。

【0 7 8 2】

一方、演出制御装置 3 0 0 は、コマンド受信数が 0 でない場合、すなわち、遊技制御装置 1 0 0 からコマンドを受信している場合には（B 1 1 0 2 の結果が「Y」）、コマンド受信カウンタ領域のコマンド受信カウンタ値をコマンド受信数分減算した後（B 1 1 0 3）、RAM の受信コマンドバッファの内容を解析用のコマンド領域にコピーする（B 1 1 0 4）。ここで、受信コマンドバッファはリングバッファなので、バッファ内の内容をコマンド領域にコピーする前にコマンド受信数を減算しても問題ない。また、コピー中に新たにコマンドを受信してもデータが上書きされることはない。

【0 7 8 3】

そして、演出制御装置 3 0 0 は、コマンド読出インデックスを 0 ~ 3 1 の範囲で + 1 更新（1 だけ加算）する（B 1 1 0 5）。受信コマンドバッファは受信したコマンドを 3 2 個まで保存できるよう構成されている。受信したコマンドは、コマンド読出インデックス 0 ~ 3 1 の順に受信コマンドバッファに格納されており、ここではインデックス順に受信したコマンドを読み出して、解析用のコマンド領域にコピーする。なお、解析用のコマンド領域へのコピーが完了したタイミングで、読みだしたコマンド読出インデックスに対応する受信コマンドバッファの格納領域内はクリアされる。

【0 7 8 4】

演出制御装置 3 0 0 は、ステップ B 1 1 0 1 の処理にてロードしたコマンド受信数分のコマンドのコピーが完了したか否かを判定し（B 1 1 0 6）、コピーが完了していない場

10

20

30

40

50

合は（B 1 1 0 6の結果が「N」）、ステップB 1 1 0 4からB 1 1 0 6の処理を繰り返す。

【0785】

遊技制御装置100から送信されたコマンドを演出制御装置300が受信すると、受信コマンドバッファに受信したコマンドの内容が保存されると同時にコマンド受信カウンタ領域のコマンド受信カウンタ値が加算更新される。受信コマンドバッファには32個分のコマンドを保存することができるが、受信したコマンドの解析は、別途、解析用のコマンド領域で行われる。そして、解析用のコマンド領域に受信したコマンドの内容がコピーされると、受信コマンドバッファ及びコマンド受信カウンタ値はクリアされる。このように、受信コマンドバッファ内で直接解析を行わずに常に空き領域を確保しておくことで、コマンドの大量受信に備えることができる。

10

【0786】

続いて、演出制御装置300は、コピーが完了した場合には（B 1 1 0 6の結果が「Y」）、解析用のコマンド領域の受信したコマンド内容をロードし（B 1 1 0 7）、内容を解析する受信コマンド解析処理を実行する（B 1 1 0 8）。なお、受信コマンド解析処理の詳細については、次の図60にて後述する。また、解析用のコマンド領域のアドレスを更新する（B 1 1 0 9）。その後、ステップB 1 1 0 1の処理にてロードしたコマンド受信数分のコマンドの解析が完了したか否かを判定し（B 1 1 1 0）、解析が完了していない場合は（B 1 1 1 0の結果が「N」）、ステップB 1 1 0 7からB 1 1 1 0の処理を繰り返す。解析が完了した場合には（B 1 1 1 0の結果が「Y」）、受信コマンドチェック処理を終了する。

20

【0787】

〔受信コマンド解析処理〕

次に、図60を参照して、前述した受信コマンドチェック処理（図59）における受信コマンド解析処理（B 1 1 0 8）の詳細について説明する。図60は、演出制御装置300によって実行される受信コマンド解析処理の手順を示すフローチャートである。

【0788】

演出制御装置300は、まず、受信したコマンドの上位バイトをMODE部、下位バイトをACTION部（ACT部）として分離する（B 1 2 0 1）。遊技制御装置100から演出制御装置300に送信されるコマンドは、MODE部（MODEコマンド）及びACTION部（ACTIONコマンド）によって構成されており、通常、コマンドの種類を示すMODE部から連続して送信される。従って、受信したコマンドの上位、下位はMODE部、ACTION部の順に構成される。

30

【0789】

次に、演出制御装置300は、MODE部が正常範囲であるか否かを判定する（B 1 2 0 2）。すなわち、コマンドの種類を示すMODE部が取り得る値（種類を示すコマンド仕様として割り当てられた値）であるか否かを判定する。そして、MODE部が正常範囲である場合には（B 1 2 0 2の結果が「Y」）、同様にACTION部が正常範囲であるか否かを判定する（B 1 2 0 3）。すなわち、コマンドの内容（具体的な演出指示等）を示すACTION部が取り得る値（内容を示すコマンド仕様として割り当てられた値）であるか否かを判定する。そして、ACTION部が正常範囲である場合には（B 1 2 0 3の結果が「Y」）、さらに、MODE部に対するACTION部は正しい組み合わせか否かを判定する（B 1 2 0 4）。すなわち、ACTION部の値が、MODE部によって特定される種類のコマンドが取り得る値であるのか否かを判定する。そして、正しい組み合わせである場合には（B 1 2 0 4の結果が「Y」）、B 1 2 0 5以降の処理でコマンドの系統に応じたコマンド処理を実行する。

40

【0790】

演出制御装置300は、まず、MODE部の値が変動系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 0 5）。なお、変動系コマンドは、飾り特別図柄の変動パターンなどを指令するコマンドであり、例えば変動コマンドがある。そして、MODE部が変動系コマンドを

50

表す場合には（B 1 2 0 5の結果が「Y」）、変動系コマンド処理を実行し（B 1 2 0 6）、受信コマンド解析処理を終了する。

【0 7 9 1】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が変動系コマンドを表していない場合には（B 1 2 0 5の結果が「N」）、次に、MODE 部が当り系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 0 7）。なお、当り系コマンドは、大当り中や小当り中の演出に関する動作（ファンファーレ画面やラウンド画面の表示など）などを指令するコマンドであり、例えば、ファンファーレ画面等を指令するためのファンファーレコマンド、ラウンド画面等を指令するためのラウンドコマンド、インターバル画面等を指令するためのインターバルコマンド、エンディング画面等を指令するためのエンディングコマンドなどである。そして、MODE 部が当り系コマンドを表す場合には（B 1 2 0 7の結果が「Y」）、当り系コマンド処理を実行し（B 1 2 0 8）、受信コマンド解析処理を終了する。

10

【0 7 9 2】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が当り系コマンドを表していない場合には（B 1 2 0 7の結果が「N」）、次に、MODE 部が図柄系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 0 9）。なお、図柄系コマンドには、例えば、停止図柄パターンに対応する飾り特図コマンドがある。そして、MODE 部が図柄系コマンドを表す場合には（B 1 2 0 9の結果が「Y」）、図柄系コマンド処理を実行し（B 1 2 1 0）、受信コマンド解析処理を終了する。

【0 7 9 3】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が図柄系コマンドを表していない場合には（B 1 2 0 9の結果が「N」）、次に、MODE 部が単発系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 1 1）。そして、MODE 部が単発系コマンドを表す場合には（B 1 2 1 1の結果が「Y」）、単発系コマンド処理を実行し（B 1 2 1 2）、受信コマンド解析処理を終了する。

20

【0 7 9 4】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が単発系コマンドを表していない場合には（B 1 2 1 1の結果が「N」）、次に、MODE 部が先読み図柄系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 1 3）。先読み図柄系コマンドには、例えば、先読み停止図柄コマンドがある。そして、MODE 部が先読み図柄系コマンドを表す場合には（B 1 2 1 3の結果が「Y」）、先読み図柄系コマンド処理を実行し（B 1 2 1 4）、受信コマンド解析処理を終了する。

30

【0 7 9 5】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が先読み図柄系コマンドを表していない場合には（B 1 2 1 3の結果が「N」）、次に、MODE 部が先読み変動系コマンドの範囲か否かを判定する（B 1 2 1 5）。先読み変動系コマンドには、例えば、先読み変動パターンコマンドがある。そして、MODE 部が先読み変動系コマンドを表す場合には（B 1 2 1 5の結果が「Y」）、先読み変動系コマンド処理を実行し（B 1 2 1 6）、受信コマンド解析処理を終了する。

【0 7 9 6】

一方、演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が先読み変動系コマンドを表していない場合には（B 1 2 1 5の結果が「N」）、予期しないコマンド（例えば、テストモード中のみ使用するコマンド）を受信した可能性があるので、受信コマンド解析処理を終了する。また、MODE 部が正常範囲でない場合（B 1 2 0 2の結果が「N」）、ACTION 部が正常範囲でない場合（B 1 2 0 3の結果が「N」）、もしくは、MODE 部に対する ACTION 部が正しい組合せでない場合も（B 1 2 0 4の結果が「N」）、受信コマンド解析処理を終了する。

40

【0 7 9 7】

〔単発系コマンド処理〕

次に、図 6 1 を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図 6 0）における単発系コ

50

マンド処理（B 1 2 1 2）の詳細について説明する。図 6 1 は、演出制御装置 3 0 0 によって実行される単発系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

【0 7 9 8】

演出制御装置 3 0 0 は、まず、MODE 部が遊技機の種類を示す機種指定コマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 0 1）。そして、MODE 部が機種指定コマンドを表す場合には（B 1 3 0 1 の結果が「Y」）、遊技機の種類を設定する機種設定処理を実行し（B 1 3 0 2）、単発系コマンド処理を終了する。例えば、機種指定コマンドには、機種コードが含まれる。

【0 7 9 9】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が機種指定コマンドを表していない場合には（B 1 3 0 1 の結果が「N」）、次に、MODE 部が RAM 初期化のコマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 0 3）。そして、MODE 部が RAM 初期化のコマンドを表す場合には（B 1 3 0 3 の結果が「Y」）、RAM 初期化の報知等を行う RAM 初期化設定処理を実行し（B 1 3 0 4）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 0】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が RAM 初期化のコマンドを表していない場合には（B 1 3 0 3 の結果が「N」）、次に、MODE 部が停電復旧系コマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 0 5）。例えば、停電復旧系コマンドとして、停電復旧コマンドと復旧画面コマンドがある。そして、MODE 部が停電復旧系コマンドを表す場合には（B 1 3 0 5 の結果が「Y」）、停電復旧設定処理を実行し（B 1 3 0 6）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 1】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が停電復旧系コマンドを表していない場合には（B 1 3 0 5 の結果が「N」）、次に、MODE 部が客待ちデモコマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 0 7）。そして、MODE 部が客待ちデモコマンドを表す場合には（B 1 3 0 7 の結果が「Y」）、客待ちデモ設定処理を実行し（B 1 3 0 8）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 2】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が客待ちデモコマンドを表していない場合には（B 1 3 0 7 の結果が「N」）、次に、MODE 部が飾り特図 1 保留数コマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 0 9）。そして、MODE 部が飾り特図 1 保留数コマンドを表す場合には（B 1 3 0 9 の結果が「Y」）、特図 1 保留情報設定処理を実行し（B 1 3 1 0）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 3】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が飾り特図 1 保留数コマンドを表していない場合には（B 1 3 0 9 の結果が「N」）、次に、MODE 部が飾り特図 2 保留数コマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 1 1）。そして、MODE 部が飾り特図 2 保留数コマンドを表す場合には（B 1 3 1 1 の結果が「Y」）、特図 2 保留情報設定処理を実行し（B 1 3 1 2）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 4】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が飾り特図 2 保留数コマンドを表していない場合には（B 1 3 1 1 の結果が「N」）、次に、MODE 部が確率情報コマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 1 3）。そして、MODE 部が確率情報コマンドを表す場合には（B 1 3 1 3 の結果が「Y」）、確率情報設定処理を実行し（B 1 3 1 4）、単発系コマンド処理を終了する。

【0 8 0 5】

演出制御装置 3 0 0 は、MODE 部が確率情報コマンドを表していない場合には（B 1 3 1 3 の結果が「N」）、次に、MODE 部がエラー／不正系のコマンドを表すか否かを判定する（B 1 3 1 5）。なお、エラー／不正系のコマンドとして、例えば、不正発生コマンド、不正解除コマンド、状態オフコマンド、状態オンコマンド、磁石不正報知コマン

10

20

30

40

50

ド（磁気エラーコマンド）、盤電波不正報知コマンド（盤電波エラーコマンド）がある。不正発生コマンドとして、始動口1スイッチ36a、始動口2スイッチ37a、入賞口スイッチ35a、大入賞口スイッチ43の信号に基づく不正入賞の発生を示すコマンドがある。不正解除コマンドは、不正の解除を示すコマンドである。入賞口スイッチ／状態監視処理（A1308）において、不正入賞の発生と不正の解除が監視されて、不正発生コマンドと不正解除コマンドが送信され得る。状態オンコマンドとして、シュート球切れスイッチ信号の発生（シュート球切れエラー）や、オーバーフロースイッチ信号の発生（オーバーフローエラー）や、払出異常ステータス信号の発生（払出異常エラー）や、ガラス枠開放検出スイッチ63からの信号の発生（ガラス枠開放エラー）や、前面枠開放検出スイッチ64（本体枠開放検出スイッチ）からの信号の発生（本体枠開放エラー、前面枠開放エラー）を示すコマンドがある。また、状態オフコマンドは、エラーの不発生を示す。磁気センサスイッチ61からの検出（磁石不正）があった場合に、磁石不正監視処理（A1314）において磁石不正報知コマンドが送信される。電波センサ62からの検出（電波不正）があった場合に、電波不正監視処理（A1315）において盤電波不正報知コマンドが送信される。

10

【0806】

そして、MODE部がエラー／不正系のコマンドを表す場合には（B1315の結果が「Y」）、エラーや不正の報知や報知解除をするためのエラー／不正設定処理を実行し（B1316）、単発系コマンド処理を終了する。エラー／不正設定処理では、例えば、エラーや不正の報知音を発生させたり、枠装飾装置18や盤装飾装置46のLEDなど遊技機10に設けられた演出用LEDを所定態様で発光させたり、表示装置41等でエラー表示をするよう設定する。

20

【0807】

演出制御装置300は、MODE部がエラー／不正系のコマンドを表していない場合には（B1315の結果が「N」）、次に、MODE部が演出モード切替用のコマンドを表すか否かを判定する（B1317）。そして、MODE部が演出モード切替用のコマンドを表す場合には（B1317の結果が「Y」）、演出モード切替設定処理を実行し（B1318）、単発系コマンド処理を終了する。

【0808】

演出制御装置300は、MODE部が演出モード切替用のコマンドを表していない場合には（B1317の結果が「N」）、次に、MODE部がアウト球数を示すアウト球数コマンドを表すか否かを判定する（B1319）。そして、MODE部がアウト球数コマンドを表す場合には（B1319の結果が「Y」）、アウト球数受信時処理を実行し（B1320）、単発系コマンド処理を終了する。

30

【0809】

演出制御装置300は、MODE部がアウト球数コマンドを表していない場合には（B1319の結果が「N」）、次に、MODE部がカウントのコマンド（大入賞口カウントコマンドなど）を表すか否かを判定する（B1321）。そして、MODE部が大入賞口スイッチのカウントのコマンドを表す場合には（B1321の結果が「Y」）、カウント情報設定処理を実行し（B1322）、単発系コマンド処理を終了する。

40

【0810】

演出制御装置300は、MODE部がカウントのコマンドを表していない場合には（B1321の結果が「N」）、MODE部が設定値情報コマンド（確率設定値情報コマンド）を表すか否かを判定する（B1323）。設定値情報コマンドは、図5BのステップA1049の停電復旧時のコマンド及びステップA1047の処理で送信されるRAM初期化時のコマンドに含まれる。そして、MODE部が設定値情報コマンドを表す場合には（B1323の結果が「Y」）、設定値受信時処理を実行し（B1324）、単発系コマンド処理を終了する。設定値受信時処理では、設定値（確率設定値）をRAM等の記憶部に記憶するとともに必要な処理を実行する。

【0811】

50

演出制御装置300は、MODE部が設定値情報コマンドを表していない場合には（B1323の結果が「N」）、MODE部が設定変更系のコマンドを表すか否かを判定する（B1325）。設定変更系のコマンドとして、例えば、確率設定変更中のコマンド（A1033）がある。そして、MODE部が設定変更系のコマンドを表す場合には（B1325の結果が「Y」）、設定変更系情報設定処理を実行し（B1326）、単発系コマンド処理を終了する。設定変更系情報設定処理では、設定変更系のコマンドの内容を記憶し、コマンドに対応する処理を実行する。例えば、確率設定変更中のコマンドを受信した場合に、設定変更系情報設定処理では、遊技者に設定変更中であること報知する設定変更中表示を表示装置41に表示する。

【0812】

10

演出制御装置300は、MODE部が設定変更系のコマンドを表していない場合には（B1325の結果が「N」）、MODE部が設定確認系のコマンドを表すか否かを判定する（B1327）。設定確認系のコマンドとして、例えば、確率設定確認中のコマンド（A1036）がある。そして、MODE部が設定確認系のコマンドを表す場合には（B1327の結果が「Y」）、設定確認系情報設定処理を実行し（B1328）、単発系コマンド処理を終了する。設定確認系情報設定処理では、設定確認系のコマンドの内容を記憶し、コマンドに対応する処理を実行する。例えば、確率設定確認中のコマンドを受信した場合に、設定確認系情報設定処理では、遊技者に設定確認中であること報知する設定確認中表示を表示装置41に表示する。

【0813】

20

演出制御装置300は、MODE部が設定確認系のコマンドを表していない場合には（B1327の結果が「N」）、MODE部が安全装置関連系のコマンドを表すか否かを判定する（B1329）。安全装置関連系のコマンドとして、例えば、安全装置作動関連コマンド（A9407）がある。安全装置カウンタ値や差玉数などの差玉情報を含む差玉コマンドが遊技制御装置100から演出制御装置300に送信される場合には、安全装置関連系のコマンドにこの差玉コマンドを含めてよい。そして、MODE部が安全装置関連系のコマンドを表す場合には（B1329の結果が「Y」）、安全装置に関連する安全装置系処理を実行し（B1330）、単発系コマンド処理を終了する。安全装置系処理では、安全装置関連系のコマンドの内容を記憶し、コマンドに対応する処理を実行する。

【0814】

30

安全装置系処理では、コマンドに対応する処理として、安全装置関連系のコマンドに含まれる情報を表示装置41に表示できる。例えば、安全装置関連系のコマンドとして安全装置作動関連コマンドを受信した場合に、安全装置作動関連コマンドのACTION部に含まれる安全装置作動情報（安全装置作動予告情報（値1）、安全装置作動警告情報（値2）、安全装置作動中情報（値3））に対応した安全装置関連表示（作動予告表示511、作動警告表示512、作動中表示513）を表示装置41に表示する。また、例えば、安全装置関連系のコマンドとして差玉コマンドを受信した場合に、差玉数を表示装置41に表示する。

【0815】

40

差玉数（＝安全装置カウンタ値－10万）の表示は、受信した差玉コマンドに対応させて全範囲の値（例えば、0～10万または－10万～＋10万）を表示装置41に表示するようにしてもよいし、所定の範囲の値（例えば、作動予告状態以降の9万～10万）だけを表示するようにしてもよい。この所定の範囲の場合だけ差玉数が表示されると、差玉数が重要なときのみ表示されて遊技者の注目を引くことができるし、差玉数が重要でないときは差玉数を非表示にして表示装置41を見やすくできる。所定の範囲として、作動予告状態に対応する範囲（9万以上9万5千未満）、作動警告状態と作動状態に対応する範囲（9万5千以上）、作動予告状態と作動警告状態と作動状態の全てに対応する範囲（9万以上）、作動予告状態に入る直前又は直後の値以上（例えば8万9千以上、9万1千以上）などがある。また、差玉数そのものを表示するようにしてもよいし、安全装置の作動（打ち止め）までの残りの遊技球数（遊技媒体数）の形で間接的に差玉数を表示するよう

50

にしてもよい。さらに、差玉数の代わりに、安全装置カウンタ値を表示してもよく、安全装置カウンタ値が、所定の範囲（例えば、作動予告状態以降の19万以上）の場合に、表示装置41に表示されるようにしてもよい。

【0816】

なお、差玉コマンドは、1の単位で変化する差玉数に対応して通知（送受信）されてよい。例えば、差玉コマンドが示す差玉数は、0～10万の間又は－10万～＋10万の間で、実際の差玉数と同じく1つずつに変化可能である。安全装置カウンタ値ひいては差玉数が更新される度（A9711）に、差玉コマンドが送信されてよい。

【0817】

また、差玉コマンドは、所定の単位で変化する差玉数に対応して通知（送受信）されてよい。例えば、差玉コマンドが示す差玉数は、1000の単位で変化可能であり、0（＝実際の差玉数0～999）、1000（＝実際の差玉数1000～1999）、2000（＝実際の差玉数2000～2999）、・・・、10万（＝実際の差玉数10万）であってよい。なお、この場合に、差玉コマンドの送信の機会を減らすために、安全装置カウンタ値ひいては差玉数が1000単位で更新される度（A9711）に、差玉コマンドが送信されてもよい。また、差玉コマンドが示す差玉数は、マイナス側の値があってもよい。

【0818】

演出制御装置300は、MODE部が安全装置関連系のコマンドを表していない場合には（B1329の結果が「N」）、MODE部が図柄停止のコマンドを表すか否かを判定する（B1331）。なお、図柄停止のコマンドには、例えば、特図1図柄停止コマンド（飾り特図1停止コマンド）と特図2図柄停止コマンド（飾り特図2停止コマンド）がある。そして、MODE部が図柄停止のコマンドを表す場合には（B1331の結果が「Y」）、演出制御装置300は、次に、MODE部のコマンドが正常なコマンドであるか否かを判定する（B1332）。

【0819】

MODE部のコマンドが正常なコマンドである場合には（B1332の結果が「Y」）、演出制御装置300は、対応する特図の停止態様を設定し（B1333）、全図柄が停止した後に遊技状態フラグを通常状態に設定して（B1334）、単発系コマンド処理を終了する。B1334の処理では、一例として、遊技状態フラグを通常状態に設定しているが、本処理が実行されるタイミングによって、遊技状態フラグは、「変動中」「大当たり中」「小当たり中」のフラグが設定される。

【0820】

一方、MODE部が図柄停止のコマンドを表していない場合（B1331の結果が「N」）、または、MODE部のコマンドが正常ではない場合（B1332の結果が「N」）には、演出制御装置300は、単発系コマンド処理を終了する。

【0821】

その他、演出制御装置300は、図61には記載されていないコマンドに対する処理を単発系コマンド処理において実行してよい。例えば、演出制御装置300は、時間短縮変動回数コマンド、演出回転数コマンド、打ち方指示報知コマンド（左打ち指示報知コマンド、右打ち指示報知コマンド）、特定領域通過コマンドなどを遊技制御装置100から受信して、当該コマンドに対応する処理を行ってよい。演出制御装置300は、時間短縮変動回数コマンド（時間短縮変動回数）などから時短状態における残りの変動回数を取得でき、演出回転数コマンドなどから各演出モードの演出残り回転数を取得でき、時短状態における残りの変動回数や各演出モードの演出残り回転数などに基づいて演出を設定できる。演出制御装置300は、打ち方指示報知コマンド（左打ち指示報知コマンド又は右打ち指示報知コマンド）に応じて、打ち方を指示（示唆）する打ち方指示表示（左打ち指示表示又は右打ち指示表示）を表示装置41などにおいて表示（報知）できる。演出制御装置300は、特定領域通過コマンドに応じて、V入賞を表示装置41などにおいて報知（表示）できる。

10

20

30

40

50

【0822】

〔先読み図柄系コマンド処理〕

次に、図62を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図60）における先読み図柄系コマンド処理（B1214）の詳細について説明する。図62は、演出制御装置300によって実行される先読み図柄系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

【0823】

演出制御装置300は、まず、最新保留情報が特図1保留（特図1始動記憶）の情報であるか否か、例えば、最新で受信した飾り特図保留数コマンドが飾り特図1保留数コマンドであるか否かを判定する（B1601）。最新保留情報が特図1保留の情報である場合（B1601の結果が「Y」）、先読み図柄系コマンド（先読み停止図柄コマンド）を特図1保留数に対応する特図1先読み図柄コマンド領域にセーブする（B1602）。 10

【0824】

演出制御装置300は、最新保留情報が特図1保留の情報でない場合（B1601の結果が「N」）、即ち、最新で受信した飾り特図保留数コマンドが飾り特図2保留数コマンドである場合、先読み図柄系コマンド（先読み停止図柄コマンド）を特図2保留数に対応する特図2先読み図柄コマンド領域にセーブする（B1603）。

【0825】

演出制御装置300は、ステップB1602とB1603の後、先読み変動系コマンドの受信待ちであることを示す先読み変動系コマンド受信待ちフラグを設定する（B1604）。これは、先読み図柄系コマンドと先読み変動系コマンドがセットになっているため、遊技制御装置100から先読み図柄系コマンドに続いて先読み変動系コマンドが送信されるためである。その後、先読み図柄系コマンド処理を終了する。 20

【0826】

〔先読み変動系コマンド処理〕

次に、図63を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図60）における先読み変動系コマンド処理（B1216）の詳細について説明する。図63は、演出制御装置300によって実行される先読み変動系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

【0827】

演出制御装置300は、まず、先読み変動系コマンド（先読み変動パターンコマンド）の受信待ち中であるか否かを判定する（B1701）。前述の先読み変動系コマンド受信待ちフラグ（B1604）が設定されている場合、先読み変動系コマンドの受信待ち中であると判定できる。先読み変動系コマンドの受信待ち中でない場合（B1701の結果が「N」）、先読み変動系コマンド処理を終了する。先読み変動系コマンドの受信待ち中である場合（B1701の結果が「Y」）、先読み変動系コマンド受信待ちフラグをクリアする（B1702）。 30

【0828】

次に、演出制御装置300（サブ基板）は、最新保留情報の図柄（特図1又は特図2）の保留数に対応する先読み変動MODE変換テーブルを設定し（B1703）、先読み変動系コマンドのMODE部に対応してサブ内先読み変動コマンドMODE部を取得する（B1704）。次に、先読み変動ACT変換テーブルを設定し（B1705）、先読み変動系コマンドのACTION部（ACT部）に対応するサブ内先読み変動コマンドACT部を取得する（B1706）。 40

【0829】

次に、演出制御装置300は、変換後のMODE部とACT部（即ち、サブ内先読み変動コマンドMODE部とACT部）が共に0以外であるか否かを判定する（B1707）。なお、正常（有効）なコマンドであれば0以外に変換される。変換後のMODE部、ACT部が共に0以外である場合（B1707の結果が「Y」）、変換後のMODE部とACT部から構成される変換後のコマンドを最新保留情報、保留数に対応する先読み変動コマンド領域（特図1先読み変動コマンド領域又は特図2先読み変動コマンド領域）にセーブする（B1708）。そして、先読みコマンド整合チェック処理を実行して（B170 50

9)、変換後のMODE部とACT部の組合せが正常であるか否か判定する(B1710)。

【0830】

なお、保留が変動表示ゲームを開始するときの保留数によって、MODE部に対応する前半変動の時間が変化する。保留が変動表示ゲームを開始するとき、保留が他になければ長めの前半変動になり、新たに保留が発生して保留数が多ければ短めの前半変動となる。従って、前半変動の時間値が遷移しても、演出制御装置300の内部コマンドが同じに扱えるように、受信した先読み変動系コマンドのMODE部をサブ内先読み変動コマンドMODE部に変換しておく。

【0831】

また、リーチの種類は保留数に関係ないため、サブ内先読み変動コマンドACT部に対応する後半変動は保留数に依存しない。しかし、同一系統のリーチにも種類があるため、仮に先読み変動系コマンドのACT部(後半変動の値)を変換せずに、演出制御装置300がそのまま使うと数が多くなりチェックが困難になる。例えば、ノーマルリーチにも、ノーマルリーチ-1停止はずれ、ノーマルリーチ+1停止はずれなどの種類が存在する。従って、同一系統のリーチを示すACT部を、同じサブ内先読み変動コマンドACT部に変換することで、数を減らし、先読みコマンド整合チェック処理等のチェック処理の負担を軽減する。

【0832】

次に、演出制御装置300は、変換後のMODE部とACT部(即ち、サブ内先読み変動コマンドMODE部とACT部)の少なくとも一方が0である場合(B1707の結果が「N」)、又は、変換後のMODE部とACT部の組合せが正常でない場合(B1710の結果が「N」)、変換後のコマンドに異常があるとして、先読み変動系コマンド処理を終了する。

【0833】

演出制御装置300は、変換後のMODE部とACT部の組合せが正常である場合(B1710の結果が「Y」)、先読み対象の保留情報(最新保留の情報)を先読み変動コマンド領域からロードし(B1711)、最新保留の先読み演出に関する先読み抽選処理を実行する(B1712)。先読み演出(先読み予告演出)としては、例えば、連続予告演出(チャンス目先読み演出を含む)、先読みゾーン演出、保留変化予告などがある。続いて、最新保留の先読み演出(保留変化予告等)が発生するか否かを判定する(B1713)。

最新保留の先読み演出が発生する場合(B1713の結果が「Y」)、選出された先読み演出に対応するポイント情報を設定する(B1714)。

【0834】

次に、演出制御装置300は、発生する先読み演出(保留変化予告等)が直ちに開始する演出であるか否かを判定する(B1715)。発生する先読み演出が直ちに開始する演出である場合(B1715の結果が「Y」)、選出された先読み演出に対応する表示を設定する(B1716)。発生する先読み演出が直ちに開始する演出でない場合(B1715の結果が「N」)、保留シフトの際(保留表示の移動の際、保留数減少の際)などの先読み演出(即ち直ちに開始しない先読み演出)に対応する表示を設定、保存する(B1717)。そして、先読み変動系コマンド処理を終了する。なお、先読み演出は、変動表示ゲームの結果(遊技結果)を示唆する情報を当該変動表示ゲームが停止する前に予告することで大当たり期待度(特別結果となる期待度)を報知する演出になるが、設定された確率設定値(1~6)を示唆する情報を報知するようにしてもよい。すなわち、演出制御装置300は、大当たり期待度や確率設定値に基づいて先読み対象の保留表示(アイコン)を変化させるように先読み演出を行うことができる。

【0835】

一方、演出制御装置300は、最新保留の先読み演出が発生しない場合(B1713の結果が「N」)、そのまま、先読み変動系コマンド処理を終了する。

【0836】

10

20

30

40

50

〔図柄系コマンド処理〕

次に、図 6 4 を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図 6 0）における図柄系コマンド処理（B 1 2 1 0）の詳細について説明する。図 6 4 は、演出制御装置 3 0 0 によって実行される図柄系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

【0 8 3 7】

演出制御装置 3 0 0 は、受信した図柄系コマンド（飾り特図コマンド）の M O D E 部に対応する特図種別を設定する（B 1 8 0 1）。特図種別は、特図 1 又は特図 2 である。そして、図柄系コマンドの M O D E 部と A C T I O N 部（A C T 部）の組合せに対応する図柄種別を設定し、R A M 等の所定領域にセーブする（B 1 8 0 2）。ここで、特図 1 と特図 2 では、図柄の振分け割合が変わるので、M O D E 毎にテーブルを使用して、図柄種別を設定する。

10

【0 8 3 8】

なお、前述のように、本実施形態において、図柄種別は、図柄種別 1（3 R 通常大当り C の大当り図柄と 3 R 通常小当り A の小当り図柄）、図柄種別 2（3 R 通常大当り A、3 R 通常大当り B、1 0 R 通常大当り B の大当り図柄、及び、1 0 R 通常小当り B の小当り図柄）、図柄種別 3（1 0 R 通常小当り A の小当り図柄）、図柄種別 4（1 0 R 通常大当り A と 1 0 R 通常大当り C の大当り図柄）などがある。

【0 8 3 9】

〔変動系コマンド処理〕

次に、図 6 5 を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図 6 0）における変動系コマンド処理（B 1 2 0 6）の詳細について説明する。図 6 5 は、演出制御装置 3 0 0 によって実行される変動系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

20

【0 8 4 0】

演出制御装置 3 0 0 は、受信した変動系コマンド（変動コマンド）の特図種別（特図 1 又は特図 2）が未確定であるか否かを判定する（B 1 9 0 1）。特図種別が未確定である場合（B 1 9 0 1 の結果が「Y」）、変動系コマンド処理を終了する。特図種別が未確定でない場合（B 1 9 0 1 の結果が「N」）、受信した変動系コマンドと図柄系コマンドの組合せをチェックし（B 1 9 0 2）、変動系コマンドと図柄種別が不整合であるか否かを判定する（B 1 9 0 3）。ここで、不整合とは、はずれの変動系コマンドを受信したのに大当り図柄の図柄系コマンドを受信していた場合など、演出を行う上で矛盾してしまうことである。変動系コマンドと図柄種別が不整合である場合（B 1 9 0 3 の結果が「Y」）、変動系コマンド処理を終了する。

30

【0 8 4 1】

演出制御装置 3 0 0 は、変動系コマンドと図柄種別が不整合でない場合（B 1 9 0 3 の結果が「N」）、変動系コマンド（変動コマンド）から変動パターン種別を判別し（B 1 9 0 4）、変動中の演出である変動演出を設定する変動演出設定処理を実行する（B 1 9 0 5）。続いて、遊技状態（P 機状態）を示す遊技状態フラグに特図変動中を設定し（B 1 9 0 6）、連続演出等の先読み演出回数が 0 でなければ - 1 更新する（B 1 9 0 7）。

【0 8 4 2】

〔変動演出設定処理〕

次に、図 6 6 を参照して、前述した変動系コマンド処理（図 6 5）における変動演出設定処理（B 1 9 0 5）の詳細について説明する。図 6 6 は、演出制御装置 3 0 0 によって実行される変動演出設定処理の手順を示すフローチャートである。

40

【0 8 4 3】

演出制御装置 3 0 0 は、まず、変動パターン種別が、リーチなし変動（リーチ状態にならない変動）であるか否かを判定する（B 2 0 0 1）。変動パターン種別がリーチなし変動である場合（B 2 0 0 1 の結果が「Y」）、演出ポイントのポイント数、機種コード、特図種別、演出モード、設定情報（設定値）に対応する前半予告振分グループアドレステーブルを設定し（B 2 0 0 2）、変動系コマンド（変動コマンド）の M O D E 部と特図種別の保留数に対応する前半予告振分グループテーブルのアドレスを取得する（B 2 0 0 3

50

）。リーチなし変動の場合、保留数が多いほど変動時間が短縮されるため、保留数に対応するテーブルのアドレスを取得している。

【0844】

演出制御装置300は、変動パターン種別がリーチなし変動でない場合（B2001の結果が「N」）、即ち、リーチあり変動である場合、演出ポイントのポイント数、機種コード、特図種別、演出モード、図柄種別、設定情報（設定値）に対応する前半予告振分グループアドレステーブルを設定し（B2004）、変動系コマンド（変動コマンド）のMODE部と変動パターン種別に対応する前半予告振分グループテーブルのアドレスを取得する（B2005）。

【0845】

演出制御装置300は、ステップB2003、B2005の後、前半変動中（リーチ前）に出現する予告の抽選を行う（B2006）。続いて、演出ポイントのポイント数、機種コード、特図種別、演出モード、図柄種別、設定情報（設定値）に対応する後半予告振分グループアドレステーブルを設定し（B2007）、変動系コマンドのACT部に対応する後半予告振分グループテーブルのアドレスを取得し（B2008）、後半変動中（リーチ中）に出現する予告の抽選を行う（B2009）。その後、変動系コマンド（変動コマンド）のMODE部、ACT部に対応する変動演出の内容を決定する（B2010）。なお、変動系コマンドから変動時間や主なリーチ内容などがわかる。

【0846】

次に、演出制御装置300は、予告の抽選結果に対応する演出（予告演出）の内容を決定する（B2011）。その後、リーチ演出等の変動演出や予告演出の内容に応じて、飾り特図変動表示ゲームの停止図柄を決定する（B2012）。ここで、はずれ図柄の場合にばらけ目を決定するなど、飾り停止図柄を具体的に決定する。

【0847】

次に、演出制御装置300は、変動演出の表示設定を行い（B2013）、予告演出の表示設定を行う（B2014）。続いて、特図種別（特図1又は特図2）に対応する保留減少の表示設定を行い、例えば、今回変動する飾り特図1又は飾り特図2に対応する保留表示が減る表示（保留シフトの表示）が設定される（B2015）。続いて、スピーカの音声による演出態様（音出力態様）を定める音声番号、装飾装置の発光による演出態様を定める装飾番号を設定する（B2016）。装飾装置（盤装飾装置46、枠装飾装置18）は、複数の装飾用発光部（装飾LED等）を有し、装飾番号で定められる発光態様（各LEDの色や発光タイミング等）で発光する。

【0848】

なお、音声番号や装飾番号を演出内容だけでなく設定情報（設定値）に基づいて設定することも可能である。このようにすると、遊技者は、装飾装置の発光態様、即ち、装飾用発光部（LED）の発光態様から遊技機10の設定情報（設定値）を推測することを楽しめる。

【0849】

次に、演出制御装置300は、特図種別に対応する飾り特図変動の表示設定を行い（B2017）、表示装置41で変動する前述の第一から第三の特別図柄以外に第四特別図柄（第4図柄、識別情報）に関する第4図柄変動の表示設定を行う（B2018）。なお、第4図柄変動は、表示装置41以外に設けた前述のランプ表示装置80のランプ表示部1, 2（LED）で表示されてもよいし、表示装置41の表示画面上で実行されてもよい。

【0850】

〔当り系コマンド処理〕

次に、図67を参照して、前述した受信コマンド解析処理（図60）における当り系コマンド処理（B1208）の詳細について説明する。図67は、演出制御装置300によって実行される当り系コマンド処理の手順を示すフローチャートである。

【0851】

演出制御装置300は、まず、受信した当り系コマンドのMODE部がファンファーレ

10

20

30

40

50

を表すか否かを判定する（B 2 1 0 1）。当り系コマンドのMODE部がファンファーレを表す場合（B 2 1 0 1の結果が「Y」）、即ち、当り系コマンドが大当り又は小当りのファンファーレコマンドである場合、ファンファーレ演出を設定するためのファンファーレ演出設定処理を実行する（B 2 1 0 2）。また、大当り又は小当りのファンファーレコマンドに対応して、打ち方指示（左打ち指示又は右打ち指示）の表示を表示装置41などにおいて表示（報知）してよい。なお、ファンファーレコマンドには、今回の大当りのラウンド数上限値の情報が含まれてよい。続いて、現在の遊技機10の遊技状態（P機状態）を示す遊技状態フラグにファンファーレ中を設定し（B 2 1 0 3）、当り系コマンド処理を終了する。なお、ラウンド数の上限値であり最終ラウンドのラウンド数に対応するラウンド数上限値は、図柄系コマンド（停止図柄パターンに対応する飾り特図コマンド）から判定される図柄種別からも得ることができる場合もある。

10

【0852】

演出制御装置300は、受信した当り系コマンドのMODE部がファンファーレを表さない場合には（B 2 1 0 1の結果が「N」）、当り系コマンドのMODE部がラウンドを表すか否かを判定する（B 2 1 0 4）。MODE部がラウンドを表す場合（B 2 1 0 4の結果が「Y」）、即ち、当り系コマンドがラウンドコマンド又は小当り開放中コマンドである場合、演出制御装置300は、ラウンド演出を設定するためのラウンド演出設定処理を実行し、現在の遊技機10の遊技状態（P機状態）を示す遊技状態フラグにラウンド中を設定し（B 2 1 0 5、B 2 1 0 6）、当り系コマンド処理を終了する。

【0853】

受信した当り系コマンドのMODE部がラウンドを表さない場合には（B 2 1 0 4の結果が「N」）、演出制御装置300は、当り系コマンドのMODE部がインターバルを表すか否かを判定する（B 2 1 0 7）。MODE部がインターバルを表す場合（B 2 1 0 7の結果が「Y」）、即ち、当り系コマンドがインターバルコマンドである場合、演出制御装置300は、インターバル演出を設定するためのインターバル演出設定処理を実行し、現在の遊技機10の遊技状態（P機状態）を示す遊技状態フラグにインターバル中を設定し（B 2 1 0 8、B 2 1 0 9）、当り系コマンド処理を終了する。

20

【0854】

受信した当り系コマンドのMODE部がインターバルを表さない場合には（B 2 1 0 7の結果が「N」）、演出制御装置300は、当り系コマンドのMODE部がエンディングを表すか否かを判定する（B 2 1 1 0）。MODE部がエンディングを表す場合（B 2 1 1 0の結果が「Y」）、即ち、当り系コマンドが大当り又は小当りのエンディングコマンドである場合、演出制御装置300は、エンディング演出を設定するためのエンディング演出設定処理を実行し、現在の遊技機10の遊技状態（P機状態）を示す遊技状態フラグにエンディング中を設定し（B 2 1 1 1、B 2 1 1 2）、当り系コマンド処理を終了する。

30

【0855】

なお、受信した当り系コマンドのMODE部がエンディングを表さない場合には（B 2 1 1 0の結果が「N」）、演出制御装置300は、いずれの処理も実行せずに、当り系コマンド処理を終了する。以上のように、大当り演出又は小当り演出は、ファンファーレ演出、ラウンド演出、インターバル演出、エンディング演出などから構成されることになるが、小当り演出では、ファンファーレ演出、ラウンド演出、インターバル演出、エンディング演出のうちの一部の演出がなくてもよい。

40

【0856】

〔安全装置の状態等に応じた演出系の装置の態様〕

図68は、安全装置の状態に応じた演出系の装置の態様などを示すテーブルである。図68のように、安全装置の状態又は安全装置カウンタ値（ひいては差玉数）に応じて、演出系の装置の態様が変化する。

【0857】

前述したとおり、0～189999の安全装置カウンタ値（-100000～8999

50

9の差玉数)に対応して安全装置の状態は未作動状態(作動予告状態や作動警告状態や作動状態でない通常状態)になる。190000~194999の安全装置カウンタ値(90000~94999の差玉数)に対応して安全装置の状態は、安全装置の作動を予告する作動予告状態になる。195000の安全装置カウンタ値(95000の差玉数に到達)に対応して、安全装置の作動を警告する作動警告状態又は安全装置が作動中である作動状態(作動中状態)になる。

【0858】

なお、195000の安全装置カウンタ値で、安全装置は、大当たり中又は小当たり中の場合に作動警告状態になり、大当たり中でも小当たり中でもない場合に作動状態になる。従って、大当たり又は小当たりが発生する前に、安全装置が作動状態になると、直後から遊技停止状態(遊技不可状態、遊技禁止状態)が発生し、作動警告状態は発生しないことになる。

10

【0859】

一方、作動警告状態は、大当たり中又は小当たり中に安全装置カウンタ値が195000に達すると発生可能である。このため、大当たり又は小当たりが終了することによって大当たり中でも小当たり中でもなくなると、安全装置は作動警告状態から作動状態(作動中状態)に移行する。

【0860】

0~194999の安全装置カウンタ値(-100000~94999の差玉数)の安全装置の未作動状態又は作動予告状態において、遊技機の状態(遊技状態)は、遊技中又は客待ち中(客待ち状態)である。また、195000の安全装置カウンタ値(95000の差玉数に到達)では、遊技機の状態は、安全装置の作動警告状態において小当たり中又は大当たり中であるが、安全装置の作動状態において遊技停止状態(遊技不可状態、遊技禁止状態)である。なお、強エラー2が発生している場合においても、同じ遊技停止状態が発生可能である。

20

【0861】

遊技停止状態において、遊技として特図変動表示ゲーム、普図変動表示ゲーム、及び、ラウンド遊技(大当たり中や小当たり中での遊技)等を実行できない。このようにするため、前述のとおり、遊技停止状態において、入賞口スイッチでの遊技球の検出が無効となって入賞口(入賞)は無効になり(A2201で「Y」)、大入賞口、特定領域86、普通変動入賞装置37等が閉鎖するようソレノイドは停止して(A1602とA1603で「Y」)、球発射装置からの遊技球の発射が停止(禁止)され発射停止となり(A1611とA1612で「Y」)、一括表示装置50は消灯する(A1610とA1612の結果が「Y」)。遊技停止状態において、特図変動表示ゲームや普図変動表示ゲームが継続できなくなるだけでなく、新たな特図変動表示ゲームや新たな普図変動表示ゲームは開始できないことになる。なお、安全装置の作動した遊技停止状態において、発射停止としない構成も可能である(強エラー2に起因して発生した遊技停止状態においても、発射停止としなくてもよい)。また、遊技停止状態において、前述のとおり、払出コマンド送信処理(A1307)は停止されず、遊技停止状態となる前に発生した入賞による賞球の払い出しは継続される。

30

【0862】

遊技停止状態において、ホールコンピュータなどの外部装置に外部情報信号として出力されるセキュリティ信号が発生し(A9322)、遊技機エラー状態信号のオンデータとして試験試験装置へ出力される試験信号が発生する(A9323)。なお、安全装置の作動した遊技停止状態において、試験信号(遊技機エラー状態信号)を発生しない構成も可能である(強エラー2に起因して発生した遊技停止状態においても、試験信号を発生しなくてもよい)。

40

【0863】

安全装置の未作動状態において、表示装置41は、基本的に安全装置に関連する安全装置関連表示は表示しないが、例外的に、客待ち中などにおいて、特定機種表示541(例えば「コンプリート機能搭載」の文字)などによって、安全装置付きの機種であることを

50

表示してよい。特定機種表示 5 4 1 を見た遊技者は、遊技機 1 0 が安全装置（コンプリート機能）を有することを認識できる。

【0 8 6 4】

安全装置の作動予告状態において、表示装置 4 1 は、安全装置関連表示（又は安全装置作動情報表示）として作動予告表示 5 1 1（例えば「まもなく打ち止めです」の文字）を表示する。作動予告表示 5 1 1 を効果的に表示するために、作動予告表示 5 1 1 の表示態様は、客待ち中や変動表示中（特図変動表示ゲームの実行中）などの遊技状態に応じて変化してよい。なお、作動予告状態の開始時において、演出制御装置 3 0 0 は、安全装置作動関連コマンドとして作動予告状態に対応する作動予告コマンドを受信しているため、表示装置 4 1 で作動予告表示 5 1 1 が可能となる（B 1 3 3 0 の安全装置系処理）。 10

【0 8 6 5】

作動予告表示 5 1 1 によって遊技者に遊技をできなく可能性を事前に報知して、遊技者に遊技を終了させることを促し、遊技者が意図せず不利益を受けることを防止できる。また、作動予告表示 5 1 1 によって、不正を行っている者には驚きを与えて、不正を止めることを促すことができる。作動予告表示 5 1 1 の表示態様を遊技状態（例えば客待ち中、変動表示中）に応じて異ならせて、適切に予告表示を行うことができる。

【0 8 6 6】

小当り中や大当り中の安全装置の作動警告状態において、表示装置 4 1 は、安全装置関連表示として作動警告表示 5 1 2（例えば「当り終了後に打ち止めとなります」の文字）を表示する。なお、作動警告状態の開始時において、演出制御装置 3 0 0 は、安全装置作動関連コマンドとして作動警告状態に対応する作動警告コマンドを受信しているため、表示装置 4 1 で作動警告表示 5 1 2 が可能となる（B 1 3 3 0 の安全装置系処理）。 20

【0 8 6 7】

安全装置の作動状態（小当り中や大当り中でない）、即ち遊技停止状態において、表示装置 4 1 は、安全装置関連表示として作動中表示 5 1 3（例えば「打ち止め中」の文字）を表示する。なお、作動状態の開始時において、演出制御装置 3 0 0 は、安全装置作動関連コマンドとして作動状態に対応する作動中コマンドを受信しているため、表示装置 4 1 で作動中表示 5 1 3 が可能となる（B 1 3 3 0 の安全装置系処理）。

【0 8 6 8】

なお、演出制御装置 3 0 0 は、安全装置の作動を予告する作動予告表示 5 1 1、安全装置の作動を警告する作動警告表示 5 1 2、安全装置の作動中であることを示す作動中表示 5 1 3 を表示装置 4 1 等（表示手段）に表示可能な表示制御手段を構成する。 30

【0 8 6 9】

なお、表示装置 4 1 は、安全装置が作動した遊技停止状態においても、エラー表示を表示可能である。例えば、遊技停止状態においても払い出しは継続されるため、遊技球（遊技媒体）の払い出しに関する払い出しエラー（弱エラー）が発生することがあるが、表示装置 4 1 は、エラー表示によって払い出しエラーを報知可能である。なお、強エラー 2 が発生している場合にも遊技が停止し遊技停止状態（遊技不可状態、遊技禁止状態）となるが、強エラー 2 による遊技停止状態において、表示装置 4 1 は、ホール関係者や遊技者にエラー発生を認識させるためエラー表示によって払い出しエラーを報知可能としてもよいし、強エラー 2 と混同しないよう払い出しエラーを報知不可としてもよい。 40

【0 8 7 0】

遊技停止状態において、未作動状態や作動予告状態や作動警告状態とは異なり、一括表示装置 5 0 と性能表示装置 1 5 2 の発光部（LED）は全て消灯する（全消灯）。なお、遊技停止状態において、一括表示装置 5 0 と性能表示装置 1 5 2 の発光部（LED）は全て点灯してもよい（全点灯）。遊技停止状態において、球貸ボタン 2 7 は有効のままであり、遊技球を借りる場合に遊技者が操作すると、払出装置から遊技球が上皿 2 1 に払い出されてよい。

【0 8 7 1】

遊技停止状態において、作動中コマンドを受信した演出制御装置 3 0 0 は、枠装飾装置 50

18や盤装飾装置46のLEDなど遊技機10に設けられた演出用LEDを、全て消灯するか（全消灯）又は全て点灯する（全点灯）。ただし、エラーの発生中は、一部または全ての演出用LEDが赤色で点灯してもよい。また、遊技停止状態において、演出制御装置300は、スピーカ19からの音声出力を停止して無音としてよい。

【0872】

また、遊技停止状態において、演出制御装置300は、ホール・遊技者設定モード処理（B0011）を実行せず、操作部への操作があった場合でも演出用LEDや液晶（表示装置41等）の輝度やスピーカ19の音量を調整不可にして、既定（デフォルト）の輝度や音量にしてよい。なお、例えば、既定の輝度はゼロ又は所定値でよく（全消灯又は全点灯）、既定の音量はゼロ（無音）でよい。また、ホール・遊技者設定モード処理（調整処理）では、遊技場の責任者や遊技者の操作部（十字キースイッチ450、音量調整用ボタンスイッチ451a、451b、遊技機裏面の音量調節スイッチ335等）への操作に応じて遊技機10の音量調整や輝度調整などの各種調整を実行可能である。このように、遊技停止状態において、遊技者等の操作があった場合でも音量調整や輝度調整などの各種調整が実行されないため、遊技者等は遊技停止状態であることを認識し易くなるし、また、既定の輝度や既定の音量が小さければ遊技停止状態において節電できる。

10

【0873】

別の構成では、遊技停止状態において、演出制御装置300は、ホール・遊技者設定モード処理（B0011）を実行しても、操作部の操作に対応する操作信号を受け付けなくようにして（無視する又は無効にして）、遊技場の責任者や遊技者の操作部への操作があった場合でも既定の輝度や既定の音量にしてよい。この構成の場合に、遊技者が操作可能な第1操作部（十字キースイッチ450、音量調整用ボタンスイッチ451a、451b）に対応する操作信号を受け付けなくにする（無視する又は無効にする）一方で、遊技場の責任者や係員などホール関係者が操作可能な第2操作部（音量調節スイッチ335）に対応する操作信号を受け付けてよい。そして、遊技者の第1操作部への操作があった場合に既定の輝度や既定の音量にして、ホール関係者の第2操作部への操作があった場合には、第2操作部への操作に応じて遊技機10の音量調整や輝度調整を実行してもよい。なお、第2操作部（音量調節スイッチ335）は、遊技機裏面の演出制御装置300上に設けられており、ホール関係者は操作可能であるが、遊技者は操作不可能である。

20

【0874】

演出制御装置300は、可動役物（可動部材、電動役物、可動体、盤演出装置44、枠演出装置）の動作中に遊技停止状態が開始した場合（安全装置が作動した場合）に、可動役物が初期位置以外の動作位置に位置していれば、可動役物を動作位置から初期位置に戻すよう移動させてよい。これにより、遊技の実行のできない遊技不可状態で可動部材が動作位置に維持されることを防止できるため、可動部材が故障しているなど不必要な誤解を招くことを防止できる。可動役物（可動部材）が動作位置から初期位置に戻る戻り動作をしている間に、可動役物の演出用LEDは点灯状態（動作状態）であっても消灯状態（初期状態）であってもよい。なお、前述のように、遊技停止状態において、遊技機10に設けられた演出用LEDは、全て消灯するか（全消灯）又は全て点灯する（全点灯）ため、可動役物が初期位置に戻った後、可動役物の演出用LEDは、他のLEDに合わせて消灯するか又は点灯する。

30

40

【0875】

逆に、演出制御装置300は、可動役物（可動部材、電動役物、可動体、盤演出装置44、枠演出装置）の動作中に遊技停止状態が開始した場合（安全装置が作動した場合）に、可動役物が初期位置以外の動作位置に位置していれば、可動役物を動作位置から初期位置に戻さず、動作位置に維持してもよい。この場合に、可動役物が止まって維持される動作位置は、遊技停止状態の開始時の動作位置、タイムラグ等によって遊技停止状態の開始時から可動役物が若干移動した別の動作位置、又は、遊技停止状態の開始時の動作位置と異なる適切な別の動作位置などでよい。なお、前述のように、遊技停止状態において、遊技機10に設けられた演出用LEDは、全て消灯するか（全消灯）又は全て点灯する（全

50

点灯)ため、可動役物は動作位置に位置して停止したままで、可動役物の演出用LEDは、他のLEDに合わせて消灯するか又は点灯してよい。

【0876】

このように、遊技停止状態の開始後(安全装置の作動後)、可動役物が初期位置に戻らず所定の動作位置に止まっていれば、不自然なため遊技機10が普通の状態(遊技ができる状態、遊技可能状態)でないことを遊技者に強調できる。例えば、可動役物として盤演出装置44(上部演出ユニット40cなど)が表示装置41の表示画面の前側(前方)などの不自然な位置のまま遊技停止状態となっていると、遊技者は違和感を覚え、遊技機10が普通の状態でないことを認識し易くなる。

【0877】

可動役物が遊技盤30に設けられている盤演出装置44である場合に、可動役物の初期位置は、例えば、可動役物が表示装置41の前側(前方)から外れた位置であり、可動役物の動作位置は、例えば、可動役物が表示装置41の前側で表示装置41に重なるような位置である。また、この場合の初期位置は、遊技盤本体30aのセンターケース部分の裏面側(後側)の収容スペースで可動役物が前側(遊技者側)から視認し難い位置(遊技盤本体30aのセンターケース部分に可動役物の一部が覆われるような位置)などでもよい。また、可動役物がガラス枠15(或いは開閉枠)に設けられている枠演出装置(例えばトップユニットなどの装飾装置18a)である場合、可動役物の初期位置は、例えば、ガラス枠15(或いは開閉枠)内部の収容スペースで可動役物が前側から視認し難い位置(ガラス枠15内に引っ込んで可動役物の一部がガラス枠15に覆われるような位置)であり、可動役物の動作位置は、例えば、可動役物が初期位置よりも前方や上方や斜めに突出した位置である。

【0878】

なお、強エラー2が発生している場合にも、安全装置が作動した場合と同様に遊技停止状態が発生するが、可動役物の動作中にこの遊技停止状態が開始した場合に、可動役物が初期位置以外の動作位置に位置していれば、演出制御装置300は、可動役物を動作位置から初期位置に戻すよう移動させてよいし、初期位置に戻さずに動作位置に維持してもよい。可動役物を初期位置に戻せば、可動部材が故障しているなど不必要な誤解を招くことを防止できる。可動役物を初期位置に戻さなければ、不自然なため、遊技機10にエラーが発生していることを遊技者が認識し易くなる。

【0879】

また、他の例として、遊技停止状態において、特図ゲーム処理タイマや役物ゲーム処理タイマや普図ゲーム処理タイマなどの各種ゲーム処理タイマは停止するが、一括表示装置50は消灯せずに、遊技停止状態になったときの表示を継続してよい。さらに、一括表示装置50は、遊技停止状態の開始時において変動表示中であれば、この変動表示が終了してから消灯してもよい。これにより、一括表示装置50で、突然に変動表示が終了することを防止できる。また、遊技停止状態において、性能表示装置152は、表示を継続してもよい。

【0880】

なお、遊技機10の電源が遮断(オフ)して再度電源投入(オン)すると、安全装置情報初期化処理によって安全装置カウンタ領域や安全装置作動情報領域などが初期化され(A1104-A1106)、安全装置作動予告情報(値1)、安全装置作動警告情報(値2)、安全装置作動中情報(値3)などの安全装置作動情報が消去されるため、表示装置41において安全装置関連表示(作動予告表示511、作動警告表示512、作動中表示513等)は消去されて非表示になってよい。安全装置の作動中に遊技機10の電源が遮断(オフ)した後にRAM初期化スイッチ112がオンの状態で再度電源投入(オン)すると、安全装置作動中フラグ領域も0クリアされ(A1045)、遊技機10は遊技停止状態から遊技できる状態に復帰する。

【0881】

(スペック例(仕様例))

10

20

30

40

50

図 69 は、遊技機 10 のスペック例 1, 2 を示す図である。

【0882】

スペック例 1 では、遊技機 10 は、1 種 2 種混合機であり、通常遊技状態以外の遊技状態で右打ちとなる。特別図柄（特図）は、特図 1 と特図 2 の 2 個である。大入賞口は、特別変動入賞装置 38 の大入賞口と特別変動入賞装置 39 の大入賞口の 2 個である。また、前述のとおり、特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームの始動記憶がある場合に、特図 2 変動表示ゲームが実行され特図 2 優先消化（特図 2 保留優先消化、特図 2 優先変動）となる。2 個の大入賞口 1 と大入賞口 2 の両方に関して、大入賞口カウント数の上限値（A3111）は、10 である。

【0883】

スペック例 1 では、入賞によって得られる賞球数は、始動入賞口 36（始動口 1）について 1 個、普通変動入賞装置 37（始動口 2）について 1 個、左側の一般入賞口 35（上下 2 つ）について 6 個、右側の一般入賞口 35（下）について 1 個、大入賞口 1, 2 について 15 個である。なお、1 ラウンドで獲得可能な出玉の数である出玉数（獲得可能球数）は、大入賞口の賞球数に大入賞口カウント数の上限値を乗算したもので 150（= 15 個 × 10 カウント）になる。

【0884】

大当たり確率は、特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームの両方で共通で、1 / 319.7 である。特図 1 変動表示ゲームの小当たり確率は 1 / 199.8 である。特図 2 変動表示ゲームの小当たり確率は 1 / 8.5 であり、特図 1 変動表示ゲームの小当たり確率よりも大きい。従って、特図 1 変動表示ゲームの小当たりよりも特図 2 変動表示ゲームの小当たりの方が発生し易い。なお、本実施形態では、大当たり確率と小当たり確率は、確率設定値によらず一定とする。

【0885】

スペック例 2 では、大入賞口 2（例えば特別変動入賞装置 38 の大入賞口）がなく、右側の一般入賞口 35（上）が追加されただけで、その他の点ではスペック例 1 と同じである。

【0886】

〔大当たり図柄と小当たり図柄の振り分け〕

図 70 は、特図変動表示ゲームの停止図柄（停止結果）としての大当たり図柄と小当たり図柄の振り分けを示す図である。

【0887】

図 70（A）は、大当たり図柄の振り分け（大当たり内訳、割合）を示す。大当たり図柄の振り分けは、特図図柄乱数を用いて特図 1 停止図柄設定処理又は特図 1 停止図柄設定処理において実行される（A4004、A4104）。大当たり図柄の振り分け（割合）は、特図 1 変動表示ゲームと特図 2 変動表示ゲームで異なっている。

【0888】

大当たり図柄として、10R 通常大当たり A の図柄である大当たり図柄 1 と、3R 通常大当たり A の図柄である大当たり図柄 2 と、3R 通常大当たり B の図柄である大当たり図柄 3 と、3R 通常大当たり C の図柄である大当たり図柄 4 と、10R 通常大当たり B の図柄である大当たり図柄 5 と、10R 通常大当たり C の図柄である大当たり図柄 6 とがある。なお、本実施形態では、大当たり確率が高くなる確変状態は存在しないため、確変大当たりはなく、通常大当たりだけとなる。

【0889】

特図 1 変動表示ゲームに関して、大当たり図柄 1, 2, 3, 4, 6 が、各々、7%、20%、30%、30%、13% の割合で振り分けられる。特図 1 変動表示ゲームの停止図柄に関して、大当たり図柄 5 は無い（0% の割合）。

【0890】

特図 2 変動表示ゲームに関して、大当たり図柄 5 が、100% の割合で振り分けられる。特図 2 変動表示ゲームの停止図柄に関して、大当たり図柄 1, 2, 3, 4, 6 は無い（0%

10

20

30

40

50

の割合)。特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームとで、発生可能な大当り図柄が異なるため、特図1と特図2のどちらの大当りか見分けやすくなるとともに、遊技制御が簡略化される。

【0891】

図70(B)は、小当り図柄の振り分け(小当り内訳、割合)を示す。小当り図柄の振り分けは、特図図柄乱数を用いて特図1停止図柄設定処理又は特図1停止図柄設定処理において実行される(A4012、A4112)。小当り図柄の振り分け(割合)は、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームで異なっている。

【0892】

小当り図柄として、3R通常小当りAの図柄である小当り図柄1と、10R通常小当りAの図柄である小当り図柄2と、10R通常小当りBの図柄である小当り図柄3とがある。なお、本実施形態では、小当り確率が高くなる確変状態は存在しないため、確変小当りはなく、通常小当りだけとなる。

【0893】

特図1変動表示ゲームに関して、小当り図柄1が、100%の割合で振り分けられる。特図1変動表示ゲームの停止図柄に関して、小当り図柄2, 3は無い(0%の割合)。

【0894】

特図2変動表示ゲームに関して、小当り図柄2, 3が、各々、35%、65%の割合で振り分けられる。特図2変動表示ゲームの停止図柄に関して、小当り図柄1は無い(0%の割合)。特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームとで、発生可能な小当り図柄が異なるため、特図1と特図2のどちらの小当りか見分けやすくなるとともに、遊技制御が簡略化される。

【0895】

〔大当り終了後の時短回数(サポ回数)〕

図71は、特図1変動表示ゲーム又は特図2変動表示ゲームが当たった時の遊技状態(A7002、A7009、A7010)ごとに、各図柄に対して大当り終了後の時短回数(時間短縮変動回数2の初期値、第1所定回数)を示す。また、時短が終了するまでの合計変動回数(特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームの合計の変動回数)である合計時短回数(時間短縮変動回数1の初期値、第2所定回数)も同時に示す。なお、図71は、大当り終了設定処理(図48)と、大当り図柄と小当り図柄の振り分け(図70)から得られるものである。

【0896】

また、図71において、演出制御装置300によって当りに対応して実行される各種のボーナス演出も示される。ボーナス演出は、ファンファーレ演出、ラウンド演出、インターバル演出、エンディング演出等の大当り演出を含んでよい。小当り図柄の場合に、大当り演出は、小当り中に発生したV入賞大当りにより実行される。

【0897】

図71において、低確サポ無(特1)は、特図1変動表示ゲームの当たった時(即ち、当りの変動終了時、当りの停止表示時)の遊技状態が、特図低確率であり且つ普電サポート状態(時短状態)でないことを示す。低確サポ有(特1)は、特図1変動表示ゲームが当たった時の遊技状態が、特図低確率であり且つ普電サポート状態であることを示す。低確サポ無(特2)は、特図2変動表示ゲームが当たった時の遊技状態が、特図低確率であり且つ普電サポート状態でないことを示す。低確サポ有(特2)は、特図2変動表示ゲームが当たった時の遊技状態が、特図低確率であり且つ普電サポート状態であることを示す。なお、本実施形態において、確変状態がないため、常に特図低確率である。

【0898】

図71(A)は、各大当り図柄に対して大当り終了後の時短回数を示す。なお、図70(A)のとおり、特図1変動表示ゲームの停止図柄は大当り図柄5にならず、特図2変動表示ゲームの停止図柄は大当り図柄1, 2, 3, 4, 6にならない。

【0899】

10

20

30

40

50

特図 1 変動表示ゲームに関して、大当り図柄 1（図柄種別 4 である 10R 通常大当り A の図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合（A7010の結果が「N」）、時短回数は 200 回であり合計時短回数は 204 回である（A7015）。この場合に、演出制御装置 300 によってファンファーレ以降で実行されるボーナス演出の種類（系統）は永遠ロングボーナスとなる。同様に、大当り図柄 1 に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合（A7010の結果が「Y」）、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類（系統）はエンゼルボーナスとなる。

【0900】

特図 1 変動表示ゲームに関して、大当り図柄 2, 3（図柄種別 2 である 3R 通常大当り A の図柄、3R 通常大当り B の図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合に、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はヴィルボーナスとなるが、この演出のうちファンファーレ演出（FF）やエンディング演出（ED）は、表示装置 41 の画面でバトルに勝利するなどの成功演出を伴っている。同様に、大当り図柄 2, 3 に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合に、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はヴィルボーナスとなる。

【0901】

特図 1 変動表示ゲームに関して、大当り図柄 4（図柄種別 1 である 3R 通常大当り C の図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合（A7002の結果が「N」）、時短回数は 0 回であり合計時短回数は 0 回であり、大当り後の時短はない（A7005）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はブリヲボーナスとなるが、大当り演出のうちエンディング演出（ED）が、表示装置 41 の画面でバトルに負けるなどの失敗演出を伴っている。同様に、大当り図柄 4 に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合（A7002の結果が「Y」）、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はヴィルボーナスとなる。

【0902】

特図 2 変動表示ゲームに関して、大当り図柄 5（図柄種別 2 である 10R 通常大当り B の図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合に、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。同様に、大当り図柄 5 に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合に、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。

【0903】

特図 1 変動表示ゲームに関して、大当り図柄 6（図柄種別 4 である 10R 通常大当り C の図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合（A7010の結果が「N」）、時短回数は 200 回であり合計時短回数は 204 回である（A7015）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類は永遠ロングボーナスとなるが、ファンファーレ演出（FF）が、表示装置 41 の画面でバトルに勝利するなどの成功演出を伴っている。同様に、大当り図柄 6 に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合（A7010の結果が「Y」）、時短回数は 7 回であり、合計時短回数は 11 回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。

【0904】

図 71（B）は、各小当り図柄に対して、小当り中に発生した V 入賞大当り終了後の時短回数を示す。なお、図 70（B）のとおり、特図 1 変動表示ゲームの停止図柄は、小当り図柄 2, 3 にならず、特図 2 変動表示ゲームの停止図柄は小当り図柄 1 にならない。

10

20

30

40

50

【0905】

特図1変動表示ゲームに関して、小当り図柄1（図柄種別1である3R通常小当りAの図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合（A7002の結果が「N」）、時短回数は0回であり合計時短回数は0回であり、小当り後の時短はない（A7005）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類は単なるボーナスとなる。同様に、小当り図柄1に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合（A7002の結果が「Y」）、時短回数は7回であり、合計時短回数は11回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類は単なるボーナスとなる。

【0906】

特図2変動表示ゲームに関して、小当り図柄2（図柄種別3である10R通常小当りAの図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合（A7009の結果が「N」）、時短回数は7回であり、合計時短回数は11回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。同様に、小当り図柄2に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合（A7009の結果が「Y」）、時短回数は200回であり合計時短回数は204回である（A7015）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出は永遠ロングボーナスとなる。

【0907】

特図2変動表示ゲームに関して、小当り図柄3（図柄種別2である10R通常小当りBの図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合に、時短回数は7回であり、合計時短回数は11回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。同様に、小当り図柄3に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合に、時短回数は7回であり、合計時短回数は11回である（A7020）。この場合に、ファンファーレ以降で実行される演出の種類はエンゼルボーナスとなる。なお、同じ時短回数7回でも、低確サポ無の場合と低確サポ有の場合とで、時短モードの種類（演出モードの種類）を例えばサポモードBx、Bzのように異ならせてよい。

【0908】

なお、図71（B）に関して、永遠ロングボーナス、エンゼルボーナス、ボーナスの演出は、V入賞大当りによる大当り演出だけでなく、小当り演出でも実行されてよい。また、小当り図柄を増やして、ゲーム性の幅をより広げて遊技の興味が向上させてもよい。例えば、小当り図柄4を設けて、低確サポ無（特2）に対してV入賞大当り終了後に時短回数200回のサポモードAに移行させ、サポモードAを繰り返し発生できるようにしてもよい。

【0909】

また、図71（A）（B）において、時短回数100回と合計時短回数104回（100／104）などに統一して、大当り終了後の演出モードの種類やボーナスの種類だけを当り図柄や低確サポ無／有に応じて異なるようにしてよい。

【0910】

また、図71（A）（B）の永遠ロングボーナスの演出は、大当り終了後の時短状態についても継続してよいし、さらに時短状態で当たった場合に発生する連チャンの大当りに係る大当り演出でも継続してよい。

【0911】

〔遊技状態遷移図（ゲームフロー）の例〕

図72は、第1実施形態における遊技状態の遷移を例示する遊技状態遷移図（ゲームフロー）である。遊技状態は、遊技制御装置100の遊技制御によって遷移（移行）する。遊技状態は、特に、大当りの発生を契機として遷移するものや、所定のゲーム数（回転数、変動回数）の経過を契機として遷移するものなどが示されている。図72において、それぞれの遊技状態について、大当り確率（特図確率）の状態、普電サポート（電サポ）の有無、演出モード、主となる変動表示ゲーム（主変動表示ゲーム、主変動）、右打ち又は左打ちの発射態様などの特徴が示されている。

10

20

30

40

50

【0912】

なお、演出モード（即ち演出モード番号）は、前述のように、遊技制御装置100が大当たり終了処理（図47）や演出モード情報チェック処理（図33）などによって設定することができる。なお、演出制御装置300が、特図変動表示ゲームの実行回数、時短回数、残保留数などに基づいて演出モードを設定する構成も可能である。

【0913】

第1実施形態において、遊技状態は、通常遊技状態、特定遊技状態、移行状態が存在する。本実施形態において、特定遊技状態は時短状態であるが、特定遊技状態を大当たり確率が高確率状態である確変状態とする構成も可能である。

【0914】

なお、移行状態において大当たり確率の高低と普電サポートの有無は通常遊技状態と変わらないため、移行状態を通常遊技状態に含めてよい。即ち、移行状態を主変動表示ゲームが特図2変動表示ゲームとなる通常遊技状態とみなしてもよい。しかし、移行状態では、残保留の消化によって特図2変動表示ゲームが実行されて特図2変動表示ゲームが主変動表示ゲームとなり、小当たりひいては小当たり中でのV入賞による大当たりが、小当たり確率（ $1/8.5$ ）で発生する。このため、移行状態は、通常よりも遊技者に有利な有利状態であり、この観点では通常遊技状態とは区別できる遊技状態とみなしてもよい。また、移行状態と特定遊技状態（時短状態）とまとめて遊技者に有利な有利状態としてもよいし、或は、特定遊技状態（時短状態）を第1有利状態とし、移行状態を第2有利状態としてもよい。

【0915】

まず、各遊技状態について説明する。通常遊技状態において、遊技制御装置100は、大当たり確率を低確率とし（特図低確率）、普電サポートのない状態（電サポ無し状態）とする。また、通常遊技状態において、演出モードは通常モードである。通常遊技状態において、第1始動入賞口36への遊技球の入球を容易にする左打ちが、右打ちよりも遊技者にとって有利となり、遊技球の発射態様として推奨される。推奨される発射態様で遊技球が入賞し易い主始動領域は第1始動入賞口36となり、主変動表示ゲームは特図1変動表示ゲームとなる。推奨される発射態様で遊技球が入賞し難い従始動領域は普通変動入賞装置37となり、従変動表示ゲームは特図2変動表示ゲームとなる。

【0916】

特定遊技状態（時短状態）において、遊技制御装置100は、大当たり確率は低確率状態であるが、普電サポートのある状態（電サポ有り状態）となるように制御する。特定遊技状態において、遊技球の発射態様として、普通変動入賞装置37が開放され易くなり普通変動入賞装置37を狙う右打ちが推奨される。そのため、特定遊技状態において、主始動領域は普通変動入賞装置37となり従始動領域は第1始動入賞口36となることから、主変動表示ゲームは特図2変動表示ゲームとなり、従変動表示ゲームは特図1変動表示ゲームとなる。

【0917】

特定遊技状態には、大当りに起因して大当たり直後に発生する時短状態（a時短）である特定遊技状態A、大当りに起因せずに天井回数到達によって発生する時短状態（天井時短、b時短）である特定遊技状態B、大当りに起因せずに時短図柄の停止表示（サポ当り）によって発生する時短状態（突然時短、c時短）である特定遊技状態Cが含まれる。

【0918】

特定遊技状態Aにおいて、時短回数が7回（m1）である場合と、7回より大きい200回（m2）である場合の異なる時短状態がある。前述のように、時短回数＝200の時短状態の演出モードを時短モード#1A（サポモードA）とし、時短回数＝7の時短状態の演出モードを時短モード#1B（サポモードB）とする。時短モード#1Aと時短モード#1Bの演出の態様を異ならせて遊技の興趣を向上してよい。なお、時短モード#1Bの時短回数は、例えば、特図2変動表示ゲームの小当たり確率 $1/8.5$ の逆数の値（7回から9回）の程度であればよい。時短モード#1Bの時短回数が小さいほど、時短モード

10

20

30

40

50

1 Bで小当りが発生し難くなる一方、演出モード # 1 Aとの差が大きくなりメリハリがでる。

【0919】

特定遊技状態 B は、時短回数が m 3（ここでは 251 回）の時短状態である。特定遊技状態 C は、時短回数が m 4 の時短状態である。特定遊技状態 C の時短回数 m 4 は、時短図柄の種類によって 30 回又は 10 回になる。特定遊技状態 B の演出モードは時短モード # 3 であり、特定遊技状態 C の演出モードは時短モード # 4 であり、遊技者は天井時短（b 時短）による時短状態と突然時短（c 時短）による時短状態とを演出によって区別できる。また、時短モード # 3，# 4 は、時短モード # 1 A，# 1 B とは異なる演出モードとなり、大当りに起因する時短状態（特定遊技状態 A）と大当りに起因しない時短状態（特定遊技状態 B，C）とを演出によって区別できる。

10

【0920】

移行状態は、特定遊技状態（時短状態）の終了後に発生可能な状態である。移行状態において、特定遊技状態中の普図当りによって開放される普通変動入賞装置 37（普電）への入賞によって生じる残保留が消化され、主変動表示ゲームとして特図 2 変動表示ゲームが実行される。移行状態の演出モードは、残保留消化モードである。

【0921】

次に、図 7 2 を参照して、各遊技状態からの遷移（移行）について説明する。

【0922】

通常遊技状態において、特図 1 変動表示ゲームによって直撃大当り又は小当り（+V 入賞大当り）が発生すると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特 1）であることに対応して、図 7 1 の時短回数（0，7，200）で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態 A 又は通常遊技状態に遷移する。なお、図 7 2 では、通常遊技状態で特図 2 変動表示ゲームが当たる場合について稀であるため記載されていない。具体的には、通常遊技状態において、大当り図柄 1（10R 通常大当り A、10R 通常大当り C）の停止表示によって、時短回数 200 回の時短モード # 1 A（サポモード A）に移行し、大当り図柄 2，3（3R 通常大当り A，B）の停止表示によって、時短回数 7 回の時短モード # 1 B（サポモード B）に移行し、大当り図柄 4（3R 通常大当り C）と小当り図柄 1（3R 通常小当り C）の停止表示によって、通常遊技状態に戻る。

20

【0923】

特定遊技状態 A のうち時短モード # 1 A（サポモード A）において、特図 2 変動表示ゲームの小当り（+V 入賞大当り）の場合に当たった時（即ち小当り変動終了時）の遊技状態が低確サポ無（特 2）であることに対応して、又は、特図 2 変動表示ゲームの直撃大当りの場合に当たった時の遊技状態が低確サポ有（特 2）であることに対応して、図 7 1 の時短回数（7）で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態 A の時短モード # 1 B（サポモード B）に遷移する。なお、図 7 2 では、特定遊技状態 A で特図 1 変動表示ゲームが当たる場合について稀であるため記載されていない。具体的には、時短モード # 1 A において、小当り図柄 2，3（10R 通常小当り A，B）や大当り図柄 5（10R 通常大当り B）の停止表示によって、時短回数 7 回の時短モード # 1 B（サポモード B）に移行する。

30

【0924】

特定遊技状態 A のうち時短モード # 1 B（サポモード B）において、特図 2 変動表示ゲームの小当り（+V 入賞大当り）の場合に当たった時（即ち小当り変動終了時）の遊技状態が低確サポ有（特 2）であることに対応して、又は、特図 2 変動表示ゲームの直撃大当りの場合に当たった時の遊技状態が低確サポ有（特 2）であることに対応して、図 7 1 の時短回数（7，200）で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態 A の時短モード # 1 A（サポモード A）に遷移するか、時短モード # 1 B（サポモード B）に戻る。具体的には、時短モード # 1 B において、小当り図柄 2（10R 通常小当り A）の停止表示によって、時短回数 200 回の時短モード # 1 A（サポモード A）に移行し、小当り図柄 3（10R 通常小当り B）や大当り図柄 5（10R 通常大当り B）の停止表示によって、

40

50

時短回数7回の時短モード#1B（サポモードB）に戻る。同じ小当り図柄2（10R通常小当りA）で当たった場合でも、サポモードAからの当り状態後の移行先はサポモードBであるが、サポモードBからの当り状態後の移行先はサポモードAとなるため、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。なお、時短モード#1Bに戻る場合と、時短モード#1Aから時短モード#1Bに移行する場合とで、時短モード#1Bの種類（演出モードの種類）を例えば時短モード#1Bx，時短モード#1Bzのように異ならせてよい。

【0925】

各遊技状態において、大当り状態終了後に実行される特図変動表示ゲームの回数（確変状態での回数を除く）が天井回数に到達した場合に、天井時短（b時短）となり特定遊技状態B（時短モード#3）に移行する。また、各遊技状態において、特図変動表示ゲームの結果がサポ当り結果（時短結果、時短図柄）の場合に、突然時短（c時短）となり特定遊技状態C（時短モード#4）に移行する。なお、特定遊技状態B，Cでサポ当り結果となっても特定遊技状態Cへの移行や新たな特定遊技状態Cの発生は禁止される。また、本実施形態では、特図2変動表示ゲームでサポ当りがないため、基本的に、時短図柄の停止表示（サポ当り）によって特定遊技状態Aと移行状態（残保留消化モード）から特定遊技状態Cに移行することはない。なお、例外なく、特定遊技状態Aから特定遊技状態Cへの移行を禁止してもよい。

【0926】

特定遊技状態B，Cにおいて、特図2変動表示ゲームの小当り（+V入賞大当り）の場合に当たった時の遊技状態が低確サポ無（特2）であることに対応して、又は、特図2変動表示ゲームの直撃大当りの場合に当たった時の遊技状態が低確サポ有（特2）であることに対応して、図71の時短回数（7）で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態Aの時短モード#1B（サポモードB）に遷移する。なお、図72では、特定遊技状態B，Cで特図1変動表示ゲームが当たる場合について稀であるため記載されていない。具体的には、特定遊技状態B，Cにおいて、小当り図柄2，3（10R通常小当りA，B）や大当り図柄5（10R通常大当りB）の停止表示によって、時短回数7回の時短モード#1B（サポモードB）に移行する。

【0927】

移行状態（残保留消化モード）において、特図2変動表示ゲームの小当り（+V入賞大当り）又は直撃大当りの場合に、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特2）であることに対応し、図71の時短回数（7）で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態Aの時短モード#1B（サポモードB）に遷移する。なお、図72では、残保留消化モードで特図1変動表示ゲームが当たる場合について稀であるため記載されていない。具体的には、移行状態において、小当り図柄2，3（10R通常小当りA，B）や大当り図柄5（10R通常大当りB）の停止表示によって、時短回数7回の時短モード#1B（サポモードB）に移行する。

【0928】

なお、同じ小当り図柄2（10R通常小当りA）で当たった場合でも、残保留消化モードからの当り状態後の移行先はサポモードB（当りの演出はエンゼルボーナス）であるが、サポモードBからの当り状態後の移行先はサポモードA（当りの演出は永遠ロングボーナス）となるため、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。なお、永遠ロングボーナスの演出が大当り状態と時短状態で継続する場合において、残保留消化モードから当たったとしても永遠ロングボーナスの演出は途切れてしまうが連チャン自体は継続してもよい。

【0929】

残保留消化モードで当たった場合と時短モード#1A（サポモードA）で当たった場合とで、当たった時の遊技状態はいずれも低確サポ無であるため、当り状態後の移行先の遊技状態の種類は、いずれも同じである（図71も参照）。特に、残保留消化モードと時短モード#1A（サポモードA）において特図2変動表示ゲームで当たった場合には、図7

10

20

30

40

50

2のように、当り状態後の移行先の遊技状態の種類は、時短回数7回の時短モード#1B（サポモードB）のみになる。

【0930】

時短終了条件が成立した場合に、時短が終了して特定遊技状態から移行状態（残保留消化モード）に遷移する。この時短終了条件は、（i）特定遊技状態における特図2変動表示ゲームの実行回数が時短回数（第1所定回数、時間短縮変動回数2の初期値）を超えること、又は、（ii）特定遊技状態における特図変動表示ゲーム（特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲーム）の合計の実行回数が時短回数（第1所定回数）よりも大きい合計時短回数（第2所定回数、時間短縮変動回数1の初期値）を超えることである。なお、合計時短回数は、特図1保留数の最大値（例えば4）を時短回数に足したものである。図72には稀であるために記載されていないが、時短終了条件は、（iii）特図2小当りが発生してV入賞しなかったことも含めてよい。

10

【0931】

なお、特定遊技状態から大当り状態（V入賞大当り状態含む）に遷移する場合に時短が終了する時短終了条件は、（iv）特図2小当りが発生してV入賞したこと、又は、（v）直撃大当りが発生することである。なお、（iv）は、V入賞に関係なく特図2小当りが発生したことでもよい（図31参照）。また、（iv）に特図1小当りが発生してV入賞したことを含めてよい。

【0932】

なお、時短モード#1A（サポモードA、時短回数=200）、時短モード#1B（サポモードB、時短回数=7）、時短モード#3（時短回数=251）、時短モード#4（時短回数=30又は10）に関して、時短終了条件のうち、（iii）（iv）（v）の条件は同じであるが、時短回数に関する（i）の条件と合計時短回数に関する（ii）の条件は異なる。このため、遊技制御を簡単にしつつ、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを増やしたりして、遊技の興趣が向上する。

20

【0933】

〔典型的な遊技の流れ〕

図73は、図72から典型的な遊技の流れを抜き出して示した図であり、サポモードA、Bの時短回数の遷移を示す。なお、サポモードA、Bから発生する大当りとしては、小当り確率の高さから小当り経由のV入賞大当りが発生する可能性が高い。

30

【0934】

1回目のサポモードAから大当り（小当り+V入賞大当り）が発生すると、10R通常小当り図柄の種類に関係なく、大当り後の時短モードの時短回数は7回（サポモードB）になる。なお、図73の太線の矢印で示すように、サポモードAから大当り（小当り+V入賞大当り）を経由して、ほぼ確実に時短回数7回のサポモードBに移行する。これは、特図2変動表示ゲームの小当り確率が1/8.5であるため、時短回数200回のサポモードAではほぼ確実に小当りが発生するためである。従って、サポモードAは、大当り状態終了後に特定遊技状態（サポモードB）が確実に継続する次回継続確定モード（確定モード）となる。

【0935】

10Rで出玉数（獲得球数、遊技価値）が1500（=10×150）得られるので、図73の太線の矢印のルートでは、サポモードAとサポモードBを発生させる大当りで、合計3000の出玉数がほぼ確実に得られ、遊技の興趣が向上する。このように、連続するサポモードAとサポモードBに関して、2回発生する大当り（2連チャンの大当り）が1セットになっており合計3000の出玉数がほぼ確実に得られる。さらに、通常遊技状態から直撃大当りが発生して、特定遊技状態Aに入る場合では、合計4500以上の出玉数が得られることもある。

40

【0936】

そして、サポモードBから再度大当り（小当り+V入賞大当り）が発生して、大当り後の時短モードの時短回数は200回（2回目のサポモードA）となることがある（35%

50

の確率)。この場合に、図73の太線の矢印のルートを通して、再び合計3000の出玉数が確実に得られる。このように、図73の太線の矢印のルートを2回通ると、4連チャンの大当たりによって合計6000の出玉数が得られることになる。また、サポモードBから再度大当たり(小当たり+V入賞大当たり)が発生して、大当たり後の時短モードの時短回数は7回(2回目のサポモードB)となることがある(65%の確率)。この場合に、2回目のサポモードBが発生させた1回分の10Rの当りの出玉数1500が追加され、3連チャンの大当たりによって合計4500の出玉数が得られることになる(2回目のサポモードBで当たらない限り)。

【0937】

なお、サポモードBから大当たり(小当たり+V入賞大当たり)が発生すると、10R通常小当たり図柄の種類に応じて、大当たり後の時短モードの時短回数は200回(サポモードA)又は7回(サポモードB)になる。なお、図70のように、時短回数が200回になる確率は、10R通常小当たりAの振り分けの割合で35%であり、時短回数が7回になる確率は、10R通常小当たりBの振り分けの割合で65%である。また、サポモードBの時短回数7回中に大当たり(小当たり+V入賞大当たり)が発生しない場合に、時短が終了して、残保留消化モード(移行状態)になる。なお、残保留消化モードで特図2変動表示ゲームが小当たり(+V入賞大当たり)場合又は直撃大当たりとなった場合には、大当たり後に再度時短モードとなるが、この時短モードの時短回数は、いずれの場合も7回(サポモードB)になる。

10

【0938】

このように、サポモードBからの大当たり(小当たり+V入賞大当たり)によって、3000の出玉数が得られるか(太線の矢印:サポモードA→サポモードBのルート)又は1500の出玉数が得られるか(細線のサポモードB→時短終了)が、遊技のゲーム性として重要となる。

20

【0939】

〔画面遷移の例〕

図74Aから図74Cは、表示装置41の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である。なお、画面遷移は、図73の太線の矢印のような遊技状態の遷移にほぼ合わせたものになっている。

【0940】

(あ)では、通常遊技状態であり、モード表示679が演出モードとして「通常モード」と表示されている。変動回数表示677は、電源投入後又は大当たり終了後の特図変動表示ゲームの実行回数を示し、ここでは電源投入後の特図変動表示ゲームの実行回数が155であることを「155G」のように示す。なお、確変状態が発生可能な機種の場合、変動回数表示677は、天井回数に近付いていることをわかり易くするため、確変状態での回数を除いて、電源投入後又は大当たり終了後の特図変動表示ゲームの実行回数を示してよい。また、変動回数表示677は、天井までの残りのゲーム回数(天井回数-実行回数)を示してよい。

30

【0941】

第1所定画像675は特図1変動表示ゲームが実行中(変動中)であることを示す記号「○」になっており、第2所定画像676は特図2変動表示ゲームが停止中であることを示す記号「×」となっている。記号「○」を点滅表示して、第四特別図柄(第4図柄)として第4図柄変動を行ってもよい。

40

【0942】

表示画面において、飾り特別図柄(大図柄)として、左図柄611a、右図柄611b、及び、中図柄611cを変動表示することができる。左図柄611a、右図柄611b、中図柄611cの変動表示は、各々、大きな変動表示領域610において、左の変動表示領域610A、右の変動表示領域610B、中央の変動表示領域610Cに表示される。本実施形態では、左図柄611a、右図柄611b、及び、中図柄611cは、縦スクロールで変動表示される。さらに、飾り縮小図柄(小図柄)の変動表示が表示画面右側の

50

小さな変動表示領域 6 1 5 で実行される。

【0943】

変動表示ゲーム実行前の第 1 始動記憶（特図 1 始動記憶）を第 1 保留表示として表示する第 1 保留表示部 6 3 0 a（待機領域）において、保留表示 6 8 2 a（第 1 保留表示）が 3 つ表示される。保留表示 6 8 2 a は、トランプを模した表示態様を有する。また、保留消化領域 6 4 0 では、実行中の特図 1 変動表示ゲームに係る変動中保留（この特図変動表示ゲームの実行権利となっていた始動記憶）を示す変動中保留表示 6 8 2 b が、めくったトランプを模した表示態様で表示されている。なお、変動表示ゲーム実行前の第 2 始動記憶（特図 2 始動記憶）を第 2 保留表示（第 2 始動記憶表示）として表示する第 2 保留表示部 6 3 0 b には、ここでは何も表示されていない。

10

【0944】

表示画面の右上の特図 1 保留数表示部 6 5 0 と特図 2 保留数表示部 6 6 0 には、それぞれ、特図 1 保留数（特図 1 始動記憶数）を示す数字「3」と特図 2 保留数（特図 2 始動記憶数）を示す数字「0」が表示されている。

【0945】

次に、（い）では、（あ）の後に、特図変動表示ゲーム（ここでは特図 1 変動表示ゲーム）が直撃大当りの結果となり、飾り停止図柄として大当り図柄が変動表示領域 6 1 0 と変動表示領域 6 1 5 において表示される。なお、ここでは、大当り図柄は、大当り図柄 1（10R 通常大当り A）又は大当り図柄 6（10R 通常大当り C）であり、図柄種別 4 に対応する停止図柄として「7，7，7」が表示される例を示す。

20

【0946】

変動中保留表示 6 8 2 b が消え、第 1 所定画像 6 7 5 と第 2 所定画像 6 7 6 は「×」となっている。モード表示 6 7 9 が演出モードとしての「通常モード」と表示されている。変動回数表示 6 7 7 は「170G」と表示されている。特図 1 保留数表示部 6 5 0 と特図 2 保留数表示部 6 6 0 には、それぞれ、「3」と「0」が表示されている。第 1 保留表示部 6 3 0 a において保留表示 6 8 2 a が 3 つ表示され、第 2 保留表示部 6 3 0 b には何も表示されていない。

【0947】

次に、（う）では、複数の星型のキャラクタ 5 0 7 からなる模様と、文字「当り！！」を表示することによって、大当り状態の開始の際の大当りファンファーレ演出が行われている。模様は、永遠ロングボーナスでのみ表示し、永遠ロングボーナス以外のボーナス、例えばブリヲボーナス、ヴィルボーナスでは表示しなくてもよい。また、模様は、小当りファンファーレ演出では出現しない。

30

【0948】

次に、（え）では、大当りのラウンド演出が 1 回目から 10 回目のラウンドで実行される様子を示す。（え）では、10 回目のラウンドについての表示画面であるが、1 回目から 9 回目のラウンドについても同様である。右打ちするよう指示する右打ち指示表示 5 0 2 が表示されている。

【0949】

ここで、獲得可能球数表示 5 0 6 の値 3 0 0 0 に対して、大当り開始から実際に獲得した出玉数（獲得球数）が、出玉数表示 5 0 5 によって例えば 1 4 9 0 と表示されている。前述のように 1 ラウンドで獲得可能な出玉数（獲得可能球数）は 1 5 0 であるため、10 回目のラウンドであれば、実際に獲得した出玉は、およそ 1 3 5 0 以上となる。

40

【0950】

獲得可能球数表示 5 0 6 は、大当り開始から所定期間において獲得可能な出玉数（獲得可能球数、獲得予定球数）を示す。ここでの所定期間は、基本的には、ファンファーレ以降で実行される所定演出（図 7 1 の永遠ロングボーナス、エンゼルボーナス、ヴィルボーナスなど）が継続する期間となる。なお、ここでは大当り図柄 1（10R 通常大当り A）又は大当り図柄 6（10R 通常大当り C）の大当りであるため、ファンファーレ以降で実行される所定演出は永遠ロングボーナスであり、大当り終了後はサポモード A（時短モー

50

ド#1A)に移行する。このため、図73の太線の矢印のようにサポモードA→サポモードBのルートを進むことになり、2連チャンの大当りで3000の出玉数を獲得可能（獲得予定）である。なお、エンゼルボーナス、ヴィルボーナスなど永遠ロングボーナス以外のボーナスでは、1500の出玉数を獲得可能であるため、獲得可能球数表示506の値は、1500となる。

【0951】

本実施形態では、永遠ロングボーナスは、表示画面中央で実行される複数回のストーリー演出からなり、1回目から10回目のラウンドに亘って第1話のストーリー演出（ストーリー1）が実行される。複数回のストーリー演出が互いに関連することが認識できるように共通性があり、例えば共通の表示として、文字表示「永遠ロングボーナス」や、虎を形態的に模したキャラクタ508が表示される。これに限られず、永遠ロングボーナスは、例えば、共通性のある複数のバトル演出（キャラクタが画面中央で対戦する演出）から構成されてもよい。なお、永遠ロングボーナスは、（う）の大当りファンファーレ演出から開始してもよい。

【0952】

次に、（お）では、直撃大当りのエンディング演出の終了後、即ち大当り終了後に、時短状態となって演出モードがサポモードA（時短モード#1A）になっている。モード表示679がサポモードAを示す「モードA」と表示されている。

【0953】

表示画面中央では、永遠ロングボーナスの演出が大当り中から継続しており、表示画面中央で第2話のストーリー演出（ストーリー2）が実行される。ストーリー演出の共通の表示として、文字表示「永遠ロングボーナス」や、虎を形態的に模したキャラクタ508が表示される。ストーリー演出の邪魔になるため、表示画面中央の大きな変動表示領域610において、飾り特別図柄（大図柄）の変動表示は実行されていないが、表示画面右側の小さな変動表示領域615で飾り縮小図柄（小図柄）による特図2変動表示ゲームが実行されている。

【0954】

ここで、大当り開始から所定期間において獲得可能な出玉数（獲得可能球数）である3000に対して、大当り開始から実際に獲得した出玉数（獲得球数）が、出玉数表示505によって1510と表示されている。また、右打ち指示表示502が大当り状態中から継続して表示されている。このように獲得可能球数表示506の値3000と右打ち指示表示502が大当り状態中から継続してため、永遠ロングボーナスの演出が継続していると遊技者に認識させる手助けとなる。なお、永遠ロングボーナスでは、3000の多くの出玉数が獲得可能であり、安全装置の作動が早まるため、前述の作動予告表示（例えば「まもなく打ち止めです」の文字）を表示する場合には、他のボーナスの場合よりも目立つように表示してよい。

【0955】

変動回数表示677は、大当り終了後の特図変動表示ゲームの実行回数が30であることを「30G」のように示す。第1所定画像675は特図1変動表示ゲームが停止中であることを示す記号「×」になっており、第2所定画像676は特図2変動表示ゲームが実行中（変動中）であることを示す記号「○」となっている。保留消化領域640では、実行中の特図2変動表示ゲームに係る変動中保留（この特図変動表示ゲームの実行権利となっていた始動記憶）を示す変動中保留表示683bが、花を模した表示態様で表示されている。また、実行中の特図2変動表示ゲームの小当り結果となる期待度が高く、変動中保留表示683bの表示態様として色が通常色（例えば白）から別な色（例えば緑）に変化する保留変化予告が実行されている。

【0956】

特図1保留数表示部650と特図2保留数表示部660には、それぞれ、特図1保留数を示す数字「0」と特図2保留数を示す数字「4」が表示されている。第2始動記憶を第2保留表示として表示する第2保留表示部630bにおいて、保留表示683a（第2保

10

20

30

40

50

留表示)が4つ表示されている。保留表示683aは、花を模した表示態様を有する。なお、変動表示ゲーム実行前の第1始動記憶を第1保留表示として表示する第1保留表示部630aには、ここでは何も表示されていない。

【0957】

ここで、最も新しく発生した4番目の保留表示683aに関して、表示態様として色が通常色(例えば白)から別な色(例えば赤)に変化する保留変化予告が発生時から実行されている。なお、4番目の保留表示683aの始動記憶に基づく特図2変動表示ゲームは、小当り図柄2(10R通常小当りA)の停止結果となり、サポモードBで小当り結果となるとV入賞大当り後に時短回数200回のサポモードAになることが確定しているものとする。

【0958】

次に、(か)では、(お)の特図2変動表示ゲームが終了し、変動表示領域615において小当り停止図柄2(10R通常小当りAの図柄、図柄種別3)に対して飾り停止図柄が「5, 5, 5」と表示されている。サポモードAからの当り後の移行先は当り図柄によらずサポモードBであるため(図72、図73)、当り図柄は、小当り停止図柄2ではなく小当り停止図柄3(10R通常小当りBの図柄、図柄種別2)でもよい。変動中保留表示683bが消え、第2所定画像676は「×」となっている。他の表示は、基本的に(お)から継続している。

【0959】

次に、(き)では、文字「当り!!」を表示することによって、小当り状態の開始の際の小当りファンファーレ演出が行われている。文字「当り!!」に代えて、「Vを狙え」と表示してもよい。小当りファンファーレ演出は地味であり、(う)の直撃大当りの大当りファンファーレ演出よりも文字「当り!!」は小さく表示され、この大当りファンファーレ演出と異なって複数の星型のキャラクタ507からなる模様は表示されていない。なお、(う)の直撃大当りのファンファーレ演出は、永遠ロングボーナスが発生する場合にのみ派手にし、永遠ロングボーナス以外のエンゼルボーナス、ヴィルボーナスなどでは、(き)と同じ地味な演出にしてよい。(き)において、キャラクタ508は継続して表示され、永遠ロングボーナスが継続していることが認識できる。ここで、右打ち指示表示502、出玉数表示505、獲得可能球数表示506は、継続して表示されているが、消去して非表示にしてもよい。

【0960】

次に、(く)では、小当りでの第2特別変動入賞装置39(大入賞口)の開放が実行されており、V入賞を狙うことを遊技者に促す文字表示「Vを狙え」が表示されている。ここで、右打ち指示表示502、出玉数表示505、獲得可能球数表示506(値3000)は、継続して表示されている。キャラクタ508も継続して表示され、永遠ロングボーナスが継続していることが認識できる。文字表示「永遠ロングボーナス」を表示してもよい。

【0961】

次に、(け)では、第2特別変動入賞装置39内の特定領域86(V入賞口)に遊技球がV入賞して、V入賞大当りが発生する。そして、V入賞を報知する演出として文字表示「おめでとう」が表示される。キャラクタ508は継続して表示され、永遠ロングボーナスが継続していることが認識できる。右打ち指示表示502、出玉数表示505、獲得可能球数表示506は継続して表示されている。

【0962】

しかし、(お)(か)の保留変化した4番目の保留表示683aに対応する保留情報(B1711)を先読み変動コマンド領域等から再度ロードして、先読み演出として、獲得可能球数表示506の値を3000から6000に変化させる。これにより、大当り開始から獲得可能な出玉数が増えたことを遊技者が認識し、遊技の興味が高まる。(け)以降、獲得可能球数表示506の値は6000に維持される。ただし、3001から6000の間の出玉数(獲得球数)で差玉基準値95000に達してしてしまう場合には、大当り

10

20

30

40

50

終了後に安全装置が作動するため、遊技者に期待させないよう獲得可能球数表示 5 0 6 の値を 3 0 0 0 から 6 0 0 0 に変化させずに 3 0 0 0 に維持してもよい。

【0963】

なお、前述のように、4 番目の保留表示 6 8 3 a の始動記憶に基づく特図 2 変動表示ゲームは、小当り図柄 2 (1 0 R 通常小当り A) の停止結果となり、サポモード B で小当り結果となると V 入賞大当り後に時短回数 2 0 0 回のサポモード A になることが確定している。従って、後に図 7 3 の太線の矢印の 2 回目のルートが発生することになり、合計 6 0 0 0 の出玉数が得られるため、獲得可能球数表示 5 0 6 の値を 3 0 0 0 から 6 0 0 0 に変化させているのである。

【0964】

次に、(こ)では、V 入賞大当りファンファーレ演出の後に、V 入賞大当りのラウンドが 2 ラウンド目 (ラウンド数 = 2) として開始して、表示画面中央で、永遠ロングボーナスとして第 3 話のストーリー演出 (ストーリー 3) が実行される。文字表示「永遠ロングボーナス」や、虎を形態的に模したキャラクタ 5 0 8 が表示される。なお、演出としての文字表示「永遠ロングボーナス」に関して、(え)の直撃大当り (ラウンド 1 ~ 1 0) と、(こ)の V 入賞大当り (ラウンド 2 ~ 1 0) とで、フォントや大きさや色を変えるなどして、表示態様を異ならせてよい。右打ち指示表示 5 0 2、出玉数表示 5 0 5、獲得可能球数表示 5 0 6 は継続して表示されている。

【0965】

次に、(さ)では、V 入賞大当りのラウンドが最終ラウンドとしての 1 0 ラウンド目 (ラウンド数 = 1 0) である場合を示す。(さ)の表示画面は、ラウンド数の表示 (R O U N D 1 0) と出玉数表示 5 0 5 の値だけが、(こ)の表示画面とは異なる。

【0966】

次に、(し)では、V 入賞大当りのエンディング演出の終了後、即ち大当り終了後に、時短状態となって、演出モードがサポモード B (時短モード # 1 B) になっている。モード表示 6 7 9 がサポモード B を示す「モード B」と表示されている。右打ち指示表示 5 0 2、出玉数表示 5 0 5、獲得可能球数表示 5 0 6 は継続して表示されている。

【0967】

表示画面中央では、永遠ロングボーナスの演出が継続しており、表示画面中央で第 4 話のストーリー演出 (ストーリー 4) が実行される。ストーリー演出の共通の表示として、文字表示「永遠ロングボーナス」や、虎を形態的に模したキャラクタ 5 0 8 が表示される。(お)のモード A と同じく、表示画面右側の小さな変動表示領域 6 1 5 でのみ、飾り縮小図柄 (小図柄) による特図 2 変動表示ゲームが実行されている。第 1 所定画像 6 7 5 は記号「×」になっており、第 2 所定画像 6 7 6 は記号「○」となっている。

【0968】

また、(し)では、大当り終了後に、4 回目の特図 2 変動表示ゲームが実行されているため、変動回数表示 6 7 7 は「4 G」と表示される。保留消化領域 6 4 0 では、実行中の特図 2 変動表示ゲームに係る変動中保留を示す変動中保留表示 6 8 3 b が表示されている。ここで、実行中の特図 2 変動表示ゲームは、(お)(か)で小当り前から存在した 4 番目の保留表示 6 8 3 a (保留変化あり)の始動記憶に基づくものであり、小当り図柄 2 (1 0 R 通常小当り A)の停止結果が確定している。このため、変動中保留表示 6 8 3 b の表示態様として色が通常色 (例えば白) から別な色 (例えば赤や金) に変化する保留変化予告が保留シフトの際 (保留表示の移動の際) に或いはその前から実行されている。

【0969】

特図 1 保留数表示部 6 5 0 と特図 2 保留数表示部 6 6 0 には、それぞれ、特図 1 保留数を示す数字「0」と特図 2 保留数を示す数字「1」が表示されている。第 2 始動記憶を第 2 保留表示として表示する第 2 保留表示部 6 3 0 b において、保留表示 6 8 3 a (第 2 保留表示) が 1 つ表示されている。

【0970】

次に、(す)では、(し)の特図 2 変動表示ゲームが終了し、変動表示領域 6 1 5 にお

10

20

30

40

50

いて、保留変化予告で示唆されたとおり小当り停止図柄 2（10R 通常小当り A の図柄）が「7，7，7」と表示されている。変動中保留表示 683b が消え、第 2 所定画像 676 は「×」となっている。他の表示は、基本的に（し）から継続している。同じ小当り停止図柄 2（10R 通常小当り A の図柄、図柄種別 3）でも、（す）のサポモード B に対して飾り停止図柄は「7，7，7」であるが、（か）のサポモード A に対して飾り停止図柄は「5，5，5」となっており、小当りの特図変動表示ゲームが開始したサポモードに応じて飾り停止図柄が異なっている。ただし、（か）のサポモード A と（す）のサポモード B の両方に関して、小当りの特図変動表示ゲームを実行した一括表示装置 50 の特図表示器（特図 2 表示器 52）においては、同じ停止図柄番号に係る図柄として、同じ小当り停止図柄 2（10R 通常小当り A の図柄）が表示される。

10

【0971】

なお、本実施形態において、演出制御装置 300 は、サポモード A（時短モード #1 A）では、小当りの飾り停止図柄を「7，7，7」を含まないグループ A（例えば、「1，1，1」「3，3，3」「5，5，5」）から選択して表示画面に表示し、サポモード B（時短モード #1 B）では、小当りの飾り停止図柄を「7，7，7」を含むグループ B（例えば、「7，7，7」「9，9，9」）から選択して表示画面に表示する。ただし、昇格演出の場合には、最初に「5，5，5」を表示した後で「7，7，7」を表示してよい。なお、グループ A とサポモード B には重複した飾り停止図柄があってもよいし、なくてもよい。一方、一括表示装置 50 の特図表示器では、時短モードによらず同じ停止図柄番号に基づいて同じ小当り停止図柄が表示される。

20

【0972】

このようにして、サポモード B から発生可能で出玉数（遊技価値）の大きい永遠ロングボーナスに対して、永遠ロングボーナスの開始前に特定の飾り停止図柄「7，7，7」を表示できる。例えば、サポモード B からの特図 2 表示器の小当り停止図柄 2（10R 通常小当り A の図柄）に対して永遠ロングボーナスとなり、表示装置 41 の小当り飾り停止図柄は、特定の飾り停止図柄「7，7，7」が選択されるようにする。一方、サポモード B からの特図 2 表示器の小当り停止図柄 3（10R 通常小当り B の図柄）でエンゼルボーナスとなり、表示装置 41 の小当り飾り停止図柄は「9，9，9」が選択されるようにする。また、サポモード A からの特図 2 表示器の小当り停止図柄 2，3（10R 通常小当り A，B の図柄）でもエンゼルボーナスとなるが、表示装置 41 の小当り飾り停止図柄は、「1，1，1」「3，3，3」「5，5，5」から選択される。

30

【0973】

なお、（い）（う）（え）のように、通常遊技状態からの特図 2 表示器の大当り図柄 1（10R 通常大当り A）又は大当り図柄 6（10R 通常大当り C）に対して、永遠ロングボーナスとなるが、表示装置 41 の大当り飾り停止図柄は、所定の飾り停止図柄のグループから特定の飾り停止図柄「7，7，7」が選択されるようにする。

【0974】

次の（せ）（そ）（た）は、（き）（く）（け）と、出玉数表示 505 の値と獲得可能球数表示 506 の値について異なるだけであり他の表示は同じである。なお、（け）から（す）において獲得可能球数表示 506 の値を 3000 から 6000 に変化させる先読み演出が実行されていなかった場合には、（せ）（そ）（た）のいずれかの段階、特に（た）の V 入賞の段階で、獲得可能球数表示 506 の値を 3000 から 6000 に変化させてよい。

40

【0975】

次に、（ち）では、V 入賞大当りファンファーレ演出の後に、V 入賞大当りのラウンドが 2 ラウンド目として開始して、表示画面中央で、永遠ロングボーナスとして第 5 話のストーリー演出（ストーリー 5）が実行される。（ち）は、（こ）と、ストーリー演出、出玉数表示 505 の値について異なるだけであり他の表示は同じである。その後、V 入賞大当りのラウンドが最終ラウンドとしての 10 ラウンド目まで実行される。

【0976】

50

次に、（つ）では、V入賞大当りのエンディング演出の終了後、即ち大当り終了後に、時短状態となって演出モードがサポモードA（時短モード#1A）になっている。モード表示679がサポモードAを示す「モードA」と表示されている。右打ち指示表示502、出玉数表示505、獲得可能球数表示506は継続して表示されている。

【0977】

表示画面中央では、永遠ロングボーナスの演出が継続しており、表示画面中央で第6話のストーリー演出（ストーリー6）が実行される。ストーリー演出の共通の表示として、文字表示「永遠ロングボーナス」や、虎を形態的に模したキャラクタ508が表示される。（お）のサポモードAと同じく、表示画面右側の小さな変動表示領域615でのみ、飾り縮小図柄（小図柄）による特図2変動表示ゲームが実行されている。

10

【0978】

その後、サポモードAは次回継続確定モードであるため、（か）から（さ）と同様に、小当り（10R通常小当りA又は10R通常小当りB）の発生によって、V入賞大当りが発生し、（し）と同じくサポモードBとなる。このように、（つ）以降は、図73の2回目の太線の矢印のルートになり、最初の直撃大当りの開始から合計6000の出玉数が得られることになる。そして、このサポモードB（時短回数7回）で当りが発生せず、時短終了条件が成立すると永遠ロングボーナスの演出は終了し、このサポモードBで当りが発生すると永遠ロングボーナスの演出は継続する。

【0979】

以上、図73の2つの太線の矢印で示すような遊技状態の遷移について説明したが、獲得可能球数表示506の値を3000から6000に変化させる先読み演出が発生せず3000に維持したままである場合には、（さ）の段階で一度永遠ロングボーナスを終了させ、（し）（す）のサポモードBの後、（せ）で小当り状態が発生した後に、第1話のストーリー演出（ストーリー1）から永遠ロングボーナスを再開してもよい。

20

【0980】

また、連続するサポモードAとサポモードBに関して2回発生する大当りを1セットにして、少なくともこの1セット（合計3000の出玉数）に対応して永遠ロングボーナスの演出を設定したが、2回のうち1回目の大当りだけを永遠ロングボーナスの演出に設定し、サポモードBに移行する2回目の大当りは、図71のとおりエンゼルボーナスの演出としてもよい。即ち、永遠ロングボーナスを例外扱いとせず、大当りごとに図71に基づいてボーナスの演出を変えてよい。

30

【0981】

また、直撃大当りの大当りファンファーレ（う）と、直撃大当りでない大当り（即ち小当り+V入賞大当り）の小当りファンファーレ（き）と、を異ならせるようにした。これに加えて、直撃大当りになる変動表示中の演出と、直撃大当りでない大当り（即ち小当り+V入賞大当り）になる変動表示中の演出と、を異ならせるようにしてもよい。

【0982】

また、上記では、（か）のサポモードAと（す）のサポモードBに関して、一括表示装置50の同じ小当り停止図柄（例えば10R通常小当りAの図柄）ひいては同じ図柄種別（例えば図柄種別3）でも、小当り変動が開始したサポモードに応じて表示装置41の飾り停止図柄が異なっている。同様に、一括表示装置50の同じ大当り停止図柄でも、大当り変動が開始したサポモードに応じて表示装置41の飾り停止図柄が異ならせてよい。また、これに限られず、一括表示装置50の同じ小当り停止図柄又は同じ大当り停止図柄に対しては、表示装置41の飾り停止図柄も同じにする構成も可能である。

40

【0983】

〔第1実施形態の作用・効果〕

第1実施形態に係る遊技機10は、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）の進行を制御可能な遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）を備え、ゲームの結果が特別結果（例えば小当り又は大当り）となる場合に、遊技者に有利な特別遊技状態（例えば小当り状態又は大当り状態）を発生可能である。遊技制御手段は、特別遊技状態とは異なる複数種類

50

の特定遊技状態（例えば時短状態、普電サポート状態）を発生可能であり、特定遊技状態におけるゲームが特別結果となる場合に、特定遊技状態の種類（例えばサポモード A，B）に応じたタイミングで、特定遊技状態の終了を設定可能である。

【0984】

このような遊技機 10 では、特定遊技状態の種類で異なる特定遊技状態の終了タイミングを遊技状態の選択の判断に使用するなどして、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興趣が向上できる。例えば、特定遊技状態（例えば時短状態、普電サポート状態）におけるゲームの特別結果（例えば小当り図柄）が同じ種類（例えば 10R 通常小当り A）であっても、特別遊技状態（例えば小当り状態又は大当り状態）後の遊技状態（例えばサポモード A，B）を、特定遊技状態の種類で異なる特定遊技状態の終了タイミングに基づいて選択することができ、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりする。

10

【0985】

また、第 1 実施形態に係る遊技機 10 では、遊技制御手段は、識別情報（例えば特別図柄）を変動表示させる変動表示ゲームを実行可能であり、第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）における変動表示ゲームが特別結果となる場合に、変動終了の際（又は停止表示開始の際）に第 1 特定遊技状態の終了を設定可能であり、第 2 特定遊技状態（例えばサポモード B）における変動表示ゲームが特別結果となる場合に、変動終了の際に第 2 特定遊技状態の終了を設定しない。

【0986】

20

このような遊技機 10 では、特定遊技状態の種類に応じて特定遊技状態の終了タイミングを変動終了の際か否かで異ならせて、好適にゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを増やしたりして、遊技の興趣が向上できる。

【0987】

また、第 1 実施形態に係る遊技機 10 では、遊技制御手段は、第 2 特定遊技状態（例えばサポモード B）における変動表示ゲームが特別結果となる場合に、特別遊技状態の開始の際に（又は停止表示終了の際）に第 2 特定遊技状態（例えばサポモード B）の終了を設定可能である。

【0988】

このような遊技機 10 では、特定遊技状態の種類に応じて特定遊技状態の終了タイミングを停止表示の前後に異ならせて、好適にゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを増やしたりして、遊技の興趣が向上できる。

30

【0989】

また、第 1 実施形態に係る遊技機 10 では、遊技制御手段は、第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）における変動表示ゲームが第 1 特別結果（直撃大当り結果）となる場合には、特別遊技状態の開始の際に第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）の終了を設定し、第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）における変動表示ゲームが第 2 特別結果（小当り結果）となる場合には、変動終了の際に第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）の終了を設定する。

【0990】

40

このような遊技機 10 では、第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）における変動表示ゲームが第 2 特別結果（小当り結果）となる場合にのみ、特定遊技状態の種類に応じて特定遊技状態の終了タイミングを異ならせることができる。このため、大当り結果と小当り結果の差を広げて、好適にゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを増やしたりして、遊技の興趣が向上できる。

【0991】

また、第 1 実施形態に係る遊技機 10 では、遊技制御手段は、変動終了の際に第 1 特定遊技状態（例えばサポモード A）における残りのゲーム回数（時短回数）を減少させ、特別遊技状態の開始の際に（又は停止表示終了の際）に第 2 特定遊技状態（例えばサポモード B）における残りのゲーム回数（時短回数）を減少させる。

50

【0992】

このような遊技機10では、特定遊技状態におけるゲームが特別結果（小当り）となる場合に特定遊技状態を終了させる終了タイミングと、特定遊技状態（例えばサポモード）における残りのゲーム回数（時短回数）を減少させる減少タイミングを揃えることができる。従って、遊技制御が簡単になり、遊技制御用プログラムの容量も削減できる。

【0993】

また、第1実施形態に係る遊技機10では、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）の進行を制御可能な遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）と、ゲームに関連する演出を実行可能な演出制御手段（例えば演出制御装置300）を備え、ゲームの結果が特別結果（例えば小当り又は大当り）となる場合に、遊技者に有利な特別遊技状態（例えば小当り状態又は大当り状態）を発生可能である。遊技制御手段は、ゲームが第1特別結果（直撃大当り結果）となる場合に、第1特別遊技状態（大当り状態）を発生可能であり、ゲームが第2特別結果（小当り結果）となる場合に、第2特別遊技状態（小当り状態）を発生可能である。演出制御手段は、第1特別遊技状態（大当り状態）の開始の際の演出（大当りファンファーレ演出、大当りでのボーナス演出の名称を文字表示する演出）と、第2特別遊技状態（小当り状態）の開始の際の演出（小当りファンファーレ演出、小当りでのボーナス演出の名称を文字表示する演出）とを異ならせる。

10

【0994】

このような遊技機10では、第1特別遊技状態（大当り状態）と第2特別遊技状態（小当り状態）とで得られる遊技価値（獲得球数）が異なる場合に、第1特別遊技状態（大当り状態）と第2特別遊技状態（小当り状態）のうち遊技価値（獲得球数）の大きい方の開始の際の演出を派手にするなどして、遊技の興趣を向上できる。

20

【0995】

また、第1実施形態に係る遊技機10では、遊技制御手段は、ゲームの実行権利として始動記憶を記憶可能であり、特別遊技状態の後に、各々継続するゲーム回数が異なる複数種類の特定遊技状態（例えばサポモードA、B）を発生可能である。第1特定遊技状態（例えばサポモードA）のゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA）が発生する場合と、第2特定遊技状態（例えばサポモードB）のゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA）が発生する場合とで、特別遊技状態の後に発生可能な特定遊技状態の種類（例えばサポモードA又はサポモードB）を異ならせることが可能である。第1特定遊技状態（例えばサポモードA）のゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA、B）が発生する場合と、特定遊技状態の後（例えば残保留消化モード中）に当該特定遊技状態中に発生した始動記憶（残保留）に基づくゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA、B）が発生する場合とで、特別遊技状態の後に発生可能な特定遊技状態の種類（例えばサポモードA）を同じにする。

30

【0996】

このような遊技機10では、第2特定遊技状態（例えばサポモードB）のゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA）が発生する場合に、特別遊技状態の後に発生可能な特定遊技状態の種類を有利なもの（例えばサポモードA）にして、第1特定遊技状態（例えばサポモードA）のゲームによって特別遊技状態（例えば10R通常小当りA）が発生する場合との差別化を図り、遊技の興趣を向上できる。

40

【0997】

また、第1実施形態に係る遊技機10では、遊技制御手段は、特別遊技状態とは異なる複数種類の特定遊技状態を発生可能であり、各特定遊技状態を終了させる複数の終了条件（例えば時短終了条件）のうち、いずれか一つの終了条件が成立すると、当該各特定遊技状態を終了させ、前記複数種類の特定遊技状態に関して、一部の終了条件（例えば条件（i i i）（i v）（v））が同じであり他の終了条件が異なる。

【0998】

このような遊技機10では、遊技制御を簡単にしつつ、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが増えたりして、遊技の興趣を向上できる。

50

【0999】

また、第1実施形態に係る遊技機10では、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）を第1表示手段（例えば一括表示装置50の特図表示器）において表示可能な遊技制御手段と、前記ゲームに対応する飾りゲーム（例えば飾り特図変動表示ゲーム）を第2表示手段（例えば表示装置41）において表示可能な演出制御手段と、を備え、前記ゲームの結果が特別結果となる場合に、遊技者に有利な特別遊技状態を発生可能である。遊技制御手段は、特別遊技状態とは異なる複数種類の特定遊技状態を発生可能である。遊技制御手段は、第1特定遊技状態（例えばサポモードA中）のゲームが特別結果となった場合と、第2特定遊技状態（例えばサポモードB中）のゲームが特別結果となった場合とで、ゲームの結果として第1表示手段（例えば一括表示装置50の特図表示器）において表示される特別結果（例えば10R通常小当りAの図柄）が同一でも、飾りゲームの結果として第2表示手段（例えば表示装置41）において表示される飾り特別結果が異なる（例えば「5, 5, 5」と「7, 7, 7」のように異なる）ことが可能である。

10

【1000】

このような遊技機10では、第2特定遊技状態（例えばサポモードB中）のゲームが特別結果となった場合に獲得可能な遊技価値（例えば時短回数）と、第1特定遊技状態（例えばサポモードA中）のゲームが特別結果となった場合に獲得可能な遊技価値（例えば時短回数）が異なる場合に、第1表示手段（例えば一括表示装置50の特図表示器）において表示される特別結果が同じ特別結果であっても、第2表示手段（例えば表示装置41）において表示される飾り特別結果（例えば「5, 5, 5」又は「7, 7, 7」）が異なるため、獲得可能な遊技価値（例えば時短回数）が異なることを報知できる。従って、遊技の興趣が向上する。

20

【1001】

【第2実施形態】

図75から図80を参照して、第2実施形態について説明する。なお、以下で述べる以外の構成は、第1実施形態と同様でよい。また、以下の実施形態では、第1実施形態と同じ機能を果たす構成には同一の符号を用い、重複する記載を適宜省略して説明する。第2実施形態は、第1実施形態とは異なる遊技性の遊技機に関する。

【1002】

〔スペック例（仕様例）〕

図75は、第2実施形態に係る遊技機10のスペック例1, 2を示す図である。

30

【1003】

第2実施形態のスペック例1では、第1実施形態のスペック例1と異なり遊技機10は第2種機であり、直撃大当りは発生しない。大当りは、小当りで第2特別変動入賞装置39が開放されることによって、第2特別変動入賞装置39内の特定領域86（V入賞口）に遊技球がV入賞する場合にのみ発生する。即ち、大当りは、小当り中のV入賞による大当りだけとなる。打ち方タイプ、特図個数、大入賞口個数、消化順、大入賞口カウント数、賞球数などの他のスペックは、第1実施形態のスペック例1（図69）と同じである。

【1004】

第2実施形態のスペック例2では、入賞（即ち始動記憶）の発生した順に特図変動表示ゲームが実行される入賞順消化であり、大入賞口2（例えば特別変動入賞装置38の大入賞口）がなく、右側の一般入賞口35（上）が追加されているが、その他の点ではスペック例1と同じである。

40

【1005】

特図1変動表示ゲームの小当り確率は $1/136.0$ である。特図2変動表示ゲームの小当り確率は $1/39.0$ であり、特図1変動表示ゲームの小当り確率よりも大きい。従って、特図1変動表示ゲームの小当りよりも特図2変動表示ゲームの小当りの方が発生しやすい。なお、本実施形態では、大当り確率と小当り確率は、確率設定値によらず一定とする。

【1006】

50

直撃大当りが発生しない場合には、大当り判定処理（A 3 6 0 4、A 3 7 0 4）などは、実行されないか、又は、大当り判定するための大当り判定値は大当り乱数値の範囲外に設定して（大当り判定値は実質的に無い）ものとして実行する。なお、第1実施形態と同様に直撃大当りを発生させる構成も可能である。

【1 0 0 7】

〔小当り図柄の振り分け〕

図76は、第2実施形態について、特図変動表示ゲームの停止図柄（停止結果）としての小当り図柄の振り分け（小当り内訳、割合）を示す図である。なお、前述のように直撃大当りは発生しないため、第2実施形態では、第1実施形態（図70）と異なって大当り図柄はない。

10

【1 0 0 8】

小当り図柄の振り分けは、特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームで異なっている。小当り図柄として、10R通常小当りA-Gの図柄である小当り図柄1-7と、2R通常小当りA、Bの図柄である小当り図柄8、9がある。なお、本実施形態では、小当り確率が高くなる確変状態は存在しないため、確変小当りはなく、通常小当りだけとなる。

【1 0 0 9】

特図1変動表示ゲームに関して、小当り図柄1-3が、各々、18.5%、15.0%、0.5%の割合で振り分けられる。小当り図柄8、9が、各々、57.5%、8.5%の割合で振り分けられる。特図1変動表示ゲームの停止図柄に関して、小当り図柄4-7は無い（0%の割合）。

20

【1 0 1 0】

特図2変動表示ゲームに関して、小当り図柄4-7が、各々、7.0%、41.0%、3.0%、49.0%の割合で振り分けられる。特図2変動表示ゲームの停止図柄に関して、小当り図柄1-3、小当り図柄8、9は無い（0%の割合）。特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームとで、発生可能な小当り図柄が異なるため、特図1と特図2のどちらの小当りか見分けやすくなるとともに、遊技制御が簡略化される。

【1 0 1 1】

〔大当り終了後の時短回数（サポ回数）〕

図77は、特図1変動表示ゲーム又は特図2変動表示ゲームが当たった時の遊技状態ごとに、各小当り図柄に対してV入賞大当り終了後の時短回数（時間短縮変動回数2の初期値、第1所定回数）などを示すテーブルである。また、時短が終了するまでの合計変動回数（特図1変動表示ゲームと特図2変動表示ゲームの合計の変動回数）である合計時短回数（時間短縮変動回数1の初期値、第2所定回数）も同時に示す。なお、図77は、大当り終了設定処理（後述の図79）と、小当り図柄の振り分け（図76）から得られるものである。

30

【1 0 1 2】

なお、第2実施形態において、当たった時とは、小当りのファンファーレコマンドの送信時又は送信直前（小当り状態の開始時又は開始直前、停止表示時間の終了の際）である。

【1 0 1 3】

図76のとおり、特図1変動表示ゲームの停止図柄は、小当り図柄4-7にならず、特図2変動表示ゲームの停止図柄は小当り図柄1-3、8、9にならない。

40

【1 0 1 4】

特図1変動表示ゲームに関して、小当り図柄1、3（10R通常小当りA、Cの図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、時短回数は10000回であり合計時短回数は10004回である。同様に、小当り図柄1、3に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合、時短回数は60回であり、合計時短回数は64回である。特図1変動表示ゲームに関して、小当り図柄2（10R通常小当りBの図柄）に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、時短回数は10000回であり合計時短回数は10004回である。同様に、小当り図柄2に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ

50

有の場合、時短回数は0回であり、合計時短回数は0回である。小当り図柄8, 9 (2R通常小当りA, Bの図柄) に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、時短回数は0回であり合計時短回数は0回である。同様に、小当り図柄8, 9に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合、時短回数は10000回であり、合計時短回数は10004回である。

【1015】

特図2変動表示ゲームに関して、小当り図柄4-6 (10R通常小当りD-Fの図柄) に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無と低確サポ有の両方の場合に、時短回数は60回であり、合計時短回数は64回である。小当り図柄7 (10R通常小当りGの図柄) に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、時短回数は60回であり合計時短回数は64回である。同様に、小当り図柄7に対して、当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合、時短回数は0回であり、合計時短回数は0回である。なお、同じ時短回数60回でも、低確サポ無の場合と低確サポ有の場合とで、時短モードの種類 (演出モードの種類) を例えばサポモードAx, Azのように異ならせてよい。

【1016】

図77のカッコ書きにおいて、演出制御装置300によって小当り図柄と当たった時の遊技状態 (時短有無又はサポ有無) に対応して実行される当り演出 (当り状態での演出) も示される。ボーナス演出などの当り演出は、ファンファーレ演出、ラウンド演出、インターバル演出、エンディング演出等の大当り演出を含んでよい。例えば、当り演出として、演出上のチャレンジが成功して当り状態後にサポモードA (時短回数60回の時短状態) に移行することを示唆するチャレンジ成功演出や、演出上のチャレンジが失敗して当り状態後に通常遊技状態に移行することを示唆するチャレンジ失敗演出などが実行される。

【1017】

なお、図77において、時短回数と合計時短回数を60回と64回 (60/64) などに統一して、大当り終了後の演出モードの種類やボーナスの種類だけを当り図柄や低確サポ無/有に応じて異なるようにしてよい。

【1018】

〔遊技状態遷移図 (ゲームフロー) の例〕

図78は、第2実施形態における遊技状態の遷移を例示する遊技状態遷移図 (ゲームフロー) である。遊技状態は、遊技制御装置100の遊技制御によって遷移 (移行) する。遊技状態は、特に、V入賞大当りの発生を契機として遷移するものや、所定のゲーム数 (回転数、変動回数) の経過を契機として遷移するものなどが示されている。図78において、それぞれの遊技状態について、大当り確率 (特図確率) の状態、普電サポート (電サポ) の有無、演出モード、主となる変動表示ゲーム (主変動表示ゲーム、主変動)、推奨される発射態様としての右打ち又は左打ちなどの特徴が示されている。

【1019】

なお、図78において、第1実施形態の図72と同様の箇所は説明を適宜省略し、図72と異なる箇所を主に説明する。

【1020】

第2実施形態において、特定遊技状態Aにおいて、時短回数が10000回 (m1) である場合と、10000回より少ない60回 (m2) である場合の異なる時短状態がある。時短回数=60の時短状態の演出モードを時短モード#1A (サポモードA) とし、時短回数=10000の時短状態の演出モードを時短モード#1B (サポモードB) とする。第1実施形態と異なって、時短モード#1Aの時短回数m2は、時短モード#1Bの時短回数m1よりも小さい。

【1021】

通常遊技状態において、特図1変動表示ゲームが10R通常小当りA-Cになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無 (特1) であることに对应して、図77の時短回数 (10000) で示すとおり、大当り状態の終了後に特定遊技状態Aの時短モード#1Bに移行する。通常遊技状態において、特図1変動表示ゲームが2R通常小当りA, Bになると

、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に通常遊技状態に戻る。

【１０２２】

通常遊技状態において、特図２変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＤ－Ｇになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特２）であることに対応して、図７７の時短回数（６０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ａに遷移する。

【１０２３】

特定遊技状態Ａのうち時短モード＃１Ａ（サポモードＡ）において、特図１変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＡ－Ｃになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（１００００）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ｂに遷移する。時短モード＃１Ａにおいて、特図１変動表示ゲームが２Ｒ通常小当りＡになると、例外的に当たった時の遊技状態が低確サポ有（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（１００００）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ｂに遷移する。時短モード＃１Ａにおいて、特図１変動表示ゲームが２Ｒ通常小当りＢになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に通常遊技状態に遷移する。

【１０２４】

また、時短モード＃１Ａ（サポモードＡ）において、特図２変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＤ－Ｇになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特２）であることに対応して、図７７の時短回数（６０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ａに戻る。

【１０２５】

特定遊技状態Ａのうち時短モード＃１Ｂ（サポモードＢ）において、特図１変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＡ，Ｃになると、当たった時の遊技状態が低確サポ有（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（６０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ａに遷移する。時短モード＃１Ｂにおいて、特図１変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＢになると、当たった時の遊技状態が低確サポ有（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に通常遊技状態に遷移する。時短モード＃１Ｂにおいて、特図１変動表示ゲームが２Ｒ通常小当りＡ，Ｂになると、当たった時の遊技状態が低確サポ有（特１）であることに対応して、図７７の時短回数（１００００）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ｂに戻る。

【１０２６】

また、時短モード＃１Ｂ（サポモードＢ）において、特図２変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＤ－Ｆになると、当たった時の遊技状態が低確サポ有（特２）であることに対応して、図７７の時短回数（６０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃１Ａに遷移する。時短モード＃１Ｂ（サポモードＢ）において、特図２変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＧになると、当たった時の遊技状態が低確サポ有（特２）であることに対応して、図７７の時短回数（０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に通常遊技状態に遷移する。

【１０２７】

このように、小当り結果（特別結果）の種類に対応して、時短モード＃１Ａ（第１特定遊技状態）と時短モード＃１Ｂ（第２特定遊技状態）のいずれを発生させるか選択可能であるため、遊技のバリエーションが富み、遊技の興趣が向上する。

【１０２８】

移行状態（残保留消化モード）において、特図２変動表示ゲームが１０Ｒ通常小当りＤ－Ｇになると、当たった時の遊技状態が低確サポ無（特２）であることに対応し、図７１の時短回数（６０）で示すとおり、大当たり状態の終了後に特定遊技状態Ａの時短モード＃

10

20

30

40

50

1 A (サポモード A) に遷移する。なお、図 7 2 では、残保留消化モードで特図 1 変動表示ゲームが当たる場合について稀であるため記載されていない。

【1029】

特定遊技状態 B, C において、当たった時の遊技状態と小当り図柄に対応して、時短モード # 1 A (サポモード A) からの遷移と同じ遷移が実行される。

【1030】

なお、第 2 実施形態において、第 1 実施形態と異なって、特図 1 小当りである場合にも、時短終了判定処理 (図 3 1) で時短が終了するようにし、特図 1 小当りと特図 2 小当りの両方で小当りによる大入賞口開放前に時短 (普電サポート) が終了する。このため、例えば、時短終了判定処理 (図 3 1) において、ステップ A 4 8 0 3 は特図 1 小当り又は特図 2 小当りであるか否かを判定するようにし、さらにステップ A 4 8 0 2 とステップ A 4 8 0 3 の順番を入れ替える。ただし、特図 1 小当りの図柄が 2 R 通常小当り A (小当り図柄 8) の場合だけ、時短終了判定処理で時短が終了しないようにし、普電サポートが継続するようにする。このため、時短モード # 1 A において、特図 1 変動表示ゲームが 2 R 通常小当り A になると、例外として当たった時の遊技状態が低確サポ有 (特 1) となる。

【1031】

また、第 2 実施形態において、第 1 実施形態と異なって、特図 1 小当りでも特図 2 小当りと同じく小当り動作終了値 (3 8) を小当り動作初期値 (0) よりも大きくし、1 回の小当りによって大入賞口が複数回開放する開放パターンとし V 入賞を発生し易くする。

【1032】

ただし、特図 1 小当りの図柄が 2 R 通常小当り A (小当り図柄 8) の場合に、上述のように時短が終了せず普電サポートが継続するため、特定領域 8 6 (V 入賞口) が開放されるタイミングで、特別変動入賞装置 3 9 (及び V 入賞口) の上方 (上流側) に位置する普通変動入賞装置 3 7 に遊技球が入球することによって (図 2)、V 入賞が発生し難くなる (非 V)。即ち、2 R 通常小当り A は、実質的に 1 ラウンドになることが多い (第 1 実施形態と同じく V 入賞大当りが 2 ラウンド目以降となるため)。一方、2 R 通常小当り A 以外の小当りでは、小当りによる大入賞口開放 (特別変動入賞装置 3 9 の開放) までに時短 (普電サポート) が終了するため、V 入賞が発生し易い。なお、2 R 通常小当り A でのみ、他の小当り図柄の場合よりも小当り開放時間を短くして、V 入賞を発生し難くしてもよい。

【1033】

特定遊技状態 A において、2 R 通常小当り A の小当り状態の後には、時短回数 1 0 0 0 0 回の時短状態 (時短モード # 1 B、サポモード B) となるが、この時短状態中に特図 1 変動表示ゲームが 2 R 通常小当り A となっても時短 (普電サポート) が終了しない。このように、小当り結果 (特別結果) の種類に応じて、小当り状態 (特別遊技状態) の終了後に、時短回数 1 0 0 0 0 回の時短状態 (時短モード # 1 B、サポモード B) を発生可能であるため、遊技の興趣が向上する。そして、次の 2 R 通常小当り A での小当りは、時短最終回 (1 0 0 0 0 回) 以外で、低確サポ有 (時短状態中) での当りと扱われ、時短最終回 (1 0 0 0 0 回) でのみ低確サポ無での当りと扱われる。こうして、基本的には右打ちすることが推奨される特定遊技状態 A 中にも、始動入賞口 3 6 に入賞させ特図 1 変動表示ゲームを変動させれば、図 7 6 のように特図 1 小当りとして一番出現確率が高い 2 R 通常小当り A (非 V) で n 回繰り返し当たった分の出球を得ることができる。これによって、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。

【1034】

〔大当り終了設定処理〕

図 7 9 は、第 2 実施形態に係る大当り終了設定処理の手順を示すフローチャートである。なお、図 7 9 において、第 1 実施形態の図 4 8 と同じ内容の処理には同じステップ番号を付して説明を省略する。また、図 7 9 において、図 4 8 のステップ A 7 0 0 8 と A 7 0 0 9 は削除され、ステップ A 7 0 0 2, A 7 0 1 5, A 7 0 2 0 は、各々 A 7 0 0 2 a, A 7 0 1 5 a, A 7 0 2 0 a に置き換えられている。

【1035】

第2実施形態において、図柄種別1は、2R通常小当りA，Bと10R通常小当りB，Gの小当り図柄である。図柄種別2は、10R通常小当りD－Fの小当り図柄である。図柄種別3は、10R通常小当りA，Cの小当り図柄である。

【1036】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別1である場合に（A7001の結果が「Y」）、小当り図柄（2R通常小当りA，Bと10R通常小当りB，Gのいずれか）及び当たった時の遊技状態（時短有無、サポ有無）に応じて、処理を分岐する（A7002a）。特図ゲームモードフラグ退避領域の情報に基づいて、当たった時の遊技状態が判定される。第2実施形態において、当たった時とは、小当りのファンファーレコマンドの送信時又は送信直前（小当り状態の開始時又は開始直前、小当りのファンファーレの開始時又は開始直前、停止表示時間の終了の際）である。

10

【1037】

具体的には、図77のように、小当り図柄2，7（10R通常小当りB，G）で当たった時の遊技状態が低確サポ有（時短状態中）の場合、又は、小当り図柄8，9（2R通常小当りA，B）で当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、ステップA7003－A7006の処理が実行され、大当り終了後の遊技状態は、通常遊技状態（通常モード）となる。

【1038】

小当り図柄2（10R通常小当りB）で当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、又は、小当り図柄8，9（2R通常小当りA，B）で当たった時の遊技状態が低確サポ有の場合、ステップA7011－A7015aの処理が実行される（分岐B）。ステップA7015aでは、時間短縮変動回数1領域に10004をセーブし、時間短縮変動回数2領域に10000をセーブする。これによって、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が10004回であり、時間短縮変動回数2の初期値（時短回数）が10000回である時短状態（時短モード#1B（サポモードB））となる。

20

【1039】

小当り図柄7（10R通常小当りG）で当たった時の遊技状態が低確サポ無の場合、ステップA7016－A7020aの処理が実行される（分岐A）。ステップA7020aでは、時間短縮変動回数1領域に64をセーブし、時間短縮変動回数2領域に60をセーブする。これによって、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が64回であり、時間短縮変動回数2の初期値（時短回数）が60回である時短状態（時短モード#1A（サポモードA））となる。

30

【1040】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別2（小当り図柄4－6、10R通常小当りD－F）である場合に（A7007の結果が「Y」）、ステップA7016－A7020aの処理が実行され、時間短縮変動回数1領域に64をセーブし、時間短縮変動回数2領域に60をセーブする。

【1041】

遊技制御装置100は、停止図柄パターンが図柄種別3である場合に（A7007の結果が「N」）、特図ゲームモードフラグ退避領域の情報に基づいて、当たった時の遊技状態は時短あり中であるか否かを判定する（A7010）。当たった時に時短なし中である場合に（A7010の結果が「N」）、ステップA7011以降の処理を実行し、当たった時に時短あり中である場合に（A7010の結果が「Y」）、ステップA7016以降の処理を実行する。

40

【1042】

これによって、図柄種別3（小当り図柄1，3、10R通常小当りA，C）の停止図柄パターンで当たった時に時短なし中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が10004回であり、時間短縮変動回数2の初期

50

値（時短回数）が10000回である時短状態（時短モード#1B（サポモードB））となる。図柄種別3の停止図柄パターンで当たった時に時短あり中である場合に、大当り終了後の遊技状態は、時間短縮変動回数1の初期値（合計時短回数）が64回であり、時間短縮変動回数2の初期値（時短回数）が60回である時短状態（時短モード#1A（サポモードA））となる。

【1043】

〔タイムチャート（時短の有無）〕

図80は、第2実施形態において時短の有無（即ち普電サポートの有無）の変化の様子を示すタイムチャートである。図80は、小当り（+V入賞大当り）で時短の有無がどのように変化するかを示す。

【1044】

サポモードB以外の時短モードの場合に、所定の停止図柄（停止結果）を除いて、小当り結果となる特図変動表示ゲームの変動（小当り変動）が終了（停止）した時又はそれ以降に、時短の終了が設定され、普電サポート有り（サポ有）の状態から普電サポート無し（サポ無）の状態に変化する。サポモードB以外の時短モードは、特にサポモードA（時短モード#1A）である。本実施形態において、所定の停止図柄は、2R通常小当りAの図柄（小当り図柄8）であるが、他の図柄でもよい。

【1045】

なお、第2実施形態において、サポモードB以外の時短モードの場合に小当り変動が終了した以降に時短状態の終了が設定されるよう、特図変動中処理（図30）のステップの順番を入れ替える。具体的には、時短の終了を設定するステップA4705、A4706の処理は、特図表示器での変動停止に係る停止フラグを設定するステップA4712、A4713の後に所定の遅延時間を設けて実行して、小当り変動の終了（停止）から遅れて時短状態の終了が設定されるようにしてよい。例えば、所定の遅延時間が経過するまでループ（待機）する処理を設けることによって、所定の遅延時間を設けられる。

【1046】

一方、サポモードB（時短モード#1B）の場合に、小当りのファンファーレコマンドの送信時又はそれ以降に、時短の終了が設定され、普電サポート有り（サポ有）の状態から普電サポート無し（サポ無）の状態に変化する。

【1047】

なお、第2実施形態において、サポモードBの場合に小当りのファンファーレコマンドの送信以降に時短状態の終了が設定されるよう、特図表示中処理（図34B）のステップの順番を入れ替える。具体的には、時短の終了を設定するステップA5136、A5137の処理は、小当りのファンファーレコマンドの送信を実行するステップA5140、A5141の処理の後に所定の遅延時間を設けて実行して、小当りのファンファーレコマンドの送信から遅れて時短状態の終了が設定されるようにしてよい。

【1048】

このように、サポモードB以外の時短モード（第1特定遊技状態）における特図変動表示ゲームが小当り結果（特別結果）となる場合に、第1タイミングで時短状態を終了可能である。また、サポモードB（第2特定遊技状態）における特図変動表示ゲームが小当り結果（特別結果）となる場合に、第2タイミングで時短状態を終了可能である。ここで、第1タイミングは、小当り変動終了時（小当り結果が導出されたとき）から小当り状態（特別遊技状態）が開始するまでのタイミングである。第2タイミングは、第1タイミングよりも遅く、小当り状態（特別遊技状態）が開始してから特別変動入賞装置39が開状態に変換するまで（小当り開放となるまで）のタイミングである。なお、小当りのファンファーレコマンドの送信時が、小当り状態の開始時となる。第1タイミングと第2タイミングは、小当り結果が導出されたタイミング（小当り変動終了時）を起点として、各々、第1の所定時間と第2の所定時間が経過したタイミングとなる。本実施形態において、第2の所定時間は第1の所定時間よりも長く、第2タイミングは第1タイミングよりも遅い。しかし、これに限られず、第2の所定時間は第1の所定時間よりも短く、第2タイミング

10

20

30

40

50

を第1タイミングよりも早くする構成も可能である。

【1049】

なお、時短の終了する第1タイミングと第2タイミングは、小当り状態において特別変動入賞装置39が開状態に変換する前であるため、意図的にV入賞を発生し難くする2R通常小当りA（非V）の小当り結果の場合を除いて、特別変動入賞装置39の開放中に特別変動入賞装置39の上方にある普通変動入賞装置37の開放（普電開放）が避けられ、普通変動入賞装置37に入球せずにV入賞が発生し易い。

【1050】

なお、図80において、サポ有からサポ無に変化して時短の終了する第1タイミングと第2タイミングの最も早い場合と最も遅い場合が点線で示され、最も早い場合と最も遅い場合の中間のタイミングが実線で示されている。第1タイミングと第2タイミングの最も早い場合は、第1実施形態の図49Aの時短の終了するタイミングに一致する。

【1051】

以上のように、当りの直前に滞在していた時短モード（即ち小当りの変動表示中の時短モード）がサポモードBであるかサポモードB以外であるかに応じて、第1タイミングと第2タイミングのように時短の終了タイミングが異なることによって、同じ当り図柄（例えば10R通常小当りA-C, Gの図柄）で当たった場合でも、当り状態終了後に移行する時短モード（時短状態）を異ならせることができる（図77と図78も参照）。従って、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりして、遊技の興趣が向上する。なお、第1タイミングと第2タイミングによるこのような時短の終了タイミングの違いを演出制御装置300が演出の設定などにも利用して、遊技の興趣を向上させることもできる。

【1052】

また、サポモードB以外の時短モード（第1特定遊技状態）とサポモードB（第2特定遊技状態）とで、特定遊技状態の終了タイミングが異なり、V入賞による大当り状態の後に持ち越されて消化される第2始動記憶（特図2始動記憶）の数も異なってくるため、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興趣が向上できる。

【1053】

特に、第1タイミングは小当り状態が開始するまでのタイミングにし、第2タイミングは小当り状態が開始してからのタイミングにすることができるため、小当り状態の開始時（小当りのファンファーレコマンドの送信時）に時短（普電サポート）の有無を判定して、判定結果に応じて、当り状態（小当り状態或いは小当りに続くV入賞大当り状態）の終了後に移行する時短モード（時短状態）を選択でき、簡便である。

【1054】

〔第2実施形態の作用・効果〕

第2実施形態に係る遊技機10は、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）の進行を制御可能な遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）を備え、ゲームの結果が特別結果となる場合に遊技者に有利な特別遊技状態（例えば小当り状態）を発生可能である。遊技機10において、特別遊技状態において開状態と閉状態とに変換可能な変動入賞装置（例えば特別変動入賞装置）を備える。遊技機10において、第1特定遊技状態（例えば時短回数60回のサポモードAの状態）と第2特定遊技状態（例えば時短回数10000回のサポモードBの状態）と、を発生可能である。遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）は、第1特定遊技状態におけるゲームが特別結果となる場合に、第1タイミングで第1特定遊技状態を終了可能であり、第2特定遊技状態におけるゲームが特別結果となる場合に、第2タイミングで第2特定遊技状態を終了可能である。第1タイミングは、ゲームが特別結果となるときから特別遊技状態が開始するまでのタイミング（例えば小当り変動終了から小当りファンファーレコマンド送信までのタイミング）であり、第2タイミングは、特別遊技状態が開始してから変動入賞装置が開状態に変換するまでのタイミング（例えば小当りファンファーレコマンド送信から小当り開放までのタイミング）である。例えば、第1特定遊技状態と第2特定遊技状態とでは、継続可能なゲーム回数が異なるが、大当り確

率（特図確率）が異なる（時短状態と確変状態で異なる）など他の特徴に関して異なってもよい。

【1055】

このような遊技機10では、第1特定遊技状態と第2特定遊技状態とで異なる特定遊技状態の終了タイミングを、特別遊技状態の後に移行する遊技状態の選択に使用するなどして、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興趣が向上できる。例えば、第1特定遊技状態と第2特定遊技状態におけるゲームの特別結果（例えば小当り図柄）が同じ種類であっても、特別遊技状態の後の遊技状態（例えばサポモードA、B）を、第1特定遊技状態と第2特定遊技状態とで異なる特定遊技状態の終了タイミングに基づいて選択することができ、ゲーム性の幅が広がったり遊技のバリエーションが富んだりする。特に、第1特定遊技状態を終了する第1タイミングと、第2特定遊技状態を終了する第2タイミングが、各々、特別遊技状態が開始する時点（例えば小当りファンファーレコマンド送信時）の前と後になり得ることから、特別遊技状態が開始する時点で特定遊技状態（例えば時短状態、普電サポート状態）の有無に基づいて、特別遊技状態の後に移行する遊技状態を選択し易くできる。なお、第1特定遊技状態と第2特定遊技状態とで、特定遊技状態の終了タイミングが異なり、特別遊技状態（例えば小当り状態又はV入賞による大当り状態）の後に持ち越されて消化される第2始動記憶（特図2始動記憶）の数も異なってくるため、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興趣が向上できる。

【1056】

第2実施形態において、遊技制御手段は、特別結果（例えば小当り図柄）の種類に対応して第1特定遊技状態（例えば時短回数60回のサポモードAの状態）と第2特定遊技状態（例えば時短回数10000回のサポモードBの状態）を発生可能である。従って、さらにゲーム性の幅を広げて、遊技の興趣が向上できる。

【1057】

第2実施形態において、遊技制御手段は、特別結果の種類に対応して（例えば2R通常小当りAの場合）、特別遊技状態の終了後に、第2特定遊技状態を発生可能である。従って、特別結果の種類に応じて第2特定遊技状態（例えば時短回数10000回のサポモードBの状態）を繰り返し発生可能となり、さらに遊技の興趣が向上する。

【1058】

第2実施形態において、遊技機10は、特別遊技状態（例えば小当り状態又は大当り状態）と異なる特定遊技状態（例えば時短状態、普電サポート状態）を発生可能である。遊技機10は、特別遊技状態において開状態と閉状態とに変換可能な第1変動入賞装置（例えば特別変動入賞装置）と、特定遊技状態において開状態と閉状態とに変換可能な第2変動入賞装置（例えば普通変動入賞装置）と、を備える。第2変動入賞装置は、第1変動入賞装置よりも、遊技球の流下に関する上流側に配置される。遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）は、特定遊技状態におけるゲームが特別結果となる場合に、所定タイミング（例えば第1タイミング又は第2タイミング）で特定遊技状態を終了可能であり、所定タイミングは、ゲームが特別結果となるときから第1変動入賞装置（例えば特別変動入賞装置）が開状態に変換するまでのタイミングである。このため、第1変動入賞装置（例えば特別変動入賞装置）の開放中に第1変動入賞装置の上流側にある第2変動入賞装置（例えば普通変動入賞装置）が開放することが避けられる。従って、特別遊技状態において、第2変動入賞装置に入球することがなく、第1変動入賞装置に入球し易いため、遊技者の利益（例えばV入賞の発生や第1変動入賞装置への入賞による賞球）が損なわれることを避けられる。

【1059】

第2実施形態に係る遊技機10は、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）の進行を制御可能な遊技制御手段（例えば遊技制御装置100）を備え、ゲームの結果に応じて遊技者に有利な特別遊技状態を発生可能である。さらに、遊技機10は、第1特定遊技状態（例えば時短回数60回のサポモードAの状態）と第2特定遊技状態（例えば時短回数10000

0 回のサポモード B の状態) と、を発生可能である。遊技制御手段 (例えば遊技制御装置 100) は、第 1 特定遊技状態におけるゲームが当該第 1 特定遊技状態を終了する条件 (例えば小当り結果の導出又は時短回数 60 回のゲーム回数への到達) を満たした場合に、当該ゲームの結果を導出したタイミングを基点とした第 1 タイミングで当該第 1 特定遊技状態を終了可能である。第 2 特定遊技状態におけるゲームが当該第 2 特定遊技状態を終了する条件 (例えば小当り結果の導出又は時短回数 10000 回のゲーム回数への到達) を満たした場合に、当該ゲームの結果を導出したタイミングを基点とし第 1 タイミングよりも遅い第 2 タイミングで当該第 2 特定遊技状態を終了可能である。

【1060】

このような遊技機 10 では、第 1 特定遊技状態と第 2 特定遊技状態とで異なる終了タイミングを、特別遊技状態の後に移行する遊技状態の選択に使用するなどして、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興味が向上できる。また、第 1 特定遊技状態と第 2 特定遊技状態とで、特定遊技状態の終了タイミングが異なり、特定遊技状態 (例えば時短状態) 又は特別遊技状態 (例えば小当り状態又は V 入賞による大当り状態) の後に持ち越されて消化される第 2 始動記憶 (特図 2 始動記憶、残保留) の数も異なってくるため、ゲーム性の幅を広げたり遊技のバリエーションを豊富にして、遊技の興味が向上できる。例えば、第 1 タイミングは、ゲーム結果の導出タイミング (ゲーム終了時、変動終了時) 又はゲーム結果の導出タイミングから若干遅れたタイミングであり、第 2 タイミングは、ゲーム結果の表示終了時 (停止表示時間の終了時) 又はゲーム結果の表示終了時から若干遅れたタイミングである。

【1061】

〔第 3 実施形態〕

図 81 から図 83 を参照して、第 3 実施形態について説明する。なお、以下で述べる以外の構成は、第 1 実施形態又は第 2 実施形態と同様でよい。また、以下の実施形態では、第 1 実施形態又は第 2 実施形態と同じ機能を果たす構成には同一の符号を用い、重複する記載を適宜省略して説明する。

【1062】

第 3 実施形態は、当り状態の演出 (例えば大当り演出) などに関する。なお、演出制御装置 300 は、当り状態の演出を当り系コマンド処理 (図 67) において設定可能である。

【1063】

〔画面遷移の例〕

図 81 A から図 81 D は、表示装置 41 の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である。図 81 A から図 81 D において、図 74 A から図 74 C と同じ内容の説明は適宜省略する。

【1064】

図 81 A の (ア) は、特図 1 変動表示ゲームが実行中 (スクロール変動中「↓↓↓」) であり、図 74 A の (あ) と同様である。ただし、モード表示 679 は、演出モードとして、通常モード (通常遊技状態) に対応する演出上のモード (ステージ) である「ノーマルモード」 (「ノーマルステージ」でも可) と表示されている。なお、通常モードに対応する演出上のモード (ステージ) は、デフォルトのノーマルモード (ノーマルステージ) の他に、演出を簡素するシンプルモード (シンプルステージ) やプレミア (希少性の高い) 演出が実行され易くなるプレミアモード (プレミアステージ) などがある。これら演出上のモードは、遊技者の十字キースイッチ 450 や演出ボタン 25 の操作によって選択可能である。

【1065】

また、(ア) では、ノーマルモードにおいて、通常遊技状態 (通常モード) にて表示可能な画面である通常画面として、虎を形態的に模したキャラクタ 508 を含む背景画像が通常背景として表示されている。背景画像は、演出上のモード (ステージ) に対応して変更されてよい。なお、本実施形態において、通常遊技状態は、特定遊技状態より遊技者に

不利な遊技状態の一例として示す。

【1066】

次に、(イ)では、リーチ後の特図1変動表示ゲームの終盤で、各々数字「2」に対応する全ての大図柄(左図柄611a、右図柄611b、及び、中図柄611c)が、大きな変動表示領域610において「2, 2, 2」の数字が揃った仮停止の状態となって、細かく揺れるような揺れ変動を行っている。なお、表示画面右側の小さな変動表示領域615では、(ア)と同じ態様で小図柄が変動している。

【1067】

次に、(ウ)では、×形状のエフェクトによって画面が切られるように見える斬撃演出が実行される。ここでの斬撃演出は、スクロール変動を再び開始することを示唆する。

【1068】

続いて、(エ)では、(ア)と略同じ表示画面となり、全ての大図柄が画面を縦方向に上から下へと横切るように移動するスクロール変動をおこなっている。ここでのスクロール変動は、数字が揃った全ての大図柄が横方向(左右方向)に並んだ状態で全体的に縦方向に移動して変動表示されるいわゆる全回転リーチであってもよい。(ウ)と(エ)の演出は、まるで停止図柄が再度抽選されるかの印象を遊技者に与えるため、再抽選演出と呼ばれてもよい。

【1069】

次に、(オ)では、特図1変動表示ゲームが終了して、当りの飾り停止図柄(当り図柄)として「7, 7, 7」が表示される。(オ)は、キャラクタ508を含む背景画像と、モード表示679と、変動回数表示677以外は、図74Aの(い)と同様である。

【1070】

なお、本実施形態において、(オ)の当り図柄「7, 7, 7」は10ラウンド(10R)の当りを付与する当り図柄(10R通常大当り又は10R通常小当り)であり、(イ)の当り図柄「2, 2, 2」は10ラウンド(10R)より少ないラウンド数(ラウンド数上限値)の当りを付与する当り図柄(例えば3R通常大当り又は3R通常小当り)である。このため、(ウ)の斬撃演出は、遊技の進行や遊技状態が遊技者に有利な方向に(ここでは大きなラウンド数の当りに)進むことを示唆可能である。

【1071】

次に、図81Bの(カ)では、複数の星型のキャラクタ507からなる模様と、文字「当り!!」を表示することによって、大当り状態の開始の際の大当りファンファーレ演出が行われている。なお、小当りの場合には、大当りファンファーレ演出に代えて、小当りファンファーレ演出が図74Bの(き)と同様に実行されてもよい。また、ここで右打ちするよう指示する右打ち指示表示502が表示されている。右打ち指示表示502は、(カ)以降も大当り状態が終了するまで(エンディングが終了するまで)、継続的に表示される。

【1072】

続いて、(キ)では、大当りのラウンド演出が1回目から9回目のラウンドで実行される。なお、小当りの場合には、図74Bの(く)から(こ)と同様に、小当り中のV入賞によってV入賞大当りのラウンド演出が実行されてもよい。

【1073】

次に、(ク)では、10回目のラウンドにおいて、キャラクタ508が戦車画像514とともに表示され、キャラクタ508が戦車に乗ってUFO画像516としての複数のUFO(飛行物体)を迎撃するような迎撃演出が実行される。迎撃演出は、全てのUFOの迎撃に成功したことで大当り状態後に時短状態(RUSH状態(確変状態等でも可))に移行することを示唆する。迎撃に成功したことで残り0機などと文字表示される成功演出が実行され、表示画面は後述の(タ)のRUSH獲得演出に遷移する。

【1074】

その後、(ケ)では、UFOの迎撃に失敗したことで、「迎撃失敗(残り3機)」などと文字表示されて失敗演出が実行される。

10

20

30

40

50

【1075】

続いて、(コ)では、ラウンド演出の最終段階において、表示画面全体で背景画像（背景動画）として失敗ムービーが表示されるとともに、10ラウンドの大当たり或いはその大当たり演出に対応して、「虎ボーナス」という文字表示518（文字画像）が表示される。さらに、10ラウンドで獲得した出玉数（獲得球数）が、出玉数表示505によって例えば1480と表示されている。(コ)以降、(シ)まで、失敗ムービーと文字表示518が継続される。なお、(コ)は、ラウンド演出の最終段階ではなく、エンディング演出に含めてよい。

【1076】

次に、(サ)では、エンディング演出が開始し、失敗演出に対応して表示画面が暗転して暗くされる。例えば、ここで、背景画像等の画像の明度が減少されるか、表示装置41の輝度が減少される。なお、本実施形態において、エンディング演出は、特別遊技状態の終了を示唆又は報知可能な演出の一例である。

10

【1077】

続いて、(シ)では、(サ)の状態から、遊技者に対して、プリペイドカードの取り忘れやのめり込みを注意するための注意喚起表示543が表示される。これにより、遊技者は、大当たり状態が終了すると認識する。注意喚起表示543は、所定期間（例えば2秒）だけ表示される。

【1078】

次に、図81Cの(ス)では、遊技機10の機種に特有のキャラクタ508とともに、機種名を示す機種名表示519「P虎虎虎」が表示される。これにより、遊技者は、大当たり状態が終了すると認識する。

20

【1079】

(ス)の後で、大当たり状態の終了後に時短状態（RUSH状態、特定遊技状態）に突入する場合と通常遊技状態に突入する場合とで演出が分岐する。なお、時短状態に代えて確変状態などの他の特定遊技状態に突入してもよい。

【1080】

(セ)のように、大当たり状態の終了後に時短状態に突入する場合に、後で時短状態に突入すること（所定の遊技の進行）を示唆する復活演出（所定報知演出）が開始する。なお、失敗演出が実行された場合でも、所定の確率で、大当たり状態の終了後に時短状態（RUSH状態）に突入し、その場合に失敗から復活するような復活演出が実行できる。(セ)において、復活演出の一環として、まず、フェイク演出（ガセ演出）が実行される。

30

【1081】

(セ)のフェイク演出では、通常遊技状態（通常モード）に移行するかのように遊技者に誤認させるフェイク画面（ガセ画面、見せかけの通常画面）として、通常遊技状態（ここでは通常モードのうちのノーマルモード）において表示可能な通常画面と同じ又は類似の画面が一時的に表示される。即ち、通常画面に含まれる画像と同じ画像を含むような画面が一時的に表示される。ここでは、通常遊技状態が終了する直前で大当たりの停止図柄表示中の(オ)と同様の画面が表示されている。

【1082】

即ち、(セ)において、キャラクタ508を含む背景画像、特図1保留数表示部650の特図1保留数、特図2保留数表示部660の特図2保留数、第1所定画像675、第2所定画像676、変動回数表示677、モード表示679、第1保留表示部630aの保留表示682aが表示される。また、大きな変動表示領域610の大図柄と小さな変動表示領域615の小図柄が「7, 7, 7」のように表示されている。大図柄は、(イ)の仮停止状態と同じく揺れ変動を行っているが、(オ)の図柄停止時と同じく完全に停止してもよい。

40

【1083】

ただし、実際には未だ大当たり状態が継続しているため、(オ)と異なって、右打ち指示表示502が表示されている。変動回数表示677は、大当たりによってリセットされた特

50

図変動表示ゲームの実行回数（ゲーム数）である「0 G」を示す。なお、通常遊技状態が終了する直前の（オ）で第2保留表示部630bに第2始動記憶が表示されている場合には、この第2始動記憶を（セ）でも表示してもよい。

【1084】

一方、（セ'）のように、大当たり状態の終了後に時短状態に突入せず通常遊技状態に移行する場合に、（セ）と同様であるが、実際に通常遊技状態（通常モード）に移行することを遊技者に認識させるべく、通常遊技状態（ここでは通常モードのうちのノーマルモード）において表示可能な通常画面と同じ又は類似の画面が表示される。即ち、フェイク画面（ガセ画面）としてでなく、通常画面に含まれる画像と同じ画像を含むような画面が表示される。ここでは、通常遊技状態が終了する直前で大当たりの停止図柄表示中の（オ）と同様の画面が表示されている。

10

【1085】

図81Cの（セ'）と（セ）の画面は同一であり同じタイミングで表示され、遊技者は、（セ）がフェイク演出であるか否か見分けられないため、（セ）の後に通常遊技状態（通常モード）にならないと驚きを与えることができ遊技の興味が向上する。なお、図82で後述するように、（セ'）と（セ）の画面が一部で異なってよく、この場合には、（セ）がフェイク演出であるか否かを見分けることが可能となり、遊技者は（セ'）又は（セ）における画面を注視するようになり、遊技の興味が向上できる。一例として、大図柄は、（セ'）では仮停止状態と同じく揺れ変動を行っているが、（セ）では揺れ変動を行わず完全に停止してもよい。

20

【1086】

（ソ）では、（セ）の後に、復活演出の一環として、（ウ）と同じ又は類似の斬撃演出が実行され、×形状のエフェクトによって画面が切られるように遊技者に認識させる。そして、（セ）のフェイク画面（通常画面と同じ又は類似の画面）は非表示になる。（ソ）を経由して大当たり状態の終了後に時短状態に移行するので、斬撃演出は、（ウ）と同様に、遊技者に遊技の進行や遊技状態が遊技者に有利な方向に（（ソ）では時短状態に）進むことを示唆可能である。

【1087】

また、（ソ）（セ）では、通常遊技状態（通常モード）で基本的に表示されない右打ち指示表示502が表示されているため、遊技者は通常遊技状態に移行しない可能性があること即ち時短状態（特定遊技状態）に移行する可能性があることを、通常画面との違和感によって認識できる。後述の（タ）で「RUSH獲得」の文字表示524が表示される前に、時短状態に移行する可能性があることを認識できるため、遊技者は安心感や優越感を抱くことができる。

30

【1088】

一方、（ソ'）では、（セ'）の後に、大当たりのエンディング演出が終了して、実際に通常遊技状態（通常モード）に移行する。ここで、左打ちするよう指示する左打ち指示表示522が大きく表示される。なお、左打ち指示表示522は表示されなくてもよい。（ア）と同様に、通常画面として、キャラクタ508を含む背景画像（通常背景）が表示され、特図1変動表示ゲームが実行中（スクロール変動中「↓↓↓」）である。

40

【1089】

また、（ソ'）では、保留表示が左側へ移動する保留シフトによって、変動中保留表示682bが保留消化領域640に表示される。特図1保留数表示部650と特図2保留数表示部660には、それぞれ、特図1保留数を示す数字「2」と特図2保留数を示す数字「0」が表示されている。第1保留表示部630aにおいて、第1始動記憶に対応する保留表示682aが2つ表示される。変動回数表示677は、大当たり終了後の特図変動表示ゲームの実行回数が1であることを「1 G」のように示す。

【1090】

図81Dの（タ）では、復活演出の一環として、（ソ）の後で、「RUSH獲得」の文字表示524（文字画像）が表示されるRUSH獲得演出が実行され、これによって大当

50

り状態の終了後に時短状態（RUSH状態）に移行することが報知される。（シ）の注意喚起表示543と（ス）の機種名表示519によってRUSH獲得演出がなく遊技が終了すると思っていた遊技者は、（ソ）の斬撃演出と（タ）の「RUSH獲得」の文字表示524によって驚くことになり、遊技の興味が向上できる。

【1091】

続いて、（チ）では、復活演出の一環として、背景画像（背景動画）としてRUSH獲得ムービーが表示され、大当たり状態の終了後に時短状態（RUSH状態）に移行することがさらに報知される。なお、（チ）を復活演出に含めなくてもよい。また、（シ）と同じく、プリペイドカードの取り忘れやのめり込みを注意するための注意喚起表示543が表示され、遊技者は大当たり状態が終了すると認識する。（セ）のフェイク演出後の（チ）の注意喚起表示543は、フェイク演出前の（シ）の注意喚起表示543と同じ所定期間（例えば2秒）だけ表示される。しかし、注意喚起表示543の背面側のレイヤに表示されるムービー（背景画像、背景動画）は、（チ）と（シ）で異なるため、遊技者はフェイク演出前（復活演出前）であるかフェイク演出後（復活演出中又は復活演出後）であるかを認識し易くなる。

【1092】

以上の（セ）から（チ）までの復活演出中（特に（タ）において）に、盤装飾装置46又は枠装飾装置18の演出用LEDを所定の態様で発光させたり、スピーカから所定の効果音や所定のセリフ（音声）を出力して、大当たり状態の終了後に通常遊技状態でなく時短状態（RUSH状態）に移行することを間接的に報知してよい。これによって、演出が派手になって遊技者は驚くことになり、さらに遊技の興趣を向上できる。

【1093】

次に、（ツ）では、大当たりのエンディング演出の終了後、即ち大当たり終了後に、時短状態（RUSH状態）となって演出モードがサポモードA（時短モード#1A）になっている。モード表示679がサポモードAを示す「モードA」と表示されている。なお、サポモードB（時短モード#1B）に移行する場合には、モード表示679がサポモードBを示す「モードB」と表示されてよい。時短状態であるため、大当たり状態に続いて、右打ち指示表示502が表示されている。また、時短状態（サポモードA）に対応して、木の画像526を含む背景画像（RUSH背景）が表示されている。

【1094】

（ツ）では、特図2変動表示ゲームが実行され、画面中央の大きな変動表示領域610において、飾り特別図柄（大図柄）として、左図柄611a、右図柄611b、及び、中図柄611cが変動表示されている。飾り特別図柄（大図柄）は、（イ）（オ）のような通常遊技状態に対応する図柄と異なって、例えばキャラクタと数字からなる図柄など時短状態に対応する図柄が表示される。また、飾り縮小図柄（小図柄）の変動表示が、画面右側の小さな変動表示領域615で実行される。なお、本実施形態では、特図2保留優先消化（特図2優先変動）であり、特図1変動表示ゲームの始動記憶（第1始動記憶）があっても、第2始動記憶があれば特図2変動表示ゲームが実行される。

【1095】

変動回数表示677は、大当たり終了後の特図変動表示ゲームの実行回数が1であることを「1G」のように示す。第1所定画像675は特図1変動表示ゲームが停止中であることを示す記号「×」になっており、第2所定画像676は特図2変動表示ゲームが実行中（変動中）であることを示す記号「○」となっている。保留消化領域640では、実行中の特図2変動表示ゲームに係る変動中保留（この特図変動表示ゲームの実行権利となっていた始動記憶）を示す変動中保留表示683bが、背景画像の木に咲いた花を模した表示態様で表示されている。また、実行中の特図2変動表示ゲームの大当たり結果となる期待度が高く、変動中保留表示683bの表示態様として色が通常色（例えば白）から別な色（例えば緑）に変化する保留変化予告が実行されている。

【1096】

特図1保留数表示部650と特図2保留数表示部660には、それぞれ、特図1保留数

を示す数字「3」と特図2保留数を示す数字「1」が表示されている。第1始動記憶を第1保留表示として表示する第1保留表示部630aにおいて、保留表示682a（第1保留表示）が3つ表示されている。なお、時短状態（RUSH状態）では、保留表示682a（第1保留表示）、保留表示682b（第2保留表示）、変動中保留表示683bのいずれか又は全てを非表示にしてもよい。第2始動記憶を第2保留表示として表示する第2保留表示部630bにおいて、保留表示683a（第2保留表示）が1つ表示されている。保留表示683aは、背景画像の木に咲いた花を模した表示態様を有する。

【1097】

以上、図81について説明したが、大当たりラウンド中に落雷などによって遊技機10の停電が発生した場合に、混乱を避けるために、復活演出を行わなくてよい。その場合に、停電が復旧した時点から大当たり状態（大当たり期間）が終了するまで、「停電復旧中」の文字表示を行うなどの停電復旧画面を表示画面に表示し、大当たり状態が終了した時点で、停電復旧画面から（ツ）のような時短状態の画面に切り替わってよい。なお、演出制御装置300が停電の復旧後にエンディングコマンドを受信した場合には、エンディングコマンドの種類でどの内容のエンディング演出を行うのか判別可能なため、エンディング演出の時点から正常な画面に復旧して復活演出を実行してもよい。

【1098】

なお、遊技制御装置100は、当り図柄（大当り図柄、小当り図柄）に応じたエンディングコマンドを準備して演出制御装置300に送信する（A6606，A6607）。そして、エンディングコマンドを受信した演出制御装置300は、復活演出を行うか否かをエンディングコマンド（ひいては当り図柄）に応じて設定する（B2111のエンディング演出設定処理）。当り図柄は、前述のように特図図柄乱数の振り分けによる抽選によって決定されるため、復活演出も抽選によって決定されることになり、復活演出の実行にランダム性が出て遊技者を飽きさせない。

【1099】

〔表示画面における他の表示例〕

図82（セー1）（セー2）は、復活演出の初期段階に表示されるフェイク画面に関して、（セ）以外の他の例を示す。（セー1）（セー2）では、通常遊技状態（ここでは通常モードのうちのノーマルモード）において表示可能な通常画面と類似の画面が表示される。図81Cの（セ'）（セ）と異なって、（セー1）では、違和感を出すため、大図柄である左図柄611a、右図柄611b、及び、中図柄611cが表示装置41の表示画面に表示されず、（セー2）では、大図柄に加えて小図柄も表示されず、全ての飾り特別図柄（識別情報）が表示画面に表示されていない。さらに、（セー2）では、第1保留表示部630aの保留表示682aも表示画面に表示されていない。

【1100】

なお、特図1保留数表示部650の特図1保留数と特図2保留数表示部660の特図2保留数も表示しなくてもよい。また、演出上のモード（ステージ）を選択したり、輝度や音量の変更などの操作を受け付けるカスタマイズ用の表示も表示しなくてもよい。

【1101】

なお、通常遊技状態において表示可能な通常画面には存在しない違和感を出すため、（セー1）（セー2）において、（セ'）と（セ）に対して、非表示にするものは適宜設定可能であるが、通常画面の背景画像（例えばキャラクタ508を含むもの）が表示されることが好ましい。通常画面の背景画像がないと、フェイク演出として通常画面に見せかけことが難しく、通常遊技状態に移行するかのように遊技者に誤認させることが困難となるためである。なお、（セー1）（セー2）が、（セ'）の画面及び通常画面と一部で異なることによって、遊技者は（セー1）（セー2）がフェイク演出であるか否かを違和感によって見分け易くなり、遊技者はエンディング演出の画面を注視するようになり、遊技の興趣を向上できる。なお、（セー1）（セー2）と（セ'）の画面の表示タイミングを異ならせて、フェイク演出であるか否かを見分け易くしてもよい。

【1102】

上記の（セー１）（セー２）のフェイク画面では、第２始動記憶（特図２始動記憶、特図２保留）がないため、第２保留表示部６３０ｂに保留表示６８３ａ（第２保留表示）が表示されていない。しかし、第２始動記憶がある場合には、フェイク画面において、第２始動記憶に対応する保留表示６８３ａを表示して第１始動記憶に対応する保留表示６８２ａを非表示にしてよい。これによって、通常遊技状態（通常モード）でほとんど発生しない第２始動記憶に対応する保留表示６８３ａだけが表示されるとともに大当たり状態前に存在していた第１始動記憶に対応する保留表示６８２ａが表示されないため、遊技者が違和感を抱いて、フェイク画面であることを認識し易くできる。この場合に、フェイク画面において、大図柄を表示してもしなくてもよい。

【１１０３】

第１始動記憶又は第２始動記憶がある場合には、フェイク画面において、大図柄を表示又は非表示にするとともに特図１保留数表示部６５０の特図１保留数と特図２保留数表示部６６０の特図２保留数を表示するが、第１始動記憶に対応する保留表示６８２ａも第２始動記憶に対応する保留表示６８３ａも非表示にしてよい。これによって、始動記憶があるはずなのに保留表示６８２ａも保留表示６８３ａも表示されないため、遊技者が違和感を抱いて、フェイク画面であることを認識し易くできる。逆に、（セー１）（セー２）において、遊技者が違和感を抱くように、特図１保留数と特図２保留数を非表示するが、保留表示６８２ａと保留表示６８３ａとを表示にしてよい。

【１１０４】

また、第１始動記憶と第２始動記憶の少なくとも一方がない場合には、より強く違和感を出すために大図柄を非表示にするとともに、第１始動記憶に対応する保留表示６８２ａも第２始動記憶に対応する保留表示６８３ａも非表示にしてよい。しかし、特図１保留数表示部６５０の特図１保留数と特図２保留数表示部６６０の特図２保留数を表示する。

【１１０５】

なお、第１始動記憶と第２始動記憶の両方がない場合など、違和感があまり出ない場合には、復活演出自体を実行しなくてもよい。

【１１０６】

〔変形例〕

図８３は、図８１で説明した復活演出に係る変形例を示す画面遷移図である。図８３は、図８１Ｃの（ソ'）に続けて、表示装置４１の表示画面を時系列で示した画面遷移の一例である。

【１１０７】

図８１では、（セ）（ソ）（タ）（チ）のように大当たり状態中（エンディング中）に復活演出が実行された。しかし、変形例では、大当たり状態後に復活演出が実行可能である。図８３では、特に、大当たり状態後の最初の特図変動表示ゲームが実行される場合に復活演出が実行される例を示す。なお、大当たり状態後の最初の特図変動表示ゲームは、特図１変動表示ゲームと特図２変動表示ゲームのいずれでもよいが、図８３では特図１変動表示ゲームの場合が示されている。

【１１０８】

変形例では、大当たり状態の終了後に時短状態（ＲＵＳＨ状態、特定遊技状態）に突入する場合と通常遊技状態に突入する場合とで演出が分岐するのは、大当たり状態の終了後になる。このため、表示装置４１の表示画面は、図８１Ｃの（セ'）の後、即ち、大当たり状態の終了後に、（ソ'）で特図１変動表示ゲームが開始した後に、時短状態では復活演出が実行され、通常遊技状態では復活演出が実行されない。なお、（ソ'）にて通常遊技状態ではなく時短状態である場合には、遊技者が左打ちによって不利にならないようにするために、左打ち指示表示５２２は表示されなくてよい。

【１１０９】

即ち、変形例において、大当たり状態の終了後に時短状態である場合に、（ソ'）がフェイク演出になり、実際には時短状態であるにもかかわらず、通常遊技状態において表示可能な通常画面と同じ画面がフェイク画面として表示される。ここでのフェイク画面は通常

10

20

30

40

50

画面と同じであり、遊技者はフェイク演出か正当な演出かを見分けられない。なお、これに限られず、(ソ')を通常遊技状態の開始直後の通常画面から一部で異ならせて違和感を出してもよい。例えば、(ソ')で、通常遊技状態の開始直後であっても左打ち指示表示522を表示しなかったり、逆に、左打ち指示表示522ではなく、時短状態に合わせて右打ち指示表示502を表示してよい。また、例えば、第1始動記憶に対応する保留表示682aなど通常画面の一部の表示(画像)を非表示にしてよい。また、変形例において、図81Cの(セ)から(ソ')に遷移するようにして、(セ)で前述と同様にフェイク演出を実行してもよい。

【1110】

大当り状態の終了後に時短状態である場合に、図81Cの(ソ')の後に表示画面は図83の(ナ)に遷移する。一方、大当り状態の終了後に通常遊技状態である場合に、図81Cの(ソ')の表示画面と同様の表示内容が継続される(図81Aの(ア)とも同様)。

10

【1111】

図83の(ナ)では、図81Cの(ソ')の後に、復活演出の一環として、(ソ)と同様に斬撃演出が実行され、×形状のエフェクトによって画面が切られるように遊技者に認識させる。キャラクタ508を含む背景画像は非表示になる。また、左打ち指示表示522ではなく、右打ち指示表示502が表示され、時短状態であることが示唆される。その他の表示内容は、(ソ')と同じである。

【1112】

次に、(二)では、復活演出の一環として、「RUSH獲得」の文字表示524(文字画像)が表示されるRUSH獲得演出が実行され、これによって現時点で既に時短状態(RUSH状態)に移行していることが報知される。(ソ')で通常遊技状態と思っていた遊技者は、(ナ)の斬撃演出と(二)の「RUSH獲得」の文字表示524によって驚くことになり、遊技の興趣が向上できる。また、大きな右打ち指示表示530が表示画面で表示されることによって、遊技者は、現時点で既に時短状態(RUSH状態)に移行していることを認識して、驚くことになる。なお、右打ち指示表示530を表示しない構成も可能である。

20

【1113】

なお、遊技制御装置100は、このような復活演出を行うために、大当り状態終了後の第1回目の特図変動表示ゲームの変動時間を、大当りとなる場合とはずれとなる場合の両方で、第2回目以降の特図変動表示ゲームの変動時間よりも長く設定する(ただし、第2回目以降の特図変動表示ゲームでリーチの発生する場合を除いてもよい)。

30

【1114】

続いて、(ヌ)では、大当り終了後の第1回目の特図変動表示ゲームが終了し、はずれの飾り停止図柄(はずれ図柄)として「1, 4, 7」が表示される。そして、保留消化領域640の変動中保留表示682bが非表示になり、第1所定画像675は特図1変動表示ゲームが停止中であることを示す記号「×」に変化する。なお、遊技者が、右打ち指示表示530に従って操作ハンドル24を操作し右打ちすることによって、普通変動入賞装置37への入賞による第2始動記憶が(二)の状態から2個発生し、特図2保留数表示部660の特図2保留数は「0」から「2」に変化している。

40

【1115】

次に、(ツ-1)では、大当り終了後の第2回目の特図変動表示ゲームとして、第1回目の特図変動表示ゲーム中に発生した第2始動記憶に基づく特図2変動表示ゲームが開始する。(ツ-1)は、図81Dの(ツ)と同様であり、時短状態(サポモードA)に対応した表示画面になっており、時短状態(サポモードA)に対応して木の画像526を含む背景画像(RUSH背景)が表示されている。このように、大当り終了後の第1回目の特図変動表示ゲームで復活演出が実行され第2回目の特図変動表示ゲームから表示画面が時短状態の画面に変化する。

【1116】

50

ただし、(ツ-1)では、(ツ)と異なって、変動回数表示677は「2G」となっており、保留表示682aは2つ表示され、特図1保留数表示部650の特図1保留数は「2」である。なお、時短状態では、第1始動記憶に対応する保留表示682aを非表示にしてもよい。また、(ツ-1)では、右打ち指示表示502に加えて、大きな右打ち指示表示を画面中央に表示してもよい。

【1117】

以上、図83について説明されたが、(ソ') (ナ) (ニ) (ヌ)において、「ノーマルモード」は時短状態に反するため、モード表示679は表示しないなど、他の表示例も可能である。

【1118】

演出制御装置300は、変動演出設定処理(図66)において、特図変動表示ゲームのゲーム演出(即ち変動演出や予告演出)を変動コマンドに基づいて設定する。本実施形態において、ゲーム演出は、変動表示の開始時(ゲーム開始時)を基準として進行タイムテーブルに基づいて進行される。

【1119】

他方で、演出制御装置300は、前述のように、エンディング演出設定処理(B2111)において、抽選によって決定される当り図柄に応じたエンディングコマンドに基づいて復活演出を行うか否かを設定する。さらに、演出制御装置300は、エンディング演出設定処理において、復活演出が図81のように大当り状態中に実行されるか、図83(変形例)のように大当り状態終了後に実行されるかもエンディングコマンドに基づいて設定

10

20

【1120】

このため、変形例の復活演出は、ゲーム開始時ではなく、大当り状態の終了時を基準として実行可能である。この場合に、変形例の復活演出は、大当り状態終了後の第1回目の特図変動表示ゲーム中で実行されても、ゲーム演出とは独立しており同期しない。また、変形例の復活演出は、特図変動表示ゲームの途中でゲーム演出(即ち変動演出や予告演出)に前面側から被せる形で実行される。即ち、変形例の復活演出は、ゲーム演出よりも前面側のレイヤ(最前面レイヤなど)に表示される。例えば、「RUSH獲得」の文字表示524が表示されるRUSH獲得演出は、大当り状態終了後から一定時間経過後に、ゲーム演出に前面側から被せる形で実行される(斬撃演出も同様でよい)。そして、第1回目の特図変動表示ゲームが終了した後で、変動演出設定処理(図66)において、第2回目の特図変動表示ゲームのゲーム演出として、木の画像526を含む背景画像(RUSH背景)などが表示されることになる。

30

【1121】

ところで、図83では、始動記憶があるため、大当り状態の終了後すぐに第1回目の特図変動表示ゲームが実行される例を挙げたが、大当り状態の終了後に始動記憶がなくてすぐには特図変動表示ゲームが開始されない場合(特図1保留数=0且つ特図2保留数=0の場合)には、例えば以下のようにする。

【1122】

大当り状態終了後から一定時間経過後に(特図変動表示ゲームが開始される場合と同じタイミングで)、停止図柄の表示中にRUSH獲得演出が行われ、RUSH獲得演出後に、キャラクタ508を含む背景画像(通常背景)を木の画像526を含む背景画像(RUSH背景)に変化させて、停止図柄の表示状態が継続する。この際に、背景画像とともに、飾り大図柄、保留表示682a、683a、モード表示679等も、通常遊技状態に対応するものから時短状態(RUSH状態)に対応するものに変化させる。なお、時短状態中は、特図1保留数表示部650と特図2保留数表示部660の保留数は継続して表示されるが、保留表示682a、683a、変動中保留表示683b、及び、それらの台座は非表示としてもよい。

40

【1123】

始動記憶がないため大当り状態の終了直後に特図変動表示ゲームは開始しないが、その

50

後に上記の一定時間が経過する前に始動口入賞があり特図変動表示ゲームが開始した場合には、大当たり状態終了から一定時間となる時点から前述と同様にRUSH獲得演出を実行する。この場合に、ゲーム演出とRUSH獲得演出の実行タイミングの関係は、大当たり状態の終了直後に特図変動表示ゲームが開始する場合とは、ずれた状態となる。なお、一定時間が経過してRUSH獲得演出を開始した後に、特図変動表示ゲームが開始した場合も同様にずれた状態でRUSH獲得演出が行われる。

【1124】

或いは、大当たり状態の終了後に始動記憶がない場合（変動開始できない場合）には、RUSH獲得演出を待機し、始動口入賞するまで通常背景で停止図柄の表示を行う。その後に、始動口入賞したら特図変動表示ゲームが開始し、ゲーム開始から所定時間経過後にRUSH獲得演出を実行する。この場合には、前述と異なって、変形例の復活演出は、大当たり状態の終了時ではなく、ゲーム開始時を基準として実行される。

10

【1125】

〔第3実施形態の作用・効果〕

第3実施形態に係る遊技機10は、ゲーム（例えば特図変動表示ゲーム）に関連する演出を表示手段（例えば表示装置41）において実行可能な演出制御手段（例えば演出制御装置300）を備え、ゲームの結果に応じて（例えばゲームの結果が特別結果となる場合に）遊技者に有利な特別遊技状態（第1の所定遊技状態、例えば大当たり状態又は小当たり状態）を発生可能である。遊技機10において、特別遊技状態と異なる特定遊技状態（第2の所定遊技状態、例えば時短状態）を発生可能である。演出制御手段は、特別遊技状態の終了を示唆又は報知可能な演出（例えばエンディング演出）において、特別遊技状態の終了後に特定遊技状態が発生するか否かに関する示唆又は報知（例えば復活演出）を実行可能である。

20

【1126】

このような遊技機10では、特別遊技状態の終了を示唆可能な演出を実行する段階（即ち、特別遊技状態の終盤）で特別遊技状態の終了後に特定遊技状態が発生するか否かに関する報知を実行できるため、特別遊技状態の終盤まで遊技者が特別遊技状態の演出に興味を持つようになり、遊技の興趣を向上できる。

【1127】

第3実施形態において、演出制御手段は、特定遊技状態（例えば時短状態）が発生することを、特定遊技状態より遊技者に不利な第1遊技状態（例えば通常遊技状態）で表示される少なくとも一部の画像（例えば通常モードの画面の少なくとも一部）を表示した後に報知する所定報知演出（例えば復活演出）を実行可能である。従って、特定遊技状態より遊技者に不利な第1遊技状態で表示される少なくとも一部の画像を視認して、遊技者が特定遊技状態ではなく第1遊技状態が発生するとの印象を持っても、その後に、所定報知演出（例えば復活演出）によって特定遊技状態が発生することを報知でき、遊技者を驚かせて遊技の興趣を向上できる。

30

【1128】

第3実施形態において、演出制御手段は、特別遊技状態の終了を示唆又は報知可能な演出において、特別遊技状態の終了後に特定遊技状態が発生するか否かに関する示唆又は報知を実行可能である。特定遊技状態（例えば時短状態）が発生することを示唆又は報知する演出は、ゲームの実行中にも実行可能な共通演出（例えば斬撃演出）を含む。従って、特別遊技状態中とゲームの実行中とで共通に、遊技の進行や遊技状態が遊技者に有利な方向に進むことを示唆可能である。このように、共通演出（例えば斬撃演出）は、遊技の進行や遊技状態が遊技者に有利な方向に進むこと（例えば昇格すること）を示す規則性があるため、共通演出に対して遊技者は大きく期待するようになり、遊技の興趣を向上できる。

40

【1129】

〔第4実施形態〕

図84から図89を参照して、第4実施形態について説明する。なお、以下で述べる以

50

外の構成は、第1実施形態から第3実施形態までの実施形態と同様でよい。また、以下の実施形態では、第1実施形態から第3実施形態までの実施形態と同じ機能を果たす構成には同一の符号を用い、重複する記載を適宜省略して説明する。第4実施形態は、新しい遊技機10（スマートパチンコ）に関する。例えば、スマートパチンコの遊技機10では、遊技店で遊技機10を直接操作して遊技を行う態様に限られず、ユーザーの端末（情報端末（例えば、パソコン、タブレット、スマートフォン））を利用して通信回線（インターネット回線）を介した外部からの遠隔操作によっても遊技が可能になる。

【1130】

遊技機10は、ユーザーの端末との通信を可能にする通信手段を備える。遊技機10は、直接的に通信回線（インターネット回線）と接続してもよいが、サーバーとして機能する遊技場内部管理装置（ホールコンピュータ等）を介して通信回線と接続してもよい。例えば、入力部120と出力部130を有する遊技制御装置100は、通信手段として機能してよい。なお、遊技制御装置100に限らず、払出制御装置200（枠制御装置（枠制御基板））や演出制御装置300やその他の装置が通信手段として機能してもよい。また、遊技機10内に通信用の制御装置（例えば通信制御装置（通信制御基板））を別に設けてもよい。

【1131】

〔遊技機全体図〕

図84は、第4実施形態の遊技機10の正面図である。

【1132】

遊技機10は、遊技盤30と、遊技盤30の前面を覆うカバーガラス14とを有する。カバーガラス14は、遊技盤30に形成される遊技領域32を視認可能とする遊技視認領域として機能する。なお、カバーガラス14は、透明部材の一例として示すものであり、カバーガラス14の代わりにプラスチック製のカバーを使用してよい。

【1133】

遊技領域32の略中央には、表示装置41が配置されている。表示装置41の表示画面（表示部）には、変動表示領域610（左の変動表示領域610A、右の変動表示領域610B、中央の変動表示領域610C）が設けられている。これらの変動表示領域610には、飾り特別図柄（大図柄）として変動表示（可変表示）可能な識別情報（特別図柄）（左図柄611a、右図柄611b、中図柄611c）がそれぞれ表示される。また、表示装置41の表示画面には、変動表示ゲームを演出するキャラクタや、遊技の進行に基づく画像（大当たり表示やファンファーレ表示、エンディング表示等）等が表示される。

【1134】

カバーガラス14の右側部と左側部には、遊技状態に応じて発光演出可能な装飾装置18b、18cが配設されている。装飾装置18b、18cは、内部にLED等の照明部材を収容しており、遊技状態に応じた発光演出を行う演出装置である。これら装飾装置18b、18cの内部に配設される照明部材は、枠装飾装置18（図4参照）の一部を構成している。なお、カバーガラス14の上部に、トップユニットとして機種名などの種々の表示を行える装飾装置18aを発光可能や動作可能に配設してもよい。

【1135】

装飾装置18bは、カバーガラス14の右側で上下方向に延設されるとともに、前方に向かって突出する突出演出ユニット（前枠発光ユニット）である。装飾装置18cは、カバーガラス14の左側で、上下方向に延設されるとともに、前方に向かって突出する突出演出ユニット（前枠発光ユニット）である。装飾装置18b、18cは、遊技機10の中央側（内側）へ遊技者に向けて光を照射することができる。

【1136】

カバーガラス14の下部には、遊技球数（玉数、遊技価値）をカウント表示（玉数カウント表示）する玉数表示装置701と、当該玉数カウント表示に対応する遊技球の画像を玉演出として表示する玉演出表示装置702が設けられている。カウント表示される遊技球数は、オンライン遊技を行う遊技者（ユーザー）又は遊技場内の遊技者の持球数に対応

する。持球数は、賞球数の合計の他に、貸球数や購入した球数を含む。一方で、本実施形態の遊技機 10 は遊技球が内部で循環する封入式の遊技機であり、遊技球が貯留可能な上皿や下皿は設けられていない。そのため、遊技の進行によって数値データとして増減する遊技球数が遊技制御装置 100 で計数され、計数された当該遊技球数は玉数表示装置 701 や玉演出表示装置 702 に遊技者が把握できるように表示される。演出制御装置 300 は、遊技制御装置 100 から送信された遊技球数の情報に基づいて、玉数表示装置 701 や玉演出表示装置 702 に表示を行う。なお、本実施形態の遊技機 10 において、遊技球が上皿や下皿に払い出されることはないため、遊技球を皿に払い出す払出装置（払出ユニット）が無く、払出制御装置 200 は、賞球を物理的に払い出す制御を行わず、外部情報を外部へ出力したり外部からの情報（例えばカードユニット 600 からの貸球要求信号）を受信したりする通信制御を担う枠制御装置（枠制御基板）として機能してよい。

10

【1137】

また、本実施形態の封入式の遊技機 10 は、アウト口 30b（図 2 参照）から排出された遊技球が一球ずつ玉発射装置に再供給されるようになっており、遊技機 10 の外部（島設備）との遊技球のやり取りや上皿への遊技球の排出がない。そのため、本実施形態の遊技機 10 では、遊技球の移動に伴い発生する騒音（ノイズ）が、従来の封入式ではない遊技機と比べて少なくできるので、演出の音が聞き易くなり、遊技の興趣を高めることができる。

【1138】

玉数表示装置 701 の玉数カウント表示は、遊技の進行によって増減する遊技球数を示しており、当該玉数カウント表示が多くなるほど玉演出として表示される画像内の遊技球の数も多くなる。例えば、遊技領域 32 内で賞球が発生すると、画像内に遊技球が追加される玉演出が発生できる。したがって、これらの表示を遊技者が視認することで、実際に遊技球が増減している体感が得られ遊技の興趣を高めることができる。

20

【1139】

なお、玉演出表示装置 702 の玉演出として表示される遊技球の画像は、上皿に遊技球があることを遊技者に体感させるためのものであり、例えば一般的に上皿で貯留可能な所定の数（例えば 500 個）を超えて遊技球の画像が表示されることはない。このように画像として表示される遊技球の数を所定の数に制限することで、玉演出が、従来の封入式ではない遊技機において実際に上皿に遊技球が貯まっている際の挙動に近くなり、遊技の興趣をより高めることができる。

30

【1140】

玉演出表示装置 702 は、画面を指で触る（タッチする）ことで指操作可能なタッチディスプレイとして構成されている。例えば、玉演出表示装置 702 の表示画面を遊技者がタッチすることで玉演出として表示されている遊技球の画像を大きく動かすことができる。このようにタッチに対応して画像中の遊技球が大きく動くことで、玉演出が、従来の遊技機において実際に上皿に貯まっている遊技球を手で動かしたときの挙動に近くなるので、遊技の興趣を高めることができる。

【1141】

また、玉演出表示装置 702 には、現在の遊技機 10 の状態を遊技球の画像と共に表示することもできる。例えば、現在の遊技機 10 の状態には、外部と接続されて遠隔操作により遊技が行われている又は行える状態（例えば「ONLINE」、「オンライン」と表示）や、遊技店で遊技機 10 を直接操作して遊技が行われている又は行える状態（例えば「通常遊技」と表示）や、電源投入後の状態（例えば「起動中」、「準備中」と表示）や、前面枠 12（本体枠）（図 85 参照）を開放した状態（例えば「準備中」と表示）がある。

40

【1142】

また、玉演出表示装置 702 は、遊技者からの入力操作を受け付ける演出操作装置や、遊技者からの入力操作を受け付ける球貸操作装置として機能してもよい。例えば、玉演出で遊技球の画像を表示可能であるときに、画面の一部にメニュー等の表示を行い、当該表

50

示がタッチされたことに対応して、玉演出表示装置 702 の表示画面に各種メニューを表示させることができ、遊技カスタマイズや音量調整、輝度調整を行うことができる。なお、玉演出表示装置 702 の周囲に演出ボタンや音量調整用ボタンスイッチ、十字キースイッチ（方向キースイッチ）、玉貸操作装置（残高表示部、玉貸ボタン、返却ボタンを備える）を設けてもよい。

【1143】

玉演出表示装置 702 の左右には、効果音や警報音、報知音等を発する下スピーカ 19b が設けられている。また、遊技機 10 の上部左右にも、効果音や警報音、報知音等を発する上スピーカ 19a（図示省略）を設けることができる。

【1144】

玉演出表示装置 702 の右下には、球発射装置（図示省略）の動作を制御するための操作ハンドル 24 が設けられている。操作ハンドル 24 は、前面枠 12 の右下部であって、右側の下スピーカ 19b の下方に配置されている。遊技者が操作ハンドル 24 を回動操作することによって、球発射装置は封入式の遊技機 10 から直接供給された遊技球を遊技盤 30 の遊技領域 32 に発射する。球発射装置から発射される遊技球の発射速度は、操作ハンドル 24 の回動操作量が大きくなるほど速くなるように設定されている。即ち、球発射装置は、遊技領域 32 に遊技球を発射する勢（速度）である発射勢を、遊技者による操作ハンドル 24 の操作に対応して変更でき、発射勢の異なる種々の発射態様で遊技球を発射できる。発射態様には、遊技領域 32 の左側において遊技球を流下させる左打ち（通常打ち）と、遊技領域 32 の右側において遊技球を流下させる右打ちが含まれる。

【1145】

また、スマートパチンコの遊技機 10 で遠隔操作により遊技が行われている又は行える状態のときには（オンライン状態、オンライン遊技状態）、球発射装置は、ユーザーの端末からの遠隔操作命令を受付許可する一方で、操作ハンドル 24 が直接操作された際に出力される出力信号の受付を停止する。なお、本実施形態において、球発射装置は、操作ハンドル 24 の操作量に応じた出力信号によって、機械的でなく電氣的に発射勢が制御されるものでよい。このようにオンライン状態のときに操作ハンドル 24 からの出力信号を規制して玉発射装置が受け付けられないようにすることで、オンラインで遠隔操作する遊技者（オンライン遊技を行う遊技者）が安心して遊技を行うことができ、遊技の興趣を向上させることができる。なお、操作ハンドル 24 からの出力信号と同様に、玉貸操作装置（残高表示部、玉貸ボタン、返却ボタンを備える）からの出力信号を遊技制御装置 100 や払出制御装置 200（枠制御装置）が受け付けられないようにして、オンライン遊技を行う遊技者が安心して遊技を行えるようにしてもよい。

【1146】

また、オンライン遊技状態のときの玉発射装置の発射勢の強弱は、自動調整されることができる。例えば遊技状態として右打ちが推奨される特定遊技状態や特別遊技状態のときは発射勢が強くなり、左打ちが推奨される通常遊技状態のときは発射勢が弱くなる。このように、玉発射装置の発射勢が自動調整されることで、遊技者はオンライン遊技を気軽に言い易くなり、遊技の興趣を高めることができる。なお、オンライン遊技状態のときに、遊技者（ユーザー）の端末から手動で発射勢を調整できるようにしてもよい。例えば、端末の表示画面に発射勢の強弱に対応するゲージ画像を表示し、当該ゲージ画像のゲージをタップやスワイプする（タップ状態でなぞる）ことで、所望の強さに発射勢を調整することができる（ゲージ操作）。

【1147】

また、操作ハンドル 24 の規制中は、操作ハンドル 24 の回動位置を初期位置（球発射されない位置）で回動不能にロック（物理的に規制）されていてもよい。なお、オンライン状態のときに、操作ハンドル 24 が操作された際に出力される出力信号の受付を球発射装置が停止する代わりに（受付停止）、操作ハンドル 24 が操作された際の出力信号がそもそも出力されないようにしてもよい（出力規制）。また、操作ハンドル 24 の規制中に、操作ハンドル 24 自体が手元の操作では回動不能にロックされている一方で、遊技者の

遠隔操作によって球発射装置は電氣的に発射可能に制御されてもよい。球発射装置は、操作ハンドル24の操作量に応じて機械的にのみ発射勢が制御される場合には、操作ハンドル24をカバーで覆って遊技者が触れないようにするとともに、電気モータ等を介して遠隔操作によって操作ハンドル24をロックせず回動操作できるようにしてよい。

【1148】

さらに、ユーザーの端末や遊技機10の電源断やオンライン接続の接続不良によって、ユーザーの端末から出力される遠隔操作命令が中断された場合には、例えば発射許可信号を禁止状態にして、球発射装置に遊技球の発射を停止させることができる。このような態様にする事でユーザーの意図通りに遊技球を発射し易くなり安心して遊技ができるので、遊技の興趣を高めることができる。また、遠隔操作命令が中断された場合には、遊技機10の遊技制御装置100や払出制御装置200（枠制御装置）は外部情報だけを出し続けてユーザーの端末との再接続を試行する一方で、遊技に関する制御を中断することができる。したがって、遠隔操作命令が中断された場合、遊技も中断されて、例えば実行中の特別遊技状態における現在のラウンド数が進まなくなるので、再接続できた際にユーザーは中断されたところから遊技を再開することができ、遊技の興趣を高めることができる。

10

【1149】

カバーガラス14の上部には、遊技機10の前方を撮影可能なカメラ710（前方撮影装置）と、遊技機10の外部との通信状態を表示可能な表示装置711と、遊技機10の前方の音を入力可能なマイク712が設けられる。

20

【1150】

カメラ710は、遊技機10の前方、すなわち遊技機10に向かう遊技席（図示省略）に座っている人（例えば遊技席に座っている店員）を撮影可能に設けられている。

【1151】

表示装置711は、例えばオンライン状態のときに、ユーザーの端末のカメラで撮影された画像（例えばユーザーの正面像）を表示可能に構成される。また、表示装置711には、例えば、オンライン状態であるときに表示画面の左上に「ONLINE」と表示される。

【1152】

マイク712には、遊技機10の前方、すなわち遊技機10に向かう遊技席（図示省略）に座っている人（例えば遊技席に座っている店員）の音声が入力され易く（拾い易く）なるように指向性マイクを用いることができる。

30

【1153】

これらのカメラ710、表示装置711、マイク712と、下スピーカ19b、上スピーカ19aによって、外部との通話手段が構成される。すなわち、遊技席に座っている店員と、外部のユーザーとの間での通話が可能になる。したがって、ユーザーが遊技機10の外部から遊技を開始する際や遊技中に店員を呼ぶことで、遊技機10がオンライン遊技状態となっておりオンラインで遊技が行えることを確認し易くできる。なお、カメラ710とユーザーの端末のカメラを用いることで双方の顔が表示される通話として、いわゆるビデオ通話を行うことができるが、カメラ710やユーザーの端末のカメラを用いずに音声だけの通話を行ってもよい。

40

【1154】

また、玉演出表示装置702の左には、遊技機10を撮影するカメラ720（遊技機撮影装置）が設けられる。カメラ720は、カメラ本体721と、当該カメラ本体721を軸支する展開可能（スライド可能）な軸部材722（図86参照）とから構成される。

【1155】

軸部材722は、玉演出表示装置702の上方にカメラ本体721が位置するように、斜めに傾斜させて展開させることができる。遊技機10と遊技席との間にカメラ本体721が位置することになるが、オンライン遊技状態のときには、後述するようにユーザーは端末を通して遊技の状態を観察することになるので、遊技機10を視認する際のユーザー

50

の視認性を当該カメラ本体 7 2 1 が悪化させることはない。

【1 1 5 6】

カメラ本体 7 2 1 は、オンライン遊技状態にする前、すなわちオンライン遊技準備中（オンライン遊技セッティング中）に、遊技盤 3 0 が正面になるように角度を適宜調整することができる。なお、軸部材 7 2 2 を斜めに傾斜させずに、カメラ本体 7 2 1 を横方向に回転させるよう角度調整することで、遊技盤 3 0 等を左正面から撮影するようにしてもよい。

【1 1 5 7】

そして、当該撮影した画像は、遊技機 1 0 からユーザーの端末に送信されて、当該ユーザーの端末に表示させることができる。したがって、ユーザーは、遊技機 1 0 から送信された画像を視認しながら遠隔で遊技の状態を観察することができる。なお、カメラ本体 7 2 1 は、同時に遊技機 1 0 の複数個所を撮影できるように複数のレンズと複数の撮像素子を備えてもよく、ユーザーの端末に撮影した複数の画像を同時に表示させてもよい（例えば画面分割表示）。また、ユーザーの端末の表示画面の大きさ（表示領域）によって画面分割表示を行う際の画像数を変えてもよい（例えば、スマートフォンでは 2 画像、パソコンでは 6 画像）。さらに、遊技機 1 0 の遊技制御装置 1 0 0 や演出制御装置 3 0 0 や払出制御装置 2 0 0（枠制御装置）は、遊技機 1 0 に対する操作やゲームの演出に応じて表示させる監視対象画像の優先度を切り替えて、優先度の高いものを主となる監視対象画像としてユーザーの端末に表示させてもよい（例えばリーチ演出中は表示装置 4 1 付近を拡大表示）。

【1 1 5 8】

また、例えば、カメラ本体 7 2 1 の撮影範囲は、遊技機 1 0 全体に設定される。そして、オンライン遊技状態のときに外部のユーザーからの要求に応じて、玉演出表示装置 7 0 2 や、玉数表示装置 7 0 1 と玉演出表示装置 7 0 2 を含む遊技盤 3 0 周辺や、表示装置 4 1 単独（遊技領域 3 2 を含めてもよい）をユーザーの端末に適宜拡大して表示することができる。このように、全体撮影画像をトリミングして拡大表示することで、カメラ本体 7 2 1 の撮影範囲を固定したまま、ソフトウェア上で容易にユーザーが注目したい箇所を端末に表示させることができる。

【1 1 5 9】

なお、オンライン遊技状態のときに外部のユーザーからの要求に応じてカメラ本体 7 2 1 のズーム調整制御や角度調整制御を行って、遊技機 1 0 全体や遊技機 1 0 の所定の箇所（玉演出表示装置 7 0 2、遊技盤 3 0 周辺、表示装置 4 1 等）を撮影してもよい。このようにカメラ本体 7 2 1 の撮影範囲を変更可能にして、個別にユーザーが注目したい箇所を撮影することで、画質を維持した画像を端末に表示させることができる。

【1 1 6 0】

また、カメラ本体 7 2 1 は、軸部材 7 2 2 から取り外し可能にしてもよい。このようにカメラ本体 7 2 1 を取り外し可能にすることで、オンライン遊技を行う際に店員が取り付けてオンラインによる遊技を行える一方で、オンライン遊技を行わない際に取り外して省スペース化を図ることができる。また、カメラ本体 7 2 1 に不具合が発生した際に、容易に交換可能になるとともに、取り外しておくことで悪戯等によってカメラ本体 7 2 1 が壊

【1 1 6 1】

なお、上記において、遊技制御装置 1 0 0 や演出制御装置 3 0 0 や払出制御装置 2 0 0（枠制御装置）などの制御装置は、カメラ 7 1 0、カメラ 7 2 0、及び、マイク 7 1 2 を制御する。そして、当該制御装置は、通信手段を備え、カメラ 7 1 0 やカメラ 7 2 0 からの画像データとマイク 7 1 2 からの音声データをユーザーの端末に送信できる。また、当該制御装置は、表示装置 7 1 1 の表示を制御し、オンライン状態のときに、ユーザーの端末のカメラで取得された画像データを受信して表示装置 7 1 1 に表示してよい。

【1 1 6 2】

〔遊技機側面図〕

10

20

30

40

50

図 8 5 は、第 4 実施形態の遊技機 1 0 の側面図である。また、図 8 6 は、カメラ 7 2 0 の軸部材 7 2 2 を展開させたときの第 4 実施形態の遊技機 1 0 の側面図である。

【1 1 6 3】

遊技機 1 0 は島設備に固定される枠 1 1 に、ヒンジ 1 6 を介して開閉回動自在に取り付けられる開閉枠としての前面枠 1 2（本体枠）を備える。また、なお、枠 1 1 と前面枠 1 2 は、外枠ユニット 1 7 を構成する。

【1 1 6 4】

前面枠 1 2 は、開放することが可能となっている。例えば、前面枠 1 2 を開放することで、遊技盤 3 0 の裏面側に配設された遊技制御装置（主基板）1 0 0（図 3 参照）等にアクセスすることができる。

【1 1 6 5】

遊技機 1 0 を撮影するカメラ 7 2 0 は、収納位置では、軸部材 7 2 2 が折りたたまれており、カメラ本体 7 2 1 が斜め下に伏せた状態となっている。したがって、オンライン遊技ではなく遊技店で遊技を直接行う場合に、カメラ 7 2 0 が視界を遮って遊技者の視認性を悪化させることがなく、遊技の興趣を高めることができる。

【1 1 6 6】

また、図 8 6 に示すように、カメラ 7 2 0 の軸部材 7 2 2 を展開（スライド）させると、カメラ本体 7 2 1 が遊技機 1 0 の中央付近と正対する位置になり、遊技機 1 0 をより好適に撮影し易くできる。図 8 6 では、軸部材 7 2 2 は、二段式に展開しているが、三段式等の複数段に展開できるようにしてもよい。このように複数段に展開している軸部材 7 2 2 を用いることで、オンライン遊技を行わない際に、より低い位置に軸部材 7 2 2 を折りたたんでカメラ 7 2 0 を収納しやすくなり、省スペース化を図ることができる。

【1 1 6 7】

〔オンライン遊技中画面〕

図 8 7 は、オンライン遊技が行われているときの遊技機 1 0 を説明する図である。図 8 7 の（あ）は、オンライン遊技中の遊技機 1 0 の正面を拡大した図であり、図 8 7 の（い）は、オンライン遊技中の遊技機 1 0 とネットワーク接続（通信）されているユーザーの端末 8 0 0（情報端末（図 8 7 の例ではノートパソコン（ラップトップパソコン）））の正面図である。

【1 1 6 8】

図 8 7 の（あ）に示すように、オンライン遊技中は、遊技機 1 0 の上部の表示装置 7 1 1 の表示画面に例えば「ONLINE」や「遊技中」と表示される。なお、オンライン遊技が開始される前の遊技機 1 0 とユーザーの端末 8 0 0 とがネットワーク接続された状態（オンライン状態、通信状態）のときは、図 8 4 で上述したように「ONLINE」と表示されるが、「遊技中」の表示はない。

【1 1 6 9】

そして、図 8 7 の（い）に示すように、ユーザーの端末 8 0 0 の表示画面には、遊技機 1 0 の前方からカメラ 7 2 0 によって撮影された遊技機 1 0 の画像が表示される。例えば図 8 7 の（い）では、遊技機 1 0 の表示装置 4 1 付近が拡大表示されており、変動表示領域 6 1 0 の飾り特別図柄（大図柄）である左図柄 6 1 1 a、右図柄 6 1 1 b、中図柄 6 1 1 c が視認し易くなっている。なお、端末 8 0 0 の表示画面を画面分割して、カメラ 7 2 0 によって撮影された遊技機 1 0 の所定の領域に係る画像（例えば表示装置 4 1 付近、遊技盤 3 0 周辺、玉数表示装置 7 0 1 と玉演出表示装置 7 0 2）を同時に複数表示してもよい。

【1 1 7 0】

また、玉演出表示装置 7 0 2 が端末 8 0 0 の表示画面に表示されている場合には、端末 8 0 0 の表示画面上で見える当該玉演出表示装置 7 0 2 の遊技球の画像を選択（タッチやクリック）することで、遊技球の画像を大きく動かす玉演出を行ってもよい。このようにユーザーの端末 8 0 0 上でも遊技球の画像の選択に合わせて玉演出を行うことで、実際に遊技機 1 0 で遊技しているときの体感に近くなり、遊技の興趣を高めることができる。

10

20

30

40

50

【1171】

また、例えば端末800の表示画面の左下には、遊技に必要な情報を遊技機10に送信するための遠隔操作画面730（メニュー画面）が表示されている。

【1172】

〔遠隔操作画面〕

図88は、遊技に必要な情報を遊技機10に送信するための遠隔操作画面730の拡大図である。

【1173】

例えば、遠隔操作画面730には、遊技機10が外部のユーザーの端末800から遊技に必要な情報を受け取るために、当該情報に係るメニュー項目731～734が選択可能に表示される。遊技者（ユーザー）は、当該メニュー項目731～734を端末800上で選択（タッチ、クリックまたはキー操作による選択決定）することで、表示された内容を遊技機10にて反映させることができる。すなわち、これらのメニュー項目731～734が選択されたことに対応して、遊技に必要な情報（命令）が端末800から遊技機10へと出力され、遊技機10の遊技制御装置100や演出制御装置300や払出制御装置200（枠制御装置）は当該情報を受け付けて遊技に必要な制御を実行する。

10

【1174】

例えば、メニュー項目731には「●玉を買う」と表示されており、選択されると遊技機10にて遊技球が購入でき、購入した金額分の遊技球数が数値データとして計数（計算）されて玉数表示装置701や玉演出表示装置702の表示に反映される。なお、端末800の表示画面に（例えば右下に）、現在の遊技球数を表示してもよい。遊技球の購入は、遊技店や遊技機10の決済手段として採用されている方式を用いて行うことができる。例えば、遊技球の購入には、予めユーザーの情報として紐づけられたクレジットカードや銀行口座引き落としや電子マネー決済（コード決済、モバイル決済）、遊技店の貯球システム、バーコード決済、仮想通貨決済（NFT（Non-Fungible Token））等のデジタルデータの送受信によって決済可能な各種電子決済（デジタル決済）手段を用いることができる。

20

【1175】

また、メニュー項目732には「●遊技を始める」と表示されており、選択されると遊技機10をオンライン遊技状態にできる。例えばオンライン遊技状態では、端末800の表示画面に（例えば右側に）、遊技球を発射するための発射ボタンに係る画像を操作可能に表示でき、遊技者に発射操作をさせることができる。このように発射ボタンに係る画像は、遊技機10の操作ハンドル24に相当する。遊技球の発射勢は、自動調整でもよく、発射ボタンの周囲に発射勢の強弱を調整可能なゲージ画像を表示して遊技者にゲージ操作をさせてもよい。

30

【1176】

また、端末800に、演出ボタン25に相当する画像を選択可能に表示して、選択操作に対応してゲーム（変動表示ゲーム、特図変動表示ゲーム）に係る演出を実行してもよい。また、オンライン遊技状態でゲームが行われていないときに（客待ちデモが実行可能なときに）、演出ボタン25に相当する画像が選択操作されると、遊技者設定モードに移行して遊技機10の演出態様や音量や輝度を遊技者が調整（カスタマイズ）できるようにしてもよい。

40

【1177】

メニュー項目733には「●遊技をやめる」と表示されており、選択されると遊技機10のオンライン遊技を終了できる。なお、遊技機10のオンライン遊技が終了しても、遊技機10とユーザーの端末800との接続状態はオンライン状態のまま維持できる。オンライン遊技が終了されると、発射ボタンに係る画像や、演出ボタン25に相当する画像は、非表示になる。

【1178】

メニュー項目734には「●店員を呼ぶ」と表示されており、選択されると遊技店の店

50

員を呼び出す（コールする）ことができる。したがって、実際に遊技店で遊技しているときと同様に遊技店の店員に遊技機 10 の状態を確認してもらうことができる。

【1179】

また、遊技者が遊技を終了して遊技球数の精算を行う場合も「●店員を呼ぶ」が選択される。そして、呼び出された店員は通話等によって遊技者の意向を確認し、実際の遊技店で遊技者が遊技を終了するときと同様に遊技球数の精算に係る処理を進めることができる。遊技球数の精算は、遊技店や遊技機 10 の精算手段として採用されている方式を用いて行うことができる。例えば、遊技球数の精算には、予めユーザーの情報として紐づけられた銀行口座振り込みや電子マネー決済（コード決済、モバイル決済）、遊技店の貯球システム、バーコード決済、仮想通貨（NFT（Non-Fungible Token））等のデジタルデータの送受信によって精算可能な各種電子決済（デジタル決済）手段を用いることができる。

10

【1180】

なお、スマートパチンコの遊技機 10 が遊技された際、またはオンライン遊技が行われた際に、一定のゲームをクリアすることで（例えば大当たり回数等に応じて）、独自のポイント（スマパチポイント、オンラインポイント）を発行して遊技者に獲得させてもよい。遊技ポイントは、例えば遊技機 10 の機種に係る情報等（画像特典、グッズ）と交換するために利用できるようにしてもよく、所定の精算可能な電子決済手段に反映させて次の遊技等に利用できるようにしてもよい。

【1181】

また、「●遊技をやめる」が選択された後に「●店員を呼ぶ」が選択されることで、遊技者が遊技を終了して遊技球数の精算を行う可能性が高くなる。したがって、「●遊技をやめる」が選択された場合に選択可能な「●遊技球数の精算」等のメニュー項目を遠隔操作画面 730 に追加表示してもよい。このような追加表示を行うことで、よりスムーズに遊技球数の精算に係る処理を店員が進めやすくできる。

20

【1182】

〔オンライン遊技状態に移行する際のデータ処理の流れ〕

図 89 は、遊技機 10 がオンライン遊技状態に移行する際のデータ処理の流れを説明するシーケンス図である。また、図 89 は、ユーザーの端末、スマートパチンコ（遊技機 10）、遊技場管理装置の間の情報（データ）の送受信の様子も示す。ユーザーの端末と遊技場管理装置は、各々、公知のように、演算処理装置（例えば CPU）、メモリ（例えば RAM、ROM）、通信装置（通信手段）等を備える。

30

【1183】

スマートパチンコの遊技機 10 へ、ユーザーの端末（ユーザー端末、例えば端末 800）からの予約情報が送信（出力）されると（ステップ S101）、遊技機 10 は、当該予約情報を受信し予約受付を行う（ステップ S102）。また、遊技機 10 は、当該予約受付を行ったことを遊技店の遊技場管理装置に送信し、遊技場管理装置でも予約受付を行う（同期する）（ステップ S102）。

【1184】

その後、遊技場管理装置は、ホールセッティングを立ち上げて予約受付状態となった遊技機 10 に対する外部からの接続をホール側で許可するとともに、接続後の遠隔操作による遊技の受付をホール側で許可する（ステップ S103）。また、併せて遊技機 10 に対しても店員によるセッティングが行われる（ステップ S104）。店員によるセッティングでは、例えば、遊技機 10 のオンライン状態へのセットアップ（インターネット接続受付を許可する状態への遷移）や、カメラ 720 が適切に遊技機 10 を撮影できるようにする準備や、当該カメラ 720 による撮影状態の確認が行われる。また、セッティング中は、玉演出表示装置 702 にセッティング用のメニュー画面を表示してもよい。

40

【1185】

そして、店員によるセッティングが終わると、遊技機 10 と予約情報を送信しているユーザー端末との間で接続処理（オンライン接続）が行われる（ステップ S106、S10

50

7)。接続処理が行われると遊技機10はオンライン状態になる。なお、前述のように、遊技機10は、サーバーとして機能する遊技場内部管理装置を介して通信回線（インターネット回線）と接続するようにしてよい。店員は遊技機10からユーザー端末に対して通話要求（通話リクエスト）を送ることができ、ユーザーに通話要求が受理されると遊技機10のカメラ710や表示装置711を用いた通話（音声通話やビデオ通話）が行えるようになる。

【1186】

通話によるオンライン遊技の遊技案内が終了すると、遊技機10はオンライン状態になる。そして、ユーザー遠隔操作画面730でメニュー項目732（「●遊技を始める」）を選択することで遊技機10はオンライン遊技状態になり、操作ハンドル24が例えば回動不能にロックされる（ハンドルロック）（ステップS107）。このようにハンドルロックが行われることで、遊技店で遊技機10の操作ハンドル24を回動操作できなくなり、通信に基づいて遊技球の発射制御ができるようになる（遠隔操作による遊技）。

【1187】

オンライン遊技状態になると、玉演出表示装置702で遊技球の画像による玉演出が実行されるとともに、上スピーカ19aや下スピーカ19bから遊技に係るサウンド（音）が発生する（ステップS108）。また、これらの玉演出やサウンドは、ユーザーの端末でも同様に実行または発生可能である。その後は、オンライン遊技でも通常の遊技と同様に始動記憶に基づいて変動表示ゲーム（特図変動表示ゲーム、ゲーム）が行われる。

【1188】

〔第4実施形態の作用・効果〕

第4実施形態に係る遊技機10は、遊技（例えばゲーム、玉発射、玉発射停止）に関連する制御を行う制御手段（例えば遊技制御装置100、演出制御装置300、払出制御装置200（枠制御装置））を備える。遊技機10では、制御手段は、当該遊技機10の外部（ユーザーの端末（例えば端末800））と通信可能（オンライン通信）であり、遊技（例えばゲーム、玉発射、玉発射停止）に必要な情報（命令）を通信によって外部から受付可能である。

【1189】

このような遊技機10によれば、外部からの遠隔操作によって遊技機10で遊技が行えるようになるので、遊技の興趣を向上させることができる。

【1190】

また、第4実施形態に係る遊技機10は、遊技球の発射を制御する発射制御手段（例えば遊技制御装置100、発射制御装置（発射制御基板））をさらに備える。遊技機10では、制御手段（例えば遊技制御装置100、演出制御装置300、払出制御装置200）は、当該遊技機の外部と通信可能である。発射制御手段は、通信に基づいて遊技球の発射を制御することが可能である。このような遊技機10によれば、外部から遊技機10に対して遊技球の発射制御を行って遊技ができるので、遊技の興趣を向上させることができる。

【1191】

また、第4実施形態に係る遊技機10は、遊技球の発射を制御する発射制御手段（例えば遊技制御装置100）と、遊技球を発射可能な発射手段（球発射装置）と、発射手段による発射を行うために操作可能な発射操作手段（操作ハンドル24）と、を備える。遊技機10では、制御手段（例えば遊技制御装置100、演出制御装置300、払出制御装置200）は、当該遊技機の外部と通信可能である。発射制御手段は、通信に基づいて遊技球の発射を制御する遠隔操作状態（オンライン遊技状態）のときに、発射操作手段の操作に応じて出力される出力信号を規制する。このような遊技機10によれば、遠隔操作状態のときに遊技店で遊技機の発射操作手段が操作されても当該操作が無効化されるので、外部から遊技を行っている遊技者の意図通りに安心して遊技が行えるようになり、遊技の興趣を向上させることができる。

【1192】

また、第4実施形態に係る遊技機10は、遊技球が流下する領域（遊技領域32）を有する遊技盤30と、当該遊技盤30の状態を撮影する撮影手段（例えばカメラ720）と、を備える。遊技機10では、制御手段（例えば遊技制御装置100、演出制御装置300、払出制御装置200）は、当該遊技機の外部と通信可能であり、撮影手段が撮影した遊技盤30の状態に関する情報（画像データ、撮影データ）を通信によって外部に出力可能である。このような遊技機10によれば、外部から遊技を行う遊技者は、遊技に応じて変化する遊技盤30の状態を観察できるので、実際に遊技機10の前で遊技をしているときに近い感覚で遊技を行うことができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1193】

また、第4実施形態に係る遊技機10は、ゲームに伴い増減する遊技価値（遊技球数）を計数可能な計数手段（例えば遊技制御装置100、払出制御装置200）を備える。遊技機10では、制御手段（例えば遊技制御装置100、演出制御装置300、払出制御装置200）は、当該遊技機の外部と通信可能であり、計数手段によって計数された遊技価値に関する情報を通信によって外部に出力可能である。このような遊技機10によれば、ゲームに伴い増減する遊技価値を、外部から遊技を行う遊技者が把握できるので、遊技に係る収支が分かり易くなり、遊技の興趣を向上させることができる。

【1194】

また、第4実施形態に係る遊技機10は、音を入力可能な音入力手段（例えばマイク712）と、音を出力可能な音出力手段（例えば上スピーカ19a、下スピーカ19b）とを備え、当該遊技機10の外部と通話可能である。このような遊技機10によれば、外部から遊技を行う遊技者と遊技機10の前にいる店員との間で通話ができるので、遊技者が遊技に関する案内を受け易くなるとともに遊技機10の状態を確認し易くなり、遊技の興趣を向上させることができる。

【1195】

なお、本発明は、以上説明した実施形態に限定されることなく、その技術的思想の範囲内において種々の変形や変更が可能であり、それらも本発明の技術的範囲に含まれることが明白である。例えば、時短状態を確変状態に置き換えることも可能である。例えば、遊技制御装置が実行している処理の一部を演出制御装置が実行することもできるし、逆に演出制御装置が実行している処理の一部を遊技制御装置が実行することもできる。例えば、複数の実施形態や複数の変形例を種々に組合せることも可能である。また、例えば、本発明をパチンコ機だけでなく他の種類の遊技機（スロットマシンなど）に適用することもできる。本発明の範囲は特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味及び内容の範囲でのすべての変更が含まれることが意図される。

【1196】

例えば、上述の実施形態をスロットマシンに適用する場合において、遊技に使用する遊技媒体は、遊技球に代えてメダル（コイン）になり、賞球数はメダルの払い出し枚数に代えられる。パチンコ機の遊技球の発射制御は、スロットマシンではメダル（遊技媒体）の投入制御に対応する。遊技媒体の使用数は、スロットマシンに投入した投入メダルの枚数である投入メダル数となる。そして、スロットマシンでは、性能情報としての出玉率（ベース）は、スロットマシンへのメダルの投入枚数に対する払い出し枚数の比率（%）となり、役物比率は、所定期間に払い出したメダルの枚数のうち、各種ボーナスにより払い出した枚数の比率（%）となる。

【1197】

また、例えば、いわゆる封入式の遊技機（スマートパチンコ機やスマートスロットマシン）において、遊技媒体（遊技球、メダル）は遊技機内部を循環して、皿（例えば上皿21など）に遊技価値として払い出されることはないが、遊技価値は、遊技媒体に代えて数値データとして付与される。そして、封入式でない遊技機における遊技球の賞球数やメダルの払い出し枚数は、封入式の遊技機においては、付与される遊技価値数（遊技価値の量）である付与遊技価値数となり、数値データとして記憶、管理できる。また、例えば、封入式でない遊技機において使用される遊技媒体の使用数である発射球数（又は排出球数）

や投入メダル数は、封入式の遊技機においては、使用される遊技価値数である使用遊技価値数となり、数値データとして記憶、管理できる。

【符号の説明】

【1198】

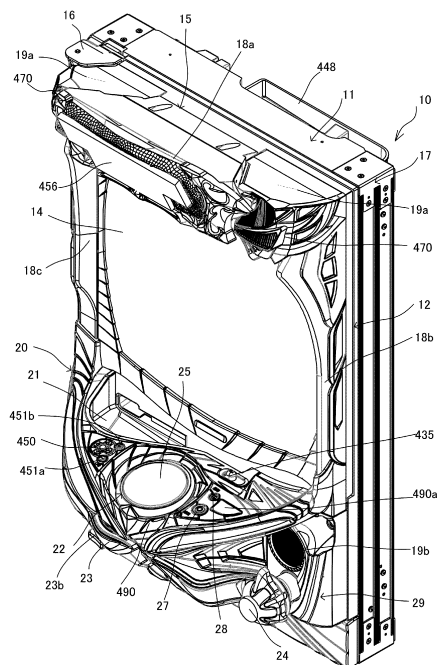
- 10 遊技機
- 25 演出ボタン
- 30 遊技盤
- 32 遊技領域
- 34 普図始動ゲート
- 36 第1始動入賞口（第1始動入賞領域）
- 37 普通変動入賞装置（第2始動入賞領域）
- 38 第1特別変動入賞装置
- 39 第2特別変動入賞装置
- 40 センターケース
- 41 表示装置
- 50 一括表示装置（LED）
- 86 特定領域（V入賞口）
- 100 遊技制御装置（主基板）
- 200 払出制御装置
- 300 演出制御装置（サブ基板）

10

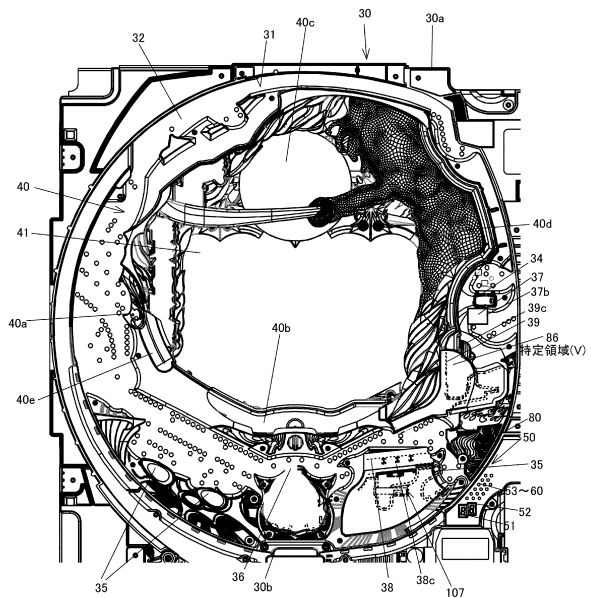
20

【図面】

【図1】



【図2】

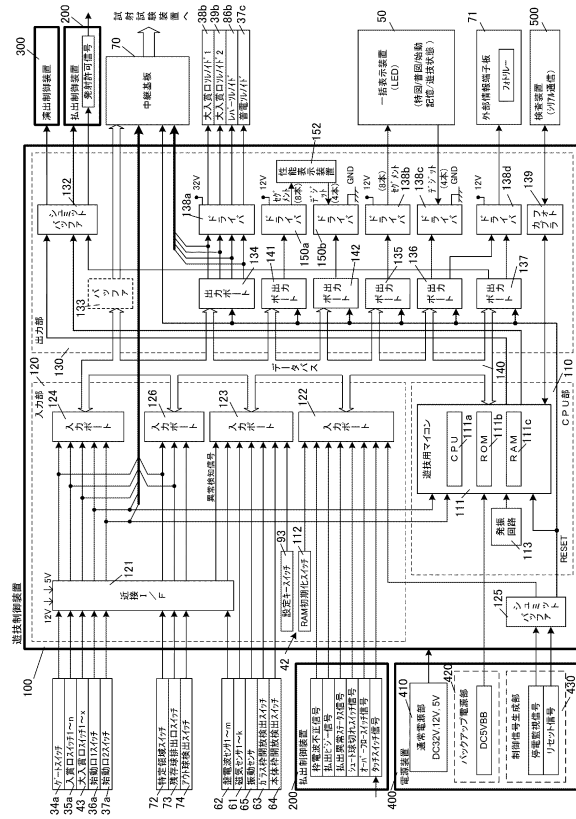


30

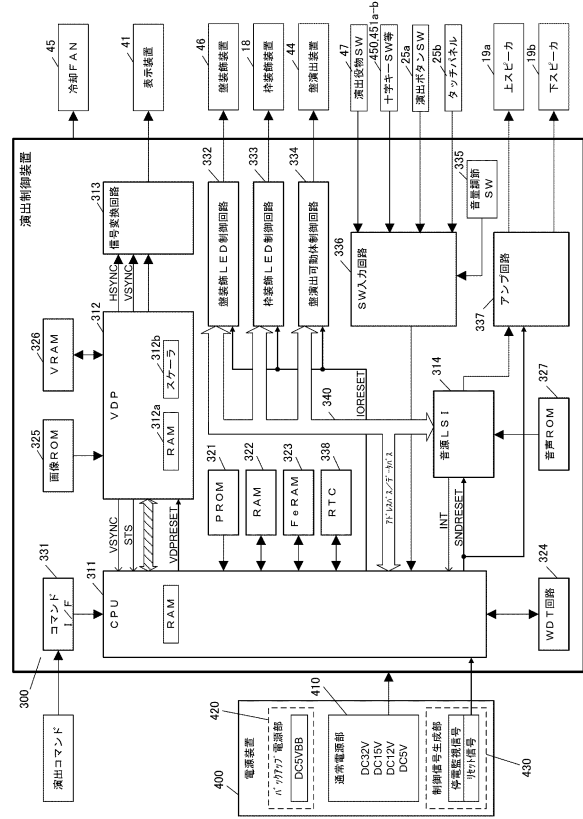
40

50

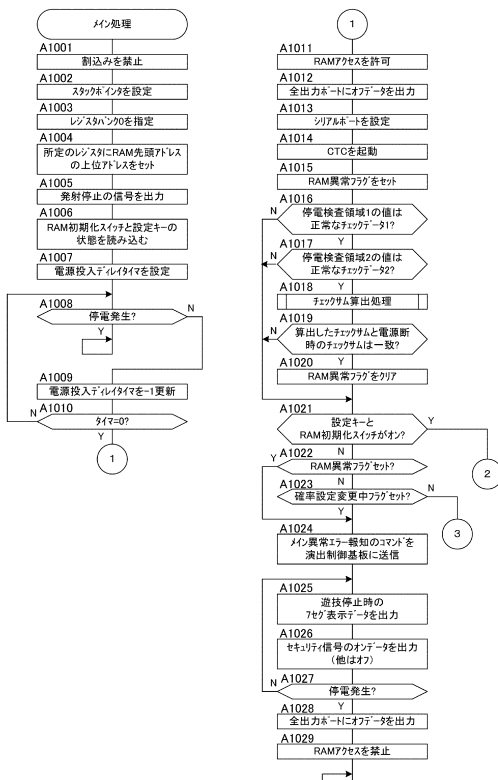
【図 3】



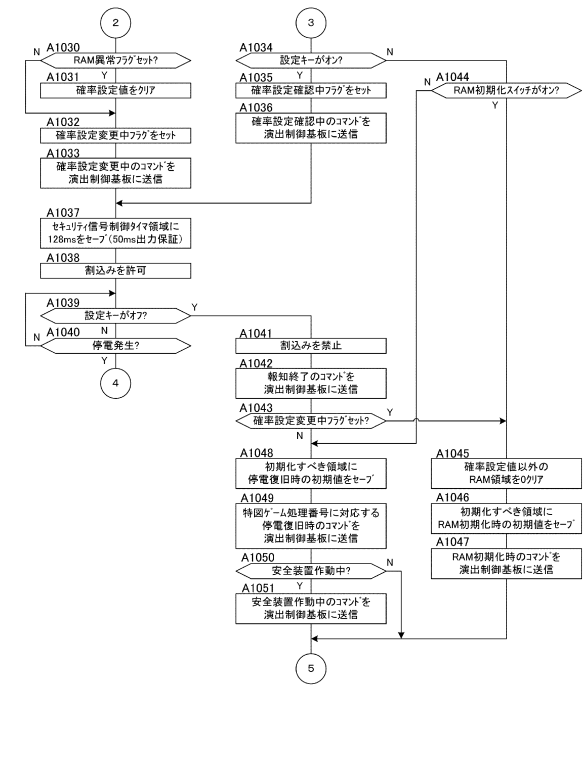
【図 4】



【図 5 A】



【図 5 B】



10

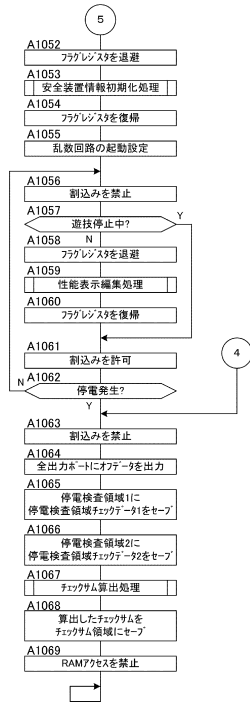
20

30

40

50

【図 5 C】



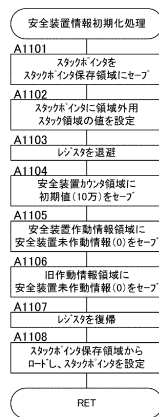
【図 6】



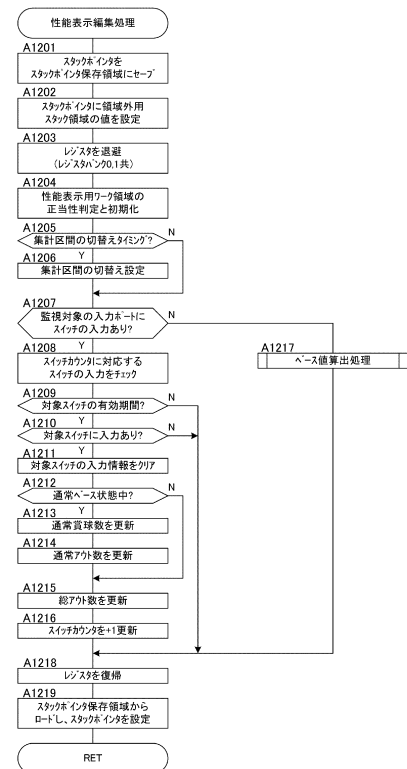
10

20

【図 7】



【図 8】

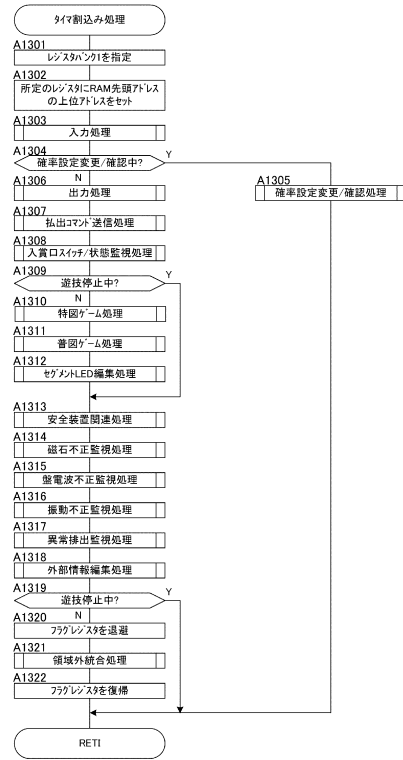


30

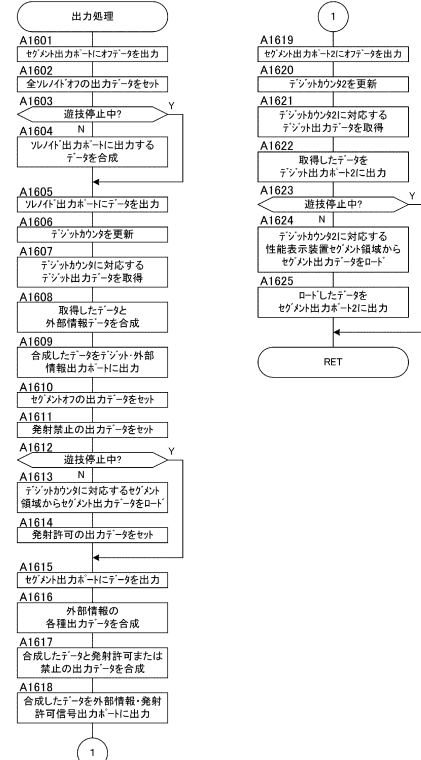
40

50

【図 9】



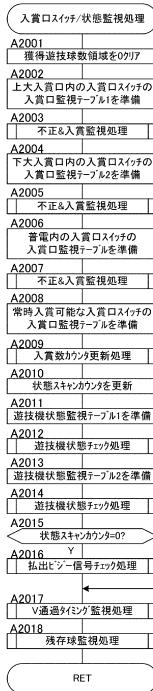
【図 10】



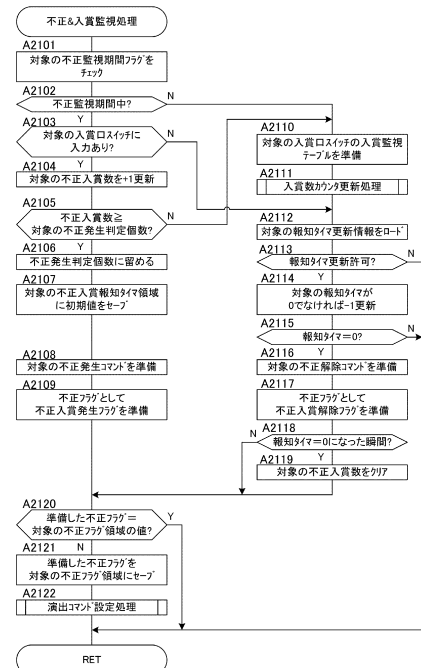
10

20

【図 11】



【図 12】

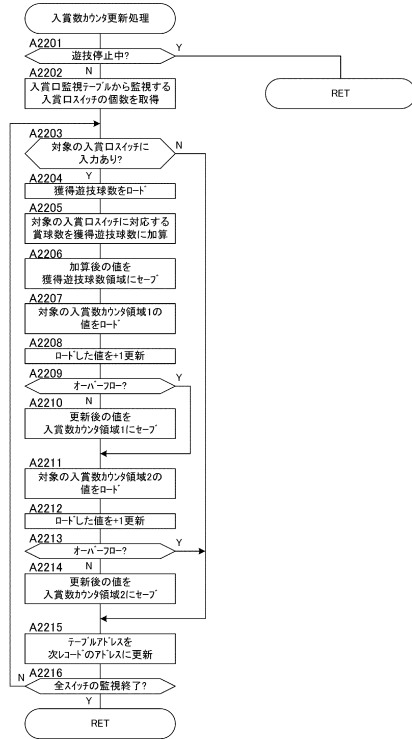


30

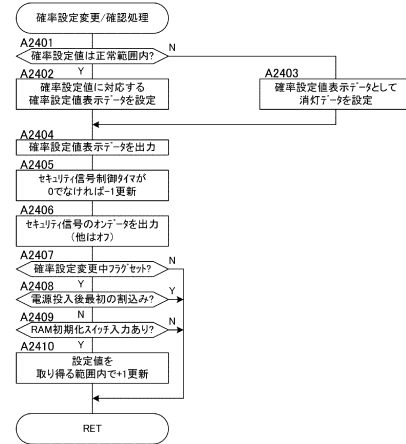
40

50

【図 13】



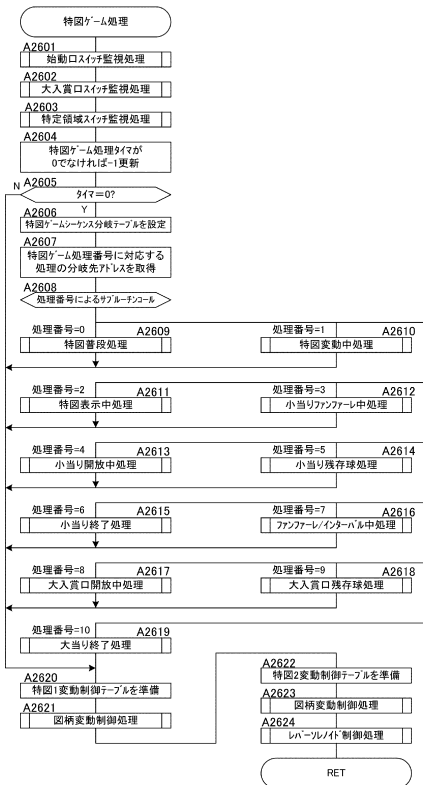
【図 14】



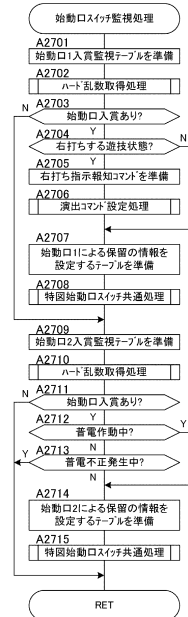
10

20

【図 15】



【図 16】

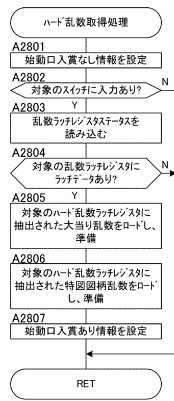


30

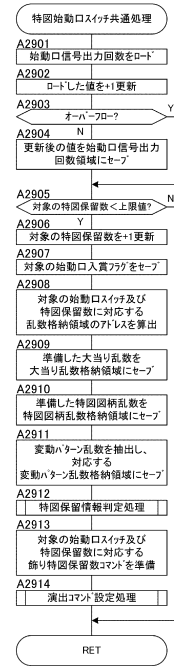
40

50

【図 17】



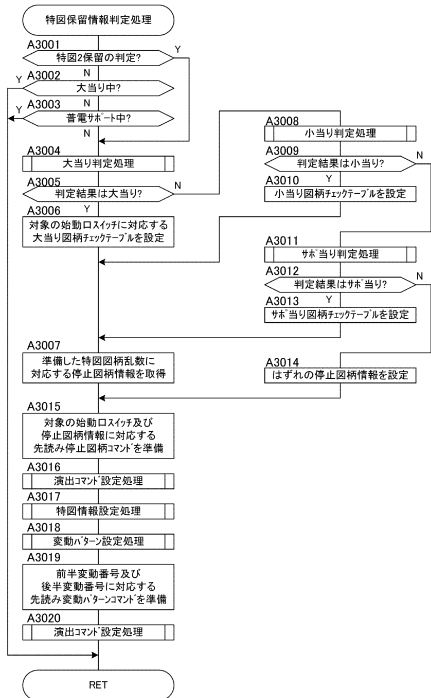
【図 18】



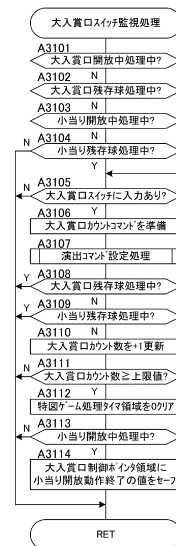
10

20

【図 19】



【図 20】

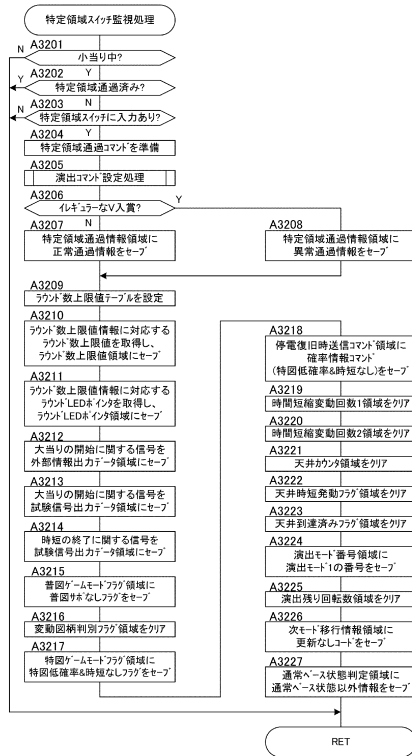


30

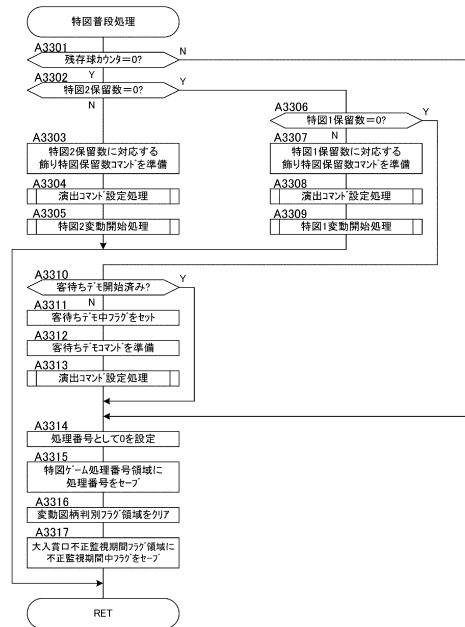
40

50

【図 2 1】



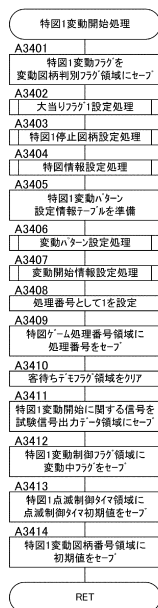
【図 2 2】



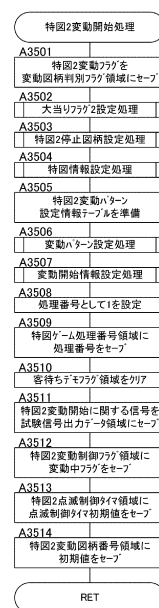
10

20

【図 2 3】



【図 2 4】

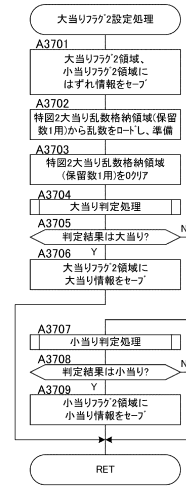


30

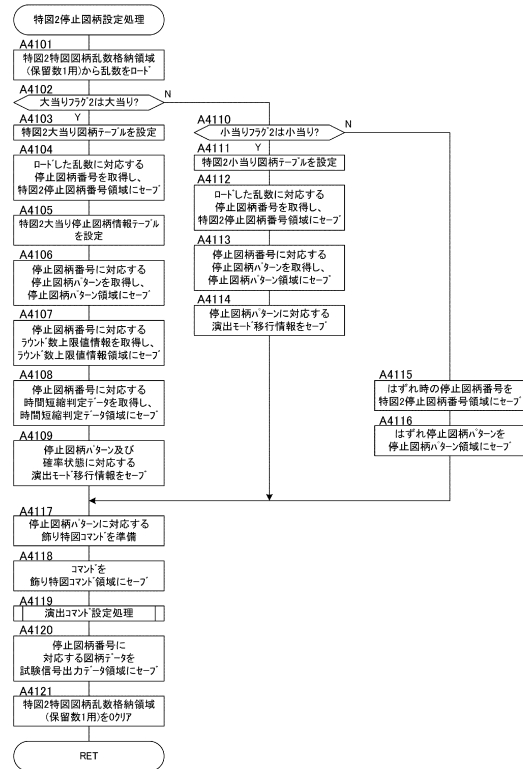
40

50

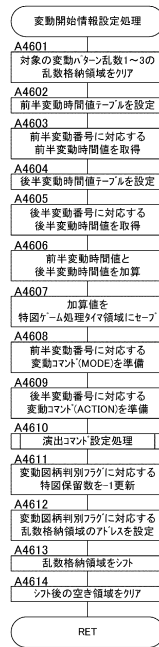
20



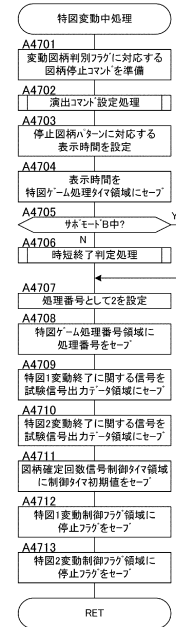
40



【図 29】



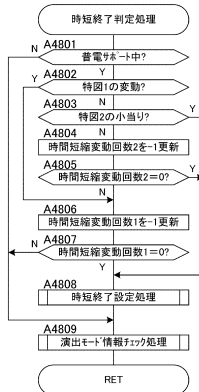
【図 30】



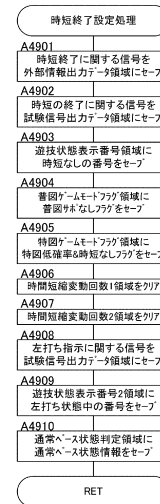
10

20

【図 31】



【図 32】

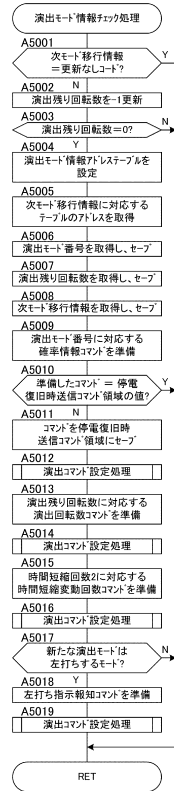


30

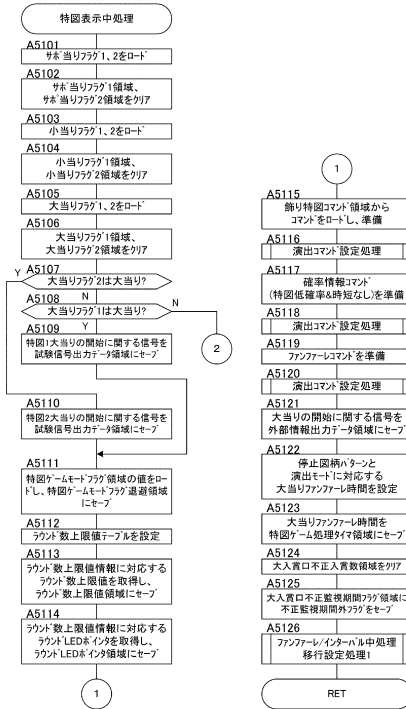
40

50

【圖 3 3】



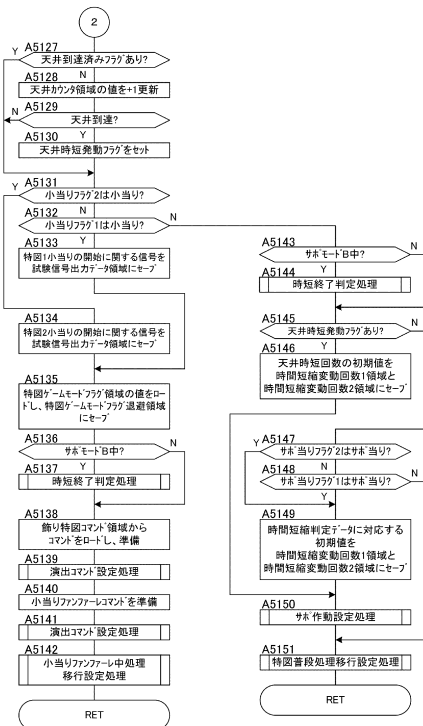
【図 3 4 A】



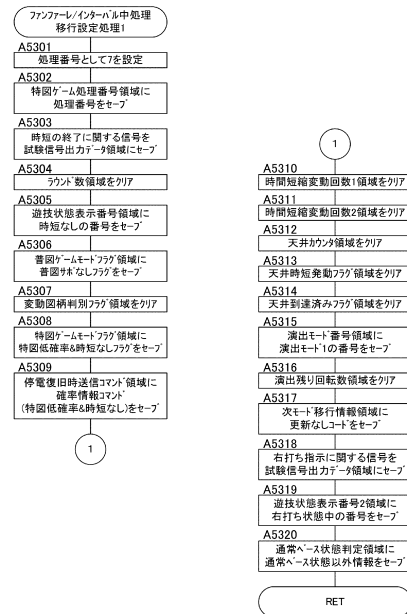
10

20

【図 3 4 B】



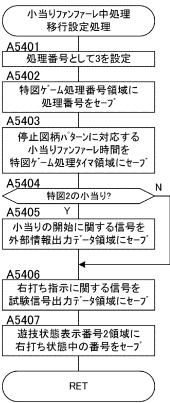
【圖 3 5】



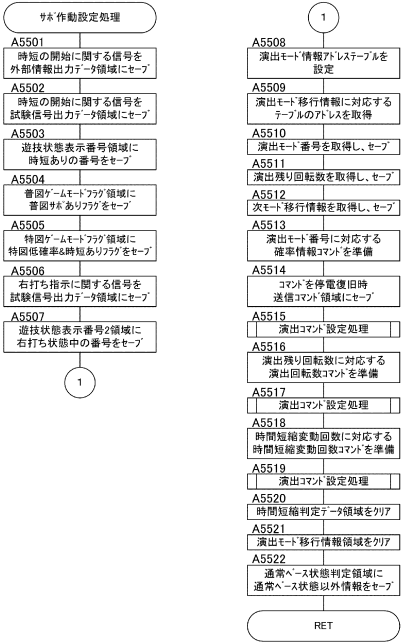
30

40

【図 3 6】



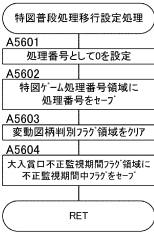
【図 3 7】



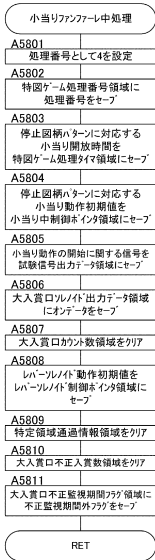
10

20

【図 3 8】



【図 3 9】

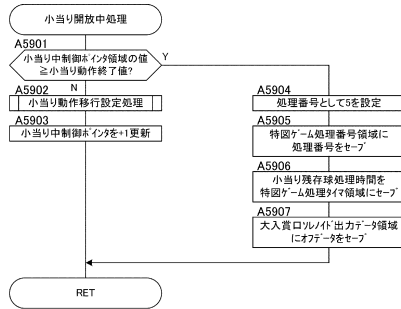


30

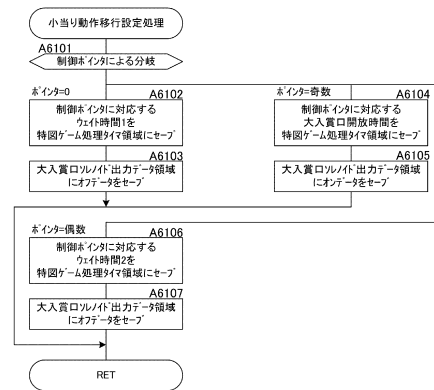
40

50

【図 40】



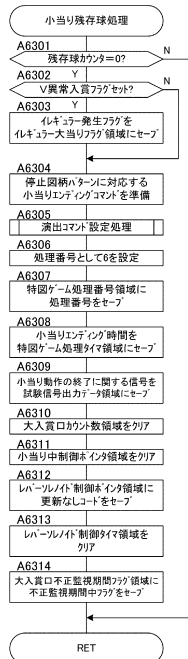
【図 41】



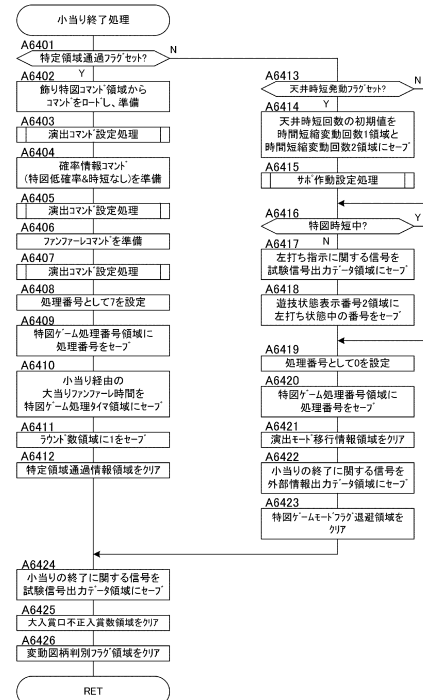
10

20

【図 42】



【図 43】

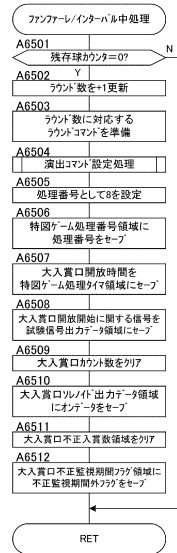


30

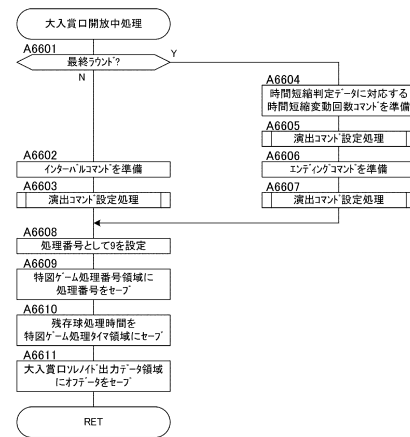
40

50

【図 4 4】



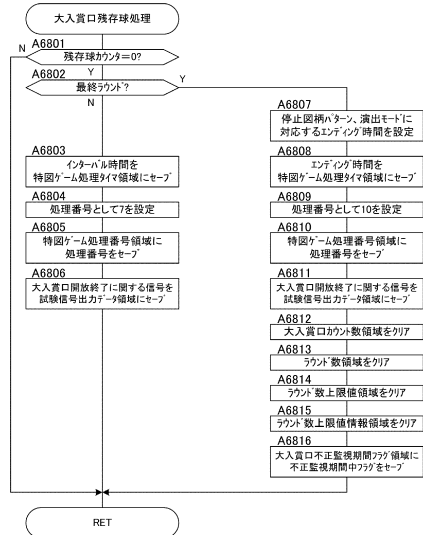
【図 4 5】



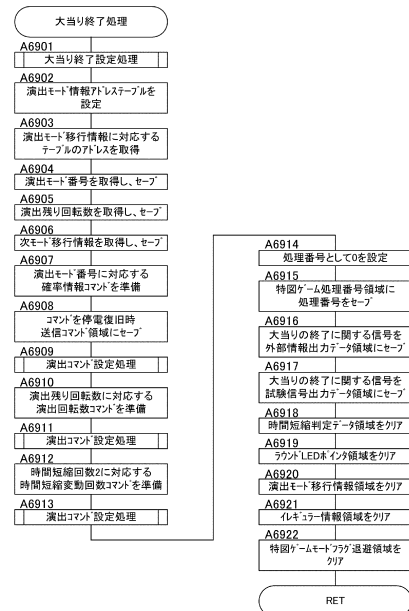
10

20

【図 4 6】



【図 4 7】

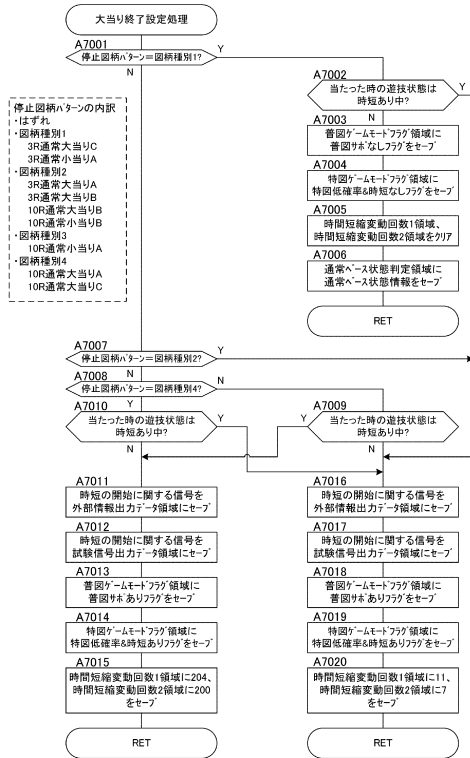


30

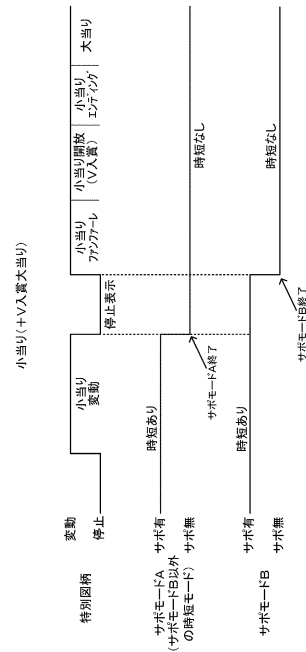
40

50

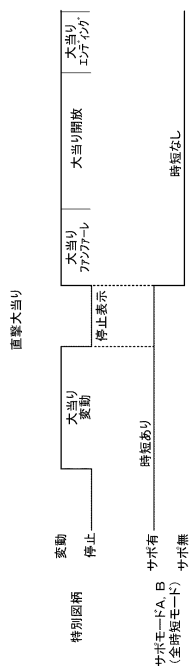
【図 4 8】



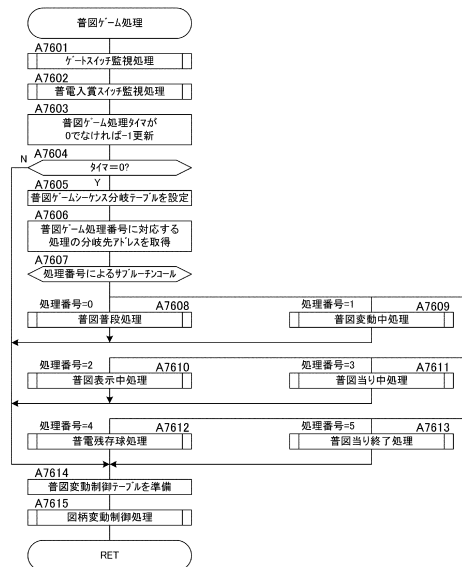
【図 4 9 A】



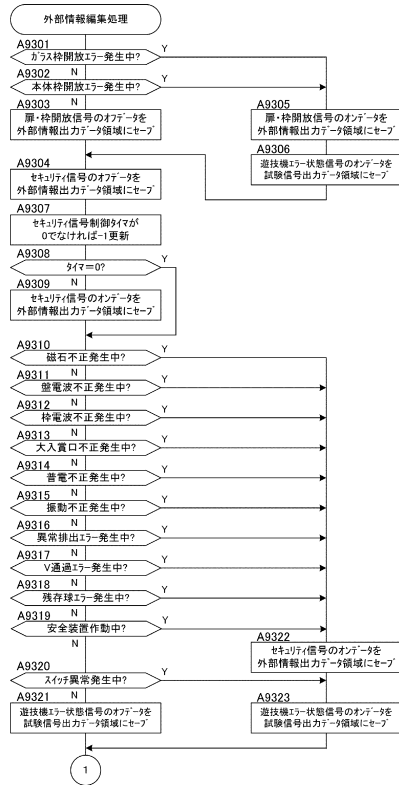
【図 4 9 B】



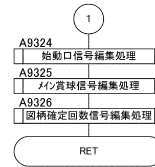
【図 5 0】



【図 5 1 A】



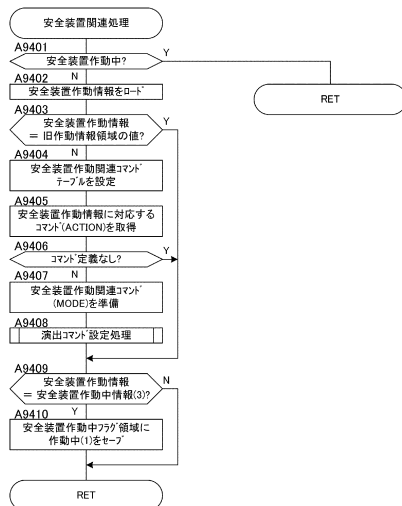
【図 5 1 B】



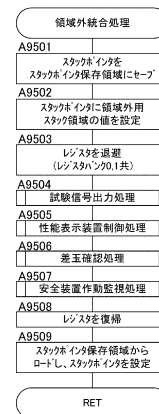
10

20

【図 5 2】



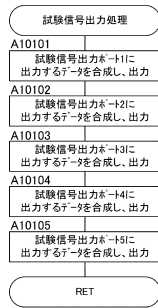
【圖 5 3】



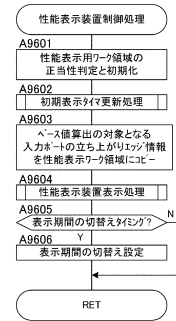
30

40

【図 5 4】



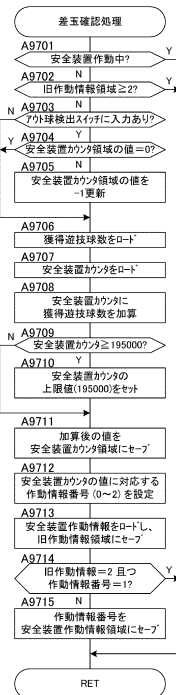
【図 5 5】



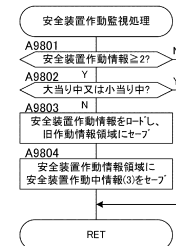
10

20

【図 5 6】



【図 5 7】

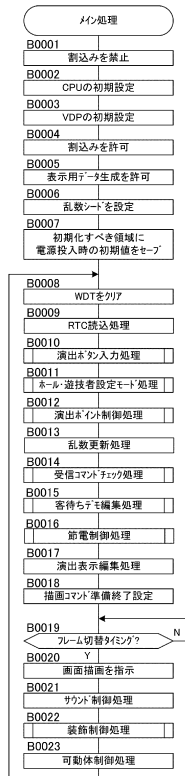


30

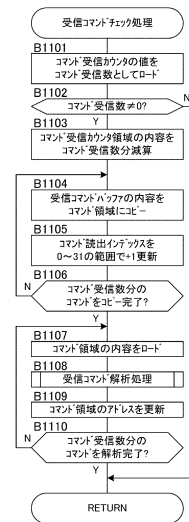
40

50

【図 5 8】



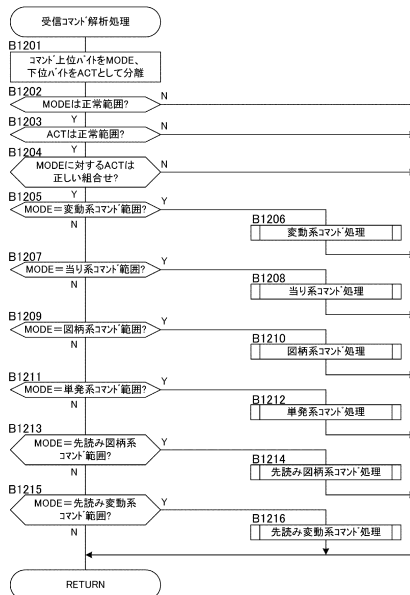
【圖 59】



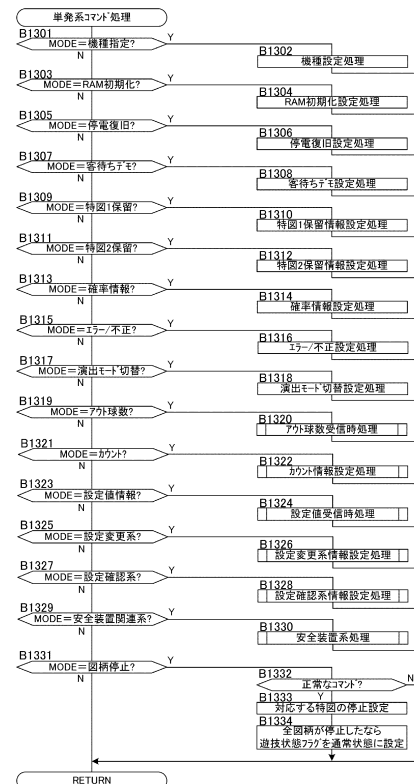
10

20

【図 60】



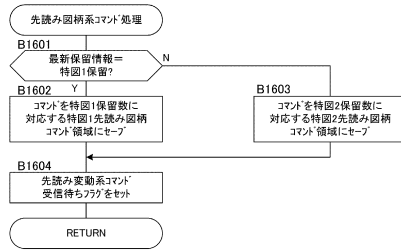
【図 6 1】



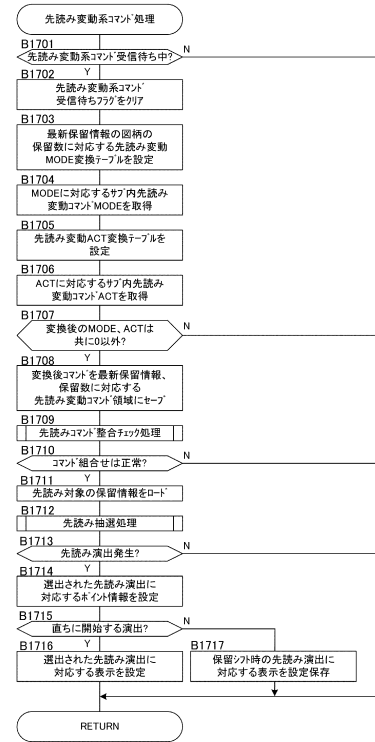
30

40

【図 6 2】



【図 6 3】



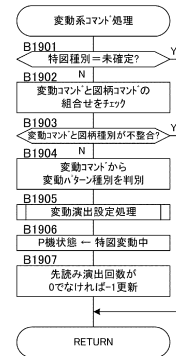
10

20

【図 6 4】



【図 6 5】

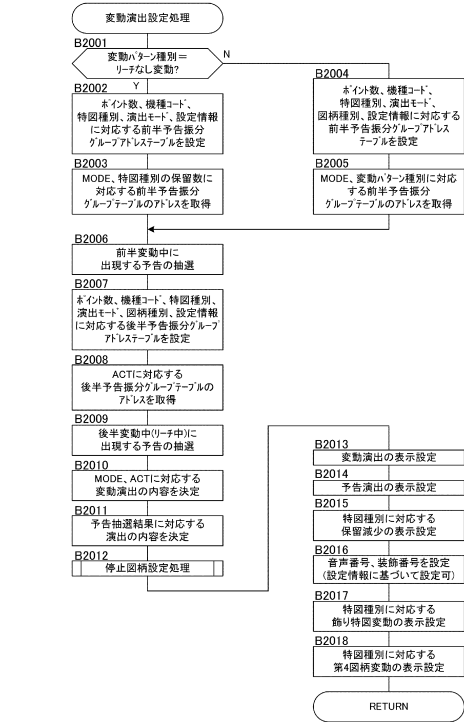


30

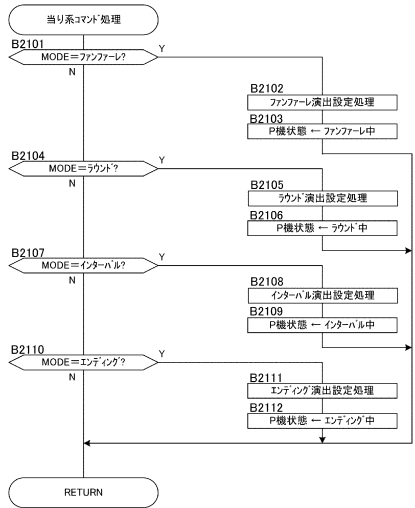
40

50

【図 6 6】



【図 6 7】



10

20

【図 6 8】

安全装置カウンタ	安全装置	195000	動作警告状態 (発生しない場合あり)	遊技停止 (入賞口無効 ソレノイド停止 発射停止可 払い出し継続 セキユリタイ信号発生 試験信号発生可)	通常	表示装置	発光部(LED)
	遊技機状態 (遊技状態)	190000～194999	動作予告状態	カウンタ=195000以降 遊技停止可 (大当たり中など)			
安全装置カウンタ	安全装置	0～189999	未動作状態	遊技中又は客待ち	通常	表示装置	発光部(LED)
	遊技機状態 (遊技状態)	190000～194999	動作予告状態	カウンタ=195000以降 遊技停止可 (大当たり中など)			

【図 6 9】

スペック例1		
仕様タイプ	1種2種混合機	
打ち方タイプ	右打ち	
特図 / 大入賞口 個数	特図 2 個 / 大入賞口 2 個	
特図消化順仕様	特図 2 優先消化	
大入賞口的外数	大入賞口 1	10
	大入賞口 2	10
賞球数	始動口1 [ヘソ]	1
	始動口2 [普通]	1
	始動口3	-
	普通作動口	-
	左普通入賞口1 [上]	6
	左普通入賞口2 [下]	6
	右普通入賞口1 [上]	-
	右普通入賞口2 [下]	1
	大入賞口 1	15
	大入賞口 2	15

大当たり確率: 1/319.7 (特図 1、2 共通)
小当たり確率: 1/199.8 (特図 1)、1/8.5 (特図2)

30

スペック例2		
仕様タイプ	1種2種混合機	
打ち方タイプ	右打ち	
特図 / 大入賞口 個数	特図 2 個 / 大入賞口 1 個	
特図消化順仕様	特図 2 優先消化	
大入賞口的外数	大入賞口 1	10
	大入賞口 2	-
賞球数	始動口1 [ヘソ]	1
	始動口2 [普通]	1
	始動口3	-
	普通作動口	-
	左普通入賞口1 [上]	6
	左普通入賞口2 [下]	6
	右普通入賞口1 [上]	1
	右普通入賞口2 [下]	1
	大入賞口 1	15
	大入賞口 2	-

大当たり確率: 1/319.7 (特図 1、2 共通)
小当たり確率: 1/199.8 (特図 1)、1/8.5 (特図2)

40

50

【図 7 0】

(A)

大当り図柄	ラウンド割合(特1)	ラウンド割合(特2)
図柄1	10R通常大当りA	7.0%
図柄2	3R通常大当りA	20.0%
図柄3	3R通常大当りB	30.0%
図柄4	3R通常大当りC	30.0%
図柄5	10R通常大当りB	-
図柄6	10R通常大当りC	100.0%
合計	100.0%	100.0%

(B)

小当り図柄	ラウンド割合(特1)	ラウンド割合(特2)
図柄1	3R通常小当りA	100.0%
図柄2	10R通常小当りA	-
図柄3	10R通常小当りB	35.0%
合計	100.0%	100.0%

【図 7 1】

大当り図柄の場合の大当り終了後の時短回数(サブ回数)

特図2/特図1・2合計	低確率状態(特1)	低確率状態(特2)	低確率状態(特2)
図柄1	200 / 204 (永遠Dがホース)	7 / 11 (エンゼルホース)	-
図柄2	3R通常大当りA (FF成功+ダブルホース)	7 / 11 (ダブルホース)	-
図柄3	3R通常大当りB (ED成功+ダブルホース)	7 / 11 (ダブルホース)	-
図柄4	3R通常大当りC (ED失敗+ダブルホース)	0 / 0	-
図柄5	10R通常大当りB (ED失敗+ダブルホース)	7 / 11 (ダブルホース)	7 / 11 (エンゼルホース)
図柄6	10R通常大当りC (FF成功+永遠Dがホース)	200 / 204 (FF成功+永遠Dがホース)	7 / 11 (エンゼルホース)

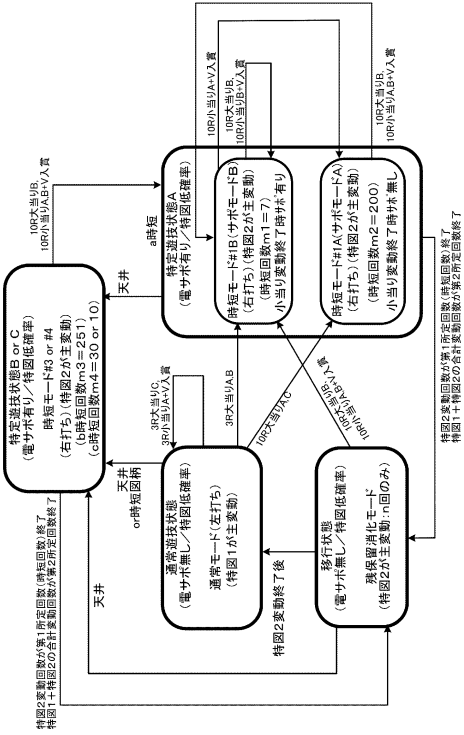
(A)

小当り図柄の場合の小当り終了後の時短回数(サブ回数)

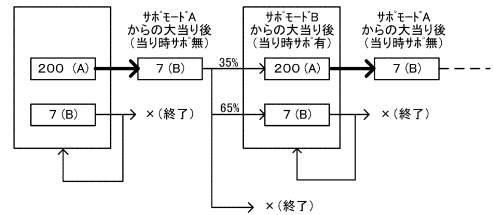
特図2/特図1・2合計	低確率状態(特1)	低確率状態(特2)	低確率状態(特2)
図柄1	3R通常小当りA (ホース)	0 / 0	-
図柄2	10R通常小当りA (ホース)	-	7 / 11 (エンゼルホース)
図柄3	10R通常小当りB (ホース)	-	7 / 11 (エンゼルホース)

(B)

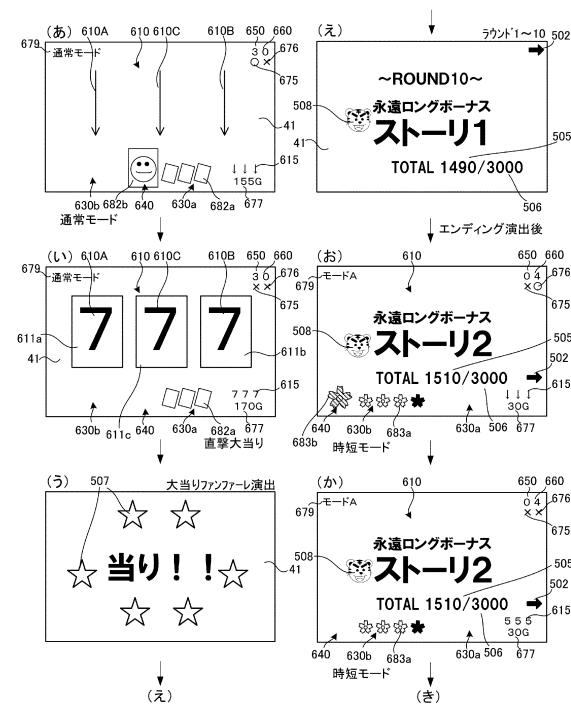
【図 7 2】



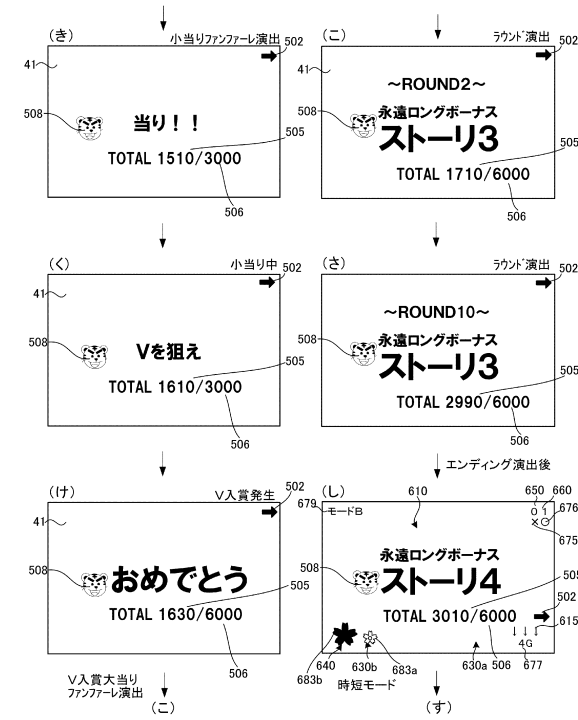
【図 7 3】



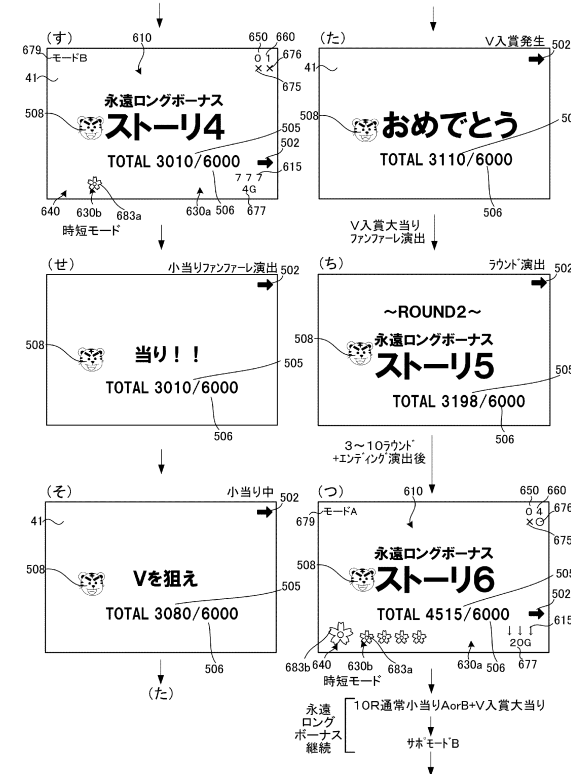
【図 7 4 A】



【図 7 4 B】



【図 7 4 C】



【図 7 5】

スペック例 1

仕様タイプ	第2種機
打ち方タイプ	右打ち
特図 / 大入賞口 個数	特図 2 個 / 大入賞口 2 個
特図消化順仕様	特図 2 個先消化
大入賞口割当数	大入賞口 1 10 大入賞口 2 10
賞球数	始動口 1 【ヘソ】 1 始動口 2 【普通】 1 始動口 3 - 普通作動口 - 左普通入賞口 1 (上) 6 左普通入賞口 2 (下) 6 右普通入賞口 1 (上) - 右普通入賞口 2 (下) 1 大入賞口 1 15 大入賞口 2 15

小当り確率: 1/136.0 (特図 1)、1/39.0 (特図 2)

スペック例 2

仕様タイプ	第2種機
打ち方タイプ	右打ち
特図 / 大入賞口 個数	特図 2 個 / 大入賞口 1 個
特図消化順仕様	特図 1 個先消化
大入賞口割当数	大入賞口 1 10 大入賞口 2 -
賞球数	始動口 1 【ヘソ】 1 始動口 2 【普通】 1 始動口 3 - 普通作動口 - 左普通入賞口 1 (上) 6 左普通入賞口 2 (下) 6 右普通入賞口 1 (上) 1 右普通入賞口 2 (下) 1 大入賞口 1 15 大入賞口 2 -

小当り確率: 1/136.0 (特図 1)、1/39.0 (特図 2)

10

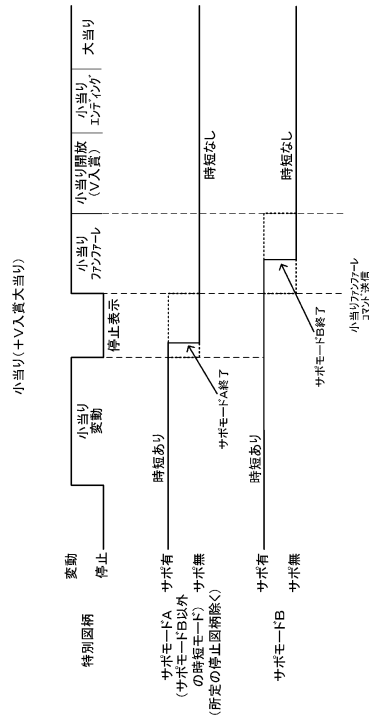
20

30

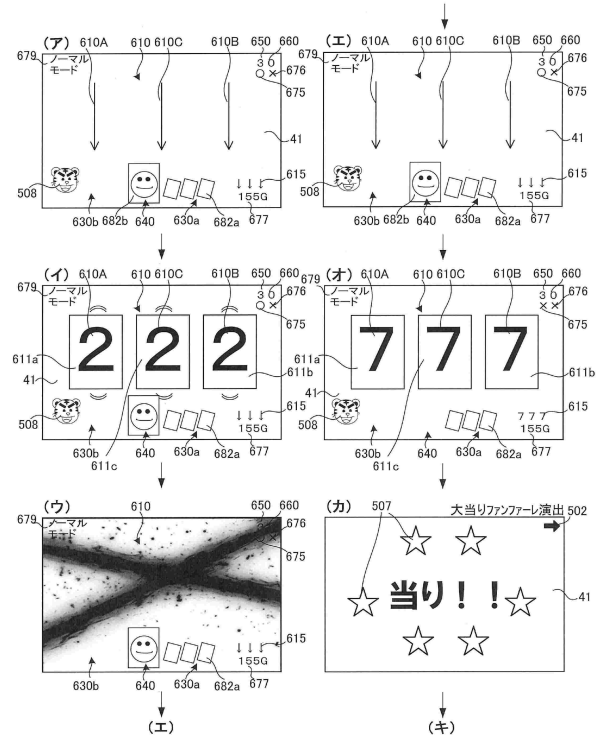
40

50

【図 80】



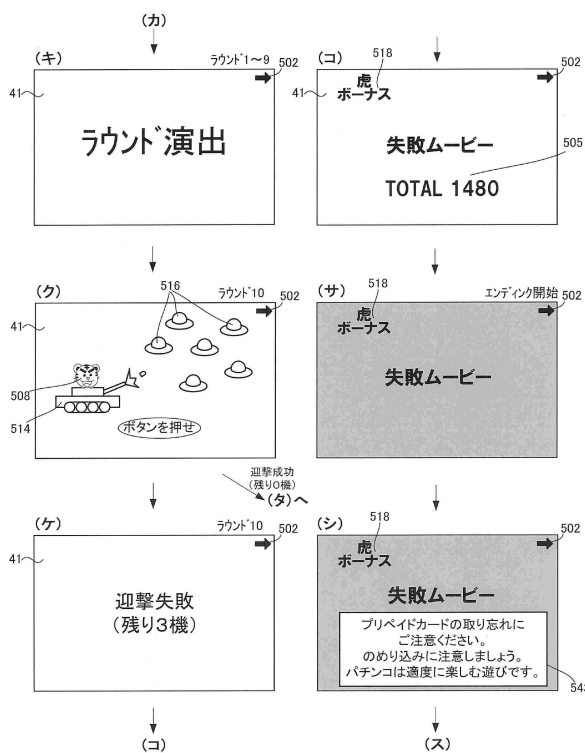
【図 81 A】



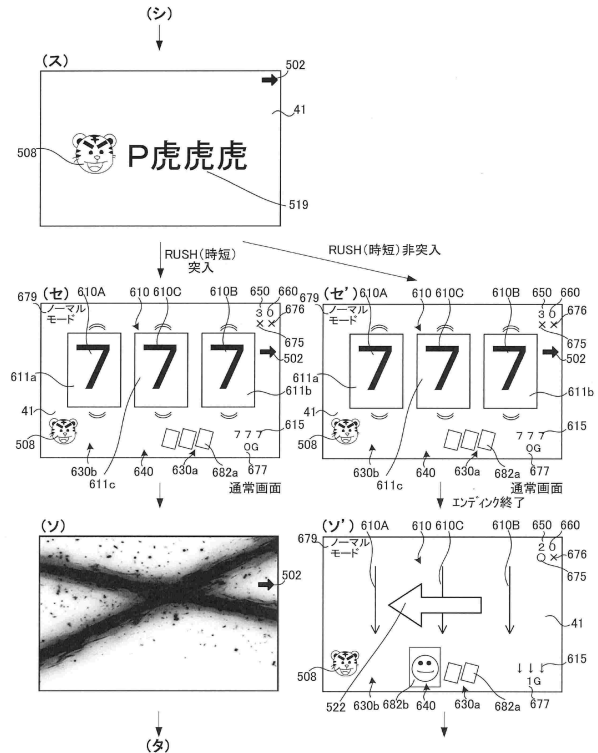
10

20

【図 81 B】



【図 81 C】

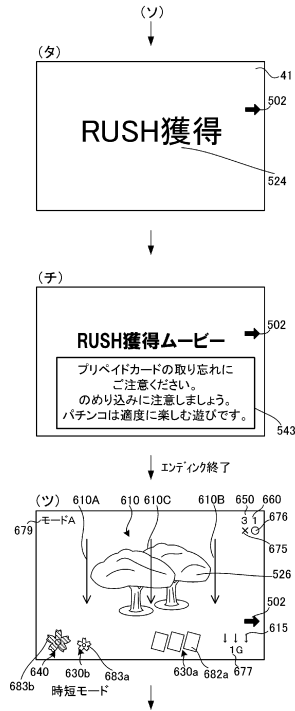


30

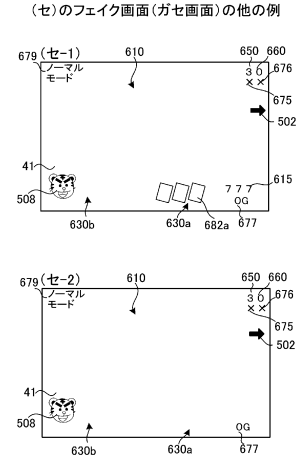
40

50

【図 8 1 D】



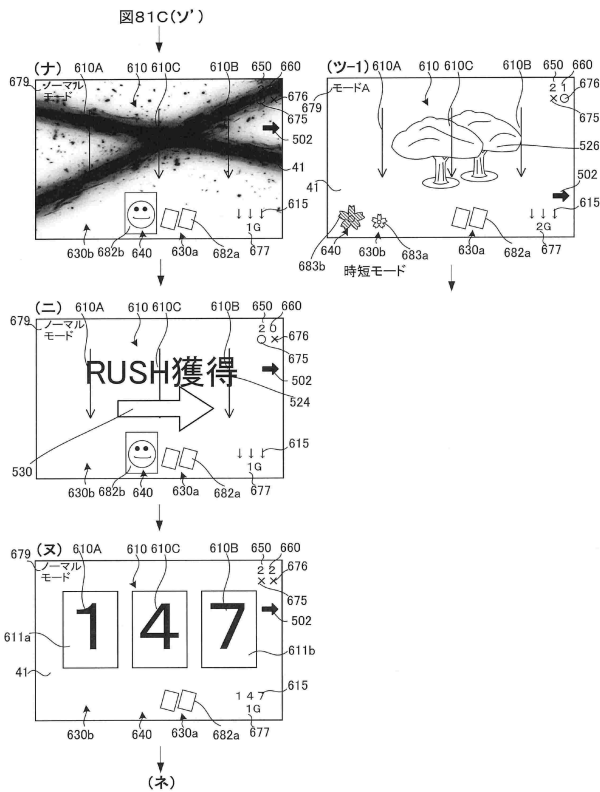
【図 8 2】



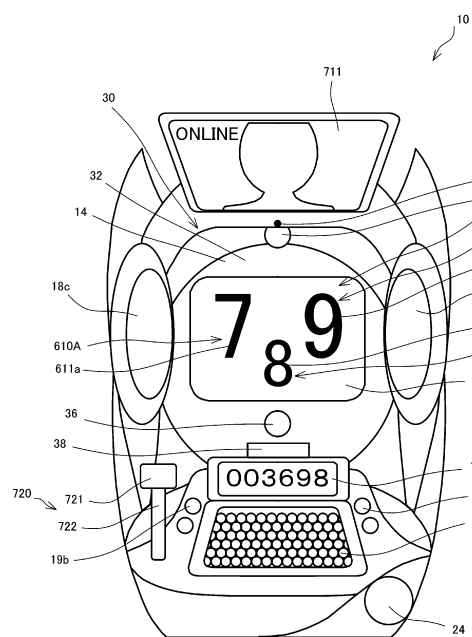
10

20

【図 8 3】



【図 8 4】

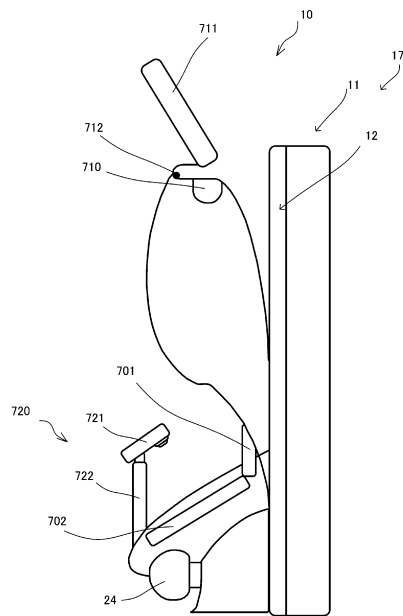


30

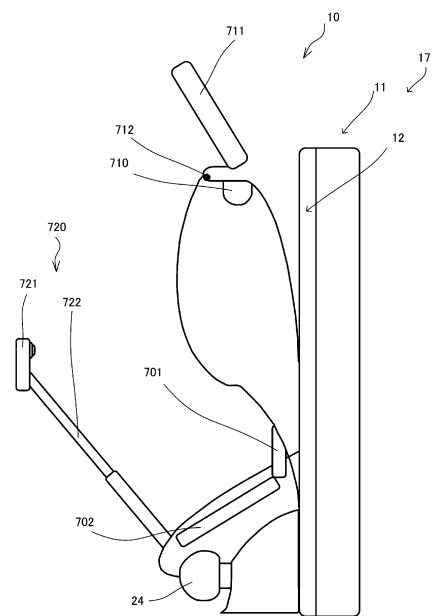
40

50

【図 8 5】



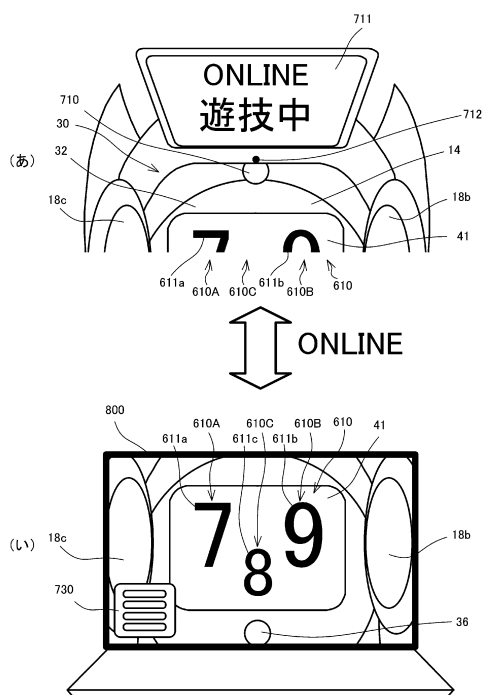
【図 8 6】



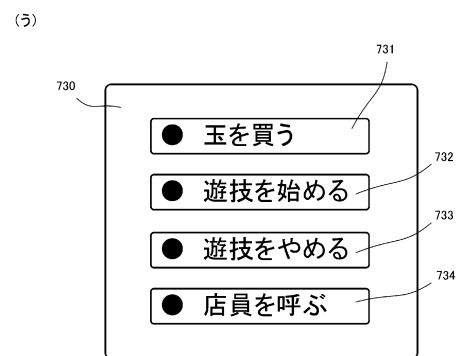
10

20

【図 8 7】



【図 8 8】

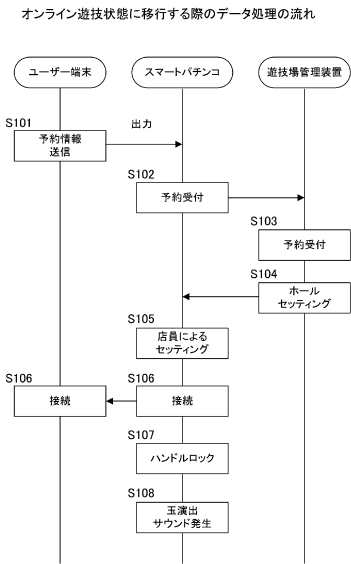


30

40

50

【図 89】



10

20

30

40

50